

講 義 概 要

シラバス

共通科目	P. 129
専門科目(英語観光学科・英語キャリア学科)	P. 169
専門科目(心理こども学科)	P. 239
教職に関する科目(英語観光学科・英語キャリア学科)	P. 291

現代人間学部
共通科目

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教入門	ET/PC	11101		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
尾崎 秀夫	必修	2			

授業の到達目標

現代の文化に大きな影響を与えているキリスト教についての理解を深める。また世界で多くの信徒がいるイスラム教や仏教についても基礎知識を身につける。信教の自由は、自分が選んだ宗教を信仰できるという権利であるとともに、他人の信仰を尊重するという義務でもある。従って、どの宗教を選ぶにしろ、いかなる宗教も信じないにしろ、さまざまな宗教について知っておくことは必要である。この授業を通して、K A I S E I パーソナリティの異文化理解のIn(国際性)とキリスト教が説く他者に対する隣人愛、K(思いやり)の心を養う。

授業の概要

キリスト教は西暦1世紀に現在のパレスティナに成立し、現在では世界の3大宗教のひとつとされ、現代の文明に計り知れない影響を与えていることは周知の事実である。では、キリスト教とは何か。本講義では、世界の主要な宗教を概観してキリスト教の位置を確認するとともに、ユダヤ人の歴史などキリスト教の成立の背景を考察し、キリスト教の基本的な教えと、その後の発展を検討する。

授業計画

- 1.はじめに 宗教とは
- 2.世界の三大宗教(仏教)
- 3.世界の三大宗教(イスラム教)
- 4.創造神話
- 5.アブラハム
- 6.出エジプト
- 7.カナンへの帰還
- 8.王国の成立と発展
- 9.王国の分裂
- 10.バビロン捕囚
- 11.ユダヤ教の成立とメシア待望
- 12.ナザレのイエス その生涯
- 13.イエスの宣教
- 14.イエスの裁判、十字架上の死と復活
- 15.キリスト教の成立と発展

授業の方法

講義、発問、討議

準備学修

信仰に関係なく聖書は人類の重要な遺産であり、現代人にとっても学ぶところが大きい。関心のある部分を読んで授業にのぞんでもらいたい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

最低でも3分の2以上の出席が必要である。

テキスト

『聖書』(新共同訳(旧約統編つき)) 日本聖書協会(新共同訳であればどの版でも構わない。)

参考図書

百瀬文晃『キリスト教の輪郭』(女子パウロ会)
井上洋二『キリスト教がよくわかる本』(PHP研究所)

留意事項

この講座は、決して受講生をキリスト教徒にすることを目的としたものではないが、ホスピタリティには相手を受け入れることが不可欠であり、宗教の理解が必要である。その意味でもしっかりと学んで欲しい。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書概論	ET/PC	11105		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石丸 脩子	必修	2			

授業の到達目標

聖書の基本的な思想、本格的な内容を形作っている要素を探求し、その思想や概念が人類の歴史・文化の中にどのように現れているかを参照し、知的満足のためではなく、心を開き、人間として真実に生きるための光とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのK(思いやり)、I(知性)とE(倫理)を目指す。

授業の概要

神と人間の歴史における出会いの物語である旧約聖書・新約聖書全般についての基礎知識を得て、具体的に聖書の箇所を読み、質問、分かち合いを含めながら聖書に親しむ。聖書記者が当時の世界像から取った題材としてこれを用い、彼らが言おうとしていること、その教えの内容を受け止められるようにする。それが単なる知識にとどまらず、人間とは何か、神とは何か、そして人間と神との関係は何かを一一人の人生の中で味わう。

授業計画

- 1.聖書を読むということー聖書について
- 2.イエスの告げた福音
- 3.イエスのもたらした解放 新たな出発
- 4.イエスの人との接し方ー人を立ち上げさせる
- 5.リフレクション
- 6.ゆるしと愛ー神の心
- 7.神の国(天の国) - 山上の説教
- 8.祈りー「主の祈り」
- 9.イエスの力ある業ー悪の克服
- 10.リフレクション
- 11.最後の晩餐 永遠のいのちーいのちの糧
- 12.イエスの誕生 クリスマス(降誕祭)
- 13.イエスの苦しみと死 受難と十字架の死
- 14.エマオの弟子たちー復活ー希望の保証
- 15.リフレクション 全体のまとめ

授業の方法

講義形式と小グループで話し合う。リアクション・ペーパーを提出する。

準備学修

「聖書」(新共同訳)の最初、創世記1章~11章まで、およびテキスト「根本問題をつかめ!」を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき5点減点とする。

テキスト

「聖書」旧約聖書統編つき 新共同訳 日本聖書協会 発行
「イエス登場!」(気合の入ったキリスト教入門) 来住英俊著 ドン・ボスコ新書
「根本問題をつかめ!」(気合の入ったキリスト教入門) 来住英俊著 ドン・ボスコ新書

参考図書

「旧約聖書」図解雑学 雨宮慧著 ナツメ社
「聖書 Q & A」和田幹男監著 女子パウロ会
「聖書読解へのアクセス 50のポイント」 湯浅俊治著 教友社

留意事項

聖書とルーズリーフ形式のノート(大きさは自由)を毎時間持参すること。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教海外研修		11109		集	
担当者名	区分	単位	特記事項		
尾崎 秀夫	選択	2			

授業の到達目標
 本学と深い関係のあるアジアの聖フランシスコの足跡を辿ることによって大学の建学の精神を具体的に理解することを目的としている。キリスト教の土台にある愛と他者に仕える姿勢を生きたフランシスコの町、アシジを訪れる人の心に深い感銘を与え、人生への生き方に大きな影響力をもつ。この授業ではI（国際性）に重点を置く。

授業の概要
 中世、教会の権力が政治の世界でも強大な力を持ち、キリスト教の本質が危うくなった12世紀後半に現れたフランシスコは聖書に従った生き方を選び、その生き方によって現代に至るまで人々に大きな影響を与えている。ローマとアシジを中心に8泊9日の研修の旅を実施し、フランシスコゆかりの土地や自然、聖堂や絵画を訪ね、觀賞することでキリスト教の世界の豊かさに触れていく。

授業計画

1. 研修に出る前の準備のクラス 第1回 イエスの生涯を中心に
2. 研修に出る前の準備のクラス 第2回 フランシスコの生涯と思想
3. 研修に関する具体的な準備の集まり
4. 研修の日程1日目: 関西空港から出発ミラノ着
5. 研修の日程2日目: ミラノにて大聖堂、聖アンブロジーオ教会等を訪問
6. 研修の日程3日目: フィレンツェにて聖マルコ修道院、大聖堂を訪問
7. 研修の日程4日目: アシジの聖フランシスコ大聖堂、クララ教会等を訪問
8. 研修の日程4日目: サンタ・マリア・デリ・アンジェリ教会へ
9. 研修の日程5日目: アシジにてカルチェリの隠遁所を訪ねる
10. 研修の日程5日目: サンダミアノ修道院へ
11. 研修の日程6日目: ローマのフォロロマーノ、ラテラノ教会等を訪ねる
12. 研修の日程7日目: パチカン美術館、特にシステリーナ礼拝堂を訪ねる
13. 研修の日程7日目: サンビエトロ大聖堂
14. 研修の日程8日目: 日本に向けて出発

15. 研修の日程9日目: 関西空港着

授業の方法
 事前の講義と研修旅行。

準備学修
 イエスやアシジの聖フランシスコやイタリアについて書物や映像資料などで調べ、基礎知識を身につけておくこと。

課題・評価方法
 事前の講義の出席、研修旅行での態度、事後のレポートなどを総合的に評価。

テキスト
 川下勝『アシジのフランシスコ』清水書院、2004

参考図書
 J.ヨルゲンセン著、佐藤要一訳『アシジの聖フランシスコ』ドン・ボスコ社、1988
 チェロノのトマス著、石井健吾訳『聖フランシスコ第一伝記』あかし書房、1989

留意事項
 研修はフランシスコをよりよく理解するためなので、他者と協力し、助け合う精神をもつこと。たま、歩いていく所が多いので体力を鍛えておくこと。人間性の豊かさや広さ、深さや多様性に興味をもって望んでほしい。また、視野を広げるために、クラスで言及する作品を自主的に読んだり、觀賞したりする努力をしてほしい。

教員連絡先
 ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書と現代	ET/PC	11113		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石丸 脩子	必修	2			

授業の到達目標
 現代社会が抱えている様々な問題を取り上げ、それらに対する聖書の教え、キリスト教の教説、歴史的取り組みなどを紹介しながら、受講生一人一人が、主体的に考え、行動できる力を養うことを目標としている。この授業は、KAISEIパーソナリティのI(知性)とS(奉仕)を学ぶクラスである。

授業の概要
 現代は、科学技術が急速な進歩を遂げる一方で、様々な既存の価値が崩壊し、ますます多様化、多元化する社会の中で人々が自分にとって最も大切なものは何か、また、自分はどのように生きたらよいかを見つづけるのが、大変困難な時代となっている。一般にポスト・モダンと呼ばれるこのような社会状況の中で長い歴史をもつ伝統宗教としてのキリスト教もその対応と存在意義が改めて問われている。キリスト教は、現代社会が直面する様々な問題にどのように取り込み、答えようとしているのか。本講座では、現代社会との関わりにおいて21世紀におけるキリスト教のメッセージを読み解こうとする試みである。

授業計画

1. 序 現代を生きるキリスト教
2. 人間 真に人間らしく
「男と女」 新しい関係を求めて
3. 「家庭」 危機と再生
4. 「生と死」 生命倫理をめぐって
5. リフレクション
6. 社会 価値多様化と多文化共生を目指して
「戦争と平和」 平和の作り方
7. 「民族主義と差別」
8. 「宗教多元主義の問題」
9. リフレクション
10. 世界 クロームバル化の進退の中で
「富・貧・欲望」
11. 「環境破壊とエコロジー」
12. リフレクション
13. 将来への展望 希望を抱いて
「不幸・不公平」 人間の苦しみと神の義の問題

14. 「世の終わり」と希望」
 15. リフレクション

授業の方法
 講義と受講生によるディスカッションを組み合わせで行う。

準備学修
 現代社会が抱えている様々な問題を取り上げるので、日頃から問題意識をもって、自ら考える習慣を身につけて欲しい。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 授業の中でリアクション・ペーパーを書いてもらったり、ディスカッションを行う。それらへの積極的参加も平常点の一部として扱うので最低でも3分の2以上の出席がなければ学期末レポートを提出する資格を失う。

テキスト
 『聖書』（新共同訳（旧約統編つき））、日本聖書協会（新規に購入するならNI43DCH-APを勧めるが、新共同訳であればどの版でも構わない。）

参考図書
 芦名定道、土井健司、辻学 『現代を生きるキリスト教 もう一つの道から』 教文館。
 教皇庁正義と平和協議会 『教会の社会教説綱要』 カトリック中央協議会。

留意事項
 テキストの『聖書』を教室に持参すること。遅刻や早退は、明確な理由のない限り、欠席と見なす。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教と文化	/	11117		春/秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
尾崎 秀夫	選択	2			

授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教にんしても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

授業計画

1. 導入
2. 聖書と歴史
3. 出エジプトと歴史研究（1）
4. 出エジプトと歴史研究（1）
5. 古代における宇宙観
6. 古代における天動説と地動説
7. 中世における天動説
8. コペルニクス（1）
9. コペルニクス（2）
10. ジョルダノ・ブルーノの地動説
11. ガリレオ・ガリレイ（1）
12. ガリレオガリレイ（2）
13. 科学の発達とキリスト教
14. 聖骸布
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

準備学修

地動説について復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

とくに定めなし。

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習		11201		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
各学科教員	必修	1			

授業の到達目標

本授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学に必要なスキル等について学ぶ。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
(2)言語1
2. (1)言語2
(2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
3. 図書館の利用法
4. (1)言語3
(2)クラスでの自己紹介
5. (1)言語4
(2)授業の受け方
6. (1)社会1
(2)学生生活(学生相談)
7. (1)社会2
(2)学生生活(課外活動1)
8. (1)社会3
(2)学生生活(課外活動2)
9. (1)社会4
(2)理解と表現(作文など)
10. (1)数学1
(2)理解と表現(比較分析)
11. (1)数学2
(2)リサーチの方法(情報の集め方)
12. (1)数学3
(2)リサーチの方法(レポートの作成)
13. (1)数学4
(2)簡単なプレゼンテーション

14. (1)確認試験1
(2)マナー
15. (1)確認試験2
(2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかり予習し、復習すること。
eラーニングで学ぶこと(単位取得の必須条件)。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

3分の1以上の欠席した者には受験資格を認めない。
前半の「基礎学力」の合格点を、1回の欠席につき1点上げる。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育伸社)
大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を取らなければ不合格とする。欠席の回数で合格点は上がる。またeラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習			11205		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
各学科教員	必修	1				

授業の到達目標

大学生としての姿勢、本学の学生としての姿勢をまず理解し、大学共同体の一員としての立場を確認していく。また、大学生としての最低限の基礎学力を身につけることと、学習に必要な基礎的なスタディスキルの獲得をめざす。この授業ではA（自律）に重点を置く。

授業の概要

授業の前半に、習熟度別リメディアル学習をおこなう。基本的な言語、社会、数学の能力を問題演習を多く取り入れながらこの順に養成していく。後半には、大学の年間行事についてなど理解することと、大学において、学習・生活するためのスタディスキルを、各担任による少人数演習形式で学んでいく。

授業計画

1. (1)言語1
(2)オリエンテーション
2. (1)言語2
(2)資料の探し方(情報検索の収集)
3. (1)言語3
(2)レポートの書き方1
4. (1)言語4
(2)レポートの書き方2
5. (1)社会1
(2)レポートの書き方3
6. (1)社会2
(2)プレゼンテーションの方法1
7. (1)社会3
(2)プレゼンテーションの方法2
8. (1)社会4
(2)プレゼンテーション1(個人発表)
9. (1)数学1
(2)プレゼンテーション2(個人発表)
10. (1)数学2
(2)プレゼンテーション3(個人発表)
11. (1)数学3
(2)プレゼンテーション4(個人発表)
12. (1)数学4
(2)ディスカッションの進め方(個人発表)
13. (1)基礎確認演習1
(2)ディスカッション1
14. (1)基礎確認演習2
(2)ディスカッション2
15. (1)基礎確認演習3
(2)アカデミックスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかり予習し、復習すること。
eラーニングで学ぶこと(単位取得の必須条件)。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

3分の1以上の欠席した者には受験資格を認めない。
前半の「基礎学力」の合格点を、1回の欠席につき1点上げる。

テキスト

- ・大学・短大・専門学校生のためのマンツーマンリメディアルテキスト(育伸社)
- ・大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を取らなければ不合格とする。欠席の回数で合格点は上がる。またeラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学		11206		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
各学科教員	必修	1			

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の精神や歴史についての理解を深め、本学の学生としての自覚を深める。人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目について各自の考えをもつ。それに加えて社会に向かう姿勢としてキャリアについて学ぶ。

授業の概要

本学の出発点であるマリアの宣教師フランシスコ修道会の理解を含め、本学の建学の精神とその歴史等について学ぶ。KAISEIパーソナリティの6つの言葉をグループでの討論や研究をとおして理解し、自分の言葉で表現する力を身につける(クラスでのプレゼンテーションをする)。具体的にはコミュニケーション力を養いながら、他者と協力をし、チームでひとつのを作り上げること、それを発信していく力をつけていく。同時に他者の意見に耳を傾ける力(傾聴力)を養い、新しい世界を共に発見することを目指す。

また、社会の動きを知ることで、キャリアの一端を学ぶ。

授業計画

1. ポートフォリオ(学生カルテ)
2. 海星の歴史 真理と愛に生きる
3. 設立母体「マリアの宣教師フランシスコ会」キリスト教との関係
4. 海星の建学の精神、マリアの姿、アッシジのフランシスコの存在
5. 海星の教育目標 大学は何ををするところ 人間としての成長
6. 校歌と聖堂
7. KAISEIパーソナリティと社会人基礎力、学力との関係
8. 思いやり 人との共感
9. 自律 これまでの自己の歴史をとおして
10. 知性 耳を傾け、自ら考える
11. 奉仕 他者と自己との関係
12. 倫理 現代の日本社会を考える
13. 国際性 ボータレスの世界 前に踏み出す力
14. 海星についての理解を振り返る
15. ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

講義と個人作業、グループディスカッション、プレゼンテーション

の2つの方法をとる。

準備学修

KAISEIパーソナリティの6つの言葉と関連のある新聞記事、エッセイ、書物等を読むこと。また、ある時はそれについて自分の意見を1000字程度にまとめる作業もすること。
eラーニングで学ぶこと。(単位取得の必須条件)

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき3点の減点とする。

テキスト

プリント使用

留意事項

eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学		11207		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
各学科教員	必修	1			

授業の到達目標

本学の建学の精神と歴史を土台としてKAISEIパーソナリティの6つの言葉について理解し、同時に社会との関係についても学んだ(春学期)。このクラスではこの6つの言葉と関連のある課題を見つけ、自分で考え人と意見を交わし、調べて発表することでKAISEIパーソナリティの理解を一層深める。

授業の概要

最初に企業研究をすることで社会との関係について一層の自覚をもつ。KAISEIパーソナリティの6つの言葉についてすでに一応の理解をしているが、ここでは各自が6つの言葉と関係のある課題を見つけ、いくつかの方法(書籍、インターネット等)を使って調べ研究し、自分の言葉でまとめる。その個人作業をもとに、同じ課題研究の人とチームを組み、発表の枠組みを構築していく。図表や、パワーポイント等を使いながら、研究発表をする。この方法をいくつかの課題について繰り返す。最終的に全科の学生の前で研究を発表する(段階的にまとめたもので一番良いと思うものでもよい)。

授業計画

1. ポートフォリオ(学生カルテ)
2. KAISEIパーソナリティの研究項目の選択とチーム確認
3. テーマについての確認と個人作業
4. テーマについてのグループディスカッションと研究と報告
5. グループのプレゼンテーションの準備作業と発表
6. テーマについての確認と個人作業
7. 働き方について考える(キャリアセンター)
8. 卒業生の就職先に関する業界研究(キャリアセンター)
9. 卒業生によるピア・サポート(キャリアセンター)
10. 卒業生によるピア・サポート(キャリアセンター)
11. テーマについてのグループディスカッションと研究と報告
12. グループのプレゼンテーションの準備作業と発表
13. 全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
14. 全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
15. ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

個人作業とチームでの作業を重視し、グループでひとつの課題を研

究し、発表することでプレゼンテーションの力をつける。

準備学修

6つの言葉と関連のある課題を発見するために本を読むこと。
eラーニングで学ぶこと。(単位取得の必須条件)

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき3点の減点とする。

テキスト

プリント使用

留意事項

eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎／基礎科目〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学 1	ET/PC	11209		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
尾崎 秀夫	必修	2			

授業の到達目標

本学では、キリスト教的人間観に基づく人間教育を基本理念の一つとしている。本講義は、学生が1人の人間として社会に対する責任を果たすことができるよう、現代社会の様々な動きや問題点について考えていく。

授業の概要

現代は急速な変化の時代である。私たちはその中で一人ひとりが責任を持って生きていかねばならない。そのためには現代の動きや様々な問題などについて知り、考えることが不可欠である。本講義では、新聞などを利用して、この1、2年に起こった様々な問題について解説し、皆で考えていきたい。

授業計画

1. 昨年の時事問題(1)
2. 昨年の時事問題(2)
3. 1月頃の時事問題
4. 2月頃の時事問題
5. 3月頃の時事問題
6. 4月頃の時事問題
7. 5月頃の時事問題
8. 6月頃の時事問題
9. 7月頃の時事問題
10. 8月頃の時事問題
11. 9月頃の時事問題
12. 10月頃の時事問題
13. 11月頃の時事問題
14. 12月頃の時事問題
15. この1年の時事問題

授業の方法

講義、演習、発表形式。

準備学修

日々新聞やテレビ、インターネットで時事問題に関心を持ち、興味を持った事柄については自分で調べてことが望ましい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

特に定めなし

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

基礎／基礎科目〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学 2	EC/PC	11213		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
岡村 祥子	必修	2			

授業の到達目標

キリスト教的価値観を土台とした本学での学びの中で、人格的に成長していくため、人間としての営みをさまざまな角度から理解し、深めていく。KAISEIパーソナリティの要素もてがかりに、人間として、女性としての存在を認識していく。このクラスではKAISEIパーソナリティ全体についての理解を深める。

授業の概要

まず、人間存在について地球上の空間的な存在と、過去からの遺産を受け継ぐ歴史上の時間的な存在を確認する作業からはじめていく。次に人間を取り巻く環境を、家族、地域社会、国家等との関係で理解を深めていく。さらに、生きることとは何か、人間らしい人間とは何かなどを自らに問いかけることによって、人生の旅を探求していく。知的な問いかけだけでなく、内的な精神の営み、超越的な存在への問いかけをとりあげていく。

授業計画

1. 序 人間学について
2. 自己への問いかけ
3. 他者との関わり
4. KAISEIパーソナリティとの関係
5. 自然との関係
6. 地球上での存在
7. 地球環境の意識
8. 歴史の中の人間(人類の遺産)1
9. 歴史の中の人間(人類の遺産)2
10. 家族、社会の中で(国際社会)
11. 人間存在の神秘
12. 人間らしい人間とは
13. 超越者との出会い
14. 再びKAISEIパーソナリティとの関係
15. あらためて人間とは

授業の方法

講義とディスカッションを土台とし、討論に基づいた発表の時間もとる。また、グループでの課題研究とプレゼンテーションに取り組む。

準備学修

各時間に配布または指示されるテーマについて資料を集めて調べ、レポートにまとめる作業をする。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%とする。平常点には出席点と毎週提出するレポートあるいは授業内での提出物、発表も含む。

欠席について

出席点(100点満点)を全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点する。

テキスト

プリントを使用する。

参考図書

加賀乙彦『不幸な国の幸福論』集英社新書
 妻尚中『あなたは誰、私はここにいる』、『悩む力』集英社新書
 野田正彰『共感する力』みすず書房

留意事項

自己と他者に関心をもち、世界の出来事に興味をもち、現代社会を注視すること。また日本と世界の歴史について理解し、人生に対する自らの姿勢を意識すること。

教員連絡先

okamura@kaisei.ac.jp

総合科目〈総合科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キャリアデザイン入門	ET	11301		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
箕野 聡子	必修	2			

授業の到達目標

学びの中で就業力をあげる。コミュニケーション能力の育成を行い、共同作業・発表の機会を通し対人関係の基礎を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)とを養う。

授業の概要

コミュニケーション能力の育成を重視する。グループワークの時間を多く設け、各自のライフデザインを構築する時間とする。キャリアを考えるとは、今を生きる力を身につけるということである。この問題を、キャリアセンターの教員と職員、外部講師が協力して発信、提案していく。

授業計画

1. フィールドワーク 街を知る、地域を知る、自分を知る
2. フィールドワーク 青谷を知る、瀬区を知る、神戸海星を知る
3. 適性検査「キャリアマップ」実施
4. グループディスカッション 青谷観光化計画
5. グループワーク 街に出よう
6. グループワーク 街と共に考える
7. グループワーク 青谷をプレゼンテーション
8. グループワーク 青谷をプレゼンテーション
9. 雑談力を磨く(相手の興味を引き出そう)
10. ビブリオ・バトル (本の紹介を通して自己表現を行う)
11. ビブリオ・バトル (本の紹介を通して自己表現を行う)
12. 語る力を学ぶ
13. 「キャリアマップ」ライフデザイン解説&ワーク
14. 学びのデザインシート
15. KAISEIパーソナリティを学ぶ

授業の方法

グループワークを行う。ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

地域と大学とがどのように関わって成長していけるかを考える。実

際に街に出て、問題発見をし、それに取り組む準備をする。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キャリアデザイン入門	PC	11301		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
箕野 聡子	必修	2			

授業の到達目標

学びの中で就業力をあげる。コミュニケーション能力の育成を行い、共同作業・発表の機会を通し対人関係の基礎を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)とを養う。

授業の概要

コミュニケーション能力の育成を重視する。グループワークの時間を多く設け、各自のライフデザインを構築する時間とする。キャリアを考えるとは、今を生きる力を身につけるということである。この問題を、キャリアセンターの教員と職員、外部講師が協力して発信、提案していく。

授業計画

1. 適性検査「キャリアマップ」実施
2. 雑談力を磨く(相手の興味を引き出そう)
3. ビブリオ・バトル (本の紹介を通して自己表現を行う)
4. ビブリオ・バトル (本の紹介を通して自己表現を行う)
5. 人との関係づくり(コミュニケーションの取り方)
6. 自分との出会い(最も大切にしている価値観は?)
7. キャンパスライフを考える(行動目標をたてよう)
8. グループディスカッション
9. グループディスカッション
10. 「キャリアマップ」ライフデザイン解説&ワーク
11. 学びのデザインシート
12. ウエディングプラン 冠婚葬祭の基礎知識と理想の友人礼
13. 雑談力の育て方
14. 落語に学ぶ雑談力
15. KAISEIパーソナリティを学ぶ

授業の方法

グループワークを行う。ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

常に、自分と向き合う時間を設けるようにする。スピーチを行う時

は事前調査や準備を充分に行うように。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
文学入門			11309		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標
 近代の文学作品を進んで読むことができるようにする。近代という時代が、過去とも現代ともつながった時空であることを理解し、自らの視野を広げる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要
 日本の文学に登場する異界について考察する日本の古典も参考にしながら、近代作家の作品を講読したい。また、近代の文学が、現代の映像文学へどのような影響をあたえているかも、加えて考察する。神々や妖怪ら、異界のもの達に託された日本文化の一面に注目する。

授業計画

1. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その1) 神隠しとは。
2. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その2) タブーをおかす。異界をひらく道。
3. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その3) 山姫と山爺。異界をつくる者たち。
4. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その4) 異界からの帰還。現実との接点。
5. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その1) 迷信の近世。
6. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その2) 文明の近代。
7. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その3) 神殺しと子どもの自立。
8. 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」ハウルの動く城、止まった時間、固定されぬ空間。
9. 芥川龍之介「奉教人の死」と「ムーラン」(その1) 語られぬ自己。
10. 芥川龍之介「奉教人の死」と「ムーラン」(その2) 男装の麗人。東洋における女性の地位。
11. 梶井基次郎「Kの昇天」と「シラノ・ド・ベルジュラック」ドッベルゲンゲル。肉体と魂。
12. 夢野久作「瓶詰の地獄」トリック。

13. 太宰治「魚服記」他者を求める。
14. 秋原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」猫になる人間たち。錯覚と理想郷。
15. 井伏鱒二「へんろう宿」旅することと留まること

授業の方法
 作品講読と関係資料映像の鑑賞が中心となる。

準備学修
 あらかじめ作品を読んでおくこと。授業で紹介した関連映像については、各自復習して視聴しておくこと。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 規定に従う

テキスト
 東郷克美編『近代小説【異界】を読む』（双文社出版）

参考図書
 必要に応じて随時紹介する。

留意事項
 授業中に鑑賞する映像は、あくまで、近代文学作品を理解するためのものである。そのため、授業中では、一部のみしか鑑賞しない。近世・近代の文学に興味がある学生の受講を望む。

教員連絡先
 mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報活用の基礎知識			11313		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標
 情報活用をする前の基礎知識として、「数学」、「表計算」、「情報検索」、「ビジネス」をキーワードにこれらの基本的な内容を習得してもらいます。さらに、本講義は、自らを律して積極的に授業を受講することにより、情報活用の基礎知識をより深く理解することにより、「KAISEIパーソナリティ」の知性と自立を身につけてもらうことを目標とします。

授業の概要
 パソコン、インターネット、さまざまなアプリケーションソフトが個人レベルに普及し、社会の情報化が急速に進んできた。しかしながら、これらがもたらしたからといってビジネスチャンスをつかみ、成功できるとは限らない。これらから届く大量の情報を上手に活用するためには、「情報活用のための基礎知識や技術」を習得しておく必要がある。本講義では、まず、情報活用に必要な数学を割合など初歩から徹底し、データ処理に使用する表計算のしくみについて学習する。さらに、大量の情報から正しい情報を取り出せるよう情報検索の基礎知識を学ぶ。最後にビジネスとコンピュータについて概観する。

授業計画

1. 情報活用に必要な数学1～N進法
2. 情報活用に必要な数学2～割合
3. 情報活用に必要な数学3～統計
4. 表計算のしくみ1～計算式
5. 表計算のしくみ2～論理式
6. 表計算のしくみ3～相対参照と絶対参照
7. 情報検索の基礎1～ITに関する基礎知識
8. 情報検索の基礎2～一次情報と二次情報
9. 情報検索の基礎3～情報管理の方法
10. 情報検索の基礎4～基礎知識のまとめ
11. ビジネスとコンピュータ1～文書作法
12. ビジネスとコンピュータ2～簿記
13. 有価証券報告書の読み方1
14. 有価証券報告書の読み方2
15. 有価証券報告書の読み方3

授業の方法
 講義と授業内容の理解を深めるための発表を取り入れる。

準備学修
 初回の授業が始まる前までに、テキストの前半部分を簡単に眺めておくこと。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト
 『これならわかる！情報活用の基礎知識』、樋口勝一著、ノア出版

留意事項
 本講義は、全国大学実務教育協会認定の「情報処理士」資格取得に必要な科目である。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学概論			11317		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	2				

授業の到達目標

心理学とは何を学ぶ学問であるか、また、どのように研究され、現在の形になったのか、実験心理学から社会的行動、臨床的問題に至る歴史について概観し基礎的な理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)とを養う。

授業の概要

ヴァントを祖とする科学的な心理学の世界では、人間の感覚や知覚に関する理論において、どのような研究が課題であったか、それは同様に学習や認知の研究においてはどのような展開を見せてきたのか、思考や言語という領域においてはどのような知見が新たに必要となったのか、人格を捉える上で、そのような知見は十分であったのか、臨床的な視点で人間に変容をもたらすとはどのような事であるのか、また現在の心理学が抱える課題について、具体的な資料を挙げながら外観する。

授業計画

1. オリエンテーション 心理学が誕生するまで
2. 行動主義と学習理論 1
3. 行動主義と学習理論 2
4. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学)1
5. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学)2
6. 発達心理学
7. 認知心理学 1
8. 認知心理学 2
9. 動機付け・情動
10. 社会的行動理論
11. 人格の形成
12. 人格の評価
13. 臨床心理学 1
14. 臨床心理学 2
15. まとめ

授業の方法

講義と単元内容(実験・行動・学習・ゲシュタルト・発達・認知・社会的行動理論・人格・臨床)に相応した課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学修

心や脳に関する話題は、新聞、テレビ等でよく話題にされるので関連特集などに注目して視聴してください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は1回につき3点の減点の対象とします。欠席5回を超えた場合は不合格となります。

テキスト

末田啓二編著『心理学の最先端』あいり出版 2013

参考図書

授業中に適宜紹介する。

留意事項

授業中に配布する「学習のまとめ」や小テストをしっかりと復習しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
統計学入門			11321		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

基本的な統計的手法を理解することを目標とする。具体的には、代表値、分散、標準偏差、統計的推定の内容を理解し、統計量を計算できるようになることである。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

情報化が進むいま、テレビの視聴率や世論調査など様々な場面において統計データが利用されている。最近ではコンピュータの普及によって、統計計算は容易に実行され、意味を理解していなくても結果だけは得られるようになってきた。しかし、意味を分からずに結果を出しても、それらを正しく利用することはできないし、また、場合によっては誤った判断を下す危険がある。本講義では、はじめに基本的な統計量について概観する。さらに、実際に統計量を計算することで理解を深める。

授業計画

1. 割合の学習
2. 割合の学習
3. 1次元データの統計基礎 ~ 代表値
4. 1次元データの統計基礎 ~ 分散・標準偏差
5. 1次元データの統計 ~ 度数分布表とヒストグラム
6. 1次元データの統計 ~ 度数分布表における代表値
7. 1次元データの統計 ~ 度数分布表における分散・標準偏差
8. 1次元データの統計 ~ 総合練習
9. 2次元データの統計基礎 ~ クロス集計表
10. 2次元データの統計基礎 ~ 散布図と相関係数
11. 2次元データの統計基礎 ~ 総合練習
12. 正規分布表の読み方
13. 正規分布表の利用
14. 統計的推定・検定
15. まとめ

授業の方法

授業では、受講者が受け身にならず、統計量を計算することで、自ら「やってみる」、「考えてみる」という姿勢を身につけてもらう。

準備学修

いままで学習した簡単な割合の内容を理解していることが望ましい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

落合史夫・樋口克一著『大学生のための統計学ドリル』(見洋書房)

留意事項

数学が苦手な人も安心して受講してほしい。また、心理分野に興味がある人は本講義終了後、心理統計学を選択することが望ましい。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ジェンダー論			11325		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>あたりまえとされている社会生活の諸側面を、ジェンダーの視点からとらえ直すことができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。</p> <p>授業の概要</p> <p>生物的差異にもとづく性差・性別に対して、社会的文化的につくられた性差・性別をジェンダー（gender）という。この授業では、社会の様々な制度、慣習、政策、教育、メディア、文学、歴史など人間の諸活動を、ジェンダーの視点でとらえ直す。とくに日本において、これまで見過ごされがちだった社会現象や社会問題を、ジェンダーとの関連において考察したい。また、これまでの女性学や男性学が、何をどのように問題にしてきたかを概観する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ジェンダーとは 2. 「女らしさ」と性別役割 3. 「男らしさ」と性別役割 4. 教育とジェンダー 5. 労働とジェンダー 6. ライフコースの多様化 7. 結婚・離婚とジェンダー 1 8. 結婚・離婚とジェンダー 2 9. 主婦と家事 10. 子育てとジェンダー 11. ケアとジェンダー 12. 暴力とジェンダー 13. ジェンダー政策 14. 国際化の中の女性問題・男性問題 15. まとめ <p>授業の方法</p> <p>講義に加えて、グループディスカッションやプレゼンテーションをとりいれる。</p>

<p>準備学修</p> <p>準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点30%、定期試験70%</p> <p>欠席について</p> <p>欠席1回につき2点減点する。</p> <p>テキスト</p> <p>伊藤公雄ほか『女性学・男性学 ジェンダー論入門』有斐閣</p> <p>参考図書</p> <p>授業中に必要に応じて指示する。</p> <p>留意事項</p> <p>様々な立場からの様々な意見を紹介するので、批判的に摂取し、自分の意見をまとめてほしい。</p> <p>教員連絡先</p> <p>yumi@kaisei.sc.jp</p> <p>オフィスアワー</p> <p>直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。</p>

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本国憲法			11329		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅野 宜之	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>この講義を通じて、学生はニュースなどで断片的に見聞きする基本的人権や統治機構が憲法上はどのような内容をもつものであるかを系統的に理解することができる。立法や政府の政策には憲法違反の疑いがあるものもあり、それらを批判的に分析する能力を養うこともできる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)を養います。</p> <p>授業の概要</p> <p>この科目は、受講者がこれまで法律の勉強をしたことがないという前提に立って、日本国憲法の全体像と今日的意義を理解することを目的とします。授業は、講義形式で初学者向けのテキストに沿ってすすめます。授業においては、憲法制定に至る過程と国民主権、基本的人権の尊重、平和主義といった基本原理について説明した後、人権と統治機構をめぐる諸規定の解釈を学説と判例の紹介を交えながらわかりやすく説明します。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法と立憲主義、日本憲法史 2. 国民主権の原理、平和主義の原理 3. 基本的人権の原理とその限界 4. 包括的基本権と法の下での平等 5. 精神的自由権、内心の自由 6. 精神的自由権、表現の自由 7. 経済的自由権 8. 人身の自由 9. 国務請求権と参政権 10. 社会権 11. 国会 12. 内閣 13. 裁判所 14. 財政と地方自治 15. まとめ <p>授業の方法</p> <p>授業は講義形式で行います。</p>

<p>準備学修</p> <p>テキストの該当箇所を目を通しておくこと。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>定期試験100%</p> <p>テキスト</p> <p>テキストは使用せず、プリントを配布します。</p> <p>参考図書</p> <p>芦部信喜『憲法』（第5版）岩波書店</p>

総合科目〈総合科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康科学		11333		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
柳本 有二	選択	1			

授業の到達目標

受講生および重要な他者（保護者など）が、望ましい健康観や健康行動を獲得できるために、ウェルネス的健康観を主体とした基礎的知識を習得することを目指す。
さらに、現代社会において検討すべき、高齢化および少子化に伴う諸問題を解決する糸口を、ヘルスプロモーション的な実践活動と科学的理論から探る能力を養成する。
この授業では、KAISEIパーソナルのK（思いやり）およびI（知性）を養う。

授業の概要

講義形式で行うが、適宜アクティブラーニング（グループディスカッション）を行う。
Health in All Policies（全ての政策の中に健康という視点を取り入れる）という視点から、日常生活、災害時等の緊急対応および地域活性化などの中に、すべて「健康」という概念を取り入れた政策を目指すための知識を学ぶ。そして、これからの健康づくりには、どのような活動が重要かを考えていく。
なお、毎授業ごとに授業に関する感想と意見を書き込む授業ノートを作成し、次授業の最初にその意見等を紹介し、学習の連続性を確保する。

授業計画

- 1.オリエンテーション 授業の進め方を説明 .グループで「論」と「学」の違いについて話し合いをする .
- 2.一日一万歩の意義 ,ウォーキングと健康について講義とディスカッションをする .
- 3.Health in All Policiesという視点から ,大震災時当時と現在から健康を考える .
- 4.健康づくりとして ,骨の重要性について .運動 ,栄養および生活習慣による骨質の低下予防について .
- 5.肥満と糖尿病について ,最新の予防医学から検討する .
- 6.子供たちの健康づくり(発育発達)について最新の科学的根拠から検討する .
- 7.少子化や認知症など現代の諸問題についてその解決策を検討する .
- 8.ウェルネス的健康観から「よりよく生きる」という意味を考える .

授業の方法

毎授業ごとに授業ノートを作成し、次授業の最初にその意見等を紹介し、学習の連続性を確保する。

準備学修

日常や社会における健康づくりについて、新聞やメディアなどを通じて意識し、まとめておく。

課題・評価方法

レポート試験とする。課題は、授業最終に提示する。

テキスト

身体が心が嬉しくなるノルディック・ウォーク（メイツ出版）

教員連絡先

yyuji2004@yahoo.co.jp

総合科目〈総合科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康スポーツ1	/	11337		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
柳本 有二 / 後藤 磨也子	選択	1			

授業の到達目標

心とからだのトータルヘルスの視点から、身体の機能面での能力である体力などを身につける。また、各種スポーツの特性を理解し、日常生活にスポーツ活動が習慣化するために必要な能力や態度を育成する。

授業の概要

- ・ニュースポーツの実践からその意味と種目の意義について理解する。
- ・ダンスやノルディック・ウォーク（以下、NW）などを通じて、健康づくりとしての身体活動の重要性を理解する。

授業計画

- 1.オリエンテーション(チーム分けなどを含む) 柳本担当 ,後藤担当のクラスに分ける .
- 2.柳本:一日一万歩の根拠を実践他 .後藤:エアロビクスダンスやリズム運動の基本の動きを学ぶ .
- 3.柳本:健康づくりに貢献するNWを体験 .後藤:基本のパターンを反復 .筋肉や運動強度を理解する .
- 4.柳本:身体と脳の間を重視した活動(ラダーなど) 後藤:準備運動 ,整理体操)について理解する .
- 5.柳本:ユニホック ,フットサル実践 .後藤:エクササイズ構成方法を学ぶ .
- 6.柳本:ベタンク ,ブラインドサッカー実践 .後藤:グループで ,日常で継続できるエクササイズ作成 .
- 7.柳本:ウェルネスダーツ基礎実践 .後藤:グループで作成したエクササイズの指導方法を習得 .
- 8.柳本:ウェルネスダーツ応用実践 .後藤:オリジナル・エクササイズの完成とグループ発表 .
- 9.柳本:一日一万歩の根拠を実践他 .後藤:エアロビクスダンスやリズム運動の基本の動きを学ぶ .
- 10.柳本:健康づくりに貢献するNWを体験 .後藤:基本のパターンを反復 .筋肉や運動強度を理解する .
- 11.柳本:身体と脳の間を重視した活動(ラダーなど) 後藤:準備運動 ,整理体操)について理解する .
- 12.柳本:ユニホック ,フットサル実践 .後藤:エクササイズ構成方法を学ぶ .

- 13.柳本:ベタンク ,ブラインドサッカー実践 .後藤:グループで ,日常で継続できるエクササイズ作成 .
- 14.柳本:ウェルネスダーツ基礎実践 .後藤:グループで作成したエクササイズの指導方法を習得 .
- 15.柳本:ウェルネスダーツ応用実践 .後藤:オリジナル・エクササイズの完成とグループ発表 .

授業の方法

できるだけ、身体を動かすが、理論も学ぶためのアクティブラーニングを行う。

準備学修

日常から、体調管理に努める。

課題・評価方法

日常の平常点(40点)および実技レポート(60点)などを実施する。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化史			11353		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標
 日本史の概略を理解する。日本の伝統行事を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要
 時代ごとに歴史の重要事項を確認する。さらにその時代の文化に注目し、その文化を題材として取り扱った現代の文学・文化作品を鑑賞する。

授業計画

1. 神々の歴史 「古事記」と菟原規子『空色勾玉』を読む
2. 縄文時代・弥生時代 たつみや章『月神の統べる森で』を読む
3. 邪馬台国・古墳時代 横光利一『日輪』を読む
4. 邪馬台国のあった頃の中国(魏) 吉川英治『三国志』を読む
5. 飛鳥時代 池田理代子『聖徳太子』を読む
6. 大化の改新から 里中満智子『天上の虹』を読む
7. 奈良時代 手塚治虫『火の鳥』を読む
8. 平安時代 大和和紀『あさきゆめみし』を読む
9. 年中行事(正月について) 『枕草子』を読む
10. 年中行事(節分・3月3日・5月5日・衣替え・賀茂 葵 祭)
11. 年中行事(夏祭り・天神祭・祇園祭・ねぶた祭り・竿灯祭・七夕祭・花笠祭)
12. 年中行事(7月7日・盆・風祭・十五夜・十三夜・重陽の節会・神無月・七五三)
13. 鎌倉時代 平家滅亡 「平家物語」・小泉八雲「耳なし芳一」を読む
14. 鎌倉時代 義経逃亡 斎藤洋『白狐魔記・源平の風』を読む
15. 室町時代 三島由紀夫『金閣寺』を読む

授業の方法
 講義中心の授業である。各時代ごとに小レポートの提出を課す。

準備学修
 毎回取り上げる図書は、すべて図書館の指定図書コーナーでも閲覧できる。あらかじめ読んでおくことが望ましい。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 規定に従う

テキスト
 必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書
 必要に応じて授業中に随時紹介する。

教員連絡先
 mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
簿記会計学			11357		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標
 この授業は、簿記の初学者に対し、簿記の基本概念、計算原理、作成技術などを説明します。到達目標は、日本商工会議所簿記検定3級の基本部分を習得することです。さらに、この授業は、自らを律して積極的に受講することにより、全世界で使用されている簿記の知識をより深く理解することにより、「KAISEIパーソナリティ」の知性と国際化と自立を身につけてもらうことを目標とします。

授業の概要
 簿記とは、お金の計算を会計帳簿に記入することです。授業は、日々の取引がどのように記録されているのか、また決算においてどのような手続きが行われているのかを説明します。簿記を修得するためには、解説を聞くだけでなく、自ら電卓を持ち、問題の反復練習が重要になります。本授業では、授業で学んだことを実践的に確認するために、具体的な記帳練習を行いながら講義します。

授業計画

1. 簿記の基礎
2. 仕訳 - 商品売買
3. 仕訳 - 現金・当座預金・当座借越・小口現金
4. 仕訳 - 手形
5. 仕訳 - 貸付金・借入金他・有価証券
6. 仕訳 - その他の債権債務
7. 仕訳 - 消耗品の処理・固定資産と減価償却
8. 仕訳 - 租税公課と資本金
9. 仕訳 - 費用・収益の繰延べと見越し
10. 決算 - 帳簿への記入
11. 決算 - 試算表の作成
12. 決算 - 伝票制度
13. 決算 - 精算表と財務諸表
14. 決算 - 帳簿の締め切り
15. まとめと確認

授業の方法
 講義と演習問題を多く取り入れて授業をする。

準備学修
 授業の始まる前には、必ず予習をしてください。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト
 「スッキリわかる 日商簿記3級」 T A C出版
 「段階式 日商簿記ワークブック3級」 税務経理協会

留意事項
 電卓は必要なので持参してください。本講義は、全国大学実務教育協会「情報処理士」の認定に必要な科目である。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
現代家族関係論			11365		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族についての基礎知識を習得し、現代社会における家族関係の問題に科学的に接近できるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

家族関係への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この講義では、主に家族社会学の立場から家族の諸相に接近を試みる。まず、家族についての基礎知識、家族関係の基本的問題を解説する。また、現代日本の家族が直面している問題を取りあげ、家族関係のあり方について考え議論する機会を設ける。さらに、家族の先端的研究を紹介するとともに、歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶこととする。

授業計画

1. 家族とは
2. 家族関係の基礎的概念 1
3. 家族関係の基礎的概念 2
4. 配偶者の選択
5. 結婚と夫婦関係
6. 離婚・再婚と家族関係
7. ライフコースと家族の危機
8. 家族の内部構造
9. 子どもの養育と家族関係
10. 中年期の家族関係
11. 高齢期の家族関係
12. 家族に関する政策と法
13. 家族と社会的ネットワーク
14. 家族の変動
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修

準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「家庭支援論」を履修する前に、この科目を履修することが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会福祉論			11369		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
加藤 雅典	選択	2				

授業の到達目標

高齢化と少子化が同時に進行している状況にあって、保育、介護、医療の問題には誰もが直面することとなる。専門分野に携わる人材として、時代の要請に応え得る、社会福祉の理念、制度や援助技術に関わる資質を広い視野から育む。同時に、これからの社会福祉を主体的に考える機会とする。このクラスでは、主にKAISEIパーソナリティのI(知性)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

社会福祉の概論で基本項目を学習するとともに、最新のデータや資料によって、わが国の社会福祉の動向と課題等を、身近なテーマとして理解をする。指定する教科書の構成に従って講義を進めるが、考えるべきことやキーワードとなる内容については、討議を活用しながら深めていく。社会福祉の実施に関わる知識と姿勢を積極的に身に付けることを目指す。

授業計画

1. 私たちの生活と社会福祉 = 社会福祉とは =
2. 社会福祉の成り立ちと発展 = わが国と欧米の歴史 =
3. 社会福祉の仕組み
4. 社会福祉の分野 その1 公的扶助
5. 社会福祉の分野 その2 こども家庭福祉(1)
6. 社会福祉の分野 その3 こども家庭福祉(2)
7. 社会福祉の分野 その4 障害者福祉(1)
8. 社会福祉の分野 その5 障害者福祉(2)
9. 社会福祉の分野 その6 高齢者医療福祉
10. 介護保険制度
11. その他の福祉 = 地域福祉 =
12. 社会福祉の専門職
13. 社会福祉の援助技術 その1
14. 社会福祉の援助技術 その2
15. まとめ

授業の方法

講義を主体としながらディスカッションを取り入れる。

準備学修

テキストを事前に読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

履修要項による

テキスト

小林育子著「保育者のための社会福祉」 萌文書林2013年改訂版 必要に応じて資料を配布する。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人権教育論			11373		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
丸岡 幸一	選択	2				

<p>授業の到達目標 人権問題の歴史と現状を踏まえて、人権教育の必要性を認識する。そして、様々な人権問題について具体的な事象をとおして理解を深めることができる。この授業ではK A I S E I パーソナリティのK（思いやり）とIn（国際性）を目指します</p> <p>授業の概要 本講義では、まず人権とは何か、人権教育はなぜ必要なのかを考察する。そして、人権意識の発展の歴史を踏まえた上で、様々な人権問題について理解する。また、身の周りにおける人権問題に関わりのある事例や、新聞報道などを取り上げ議論することを通して、自らの人権感覚を深めていきたい。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.はじめに 一人権・人権教育とは一 2.世界における人権拡張の歴史 3.日本における人権拡張の歴史 4.同和問題と人権教育 5.子どもの人権 一人権の権利条約一 6.社会における人権問題 一人権の女性一 7.社会における人権問題 一人権の障害児(者)・高齢者の人権一 8.社会における人権問題 一人権の在日外国人の人権一 9.教育における人権問題 一人権の教育権・学習権をめぐる問題一 10.教育における人権問題 一人権のいじめ・不登校をめぐる問題一 11.教育における人権問題 一人権の懲戒・体罰をめぐる問題一 12.教育における人権問題 一人権の校則をめぐる問題一 13.学校教育における人権教育 14.社会教育における人権教育 15.まとめと人権教育の今日的課題 <p>授業の方法 講義を中心にディスカッションや発表も取り入れる。</p> <p>準備学修 自ら体験した人権教育について思い返しておくこと。</p>

<p>課題・評価方法 平常点50%、定期試験50%</p> <p>欠席について 学内の規定等に準じる。</p> <p>テキスト 必要に応じて資料を配付する。</p> <p>参考図書 授業の中で適宜紹介する。</p> <p>留意事項 日頃から、新聞・テレビ等の人権関連報道等に常に関心を持ち、授業に臨むこと。</p>

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会科学概論			11377		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	選択	2				

<p>授業の到達目標 学習指導要領が示す小学校の社会科の内容を、日本史を中心に講義する。歴史を学ぶことによって現代のさまざまな問題について考える力をつけてもらいたい。この授業ではK（知性）に重点を置く。</p> <p>授業の概要 時間が非常に限られているので、まず日本史の流れをおさえることを主眼とする。それとともに主要事項を確認していく。歴史はすべてのことにかかわるので、さまざまな問題に言及しながら授業を進めたい。政治、経済についても時間を割きたいと思う。また、内容の定着をはかるため、随時小テストを行う。常識を身につけるために、教職を目指す学生だけでなく、一般企業などを目指す学生にも受講してもらいたい。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 縄文・弥生時代 2. 古墳時代と大和政権の成立 3. 律令制の成立 4. 平城京と平安京 5. 鎌倉時代 6. 室町時代と千石時代 7. 江戸時代(前期) 8. 江戸時代(後期) 9. 開国と明治維新 10. 日清戦争から第2次世界大戦 11. 戦後 12. 日本の議会制民主主義 13. 為替相場 14. 株価の変動 15. まとめ <p>授業の方法 講義、討論、演習形式。</p> <p>準備学修 次回の講義の内容を高校の日本史の教科書等で復習しておくこと。</p>

<p>課題・評価方法 平常点30%、定期試験70%</p> <p>欠席について 通常欠席が5回を超える場合は受験資格を認めない。</p> <p>テキスト 随時プリントを配布する予定。</p> <p>参考図書 とくに指定しない</p> <p>留意事項 日本史を中心にかなり大まかに講義するので、時代の流れとともに主要事項をしっかり頭に入れて出席すること。</p> <p>教員連絡先 ozaki@kaisei.ac.jp</p> <p>オフィスアワー 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。</p>

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家政学概論			11381		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

学問としての家政学を理解する。家政学の各分野を学ぶことを通して、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

「家政学はどのような学問か」については、諸説が林立している。経済・社会の変化にもなると、家族や生活のあり方が変化し、家政学自体も改革を続けている。この講義では、家政学についての様々な主張を解説し検討することを通して、家政学とは何かにアプローチしたい。さらに、家庭経営、家庭経済、消費者問題、家族関係、食生活、衣生活、住生活、生活情報、生活環境などの各論・各分野についても学ぶこととする。家政学、生活科学、生活環境学などを網羅し概観することで、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身につけ、実践的能力を養う。

授業計画

1. 様々な家政学
2. 家政学の定義、目的、対象、方法
3. 家政学の発展過程と改革
4. 家庭生活と生活経営
5. 家庭経済・消費者問題
6. 家族関係
7. 食生活 1
8. 食生活 2
9. 衣生活 1
10. 衣生活 2
11. 住生活 1
12. 住生活 2
13. 生活情報
14. 生活環境
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションをとり入れる。

準備学修

高等学校までの家庭科を復習する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

実教出版編集部『生活学Navi』実教出版

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	ET		11401		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

敬語をつかい、文章を書けるようにする。また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

言葉を公に使用するという事は、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。

授業計画

1. 「文章入門」書き言葉の決まり事学ぶ。ノートの取り方を学ぶ
2. 「敬語」尊敬語と謙讓語(その1)プリント配布
3. 「敬語」尊敬語と謙讓語(その2)「敬語表小テスト」
4. 「敬語」まちがいがやすい敬語「敬語小テスト」
5. 「敬語」待遇表現(その1)敬語小テスト
6. 「敬語」待遇表現(その2)敬語小テスト
7. 「修辭法と慣用句」比喩法・変化法、慣用句ことわざ「敬語まとめテスト」
8. 「文中の誤りを直す」推敲の仕方学ぶ。「冠婚葬祭」の常識「敬語総まとめテスト」
9. 「メールの書き方」プリント配布「比喩法・変化法テスト」
10. 「履歴書とエントリーシート」「慣用句・ことわざテスト」
11. 「手紙とはがき」一般的な形式と表現「履歴書の書き方テスト」
12. 「手紙とはがき」礼状「手紙の一般的な形式についての小テスト」
13. 「案内状の作成」種類と内容「礼状を書く小テスト」
14. 「誤用文と推敲」修飾句の位置・副詞の呼応「案内状作成について的小テスト」
15. 「文章の構成」「正しい叙述の照応についてのテスト」

授業の方法

演習中心の授業である。

準備学修

敬語は使わなければ身に付かない。日頃から意識して正しい敬語を使う努力をする。

毎回、授業の始めに、前回の授業内容を復習する小テストを行う。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

テストやレポートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

西尾宣明編『日本語表現法』（樹村房）

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。毎時間、国語辞典を持参すること。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	PC	11401		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
大岸 啓子	必修	2			

授業の到達目標
日本語の特質を理解するとともに、言葉の使い方・話し方・文章の書き方等、社会生活の中で必要とされる基礎的な国語力を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要
基本的な日本語の知識や文章の書き方を習得するために、実践的な演習を取り入れた講義を行う。また、実用的な挨拶・自己紹介等における話し言葉の表現法についても学ぶ。言葉に対する感性を磨くために、詩や名言等の学習を取り入れていく。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、美しい日本語
2. スピーチの仕方
3. 話し方の基本
4. 挨拶と敬語
5. 敬語の使い方 自己紹介の仕方
6. 話し方
7. 話し方
8. 文章の書き方
9. 文章の書き方
10. 文章の書き方
11. 文章の書き方
12. 文章の書き方
13. 書写
14. 書写
15. まとめ

授業の方法
書く活動やディスカッションを多く取り入れる。

準備学修
事前に課題を提示するので、レポート等を提出すること。

課題・評価方法
平常点30%、定期試験70%

欠席について
欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト
田上貞一郎『保育者になるための国語表現』萌文書林

参考図書
必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項
出席と授業態度（準備と提出物含む）を重視する。毎時間、国語辞典を持参する。

教員連絡先
ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語文章構成法		11405		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
箕野 聡子	選択	2			

授業の到達目標
他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要
簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は公表する。

授業計画

1. <評論文>(1) 感想文と評論文とはどう違うのか。
2. <評論文>(2) 映画評を書く。アウトラインのたてかたを学ぶ。
3. <評論文>(3) 文中の誤りを正す。推敲の仕方を学ぶ。
4. <評論文>(4) 書評を書く。図書・雑誌の探し方を学ぶ。
5. <評論文>(5) 書評を書く。序論・本論・結論の順に記述を進める。引用の規則を守る。
6. <新聞検索> 新聞記事の検索を行い、次回にレポートを書く資料準備を行う。
7. <意見文> 他説・自説・証明といった三段構成の方法を学ぶ。特に自説の証明を学ぶ。客観的根拠を3例以上あげ、自説を証明する。
8. <意見文・説得文> 反論の仕方を学ぶ。予想される反論をあげ、それに反論する。
9. <意見文・説得文> 新聞投稿を行う。結論・本論・結論の三段構成の方法を学ぶ。
10. <小説> 語り手の位置を学ぶ。
11. <小説> テーマにそった短編小説を書く。
12. <エントリーシート> キャッチコピーを学ぶ。接近法・強調法・暗示法などを学ぶ。
13. <エントリーシート> ネーミングコピーの作り方を学ぶ。
14. <エントリーシート> 標語の作り方を学ぶ。ブレンライティング法を学ぶ。
15. <エントリーシート> 「10年後の私」という題で自分について

て書く。起・承・転・結の四段構成の方法を学ぶ。

授業の方法
演習が中心の授業となる。新聞投稿などをとおして、社会の一員としての自分の位置を理解していく。

準備学修
漢字のテストを毎回行う。課題をあたえるので、復習をしておく。新聞の読者投稿の欄は、毎日目を通しておくように。

課題・評価方法
平常点70%、定期試験30%

欠席について
レポートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト
必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書
必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項
演習が中心の授業となる。毎時間、国語辞典を持参すること。

教員連絡先
mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

情報〈情報〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 1	ET・PC	11501		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
米田 里香	必修	2			

授業の到達目標

情報に関する基礎的な知識と技術を修得し、現代社会における情報のしくみを理解するとともに、情報を活用し、さまざまな問題を解決できる能力を育成することを目標とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

ハード、ソフト、ネットワークなどのコンピュータの基礎知識を学習し、実技においては、マイクロソフトワードの基本操作を学習する。さらにプレゼンテーションソフトの簡単な操作方法も学習する。学習の動機付けとして、日本語ワープロ技能標準試験 2 級の資格取得を目指す。

授業計画

1. コンピュータの基礎知識 / ウィンドウの基本操作
2. コンピュータの基礎知識 / 文字入力、編集
3. コンピュータの基礎知識 / ワード基本操作
4. コンピュータの基礎知識 / ワード基本操作
5. ワード基本操作
6. ワード基本操作
7. ワード基本操作まとめ
8. 日本語ワープロ技能標準試験 2 級対策
9. 日本語ワープロ技能標準試験 2 級対策
10. 日本語ワープロ技能標準試験 2 級対策
11. 日本語ワープロ技能標準試験 2 級対策
12. 日本語ワープロ技能標準試験 2 級対策
13. 図形練習
14. プレゼンテーションソフトの基本
15. 確認演習

授業の方法

知識学習と実技とを並行しながら学習する。学習の成果として資格取得にも挑戦する。

準備学修

入力練習をしておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。

テキスト

office2010 実教出版
日本語ワープロ技能標準試験過去問題集 noa出版

留意事項

テキストは必ず持参すること。

情報〈情報〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 2	ET・PC	11505		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
米田 里香	必修	2			

授業の到達目標

現代ビジネス社会に必要とされるパソコンとビジネスデータを活用し、問題解決や発表、経営上の意識決定ができる能力を育成することを目標とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

はじめに、データ処理に必要な数学の割合を中心に学習し、表計算ソフトを利用したデータの処理のために必要な数式をたてる練習を行う。またビジネスにおいて必要となるデータ処理の手法について簡単に学ぶ、その表計算ソフトの基本操作を習得し、グラフなどで適切なビジュアル化が行えるように指導する。学習の動機付けとして、表計算技能標準試験 2、3 級の資格取得を目指す。

授業計画

1. 割合の計算
2. 割合の計算
3. エクセル基本操作
4. エクセル基本操作
5. エクセル基本操作
6. エクセル基本操作
7. エクセル基本操作まとめ
8. 表計算技能標準試験 3 級対策
9. 表計算技能標準試験 3 級対策
10. 表計算技能標準試験 3 級対策
11. 表計算技能標準試験 2 級対策
12. 表計算技能標準試験 2 級対策
13. 表計算技能標準試験 2 級対策
14. 表計算技能標準試験 2 級対策
15. 確認演習

授業の方法

実技中心で学習する。学習の成果として資格取得にも挑戦する。

準備学修

小学校の算数を学習しておくこと。（特に割り算）

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。

テキスト

office2010 実教出版（情報リテラシー 1 受講者は購入必要なし）
表計算技能標準試験過去問題集 noa出版

留意事項

テキストは必ず持参すること。

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
オフィス情報処理 1	/		11509		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
米田 里香	選択	2				

授業の到達目標
 ビジネス文書をワープロソフトで作成する能力を養成することと、入力技術だけでなく、ビジネス文書作法、コンピュータのしくみなどの理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
 情報リテラシー 1 で学習したことを元にさらに応用的なビジネス文書の編集を学習する。学習の動機付けとして、日商PC検定3級（文書作成）の取得を目指す。文書作成の対策を行い、資格取得を目指す。

授業計画

1. ワードの基本操作確認
2. 日商PC検定知識対策 / ワードの基本操作確認 書式設定
3. 日商PC検定知識対策 / ワードの基本操作確認 表作成
4. 日商PC検定知識対策 / ワードの基本操作確認 表作成
5. 日商PC検定知識対策 / ワードの基本操作確認 表作成
6. 図形演習
7. まとめ
8. 日商PC検定3級文書作成実技対策
9. 日商PC検定3級文書作成実技対策
10. 日商PC検定3級文書作成実技対策
11. 日商PC検定3級文書作成実技対策
12. 日商PC検定3級文書作成実技対策
13. 日商PC検定3級文書作成実技対策
14. 日商PC検定3級文書作成実技対策
15. 確認演習

授業の方法
 日商PC検定3級（文書作成）の合格を目指し実技対策と知識対策をしていく。

準備学修
 ワードの基本をもう一度学習しておくこと。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。

テキスト
 日商PC検定試験（文書作成）3級完全マスター FOM出版 日商PC検定3級文書作成対策テキスト noa出版

留意事項
 テキストを必ず持参すること。

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
オフィス情報処理 2			11513		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
米田 里香	選択	2				

授業の到達目標
 ビジネス実務に必要なとされる基本的なデータ処理能力を養成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
 情報リテラシー 2 で学習したことを元にさらに応用的なデータ処理を学習する。学習の動機付けとして、日商PC検定3級（データ活用）の取得を目指す。

授業計画

1. エクセルの基本操作確認
2. 四則演算復習
3. 関数練習
4. 関数練習
5. 集計について
6. 集計について
7. まとめ
8. 日商PC検定3級データ活用対策
9. 日商PC検定3級データ活用対策
10. 日商PC検定3級データ活用対策
11. 日商PC検定3級データ活用対策
12. 日商PC検定3級データ活用対策
13. 日商PC検定3級データ活用対策
14. 日商PC検定3級データ活用対策
15. 確認演習

授業の方法
 日商PC検定3級（データ活用）の合格を目指し実技対策と知識対策をしていく。

準備学修
 エクセルの基本をもう一度学習しておくこと。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。

テキスト
 日商PC検定3級完全マスターデータ活用 FOM出版

留意事項
 情報リテラシー 2 とオフィス情報処理 1 を受講していること。テキストは必ず持参すること。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 1	a	11601		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	1			

授業の到達目標

2020年度、小学校英語は教科化される。2016年学習指導要領改訂、2018年度から段階的に、グローバル化に対応した英語教育改革が実施される。小学校中学年では学級担任が中心、高学年では、英語指導力を備えた学級担任・専科教員が指導する。日本の小学校外国語（英語）教育を担う教員養成が必要とされている。本講義では、幼稚園や小学校現場の指導者の英語力の基礎の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

授業では、
 (1) 実際の授業場面を体験、
 (2) 授業者として必要な語彙と表現を学習、
 (3) 実際に、学生が、簡単な教室英語と、目標表現及び目標語彙を使って、園児・児童・生徒が楽しめる授業を行う。
 従って、教師として、子供に英語を教える授業で、実際の現場で使う基礎英語を習得することを目指す参加型の授業である。授業では、ミニ模擬授業（ミニモギ）で、手遊びや振り付きの英語の歌・チャンツなどの発表も行う。

授業計画

1. Let me introduce myself! 自己紹介(1) L1, L2,
2. Let me introduce myself! 自己紹介(2) L1, L2,
3. Let's sing a song! 英語の歌(1) L3
4. Let's sing a song! 英語の歌(2) L3
5. Team Teaching with ALT ティームティーチング(1) L4
6. Team Teaching with ALT ティームティーチング(2) L4
7. Let's Enjoy Games! ゲームを楽しむ英語(1) L5
8. Let's Enjoy Games! ゲームを楽しむ英語(2) L5
9. Let's Enjoy TPR and Chants! リズムと動作を楽しむ英語(1) L7
10. Let's Enjoy TPR and Chants! リズムと動作を楽しむ英語(2) L7
11. Let's Enjoy Story Telling 絵本を楽しむ英語(1) L8
12. Let's Enjoy Story Telling 絵本を楽しむ英語(2) L8
13. Let's Enjoy Story Telling 絵本を楽しむ英語(3) L8
14. Class Schedule of the Dream 夢の時間割(1) L10

15. Class Schedule of the Dream 夢の時間割(2) L10

授業の方法

学習した基礎英語を使って、学生自身が、主体的にプレゼンテーションを行う。

準備学修

語彙・英語表現を暗記し、プレゼンテーションの準備をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型の授業であるので、毎回の発表が評価される。必ず出席すること。

テキスト

Bright and Early Classroom English for Teachers of Children 「子どもに英語を教えるための教室英語」
 カレイラ 松崎 順子 南雲堂 ISBN978-4-523-17628-2

留意事項

子供に英語を教える授業で、教師として現場で使う基礎英語を習得すること。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 1	b	11601		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
釜須 久夫	選択	1			

授業の到達目標

将来、保育士を目指す学生に必要なとされる語彙と知識を学習する。保育の現場で役立つ表現と語彙に取り組みながら、読む、書く、話す、聞く、の4技能の実用能力の向上も図る。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

授業の概要

テキストに沿って、様々なシーンを一回1ユニットづつ授業を進める。毎回キーワードの小テストを実施し、確実に語彙を増やしていく。

授業計画

1. Pre-unit Please Speak More Slowly
2. UNIT 1 Hi, I'm Yuri Tanaka
3. UNIT 2 Where Is the Multi-purpose Room ?
4. UNIT 3 Good Morning. How Are You Today ?
5. UNIT 4 What Color Do You Like ?
6. UNIT 5 There's a Ladybug on the Leaf
7. UNIT 6 It's Time to Play Outside
8. UNIT 7 She Is Allergic to Eggs
9. UNIT 8 You Should Go to the Bathroom
10. UNIT 9 We Made Masks Today
11. UNIT 10 If It Rains, What Happens ?
12. UNIT 11 What Shall We Do Today ?
13. UNIT 12 I Feel Feverish
14. UNIT 13 This Is Yuri from Cosmos Day Care Center
15. UNIT 14 Thank You Very Much for Everything

授業の方法

テキストに沿って毎回1ユニットづつ進めていく。

準備学修

必ず指定された個所を予習してくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

Happy English for Childcare 土屋麻衣子著 金星堂

教員連絡先

alohasam@y7.dion.ne.jp

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 2	a/b	11605		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
千葉 奈乙江 / 米田 繭子	選択	1			

授業の到達目標
 世界で古くから親しまれてきた物語を通して物語そのものの面白さを発見するとともに、英語に慣れ親しんで自然に英語を身につけ、異文化との出会いによって多様なものの見方ができるようになることを目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養い、K（思いやり）を考える。

授業の概要
 子供のころに言葉を吸収したように、物語を聴いて、読んで、音読し、関連するさまざまなtaskをしながら語彙や内容を理解し、物語に対する関心を高めていく。

授業計画

1. オリエンテーション
- Pre-Unit Jack and the Beanstalk
- Unit 1 Sindbad and the Sailor
- Unit 2 Hansel and Gretel
- Unit 3 Puss in Boots
- Unit 4 Sleeping Beauty
- Unit 5 The Three Spinners Part 1
- Unit 6 The Three Spinners Part 2
- Unit 7 Alice in Wonderland Part 1
- Unit 8 Alice in Wonderland Part 2
- Unit 9 Aladin and the Lamp Part 1
- Unit 10 Aladin and the Lamp Part 2
- Unit 11 Ali Baba and the Forty Thieves Part 1
- Unit 12 Ali Baba and the Forty Thieves Part 2
- Unit 13 Pinocchio Part 1
- Unit 14 Pinocchio Part 2

授業の方法
 原則テキストに沿って進め、発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修
 本文の音読練習、指定された箇所の予習。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 履修要項に沿って行う。

テキスト
 Atsuko Uemura *English Cradle Classic Tales from around the World* CENGAGE Learning

参考図書
 授業中、必要に応じて指示する。

留意事項
 毎回復習テストを行い、結果を平常点に組み入れる。英語辞書必携。座席指定。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 3	a	11609		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
西山 裕子	選択	1			

授業の到達目標
 基本的な語彙と文法を確認しながらテキストを精読し、CDやDVDを用いて本テキストと関連した題材のリスニング演習も採り入れることで、総合的な英語運用能力を高める訓練を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養い、K（思いやり）を考える。

授業の概要
 舞台は現代のイギリス。CDの音声を聴き物語を丁寧に読み進めながら、背景、言語に見られる英米の差異、ひいては個々の価値観についてなど、言葉の奥にある様々な「文化」についての考えを深めていく。また、実際の「音声」も交えながら読解力と「聴」解力を高めていく。

授業計画

1. Introduction/Chapter 1
2. Chapter 1 Just Another Wednesday Morning?
3. Chapter 2 First Kiss - Last Kiss?
4. Chapter 3 Call Me!
5. Review and Exercise (1)
6. Chapter 4 Tea at the Ritz?
7. Chapter 5 The Birthday Party
8. Chapter 6 Room Service
9. Review and Exercise (2)
10. Chapter 7 Alone again
11. Chapter 8 Behind the Blue Door
12. Chapter 9 New Hope
13. Review and Exercise (3)
14. Chapter 10 Just a Girl and a Boy
15. Conclusion/Discussion

授業の方法
 原則として、CDを用いながら毎回一つのChapterを読み進める（精読と要約）。

準備学修
 指定された範囲の予習（単語調べなど）。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 履修要項に沿って行う。

テキスト
 Richard Curtis *Notting Hill*, Penguin Readers Level 3, Pearson

参考図書
 授業中、必要に応じて指示する。

留意事項
 指定されたところまで、毎回必ず単語調べをしてくること。復習として随時小テストを行い、結果を平常点に加算する。英語辞書必携。座席指定。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 3	b	11609		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
入江 和子	選択	1			

授業の到達目標

英語の基本的な文法事項を順序立てて総復習し、四技能の実用能力を総合的に向上させることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養い、K(思いやり)を考える。

授業の概要

大学生活を描いた物語を題材に、比較的やさしいレベルの単語や構文で構成されたテキストを用いる。各課で、リスニング、会話、文法練習問題などさまざまなタスクに取り組みながらターゲット文法事項を繰り返し用いる練習を重ね、最後に自分自身について表現して英語力を確かなものにする。

授業計画

1. Introduction, Pre-Unit
2. Unit 1 It's Nice to Meet You
3. Unit 2 Take a Hike
4. Unit 3 Don't Wear Your High Heels
5. Unit 4 There's Nothing in My Backpack
6. Unit 5 What a Small World!
7. Unit 6 Let's Eat
8. Unit 7 It's a Date
9. Unit 8 I Have to Study
10. Unit 9 What Do You Think of My Sketch?
11. Unit 10 Kanji Is So Difficult
12. Unit 11 I'll Make a Birthday Cake
13. Unit 12 Saturday or Sunday?
14. Unit 13 I'm Not Good with Computers
15. Unit 14 Which Is Better?

授業の方法

発表を多く取り入れる。

準備学修

あらかじめ指示されたユニットは必ず予習し、練習問題をしておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

Robert Hickling, 白倉美里 *English First Starter* 金星堂

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

毎回小テストを行い、その結果を平常点に組み入れる。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 4	a/b	11613		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
米田 繭子 / 千葉 奈乙江	選択	1			

授業の到達目標

英語の基本的な文法事項と保育現場でよく使われる英単語、必要と思われる語彙を増やすと同時に英語を使って表現することを目指す。このクラスで、KAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を考える。

授業の概要

保育現場を題材にしたストーリーを読み進めながら、重要表現や保育にかかせない語彙を学び、生活感のある英語コミュニケーションを身につける。また発表の場を設けてアクティビティの実践などを試みる。

授業計画

1. The School Year Begins
2. Arrival
3. Playtime in the Classroom
4. In the Sandbox
5. In the Playground
6. Lunch Time
7. Changing Clothes and Story Time
8. Nap Time
9. Blowing Bubbles
10. A sick Child
11. Preparation for the Sports Day
12. The Sports Day
13. Going for a Walk
14. Discovering Autumn
15. Review

授業の方法

テキストに沿って順に進めていく。発表の場も取り入れる。

準備学修

テキストの指定された箇所を予習する。随時課題に取り組む。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

履修要項に沿って行う

テキスト

森田和子著『新保育の英語』参修社

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 5	a	11617		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	選択	1			

授業の到達目標
In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要
The object of this course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and small groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Life
3. Unit 1: continued
4. Unit 2: Work
5. Unit 2: continued
6. Unit 3: Time Out
7. Unit 3: continued
8. Review
9. Unit 4: Great Minds
10. Unit 4: continued
11. Unit 5: Travel
12. Unit 5: continued
13. Unit 6: Fitness
14. Unit 6: continued
15. Review

授業の方法
Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修
Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法
平常点70%、定期試験30%

欠席について
As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト
Speak Out Pre-Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書
To be announced as and when required.

留意事項
Active participation in class is essential.

教員連絡先
munson@kaisei.ac.jp

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 5	b	11617		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Maidhc Ó CATHAIL	選択	1			

授業の到達目標
The target proficiency of this course is to enable the students to move from high-beginner and progress towards English at a pre-intermediate level.

授業の概要
The object of this course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and small groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 1
3. Unit 1 3
4. Unit 1 4
5. Unit 2 1
6. Unit 2 3
7. Unit 2 4
8. Unit 3 1
9. Unit 3 3
10. Unit 3 4
11. Unit 4 1
12. Unit 4 2
13. Unit 4 3
14. Unit 4 4
15. Review

授業の方法
Students will together in pairs and groups.

準備学修
Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法
平常点30%、定期試験70%

欠席について
As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト
Speak Out Elementary, Eales and Oakes, Pearson Longman

参考図書
To be announced as required.

留意事項
Active participation in class is essential.

教員連絡先
ocathail@gmail.com

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 5	c	11617		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Tina D. MATHERS	選択	1			

<p>授業の到達目標</p> <p>In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.</p> <p>授業の概要</p> <p>The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication, working in pairs and in small groups.</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Unit 1 3. Unit 1 4. Unit 2 5. Unit 2 6. Unit 3 7. Unit 3 8. Review 9. Unit 4 10. Unit 4 11. Unit 5 12. Unit 5 13. Unit 6 14. Unit 6 15. Final Review <p>授業の方法</p> <p>Students will mostly be working in pairs and in small groups.</p> <p>準備学修</p> <p>Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点70%、定期試験30%</p>

<p>欠席について</p> <p>As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.</p> <p>テキスト</p> <p>Speak Out Elementary, Eales and Oakes, Pearson Longman</p> <p>参考図書</p> <p>To be announced as and when required.</p> <p>留意事項</p> <p>Active participation in class is essential.</p>

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 6	a	11621		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
惣谷 美智子	選択	1			

<p>授業の到達目標</p> <p>日本および国際的なテーマの英文を Critical Thinking の観点から読み、それらを要約したり、また内容に基づいて自分の意見が発表できるような実践的英語能力の習得を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性、国際性)を学ぶ。</p> <p>授業の概要</p> <p>英語学習を単に語学学習にとどめず、発信型英語能力を養うために、Reading/Writingのみならず、Culture, Critical Thinking の観点から、現代における世界の文化の諸相を読み解き、同時に Debate, Presentation を通して各自の意見交換を行う。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. The Beauty of the Seasons 3. Continued 4. The Importance of English 5. Continued 6. How the Internet Evolved 7. Continued 8. Travel in Japan 9. Continued 10. The Secret of Happiness 11. Continued 12. Secondhand Smoke 13. Continued 14. Review 15. Conclusion <p>授業の方法</p> <p>Students will read and write about a variety of different topics.</p> <p>準備学修</p> <p>Familiarize yourself with the material in the text before beginning the course.</p>

<p>課題・評価方法</p> <p>平常点50%、定期試験50%</p> <p>欠席について</p> <p>As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.</p> <p>テキスト</p> <p>Takashi Shimaoka et al., <i>Life Topics: A Critical-Thinking Approach to English Proficiency</i>. Nan'un-do</p> <p>参考図書</p> <p>To be announced as and when required.</p> <p>留意事項</p> <p>Active participation in class is essential.</p> <p>教員連絡先</p> <p>soya@kaisei.ac.jp</p> <p>オフィスアワー</p> <p>直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。</p>

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 6	b	11621		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Tina D. MATHERS	選択	1			

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts for information and write effective paragraphs. They will also have a greater sense of internationality.

授業の概要

Students will advance from a beginning proficiency level to pre-intermediate proficiency level in reading and writing.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Names Reading 1
3. Unit 1: Reading 2
4. Unit 1: Writing
5. Unit 2: Work Reading 1
6. Unit 2: Reading 2
7. Unit 2: Writing
8. Review
9. Unit 3: Long Distance Reading 1
10. Unit 3: Reading 2
11. Unit 3: Writing
12. Unit 4: Positive Thinking Reading 1
13. Unit 4: Reading 2
14. Unit 4: Reading 3
15. Review

授業の方法

Students will work individually and in pairs and small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success, Reading and Writing 1, Lynn, Oxford

留意事項

This course will be taught entirely in English.

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 6	c	11621		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	選択	1			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

Students will advance from an beginning proficiency level to a pre-intermediate proficiency level in reading and writing.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 6 Reading 1
3. Unit 6 Reading 2
4. Unit 6 Writing
5. Unit 7 Reading 1
6. Unit 7 Reading 2
7. Unit 7 Writing
8. Review
9. Unit 8 Reading 1
10. Unit 8 Reading 2
11. Unit 8 Writing
12. Unit 9 Positive Thinking Reading 1
13. Unit 9 Reading 2
14. Unit 9 Writing
15. Review

授業の方法

Students will work individually and in pairs and small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the text before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a " Notification of Exceptional Absence ". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 1, Lynn, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

This course will be taught entirely in English.

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 7	a	11625		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Maidhc Ó CATHAIL	選択	1			

授業の到達目標
 The target proficiency of this course is to enable students to move from an elementary level of English and progress towards English at a pre-intermediate level. They will also have developed their sense of internationality.

授業の概要
 The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication, working in pairs, groups and as a whole class.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 5 1
3. Unit 5 2
4. Unit 5 3
5. Unit 6 1
6. Unit 6 2
7. Unit 6 3
8. Unit 7 1
9. Unit 7 2
10. Unit 7 3
11. Unit 8 1
12. Unit 8 2
13. Unit 8 2
14. Review and Prepare Final Project
15. Review and Prepare Final Project

授業の方法
 Students will work in pairs, in groups and as a class.

準備学修
 Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト
 Speak Out Pre-Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書
 To be announced when as required.

留意事項
 Active participation in class is essential.

教員連絡先
 ocathail@gmail.com

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 7	b/c	11625		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Tina D. MATHERS / Kevin MUNSON	選択	1			

授業の到達目標
 In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要
 The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication, working in pairs, groups and as a whole class.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7
3. Unit 7
4. Unit 8
5. Unit 8
6. Unit 9
7. Unit 9
8. Review
9. Unit 10
10. Unit 10
11. Unit 11
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Unit 12
15. Final Review

授業の方法
 Students will mostly be working in pairs and in small groups.

準備学修
 Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト
 Speak Out Elementary, Eales/Oakes, Pearson Longman

参考図書
 To be announced as and when required.

留意事項
 Active participation in class is essential.

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 8	a	11629		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
惣谷 美智子	選択	1			

授業の到達目標
 Reading/WritingIII で学んだ英語力をさらに磨く。日本および国際的なテーマの英文をCritical Thinking の観点から読み、それらを要約したり、また内容に基づいて自分の意見が発表できるような実践的英語能力の習得を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティの1(知性、国際性)を学ぶ。

授業の概要
 英語学習を単に語学学習にとどめず、発信型英語能力を養うために、Reading/Writingのみならず、Culture, Critical Thinking の観点から、現代における世界の文化の諸相を読み解き、同時に Debate, Presentation を通して各自の意見交換を行う。

授業計画

1. Introduction
2. What Colors Tell about You
3. Continued
4. Free Music
5. Continued
6. Fast Food and Health
7. Continued
8. The Dangers of Credit Cards
9. Continued
10. Old Media and New Media
11. Continued
12. Women in College
13. Continued
14. Review
15. Conclusion

授業の方法
 Students will read and write about a variety of different topics.

準備学修
 Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト
 Takashi Shimaoka et al., *Life Topics: A Critical-Thinking Approach to English Proficiency*. Nan'un-do

参考図書
 To be announced as and when required.

留意事項
 Active participation in class is essential.

教員連絡先
 soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 8	b	11629		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Tina D. MATHERS	選択	1			

授業の到達目標
 In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要
 Students will develop the necessary skills to read texts for information and write effective prose on a variety of topics.

授業計画

1. Unit 5
2. Unit 5
3. unit 5
4. Unit 5
5. Unit 6
6. Unit 6
7. Unit 6
8. Unit 6
9. Unit 7
10. Unit 7
11. Unit 7
12. Unit 7
13. Review and prepare final project
14. Review and prepare final project
15. Review and prepare final project

授業の方法
 Students will work on activities from the textbook in pairs, groups and alone.

準備学修
 Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト
 Q: Skills for Success: Reading Writing 1 by Lynn, Oxford

参考図書
 To be announced as and when required.

留意事項
 Active participation in class is essential.

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 8	c	11629		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	選択	1			

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of different text for information and write effective academic prose about a variety of topics.

授業の概要

Students will develop the necessary skills to read texts for information and write effective prose on a variety of topics.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 5 Reading 1
3. Unit 5 Reading 2
4. Unit 5 Writing
5. Unit 6 Reading 1
6. Unit 6 Reading 2
7. Unit 6 Writing
8. Review
9. Unit 7 Reading 1
10. Unit 7 Reading 2
11. Unit 7 Writing
12. Unit 8 Reading 1
13. Unit 8 Reading 2
14. Unit 8 Writing
15. Final Review

授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups, and alone.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a " Notification of Exceptional Absence ". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading Writing 1, Sarah Lynn, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 1			11633		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティの In (国際性) に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションに慣れ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聴き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。日常よく使用される会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、フランス語やフランス文化の一端を知る手掛かりとする。

授業計画

1. オリエンテーション 挨拶 発音 alphabetの読み方 筆記体の書き方 数字
2. 【挨拶、自己紹介、名前、職業、国籍】会話文の理解・文法)
3. 【挨拶、自己紹介、名前、職業、国籍】activités・練習問題・会話文の暗記)
4. 【挨拶、自己紹介、名前、職業、国籍】練習問題・会話文の暗記・文化)
5. 【人を描写する、住んでいる場所を言う、年齢を言う】会話文の理解・文法)
6. 【人を描写する、住んでいる場所を言う、年齢を言う】(activités・練習問題・会話文の暗記)
7. 【人を描写する、住んでいる場所を言う、年齢を言う】練習問題・会話文の暗記・文化)
8. 【疑問文、否定文、er動詞】会話文の理解・文法・activités)
9. 【疑問文、否定文、er動詞】練習問題・会話文の暗記・文化)
10. 【好きなものを言う、尋ねる、動詞(複数形)】会話文の理解・文法)
11. 【好きなものを言う、尋ねる、動詞(複数形)】activités・練習問題・会話文の暗記)
12. 【好きなものを言う、尋ねる、動詞(複数形)】練習問題・会話文の暗記・文化)
13. 【家族について話す、月の名前、形容詞】会話文の理解・文法)
14. 【家族について話す、月の名前、形容詞】activités・練習問題・会話文の暗記)
15. 【家族について話す、月の名前、形容詞】練習問題・会話文の暗記・文化】映画鑑賞(フランス語)

授業の方法

数字、時刻の聞き取りと読み、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、会話を理解するための必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースなどに関心を持つこと。既習事項は次回授業までに必ず理解しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

Méthode de français (駿河台出版社)

参考図書

必要な場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語 1 とフランス語 2 はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず一科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聴き取りや口頭練習に重点がおかれるので、テキストに付属のCDは予めよく聴き、授業中には大きく明快な声を出すことを心掛けること。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 2		11637		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平田 淳子	選択	1			

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションに慣れ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聴き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。日常よく使用される会話文を通して単語や文型を習得、更に数字の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、フランス語やフランスの文化の一端を知る手掛かりとする。

授業計画

- 1.オリエンテーション 挨拶 発音 alphabetの読み方 筆記体の書き方 数字
- 2.【挨拶、自己紹介、名前、職業、国籍】会話文の理解・文法)
- 3.【挨拶、自己紹介、名前、職業、国籍】activités・練習問題・会話文の暗記)
- 4.【挨拶、自己紹介、名前、職業、国籍】練習問題・会話文の暗記・文化)
- 5.【人を描写する、住んでいる場所を言う、年齢を言う】会話文の理解・文法)
- 6.【人を描写する、住んでいる場所を言う、年齢を言う】(activités・練習問題・会話文の暗記)
- 7.【人を描写する、住んでいる場所を言う、年齢を言う】練習問題・会話文の暗記・文化)
- 8.【疑問文、否定文、er動詞】会話文の理解・文法・activités)
- 9.【疑問文、否定文、er動詞】練習問題・会話文の暗記・文化)
- 10.【好きなものを言う、尋ねる、動詞(複数形)】会話文の理解・文法)
- 11.【好きなものを言う、尋ねる、動詞(複数形)】activités・練習問題・会話文の暗記)
- 12.【好きなものを言う、尋ねる、動詞(複数形)】練習問題・会話文の暗記・文化)
- 13.【家族について話す、月の名前、形容詞】会話文の理解・文法)
- 14.【家族について話す、月の名前、形容詞】activités・練習問題・会話文の暗記)
- 15.【家族について話す、月の名前、形容詞】練習問題・会話文の暗記・文化】映画鑑賞(フランス語)】

授業の方法

数字、時刻の聞き取りと読み、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、会話を理解するための必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースなどに関心をもつこと。既習事項は次の授業までに理解をしておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

Méthode de français（駿河台出版社）

参考図書

必要な場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語1とフランス語2はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず一科目しか履修できない場合は、個人学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聴き取りや口頭練習に重点がおかれるので、テキストに付属のCDは予めよく聴き、授業中には大きく明快な声を出すことを心掛けること。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 3			11641		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 1 と 2 で習得した会話文をもとに、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。これからの予定や過去にしたことなど、幅広い会話を楽しめるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティの I (知性) と In (国際性) を養う。

授業の概要

以下の計画に沿って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して単語や表現、文型を習得し、数字の読みと聞き取り、多様なフランス語の歌は毎回の課題とする。基本的な文法事項を確認しながら練習問題に取り組みると同時に文化にも触れ、フランス語やフランスという国についての理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション、既習事項の総復習
2. 【名詞、位置関係 所有】単語や会話文の理解・文法)
3. 【名詞、位置関係 所有】activités・練習問題・会話文の暗記)
4. 【名詞、位置関係 所有】練習問題・会話文の暗記・文化)
5. 【色、～があります】単語や会話文の理解・文法)
6. 【色、～があります】activités・練習問題・会話文の暗記)
7. 【色、～があります】練習問題・会話文の暗記・文化)
8. 【場所】単語や会話文の理解・文法・activités)
9. 【場所】練習問題・会話文の暗記・文化)
10. 【買い物をする】単語や会話文の理解・文法)
11. 【買い物をする】activités・練習問題・会話文の暗記)
12. 【買い物をする】練習問題・会話文の暗記・文化【映画鑑賞(フランス語)】
13. 【量について言う 部分冠詞】単語や会話文の理解・文法)
14. 【量について言う 部分冠詞】activités・練習問題・会話文の暗記)
15. 【量について言う 部分冠詞】練習問題・会話文の暗記・まとめ)

授業の方法

数字、時間の聞き取りと理解、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をもつこと。既習事項については次回の授業までに理解しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

Méthode de français (駿河台出版社)

参考図書

必要がある場合は授業中に紹介する。

留意事項

当該科目履修に関しては、フランス語 1 若しくはフランス語 2 を履修しているか、それと同等な能力を有することが必要である。フランス語 3 とフランス語 4 はタイアップしている授業であるため同時に履修すること。やむを得ず一科目しか履修できない場合は、各自学習して追いついておかねばならない。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 4			11645		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 1 と 2 で習得した会話文をもとに、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。これからの予定や過去にしたことなど、幅広い会話を楽しめるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティの I (知性) と In (国際性) を養う。

授業の概要

以下の計画に沿って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して単語や表現、文型を習得し、数字の読みと聞き取り、多様なフランス語の歌は毎回の課題とする。基本的な文法事項を確認しながら練習問題に取り組みると同時に文化にも触れ、フランス語やフランスという国についての理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション、既習事項の総復習
2. 【名詞、位置関係 所有】単語や会話文の理解・文法)
3. 【名詞、位置関係 所有】activités・練習問題・会話文の暗記)
4. 【名詞、位置関係 所有】練習問題・会話文の暗記・文化)
5. 【色、～があります】単語や会話文の理解・文法)
6. 【色、～があります】activités・練習問題・会話文の暗記)
7. 【色、～があります】練習問題・会話文の暗記・文化)
8. 【場所】単語や会話文の理解・文法・activités)
9. 【場所】練習問題・会話文の暗記・文化)
10. 【買い物をする】単語や会話文の理解・文法)
11. 【買い物をする】activités・練習問題・会話文の暗記)
12. 【買い物をする】練習問題・会話文の暗記・文化【映画鑑賞(フランス語)】
13. 【量について言う 部分冠詞】単語や会話文の理解・文法)
14. 【量について言う 部分冠詞】activités・練習問題・会話文の暗記)
15. 【量について言う 部分冠詞】練習問題・会話文の暗記・文化)

授業の方法

数字、時間の聞き取りと理解、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースなどに関心をもつこと。既習事項については次回の授業までに理解しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に始めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

Méthode de français (駿河台出版社)

参考図書

必要がある場合は授業中に紹介する。

留意事項

当該科目履修に関しては、フランス語 1 若しくはフランス語 2 を履修しているか、それと同等な能力を有することが必要である。フランス語 3 とフランス語 4 はタイアップしている授業であるため同時に履修すること。やむを得ず一科目しか履修できない場合は、各自学習して追いついておかねばならない。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 5		11649		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平田 淳子	選択	1			

授業の到達目標

フランス語1～4で習得した会話文をもとに、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。文法事項を確認しながら文化にも触れ、フランス語やフランスについての理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

以下の計画に沿って授業を進める。日常よく使用される会話文を講読、暗記する中で、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。会話内容に関するフランス語による質疑応答、文法の解説、歌、数字や時間の読みと聞き取りなど総合的に学習する。希望者には仏検指導(級を問わず)を行う。

授業計画

1. オリエンテーション【挨拶と買い物】冠詞・名詞の性と数)
2. 【友だちを紹介する】主語人称代名詞・前置詞と定冠詞)
3. 語彙と表現、基本的文法事項の確認、発音の基礎
4. 【第三者について話す】動詞avoir・形容詞・人称代名詞強勢形)
5. 【第三者について話す】否定文)
6. 語彙と基本的文法事項の確認、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
7. 【郵便局に行く】第一群規則動詞・指示形容詞)
8. 【衣服を褒める】一緒に昼食を取る【第二群規則動詞・所有形容詞・部分冠詞)
9. 語彙と基本的文法事項の確認、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
10. 【タクシーに乗る】不規則動詞の活用・近接未来、近接過去)
11. 【タクシーに乗る】命令法・序数)
12. 語彙と基本的文法事項の確認、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
13. 【レストランに行く】直接目的補語人称代名詞・比較級)
14. 【レストランに行く】間接目的補語人称代名詞・最上級)
15. 【映画鑑賞(フランス語)】基本的文法事項の確認

授業の方法

数字や時間の読みと聞き取り、フランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法練習問題やフランス

文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をもつこと。既習事項に関しては次回の授業までに理解しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

bis Amicalement 駿河台出版社

参考図書

Méthode de français 駿河台出版社(フランス語1～4の使用テキスト)、その他に必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語5と6は同時に履修するのが望ましい。やむを得ない場合は、授業で進んだところまで個人学習を欠かさないこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 6		11653		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平田 淳子	選択	1			

授業の到達目標

フランス語1～4で習得した会話文をもとに、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。文法事項を確認しながら文化にも触れ、フランス語やフランスについての理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

以下の計画に沿って授業を進める。日常生活でよく使用される会話文を講読、暗記する中で、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。会話内容に関するフランス語による質疑応答、文法の解説、歌、数字や時間の読みと聞き取りなど、総合的に学習する。希望者には仏検指導(級を問わず)を行う。

授業計画

1. オリエンテーション【挨拶と買い物】冠詞・名詞の性と数)
2. 【友だちを紹介する】主語人称代名詞・前置詞と定冠詞)
3. 語彙と表現、基本的文法事項の確認、発音の基礎
4. 【第三者について話す】動詞avoir・形容詞・人称代名詞強勢形)
5. 【第三者について話す】否定文)
6. 語彙と表現、基本的文法事項の確認、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
7. 【郵便局に行く】第一群規則動詞・指示形容詞)
8. 【衣服を褒める】一緒に昼食を取る【第二群規則動詞・所有形容詞・部分冠詞)
9. 語彙と表現、基本的文法事項の確認、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
10. 【タクシーに乗る】不規則動詞・近接未来、近接過去)
11. 【タクシーに乗る】命令法・序数)
12. 語彙と基本的文法事項の確認、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
13. 【レストランに行く】直接目的補語人称代名詞・比較級)
14. 【レストランに行く】間接目的補語人称代名詞・最上級)
15. 【映画鑑賞(フランス語)】基本的文法事項の確認

授業の方法

数字や時間の読みと聞き取り、フランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法練習問題やフランス

文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をもつこと。既習事項に関しては次回の授業までに理解しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

bis Amicalement 駿河台出版社

参考図書

Méthode de français 駿河台出版社(フランス語1～4の使用テキスト)、その他に必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語5と6は同時に履修するのが望ましい。やむを得ない場合は、授業で進んだところまで個人学習を欠かさないこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 7			11657		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 5 と 6 で学習したことを継続する。習得した会話文を基本に、より複雑な文章の理解や口頭表現の使用を目指す。文化にも触れながらフランスについてより一層の理解を深め、フランス渡航時にも使える程度の語学力を身に付けたい。このクラスではKAISEI パーソナリティの I (知性) と In (国際性) を養う。

授業の概要

以下の計画に沿って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。仏検問題、歌、数字の読みと聞き取り、会話文の暗記、会話作成などは毎回の課題とする。また個別にフランス関連の調べ学習を発表する機会を設ける。

授業計画

1. オリエンテーション【インタビューする】(代名動詞)
2. 【スポーツクラブに登録する】(不定法の表現・疑問形容詞)
3. 語彙と表現 文法事項の確認とまとめ
4. 確認テスト(オーラル 筆記 聴取弁別)
5. 【映画館にて】(複合過去 1)
6. 【映画の後で】(複合過去 2)
7. 語彙と表現 文法事項の確認とまとめ
8. 確認テスト(オーラル 筆記 聴取弁別)
9. 【家族との会話】(半過去・関係代名詞)
10. 【メール】(受動態・接続詞を使った表現)
11. 【訪問計画】(単純未来)
12. 語彙と表現 文法事項の確認とまとめ 【映画鑑賞(フランス語)】
13. 【家族との夕食】(ジェロンディフ・感嘆文・中性代名詞)
14. 【招待】(条件法)
15. 【ヴァカンスの終わり】(接続法)

授業の方法

数字や時間の読みと聞き取り、フランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法練習問題やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語 5 ~ 6 で学習したことを復習しておくこと。フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたすことになりかねないので留意すること。

テキスト

bis Amicalement 駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語 7 と 8 は同時に履修するのが望ましい。やむを得ない場合は、授業の進行に合わせて各自の補習が必要である。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 8			11661		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 5 と 6 で学習したことを継続する。習得した会話文を基本に、より複雑な文章の理解や口頭表現の使用を目指す。文化にも触れながらフランスについてより一層の理解を深め、フランス渡航時にも使える程度の語学力を身に付けたい。このクラスではKAISEI パーソナリティの I (知性) と In (国際性) を養う。

授業の概要

以下の計画に沿って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。仏検問題、歌、数字や時間の読みと聞き取り、会話文の暗記、会話作成などは毎回の課題とする。また個別にフランス関連の調べ学習を発表する機会を設ける。

授業計画

1. オリエンテーション【インタビューする】(代名動詞)
2. 【スポーツクラブに登録する】(不定法の表現・疑問形容詞)
3. 語彙と表現 文法事項の確認とまとめ
4. 確認テスト(オーラル 筆記 聴取弁別)
5. 【映画館にて】(複合過去 1)
6. 【映画の後で】(複合過去 2)
7. 語彙と表現 文法事項の確認とまとめ
8. 確認テスト(オーラル 筆記 聴取弁別)
9. 【家族との会話】(半過去・関係代名詞)
10. 【メール】(受動態・接続詞を使った表現)
11. 【訪問計画】(単純未来)
12. 語彙と表現 文法事項の確認とまとめ 【映画鑑賞(フランス語)】
13. 【家族との夕食】(ジェロンディフ・感嘆文・中性代名詞)
14. 【招待】(条件法)
15. 【ヴァカンスの終わり】(接続法)

授業の方法

数字や時間の読みと聞き取り、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法練習問題やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語 5 ~ 6 で学習したことを復習しておくこと。常日頃からフランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたすことになりかねないので留意すること。

テキスト

bis Amicalement 駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語 7 と 8 は同時に履修するのが望ましい。やむを得ない場合は、授業の進行に合わせて各自の補習が必要である。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 1			11665		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

国際化社会になり、中国語は益々重要になっているので、中国語ができることはいろんな面において役に立つと考えられる。本授業では、まず、発音から始まり、次に重要な語彙の使い方や語順を説明し、さらにこれらを実用的に使えるように多くの短文を読み書きしていく。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養います。

授業の概要

基礎を確実に習得できるよう、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順をゆっくり指導し、各単元で習ったことを身につけるために問題練習をさせる。

授業計画

1. 発音、子音と母音(それぞれの発音をしっかり練習する)
2. 発音、音節(子音と母音、さらに声調を付け加えた発音の練習)
3. 日常よく使われる挨拶と数字(ピンインから発音の仕方を覚える練習)
4. 第一課 こんにちは! 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
5. 第二課 お名前は。単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
6. 第三課 郵便局 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
7. 第四課 おはよう! 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
8. 第五課 お元気ですか。単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
9. 第六課 ご家族は何人ですか。単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
10. 第七課 いくらですか。単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
11. 第八課 おいくつですか。単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
12. 第九課 アルバイト 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
13. 第十課 マンガ 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする

- をする
 14. 第十一課 両替 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
 15. 総復習

授業の方法

新出単語はピンインから発音の仕方を確認したうえで発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法、語順を説明し訳をする他に、その応用と会話の練習もする。

準備学修

習った単元の単語や会話の文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語と会話の文をノートに写しておいて読むこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

授業中は、発音の仕方に注意を傾け、声を出して練習する。私語は慎んでほしい。授業以外でも、各自テープなどを繰り返し聴き、重要な語彙・文章などを暗記するように心がけてほしい。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 1			11665		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

国際化社会になり、中国語は益々重要になっているので、中国語ができることはいろんな面において役に立つと考えられる。本授業では、まず、発音から始まり、次に重要な語彙の使い方や語順を説明し、さらにこれらを実用的に使えるように多くの短文を読み書きしていく。

授業の概要

基礎を確実に習得できるよう、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順をゆっくり指導し、各単元で習ったことを身につけるために問題練習をさせる。

授業計画

1. 発音、子音と母音(それぞれの発音をしっかり練習する)
2. 発音、音節(子音と母音、さらに声調を付け加えた発音練習)
3. 日常よく使う挨拶と数字(ピンインから発音の仕方を覚える練習)
4. 第一課 こんにちは! 単語や会話と文法を説明した上、会話の練習をする
5. 第二課 お名前は。単語や会話と文法を説明した上、会話の練習をする
6. 第三課 郵便局 単語や会話と文法を説明した上、会話の練習をする
7. 第四課 おはようございます! 単語や会話と文法を説明した上、会話の練習をする
8. 第五課 お元気ですか。単語や会話と文法を説明した上、会話の練習をする
9. 第六課 ご家族は何人ですか。単語や会話と文法を説明した上、会話の練習をする
10. 第七課 いくらですか。単語や会話と文法を説明した上、会話の練習をする
11. 第八課 おいくつですか。単語や会話と文法を説明した上、会話の練習をする
12. 第九課 アルバイト 単語や会話と文法を説明した上、会話の練習をする
13. 第十課 マンガ 単語や会話と文法を説明した上、会話の練習をする

14. 第十一課 両替 単語や会話と文法を説明した上、会話の練習をする
 15. 総復習

授業の方法

新出単語はピンインから発音の仕方を確認した上で発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法、語順を説明し訳する他に、その応用と会話の練習もする。

準備学修

習った単元の単語や会話の文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語と会話の文をノートに写しておいて読むこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

授業中は、発音の仕方に注意を傾け、声を出して練習する。しかし、私語は慎んでほしい。授業以外でも、各自テープなどを繰り返し聴いて、重要な文章・語彙などを暗記するように心がけてほしい。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 2	/		11669		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

今日、中国は最も目覚ましい発展を遂げている国の一つである。中国語を話すことができれば、自分の可能性が広がると考えられる。本授業では、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深めながら、初歩的なコミュニケーションができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

まず発音から始まり、次に単元ごとに重要な語彙の使い方や語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。さらに実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループなどで発表を行う。

授業計画

1. 導入・発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 1. 自己紹介
6. 1. 自己紹介
7. 1. 自己紹介
8. 2. これは何ですか？
9. 2. これは何ですか？
10. 2. これは何ですか？
11. 3. これはいかがですか？
12. 3. これはいかがですか？
13. 3. これはいかがですか？
14. 4. 買い物
15. 4. 買い物

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

塚本慶一監修 劉穎著 『1年生のコミュニケーション中国語』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 3	/		11673		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

本授業は、「中国語1」において基礎を学んだ者が、実用的な文章の読解力を磨き、それを会話や作文に応用できる能力を養うことを目的とする。そのため、中国語の文の構造や表現の仕方を正しく理解し、できるだけそれを丸暗記した上で、実際に話したり書いたりする練習を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養います。

授業の概要

本授業でも、重要な語彙の発音をよく練習したうえで、使い方や語順を説明し、実用的な短文を丸暗記することを求める。それによって、授業中、友達同士や先生との会話の練習ができ、充実した授業を行うことができる。

授業計画

1. 第十二課 風邪 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
2. 第十三課 眠くなった。単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
3. 第十四課 万里の長城 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
4. 第十五課 誕生日 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
5. 第十六課 料理作り 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
6. 第十七課 趣味 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
7. 第十八課 電話を掛ける。単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
8. 第十九課 料理の注文 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
9. 第二十課 携帯電話 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
10. 第二十一課 タクシー 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
11. 第二十二課 展覧会 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする

12. 第二十三課 サッカー試合 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
13. 第二十四課 トレーニングジム 単語や会話と文法の説明をした上、会話の練習をする
14. 第二十五課 グッドニュース
15. 総復習

授業の方法

新出単語はピンインから発音の仕方を確認したうえで発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法、語順を説明し訳する他に、その応用と会話の練習もする。

準備学修

習った単元の単語と会話の文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語と会話の文をノートに写しておいて読んでみること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

- 1) 常にテープを聴き、文章を読むこと。
- 2) 会話をする機会を逃さず、積極的に話してみようところがけること。
- 3) 分からないところがあったら、すぐに辞書で調べる習慣を身につけること。
- 4) 私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 4			11677		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

本授業は「中国語2」に続き、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深めながら、初歩的なコミュニケーションができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

単元ごとに、発音の仕方や重要な語彙の使い方、語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。その上、実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループなどで発表を行う。

授業計画

1. 復習・5 .どこにありますか？
2. 5 .どこにありますか？
3. 5 .どこにありますか？
4. 6 .何がありますか？
5. 6 .何がありますか？
6. 6 .何がありますか？
7. 7 .何時に行きますか？
8. 7 .何時に行きますか？
9. 7 .何時に行きますか？
10. 8 .ホテルにチェックイン
11. 8 .ホテルにチェックイン
12. 8 .ホテルにチェックイン
13. 9 .タクシーに乗る
14. 9 .タクシーに乗る
15. 9 .タクシーに乗る

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

塚本慶一監修 劉穎著『1年生のコミュニケーション中国語』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 5			11681		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

今まで培った基礎力をさらに高めることを目標とする。そのために、文章を丁寧に読み、正しく書けるように鍛える。また、常にリスニング練習をし、問答により話す習慣を身につけるようにさせる。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養います。

授業の概要

授業前に予習してもらおう。授業後熟読した上、同じテーマについての自分の実際の状況で会話の文章を書く練習させる。添削された会話を発表してもらおう。このように同じテーマでも異なった内容のものをいくつも聞くことができ、話すこともできる。会話に求められる聞く力と話す力を養う。

授業計画

1. 第一課 再会
2. 第二課 入学手続き
3. 第三課 リスニングの授業
4. 第四課 朝市
5. 第五課 動物園
6. 第六課 中秋の名月
7. 第七課 建国記念日
8. 第八課 京劇の鑑賞
9. 第九課 本の貸し出し
10. 第十課 助け合い
11. 第十一課 ホテル探し
12. 第十二課 端午の節句
13. 第十三課 日の出
14. 第十四課 ボランティア
15. 復習

授業の方法

新出単語の発音を読めるかどうかを確認した後、その意味と使い方を説明する。文についての文法などを説明した後、正しく訳せるかどうかを確認し会話を練習する。

準備学修

習った単元の単語と文を覚えることと、これから習う新しい単元の単語の意味を辞書で調べ、全文を読んでみる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

いつも予習と復習をすること。
積極的に授業に参加し、聞ける、話せるように努力すること。
分からない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。
私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 6			11685		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標
 一年生で学んだ中国語の基礎力をさらにレベルアップし、より実践的なコミュニケーションができるようにトレーニングを行う。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
 テーマごとに重要な語彙の発音をよく練習し、使い方や語順を説明する。そのうえ、新しい表現を徐々に加え、口や耳を使って繰り返し練習することによって、コミュニケーションが一層スムーズにできるようにする。さらに、学習したものの実用化を目指すために、ペアやグループなどで発表を行う。

授業計画

1. 導入・復習
2. 1 中国に行こう！
3. 1 中国に行こう！
4. 1 中国に行こう！
5. 2 ジャスミン茶を飲もう！
6. 2 ジャスミン茶を飲もう！
7. 2 ジャスミン茶を飲もう！
8. 3 友だちをつくろう！
9. 3 友だちをつくろう！
10. 3 友だちをつくろう！
11. 4 長城に登ろう！
12. 4 長城に登ろう！
13. 4 長城に登ろう！
14. 5 卓球を楽しもう！
15. 5 卓球を楽しもう！

授業の方法
 講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修
 教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 校則に従う。

テキスト
 尹景春・竹島毅著『中国語つぎへの一步』 白水社

参考図書
 授業中に指示する。

留意事項
 授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 7			11689		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標
 自信を持ってもっと読める、書ける、聞ける、そして話せるようになることを目標とする。そのために、授業中により多くの中国語を使い、聞いて分かるように、さらに答えられるように鍛える。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養います。

授業の概要
 内容に基づいてもっと多くの質問をし答えってもらうように、聞くことと話すことの練習をさせる。また、書いた作文を添削してもらった後、丸暗記して発表してもらう。他に多くの練習問題をし翻訳の力を養う。

授業計画

1. 第十五課 運動会
2. 第十六課 孔子寺へ
3. 第十七課 スピーチコンテスト
4. 第十八課 農家を訪問する
5. 第十九課 試験
6. 第二十課 コートをかう
7. 第二十一課 懇親会
8. 第二十二課 道を尋ねる
9. 第二十三課 名勝地
10. 第二十四課 兵馬俑
11. 第二十五課 仕事探し
12. 第二十六課 カラオケ
13. 第二十七課 お祝い
14. 第二十八課 見送り
15. 総復習

授業の方法
 新出単語の発音を読めるかどうかを確認した後、その意味と使い方を説明する。文についての文法などを説明した後、正しく訳せるかどうかを確認し会話を練習する。

準備学修
 習った単元の単語と文を覚えることと、これから習う新しい単元の単語の意味を辞書で調べ、全文を読んでみる。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 校則に従う。

テキスト
 必要な場合、授業時に指示する。

参考図書
 必要な場合、授業時に指示する。

留意事項
 いつも予習と復習をすること。
 積極的に授業に参加し、もっともっと聞ける、話せるように努力すること。
 分からない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。
 私語に慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 8		11693		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
沈 竑	選択	1			

授業の到達目標

一年生で学んだ中国語の基礎力をさらにレベルアップし、より実践的なコミュニケーションができるようにトレーニングを行う。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

テーマごとに重要な語彙の発音をよく練習し、使い方や語順を説明する。そのうえ、新しい表現を徐々に加え、口や耳を使って繰り返し練習することによって、コミュニケーションが一層スムーズにできるようにする。さらに、学習したものの実用化を目指すために、ペアやグループなどで発表を行う。

授業計画

1. 復習
2. 6 漢字を覚えよう！
3. 6 漢字を覚えよう！
4. 6 漢字を覚えよう！
5. 7 街を歩こう！
6. 7 街を歩こう！
7. 7 街を歩こう！
8. 8 中国映画を見よう！
9. 8 中国映画を見よう！
10. 8 中国映画を見よう！
11. 9 チャイナドレスを買おう！
12. 9 チャイナドレスを買おう！
13. 9 チャイナドレスを買おう！
14. 10 中華を食べよう！
15. 10 中華を食べよう！

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

尹景春・竹島毅著『中国語つぎへの一歩』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

現代人間学部 英語観光学科・英語キャリア学科

専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	a	13101		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
小野 礼子	必修	2			

授業の到達目標

ことばに対する理解を深め、様々な言語や言語変種、そして、それを使う人々に対する正しい態度を養う。このクラスでは、KAISEI パーソナリティのA(自律)、I(知性)、及びIn(国際性)を養う。

授業の概要

社会言語学の演習である。多言語社会における言語の選択と言語変異について学ぶ。ダイグロシヤ(二言語変種使い分け)、コード・スイッチング、標準変種と非標準変種、ビジンとクレオール等のテーマを取り上げる。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、全員でディスカッションを行う。

授業計画

1. Introduction
2. Language choice in multilingual communities (1)
3. Language choice in multilingual communities (2)
4. Language choice in multilingual communities (3)
5. Language choice in multilingual communities (4)
6. Language choice in multilingual communities (5)
7. Language choice in multilingual communities (6)
8. レポート・論文の書き方
9. Linguistic varieties and multilingual nations (1)
10. Linguistic varieties and multilingual nations (2)
11. Linguistic varieties and multilingual nations (3)
12. Linguistic varieties and multilingual nations (4)
13. Linguistic varieties and multilingual nations (5)
14. Linguistic varieties and multilingual nations (6)
15. 個人研究発表

授業の方法

口頭発表とディスカッションを中心とする。

準備学修

テキストについては、次回発表者が担当する箇所を全員読んでおく

こと。また、参考図書については、該当箇所をあらかじめ伝えるので、それも読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

Janet Holmes. *An Introduction to Sociolinguistics*. Fourth edition. (Routledge)

参考図書

東照二著『社会言語学入門(改訂版) 生きた言葉のおもしろさに迫る』(研究社)
 田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待 社会・文化・コミュニケーション』(ミネルヴァ書房)
 リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』(南雲堂)

留意事項

・平常点には、口頭発表、出席状況、日頃の学習態度等の評価が含まれる。
 ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	b	13101		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石原 敬子	必修	2			

授業の到達目標

音声学の基礎を理解する/英語の音素体系について理解する/テーマに基づいて調査したことをまとめて発表する
 このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。

授業の概要

演習Iでは、声を出すしくみや発音をコントロールする聴音器官など音声学の基本的な事項を理論的・実践的に学び、その知識を基に英語と日本語に見られるさまざまな音声現象を観察・分析する。さらに第二言語として英語を学習する際に、母語である日本語の音声体系がどのように弊害となり得るかを考察する。あわせて、ことばに関連するテーマについて各自が調査した結果をまとめ、発表・ディスカッションをする。

授業計画

1. 音声・調音器官
2. 五十音図
3. 英語の子音 1)
4. 英語の子音 2)
5. 発表とディスカッション 1)
6. 発表とディスカッション 2)
7. 英語の子音 3)
8. 復習
9. 綴りと発音
10. 英語の母音 1)
11. 英語の母音 2)
12. 英語の母音 3)
13. 発表とディスカッション 1)
14. 発表とディスカッション 2)
15. まとめ

授業の方法

講義とディスカッション形式で行う

準備学修

日本語話者の英語の特徴について観察する/毎週音読の宿題と小テストを課す/「ことばノート」に継続的に記入する(詳細は授業で説明する)

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること(isihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認すること。3) 欠席日の提出物は、1)の連絡の上で当該週中に提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト

服部範子著、『入門英語音声学』(研究社)
 神崎正哉著、『新TOEIC®TEST 出る順で学ぶボキャブラリー990』(講談社)

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

教員連絡先

isihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	c	13101		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
有村 理	必修	2			

授業の到達目標

このゼミでは「オープンスカイ政策の中で今日の航空業界を研究する」をメインテーマに置く。3年次ではゼミ全体の目標として全員で海外ツアーを企画立案する。具体的には毎年12月に募集がある関空発の航空機を使い「学生が企画するツアー」の募集コンテストに応募できるような企画造りを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

航空産業全般と現代のツーリズムの現状を調べる。その一環としてKIX発の代表的な航空会社や成長著しいLCCを研究し、チームに分かれて方面別に海外ツアー企画を立案しチーム発表を行う。このプロセスの中で航空会社の比較、ツアー企画に何が求められるのかを考え、4年次の各自の課題テーマを見つける基本を養う。同時にプレゼンテーション・発表演習に力点を置く。ツアー企画立案の参考になる場合はフィールドワークも取り入れる。

授業計画

1. ガイダンス。
2. ツーリズムの現状を把握する
3. 世界の航空業界の現状を調べる
4. 日本発着の航空会社を調べる
5. 関空発着の航空会社を調べる
6. LCCについて調べる
7. チームで方面別のツアー企画の情報を収集する
8. チームで方面別のツアー企画の情報を収集する
9. フィールドワーク
10. チームで方面別のツアー企画の情報をまとめる
11. チームでツアー企画プレゼン作成
12. チームでツアー企画プレゼン作成
13. 各チームのツアー企画プレゼン・講評と修正点の発見
14. 各チームのツアー企画プレゼン・講評と修正点の発見
15. まとめと夏休みの課題

授業の方法

チームで航空会社と方面別の海外ツアーの現状を調べ、独自のツ

アー企画立案を考える。チームで発表演習・質疑応答を中心にする。

準備学修

日本と世界の航空業界・航空会社・海外旅行の現状について関連の旅行会社のパンフレットや参考文献を読み、旅行業界のニュースにも常時注目しておく。図書館で日本経済新聞に目を通す。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は1回5点の減点。発表担当日は正当な理由のない欠席は認めない。その他は大学の学則に従う。

テキスト

適宜指示する。

参考図書

『図解これからの航空ビジネス早分かり』戸崎 肇（2010）中経出版
『航空産業入門』（株）ANA総合研究所編（2012）東洋経済新報社

留意事項

発表当日は必ず出席の事。ゼミではチームワーク、自発性、積極性、協調性などが重要事項になり、担当日の発表とそれに対する参加者の意見発表などを評価する。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	d	13101		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
一尾 敏正	必修	2			

授業の到達目標

ホスピタリティ産業（宿泊業・飲食業・プライダル事業・その他）における過去、現在そして未来を考察していく。「疑問に思う」「調べる」「考える」「伝える」=問題解決能力、調査能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上を目的とし、総合力を高める。このクラスはKAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養います。

授業の概要

演習は各自がテーマを設けることから始まります。ゼミ生は積極的に課題に取り組無ことが求められます。演習での発表とディスカッションで自らのテーマを深く研究します。また、合同でのフィールドワークを取り入れチームワーク力を養います。その他、毎回社説、コラムを取り上げ意見は発表を実施します。

授業計画

1. ガイダンス…自己紹介
2. テーマの設定
3. テーマの設定
4. 発表と質疑応答
5. 発表と質疑応答
6. 発表と質疑応答
7. 発表と質疑応答
8. 発表と質疑応答
9. 発表と質疑応答
10. フィールドワーク
11. フィールドワーク
12. 発表と質疑応答
13. 発表と質疑応答
14. 発表と質疑応答
15. まとめ

授業の方法

グループでの発表を中心に行います。ディスカッションを取り入れるので、積極的な参加が求められます。

準備学修

事前学習として新聞の社説を要約しレポートすること。新聞を読むこと。取り組む課題毎に参考図書を紹介するので読むこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席者は必ず連絡をすること。

テキスト

なし

参考図書

適宜紹介

留意事項

事前学習のレポートは評価対象です。未提出は大きく減点します。必ず提出すること。次にパワーポイントで発表ができること。土日にフィールドワークを行うことがあるので参加必修です。また、国内外フィールドワークも検討しています。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	a	13105		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
小野 礼子	必修	2			

授業の到達目標
 ことばに対する理解を深め、様々な言語や言語変種、そして、それらを使う人々に対する正しい態度を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)、I(知性)、及びIn(国際性)を養う。

授業の概要
 単一言語社会における言語変異について焦点をあてる。地域方言と社会方言、ことばと性差・年齢差等のテーマを取り上げる。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、全員でディスカッションを行う。また、演習IIの最後に、各々の研究について発表を行う。

授業計画

1. Introduction
2. Regional and social dialects (1)
3. Regional and social dialects (2)
4. Regional and social dialects (3)
5. Regional and social dialects (4)
6. Regional and social dialects (5)
7. Regional and social dialects (6)
8. Gender and age (1)
9. Gender and age (2)
10. Gender and age (3)
11. Gender and age (4)
12. Gender and age (5)
13. Gender and age (6)
14. まとめ
15. 個人研究発表

授業の方法
 発表とディスカッションを中心とする。

準備学修
 テキストについては、次回発表者が担当する箇所を全員読んでおくこと。また、参考図書については、該当箇所をあらかじめ伝えるの

で、それも読んでおくこと。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト
 Janet Holmes. *An Introduction to Sociolinguistics*. Fourth edition. (Routledge)

参考図書
 東照二著『社会言語学入門(改訂版) 生きた言葉のおもしろさに迫る』(研究社)
 田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待 社会・文化・コミュニケーション』(ミネルヴァ書房)
 リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』(南雲堂)

留意事項
 ・平常点には、口頭発表、研究発表、出席状況、日頃の学習態度等の評価が含まれる。
 ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先
 onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	b	13105		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石原 敬子	必修	2			

授業の到達目標
 音声学の基礎知識を基に英語音声进行分析する/英語の韻律(イントネーション)の特徴を理解し実践する/テーマに基づいて調査したことをまとめて発表する
 このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。

授業の概要
 演習Iに引き続き、英語と日本語の音声を対象とした研究を行うと同時に、各自が研究したことについてレポートにまとめる方法を学ぶ。発表や討論を通して自分で考え、それを自分のことばで表現する力を伸ばしてほしい。また自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、テキスト、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をし、レポートにまとめる方法を学ぶ。

授業計画

1. 発表とディスカッション 1)
2. 発表とディスカッション 2)
3. 韻律 1) 核
4. 韻律 2) 核の位置
5. 韻律 3) 核の動き
6. 韻律 4) まとめ
7. 発表とディスカッション 1)
8. 発表とディスカッション 2)
9. 日本語話者の英語 1)
10. 日本語話者の英語 2)
11. 日本語話者の英語 3)
12. 日本語話者の英語 4)
13. 日本語話者の英語 5)
14. まとめ 1)
15. まとめ 2)

授業の方法
 講義とディスカッション形式で行う

準備学修
 日本語話者の英語の特徴について観察する/毎週音読の宿題と小テストを課す/「ことばノート」に継続的に記入する

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物は、1)の連絡の上で当該週中に提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト
 服部範子著、『入門英語音声学』(研究社)
 神崎正哉著、『新TOEIC®TEST 出る順で学ぶボキャブラリー990』(講談社)

参考図書
 必要に応じて指示する。

留意事項
 授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

教員連絡先
 isihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	c	13105		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
有村 理	必修	2			

授業の到達目標

基本的には演習をベースにして演習では各チームのツアー企画を完成させる。このプロセスと同時に特に自分が興味を持った航空業界、ホスピタリティ産業や異文化理解の中で各自の4年次の卒業研究のテーマ設定に向けての方向性を見つけていく。プレゼン発表時はコミュニケーション能力とプレゼンテーション技術の向上も図る。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

各チームでのツアー企画を完成させる。そのプロセスと同時に航空業界、ホスピタリティ産業、異文化理解を中心に各自の興味のあるテーマの方向性を確立していく。演習発表では特にコミュニケーション能力とプレゼンテーション技術の向上を目指し、同時に発表者のテーマについても質疑応答ができるように各自の積極的な討議参加が求められる。なお演習の一環として都合が付く限り空港などの学外調査・見学なども実施する予定である。(学外調査・見学は土曜日・日曜日になることもある)。

授業計画

1. ガイダンス。
2. 各チームのツアー企画の完成・発表
3. 各チームのツアー企画の完成・発表
4. 各自の研究テーマの方向性について
5. 参考文献収集と情報収集について
6. 各自のテーマ課題演習と質疑応答
7. 各自のテーマ課題演習と質疑応答
8. 各自のテーマ課題演習と質疑応答
9. 各自のテーマ課題演習と質疑応答
10. フィールドワーク
11. フィールドワーク
12. 各チームのツアー企画の最終応募準備
13. 各チームのツアー企画の最終応募準備
14. 各自の研究テーマの調整と絞り込み
15. まとめ

授業の方法

各自の研究計画のアウトラインを設定しテーマ課題演習の発表と質疑応答を中心にする。

準備学修

日本と世界の航空業界・ツーリズム産業・ホスピタリティ産業・異文化理解の参考文献を各自で事前に読む。旅行業界のニュースに常時注目しておく。図書館で日本経済新聞に目を通す。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は1回5点の減点。発表担当日は正当な理由のない欠席は認めない。その他は大学の学則に従う。

テキスト

特に指定しない。各自の研究テーマに沿って適宜紹介する。

参考図書

『航空とホスピタリティ』山路 顕 編著(株)ANA総合研究所(2013)NTT出版
『航空グローバル化と空港ビジネス』野村宗訓・切通堅太郎(2010)同文館出版

留意事項

発表担当日は必ず出席の事。ゼミでは自主性・積極性・協調性を重視し、各自のテーマ発表内容とそれに対する質疑などを評価する。円滑なゼミ運営に協力する態度が望まれる。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	d	13105		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
一尾 敏正	必修	2			

授業の到達目標

ホスピタリティ産業(宿泊業・飲食業・プライダル事業・その他)における過去、現在そして未来を考察していく。「疑問に思う」「調べる」「考える」「伝える」=問題解決能力、調査能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上を目的とし、総合力を高める。このクラスはKAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養います。

授業の概要

演習は各自がテーマを設けることから始まります。ゼミ生は積極的に課題に取り組無ことが求められます。演習での発表とディスカッションで自らのテーマを深く研究します。また、合同でのフィールドワークを取り入れチームワーク力を養います。その他、毎回社説、コラムを取り上げ意見は発表を実施します。

授業計画

1. ガイダンス…演習(春学期)の総括と演習の取り組みについて
2. 個人研究の発表・討論・講評
3. 個人研究の発表・討論・講評
4. 個人研究の発表・討論・講評
5. 個人研究の発表・討論・講評
6. 個人研究の発表・討論・講評
7. 個人研究の発表・討論・講評
8. 個人研究の発表・討論・講評
9. 個人研究の発表・討論・講評
10. フィールドワーク
11. フィールドワーク
12. 個人研究の発表・討論・講評
13. 個人研究の発表・討論・講評
14. 個人研究の発表・討論・講評
15. まとめ

授業の方法

パワーポイントにて発表すること。土日にフィールドワークを行うことがあります。また、国内外へフィールドワークも検討しています。

準備学修

事前学習として課題に取り組みます。レポートにして指定期日まで提出すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席者は必ず連絡すること

テキスト

なし

参考図書

適宜紹介

留意事項

ゼミでのイベントなどは参加が必須です。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	a		13109		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標
日本語音声と英語音声の特徴を学ぶ/日本語話者の英語音声の特徴について研究し、レポートにまとめる/各自の卒業研究のテーマに沿った調査を進める
このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。

授業の概要
演習I、IIに引き続き、英語音声について日本語音声と比較しながら研究する。またテキスト、文献等の調査から得られた情報を基に、日本語話者と英語話者の英語発音の違いについて考察をし、レポートにまとめる。さらに卒業研究執筆に向けて各自のテーマに沿った文献調査やデータ収集をする。

授業計画

1. 発声 1)
2. 発声 2)
3. 英語と日本語の子音 1)
4. 英語と日本語の子音 2)
5. 英語と日本語の子音 3)
6. 英語と日本語の子音 4)
7. 英語と日本語の子音 5)
8. 発表 1)
9. 発表 2)
10. 英語と日本語の母音 1)
11. 英語と日本語の母音 2)
12. 英語と日本語の母音 3)
13. 英語と日本語の母音 4)
14. まとめ 1)
15. まとめ 2)

授業の方法
講義とディスカッションを中心とする。

準備学修
日本語話者の英語の特徴について観察する/毎週音読の宿題と小テ

ストを課す

課題・評価方法
平常点70%、定期試験30%

欠席について
1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物は、1)の連絡の上で当該週中に提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト
神山孝夫著、『脱・日本語なまり』(大阪大学出版会)
テッド寺倉・上原ちとせ著、『TOEICテストやたらと出る英単語クイズマスター』(アルク)。

参考図書
必要に応じて指示する。

留意事項
授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先
ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	b		13109		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標
ことばに対する理解を深め、様々な言語や言語変種、そして、それらを使う人々に対する正しい態度を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)、I(知性)、及びIn(国際性)を養う。

授業の概要
社会言語学のテーマを扱う。ことばの機能とポライトネス、女性のことば、男女の会話スタイルについて学ぶ。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、討論を行う。また、演習IIIの最後に、各々の卒業研究について発表を行う。

授業計画

1. Introduction
2. Speech functions and politeness (1)
3. Speech functions and politeness (2)
4. Speech functions and politeness (3)
5. Speech functions and politeness (4)
6. Speech functions and politeness (5)
7. Speech functions and politeness (6)
8. 卒業研究について
9. Gender, politeness and stereotypes (1)
10. Gender, politeness and stereotypes (2)
11. Gender, politeness and stereotypes (3)
12. Gender, politeness and stereotypes (4)
13. Gender, politeness and stereotypes (5)
14. Gender, politeness and stereotypes (6)
15. 個人研究発表

授業の方法
発表とディスカッションを中心とする。

準備学修
テキストについては、次回発表者が担当する箇所を全員読んでおくこと。また、参考図書については、該当箇所をあらかじめ伝えるので、それも読んでおくこと。

課題・評価方法
平常点70%、定期試験30%

欠席について
出席点(100点満点)は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト
Janet Holmes. *An Introduction to Sociolinguistics*. Fourth edition. (Routledge)

参考図書
東昭二著『社会言語学入門(改訂版) 生きた言葉のおもしろさに迫る』(研究社)
田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待 社会・文化・コミュニケーション』(ミネルヴァ書房)
リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』(南雲堂)

留意事項
・平常点には、口頭発表、研究発表、出席状況、日頃の学習態度等の評価が含まれる。
・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先
onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	c		13109		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

7月中旬の卒業研究計画書提出に向けて各自のテーマを決定し、文献、資料収集、調査などを毎回積み重ねながら、各自の最終の方向性を確立することを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

7月中旬までに各自の研究テーマと研究計画を最終決定する。それまでに必要な参考文献、資料の調査、収集を図りながら卒業研究スケジュールの全体行程を作成する。その間、各自の研究テーマの方向性を経過発表で確認し、同時に課題も発見しながら最終的な方向性を確立していく。

授業計画

1. ガイダンス
2. 研究テーマを探す
3. 参考文献と資料の収集
4. 研究テーマの設定
5. 各自の研究テーマ・研究方法の討議・行程表の作成
6. 各自の研究テーマについて方向性の確認と課題の発見
7. 各自の研究テーマについて方向性の確認と課題の発見
8. 各自の研究テーマについて方向性の確認と課題の発見
9. 各自の研究テーマについて方向性の確認と課題の発見
10. 各自の研究テーマの筋書き内容・組み立ての発表と講評
11. 各自の研究テーマの筋書き内容・組み立ての発表と講評
12. 各自の研究テーマの筋書き内容・組み立ての発表と講評
13. 各自の卒業研究計画書の提出と質疑応答
14. 卒業研究の書き方と参考文献の確認
15. 夏期休業中における研究テーマの準備について

授業の方法

各自の研究テーマについての進捗発表・プロセスの確認と質疑応答を中心にします。

準備学修

各自の研究テーマの参考文献と先行事例・資料・新聞記事などを精

読する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

無断欠席は1回につき5点減点する。その他は学則に準じる。

テキスト

特になし。

参考図書

各自の研究テーマに沿って適宜指示、推薦する。

留意事項

主体的に各自が研究テーマを早期に設定し、参考文献と資料の収集を早め始める事。
卒業研究計画書提出後はテーマの変更は不可。夏期休業中に出来るだけ参考文献を精読する事が大切である。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	d		13109		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個々のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは観光とマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に概要がまとめられることを到達目標としていく。このクラスはKAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養います。

授業の概要

卒業研究を前提に個々のテーマに取り組む。個々に進捗状況を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

1. 研究の進め方
2. 研究テーマについて発表
3. 卒業研究の書き方
4. 卒業研究の書き方
5. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
6. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
7. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
8. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
9. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
10. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
11. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
12. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
13. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
14. 研究テーマ内容の発表とディスカッション
15. まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを中心に行います。

準備学修

テーマ毎に参考図書を紹介するので読んでレポートすること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席の場合は連絡をいれること。

留意事項

連絡のない欠席は授業妨害となります。必ず連絡と発表する日は交代を依頼すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	a		13113		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

日本語音声と英語音声の特徴を学ぶ/日本語音声または英語音声の特徴について研究し発表する/各自の卒業研究のテーマに沿った調査を進める
このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。

授業の概要

英語音声について日本語音声と比較しながら研究する。またテキスト、文献等の調査から得られた情報を基に、日本語話者と英語話者の英語発音の違いについて考察をし、レポートにまとめる。さらに卒業研究執筆に向けて各自のテーマに沿った文献調査やデータ収集を進めながら、発表および討論を通して、自分で考え、それを自分のことばで表現する練習をする。

授業計画

1. 英語と日本語の音素 まとめ1)
2. 英語と日本語の音素 まとめ2)
3. 音の変化 1)
4. 音の変化 2)
5. 音の変化 3)
6. アクセントと韻律 1)
7. アクセントと韻律 2)
8. アクセントと韻律 3)
9. 復習 1)
10. 復習 2)
11. 卒業研究に関する発表 1)
12. 卒業研究に関する発表 2)
13. まとめ
14. 卒業研究口頭試問 1)
15. 卒業研究口頭試問 2)

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学修

日本語話者、英語話者の発音を客観的に観察する/毎週音読の宿題と小テストを課す

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物は、1) の連絡の上で当該週中に提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト

神山孝夫著、『脱・日本語なまり』(大阪大学出版会)
テッド寺倉・上原ちとせ著、『TOEICテストやたらと出る英単語クイックマスター』(アルク)

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	b		13113		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばに対する関心を高め、様々な言語や言語変種、そして、それらを使う人々に対する正しい態度を育てるとともに、学問への探究心を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)、I(知性)、及びIn(国際性)を養う。

授業の概要

社会言語学のテーマを扱う。会話の原則とポライトネス、会話分析、言語態度等について学ぶ。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、ディスカッションを行う。また、各々の卒業研究についての発表も行う。

授業計画

1. Introduction
2. Analysing discourse (1)
3. Analysing discourse (2)
4. Analysing discourse (3)
5. Analysing discourse (4)
6. Analysing discourse (5)
7. Analysing discourse (6)
8. Attitudes and applications (1)
9. Attitudes and applications (2)
10. Attitudes and applications (3)
11. Attitudes and applications (4)
12. Attitudes and applications (5)
13. Attitudes and applications (6)
14. 研究発表(1)
15. 研究発表(2)

授業の方法

発表とディスカッションを中心とする。

準備学修

テキストについては、次回発表者が担当する箇所を全員読んでおくこと。また、参考図書については、該当箇所をあらかじめ伝えるので、それも読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

Janet Holmes. *An Introduction to Sociolinguistics*. Fourth edition. (Routledge)

参考図書

東昭二著『社会言語学入門(改訂版) 生きた言葉のおもしろさに迫る』(研究社)
田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待 社会・文化・コミュニケーション』(ミネルヴァ書房)
リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』(南雲堂)

留意事項

・平常点には、口頭発表、研究発表、出席状況、日頃の学習態度等の評価が含まれる。
・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	c		13113		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究論文指導の中で航空業界、ホスピタリティ産業、異文化理解などの中からテーマを決め、そのテーマの現状と課題について各自が調査研究し、問題解決に対する自分の考えを明らかにし、卒業研究論文を仕上げる事を目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）を養う。

授業の概要

各自の行程表にそって卒業研究を完成させるように指導する。各自が研究テーマの調査研究の経過発表をしながらゼミ生相互に情報を共有する。また講評と質疑応答の中からテーマに対するアプローチの方法などをお互いに学び取る。途中で各自の卒業研究の中間発表を行い構成内容と最終の方向性を確認するが、主体的に卒業研究の完成に取り組んでいくことが重要である。

授業計画

1. ガイダンス
2. 各自の研究テーマの内容発表と方向性の確認・質疑応答
3. 各自の研究テーマの内容発表と方向性の確認・質疑応答
4. 各自の研究テーマの内容発表と方向性の確認・質疑応答
5. 各自の研究テーマの内容発表と方向性の確認・質疑応答
6. 各自の研究テーマの内容発表と方向性の確認・質疑応答
7. 各自の研究テーマの内容発表と方向性の確認・質疑応答
8. 各自の研究テーマの中間発表
9. 各自の研究テーマの中間発表
10. 各自の研究テーマの方向性の最終確認・質疑応答
11. 卒業研究のゼミ内暫定提出
12. 卒業研究の修正箇所確認
13. 卒業研究の最終修正
14. 卒業研究の口頭試問
15. 卒業研究の口頭試問

授業の方法

各自の卒研テーマの進捗状況の発表と講評を中心にする。

準備学修

自分の研究テーマの発表時は各自でレジュメを用意する。発表後の質疑応答での方向性の確認と修正がある場合は次回の発表までに本文に反映させる事。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

無断欠席は一回につき5点減点する。その他は学則に準じる。

テキスト

特になし。

参考図書

各自のテーマに沿って適宜指示、推薦する。

留意事項

主体的に卒業研究テーマの完成に取り組む事。参考文献と資料は早めに準備し内容を精読していく事。各自の発表担当日の欠席は不可。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	d		13113		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは観光とマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に具体的にまとめられることを到達目標としていく。このクラスはKAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養います。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個々に進捗状況を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

1. ガイダンスとスケジュールの決定
2. 卒業研究・・・参考文献、引用文献の取り扱い
3. 個人研究発表
4. 個人研究発表
5. 個人研究発表
6. 個人研究発表
7. 個人研究発表
8. 個人研究発表
9. 個人研究発表
10. 個人研究発表
11. 個人研究発表
12. 個人研究発表
13. 個人研究発表
14. 個人研究発表
15. まとめ

授業の方法

個人発表とディカッションを中心に行います。

準備学修

各自のテーマに合わせた参考図書を紹介し、読んでレポートすること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は事前連絡をすること。

参考図書

随時紹介

留意事項

発表者が特別な理由により欠席の場合は他のゼミ生に発表をかわってもらうこと。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication	a	13201		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Tina D. MATHERS	必修	1			

授業の到達目標

At the end of this course, students will be able to communicate in English at an elementary proficiency level. Students will be able to introduce themselves, talk about nationalities, friends and daily routines.

授業の概要

Students will be able to talk freely with their peers through the aid of a textbook and supplemental materials provided by the instructor. Students will participate in group and pair work and will be expected to perform monthly presentations using the language skills they learn each week. To this end, students will have ample opportunity to use their language skills to communicate as often as possible in class.

授業計画

1. Unit 1
2. Unit 1
3. Unit 1
4. Unit 2
5. Unit 2
6. Unit 2
7. Unit 3
8. Unit 3
9. Unit 3
10. Unit 4
11. Unit 4
12. Unit 4
13. Review and prepare for final project
14. Review and prepare for final project
15. Review and prepare for final project

授業の方法

Students will learn communicative and listening activities in this class.

準備学修

Students must be able to read and write in English and understand basic grammar.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Listening and Speaking 1

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

This class will be conducted entirely in English.

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication	b	13201		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	必修	1			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 part one
3. Unit 1 part two
4. Unit 2 part one
5. Unit 2 part two
6. Unit 3 part one
7. Unit 3 part two
8. Mid-term review
9. Unit 4 part one
10. Unit 4 part two
11. Unit 4 part three
12. Unit 5 part one
13. Unit 5 part two
14. Unit 5 part three
15. Final Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook (especially units 1-6) before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success Listening and Speaking Intro, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication	c	13201		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Tina D. MATHERS	必修	1			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication by working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1
3. Unit 1
4. Unit 2
5. Unit 2
6. Unit 3
7. Unit 3
8. Review
9. Unit 4
10. Unit 4
11. Unit 5
12. Unit 5
13. Unit 6
14. Unit 6
15. Final Review

授業の方法

Students are expected to actively participate in communicative activities.

準備学修

Students are expected to have a basic understanding of English grammar.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success Listening and Speaking Intro, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication	a	13205		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	必修	1			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 6 part one
3. Unit 6 cont.
4. Unit 7 part one
5. Unit 7 cont.
6. Unit 8 part one
7. Unit 8 cont.
8. Review
9. Unit 9 part 1
10. Unit 9 cont.
11. Unit 9 cont.
12. Unit 10 part one
13. Unit 10 cont.
14. Unit 10 cont.
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook (especially units 6-10) before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success Listening and Speaking 1, Scanlon, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication	b	13205		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Tina D. MATHERS	必修	1			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication, working in pairs and in small groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7
3. Unit 7
4. Unit 8
5. Unit 8
6. Unit 9
7. Unit 9
8. Review
9. Unit 10
10. Unit 10
11. Unit 11
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Unit 12
15. Final Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs and in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Listening and Speaking Intro

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication	c	13205		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Tina D. MATHERS	必修	1			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to move from a basic level of English and progress towards English at an elementary level. This will deepen their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication, working in pairs and in groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 5
3. Unit 5
4. Unit 5
5. Unit 6
6. Unit 6
7. Unit 6
8. Review
9. Unit 7
10. Unit 7
11. Unit 7
12. Unit 8
13. Unit 8
14. Unit 8
15. Final review

授業の方法

Students will work in pairs and in small groups.

準備学修

Review the material you learned in Oral Communication 1.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Listening and Speaking Intro

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Grammar	a		13211		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	1				

授業の到達目標

私たちが暮らす地球の自然や現象、様々な文化や人々についての英文を読むことを通して、読解力、異文化理解力、クリティカルに考える力を養い、自分の意見を発表したり、ディスカッションに積極的に参加したりすることができるようにする。また、英文を正しく理解したり、自分の意見等を正確かつ適切な英語で表現したりするために必要な文法力も身につける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

授業では、まず、テキストに沿って、当該授業で扱う内容についてのreading comprehension、reading skill、vocabulary buildingの問題をクラスで話し合いながら解いていく。次に、各自が疑問に思った点や関心をもった点等を出し合い、それについてグループやクラス全体で話し合う。その後、重要な文法事項を確認し、練習問題を解く。最後に、次回のテーマについての予備知識を身につける。

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Sport and Fitness (A)
3. Unit 1: Sport and Fitness (B)
4. Unit 2: Skin Deep (A)
5. Unit 2: Skin Deep (B)
6. Unit 3: Animals in Danger (A)
7. Unit 3: Animals in Danger (B)
8. Review
9. Unit 4: Violent Earth (A)
10. Unit 4: Violent Earth (B)
11. Unit 5: Islands and Beaches (A)
12. Unit 5: Islands and Beaches (B)
13. Unit 6: Success and Failure (A)
14. Unit 6: Success and Failure (B)
15. Review

授業の方法

ディスカッション、発表、DVDの視聴を取り入れながら、テキストに沿って授業を進める。

準備学修

前時に指示された箇所の予習をしてくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

Nancy Douglas and David Bohlke. *Reading Explorer 3*. 2nd edition. National Geographic Learning, a part of Cengage Learning.

必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、積極的に学習する態度が必要である。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Grammar	b		13211		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子	必修	1				

授業の到達目標

私たちが暮らす地球の自然や現象、様々な文化や人々についての英文を読むことを通して、読解力、異文化理解力、クリティカルに考える力を養い、自分の意見を発表したり、ディスカッションに積極的に参加したりすることができるようにする。また、英文を正しく理解したり、自分の意見等を正確かつ適切な英語で表現したりするために必要な文法力も身につける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

授業では、まず、テキストに沿って、当該授業で扱う内容についてのreading comprehension、reading skill、vocabulary buildingの問題をクラスで話し合いながら解いていく。次に、各自が疑問に思った点や関心をもった点等を出し合い、それについてグループやクラス全体で話し合う。その後、重要な文法事項を確認し、練習問題を解く。最後に、次回のテーマについての予備知識を身につける。

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Food and Health (A)
3. Unit 1: Food and Health (B)
4. Unit 2: Our Bond with Animals (A)
5. Unit 2: Our Bond with Animals (B)
6. Unit 3: History Detectives (A)
7. Unit 3: History Detectives (B)
8. Review
9. Unit 4: Traditions and Rituals (A)
10. Unit 4: Traditions and Rituals (B)
11. Unit 5: Urban Underworlds (A)
12. Unit 5: Urban Underworlds (B)
13. Unit 6: Reef Encounters (A)
14. Unit 6: Reef Encounters (B)
15. Review

授業の方法

ディスカッション、発表、DVDの視聴を取り入れながら、テキストに沿って授業を進める。

準備学修

前時に指示された箇所の予習をしてくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

Paul Macintyre and David Bohlke. *Reading Explorer 2*. 2nd edition. National Geographic Learning, a part of Cengage Learning.

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、積極的に学習する態度が必要である。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Grammar	c	13211		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
入江 和子	必修	1			

授業の到達目標

日本や世界の国々の観光地の歴史や文化、社会について学ぶとともに、観光業や留学・海外旅行に役立つ観光英語の基礎を習得することを旨とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

グローバル化した現代において世界は非常に身近に感じられるようになったが、実際の私たちの自国/他国についての知識はどうであろう。授業では世界の国々に関する背景知識を活性化して多文化理解を確かなものにする。また観光・旅行分野の専門用語や重要表現を学びながら様々なアクティビティを通して観光業に必要な英語によるコミュニケーション能力を高める。

授業計画

- Unit 1 Japan (Hokkaido)
- Unit 2 Japan (Kyoto)
- Unit 3 Japan (Yuhuin)
- Unit 4 Japan (Okinawa)
- Unit 5 ASEAN (Singapore)
- Unit 6 ASEAN (Bali, Indonesia)
- Unit 7 Oceania (Sydney, Australia)
- Unit 8 The Pacific Rim (Hawaii, the USA)
- Unit 9 Europe (London, the UK)
- Unit 10 Europe (France)
- Unit 11 Europe (Museums in Europe)
- Unit 12 North America (New York, the USA)
- Unit 13 North America (Boston, the USA)
- Unit 14 North America (Canada)
- Unit 15 Latin America (Rio de Janeiro, Brazil)

授業の方法

発表やグループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

事前に指示する国/地域の観光スポットを調べ、発表できるようにし

ておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

Akiko Tsuda, Chris Valvona, Yumiko Iwamoto 『一から学ぶ観光英語の基礎～日本から世界へ～ - English for Tourism 101』 NAN'UN-DO

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

毎回小テストを行い、その結果を平常点に組み入れる。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Grammar	a	13215		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
小野 礼子	必修	1			

授業の到達目標

私たちが暮らす地球の自然や現象、様々な文化や人々についての英文を読むことを通して、読解力、異文化理解力、クリティカルに考える力を養い、自分の意見を発表したり、ディスカッションに積極的に参加したりすることができるようにする。また、英文を正しく理解したり、自分の意見等を正確かつ適切な英語で表現したりするために必要な文法力も身につける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

授業では、まず、テキストに沿って、当該授業で扱う内容についてのreading comprehension、reading skill、vocabulary buildingの問題をクラスで話し合いながら解いていく。次に、各自が疑問に思った点や関心をもった点等を出し合い、それについてグループやクラス全体で話し合う。その後、重要な文法事項を確認し、練習問題を解く。最後に、次回のテーマについての予備知識を身につける。

授業計画

- Introduction
- Unit 7: Global Addictions (A)
- Unit 7: Global Addictions (B)
- Unit 8: Epic Engineering (A)
- Unit 8: Epic Engineering (B)
- Unit 9: Far Out (A)
- Unit 9: Far Out (B)
- Review
- Unit 10: All in the Mind (A)
- Unit 10: All in the Mind (B)
- Unit 11: Art and Life (A)
- Unit 11: Art and Life (B)
- Unit 12: Medical Challenges (A)
- Unit 12: Medical Challenges (B)
- Review

授業の方法

ディスカッション、発表、DVDの視聴を取り入れながら、テキストに沿って授業を進める。

準備学修

前時に指示された箇所の予習をしてこよう。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

Nancy Douglas and David Bohlke. *Reading Explorer 3*. 2nd edition. National Geographic Learning, a part of Cengage Learning.

必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、積極的に学習する態度が必要である。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Grammar	b		13215		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子	必修	0				

授業の到達目標

私たちが暮らす地球の自然や現象、様々な文化や人々についての英文を読むことを通して、読解力、異文化理解力、クリティカルに考える力を養い、自分の意見を発表したり、ディスカッションに積極的に参加したりすることができるようにする。また、英文を正しく理解したり、自分の意見等を正確かつ適切な英語で表現したりするために必要な文法力も身につける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

授業では、まず、テキストに沿って、当該授業で扱う内容についてのreading comprehension、reading skill、vocabulary buildingの問題をクラスで話し合いながら解いていく。次に、各自が疑問に思った点や関心をもった点等を出し合い、それについてグループやクラス全体で話し合う。その後、重要な文法事項を確認し、練習問題を解く。最後に、次回のテーマについての予備知識を身につける。

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7: Sweet Scents (A)
3. Unit 7: Sweet Scents (B)
4. Unit 8: Great Explorers (A)
5. Unit 8: Great Explorers (B)
6. Unit 9: Who We Are (A)
7. Unit 9: Who We Are (B)
8. Review
9. Unit 10: Global Warming (A)
10. Unit 10: Global Warming (B)
11. Unit 11: Incredible Insects (A)
12. Unit 11: Incredible Insects (B)
13. Unit 12: Going to Extremes (A)
14. Unit 12: Going to Extremes (B)
15. Review

授業の方法

ディスカッション、発表、DVDの視聴を取り入れながら、テキストに沿って授業を進める。

準備学修

前時に指示された箇所の予習をしてくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

Paul Macintyre and David Bohlke. Reading Explorer 2. 2nd edition. National Geographic Learning, a part of Cengage Learning.

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、積極的に学習する態度が必要である。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Grammar	c		13215		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子	必修	1				

授業の到達目標

世界の国々の観光地の歴史や文化、社会の特色を学んで自国や世界に対する理解を深めるとともに、英語によるコミュニケーション能力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

グローバル化した現代において世界は非常に身近に感じられるようになったが、実際私たちの自国/世界の国々についての知識はどうだろうか。授業ではDVDを併用しながらその地で人々が話す生の英語にも触れ、世界の国々に関する背景知識を活性化して多文化理解を確かなものにする。また様々なアクティビティを通して語彙力、読解力、発信力を高める。

授業計画

1. Chapter 1 AUSTRALIA
2. Chapter 2 INDONESIA
3. Chapter 3 SINGAPORE
4. Chapter 4 CHINA
5. Chapter 5 ARGENTINA
6. Chapter 6 MEXICO
7. Chapter 7 GERMANY
8. Chapter 8 FINLAND
9. Chapter 9 POLAND
10. Chapter 10 SPAIN
11. Chapter 11 GREECE
12. Chapter 12 KENYA
13. Chapter 13 MOROCCO
14. Chapter 14 LEBANON
15. Chapter 15 KUWAIT

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

事前に指示する国/地域の観光スポットを調べ、発表できるようにし

ておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

Scott Berlin, Megumi Kobayashi *On Board for More World Adventures* KINSEIDO

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

毎回小テストを行い、その結果を平常点に組み入れる。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing	a/b/c	13217		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Maidhc Ó CATHAIL / Kevin MUNSON / 和泉 有香	必修	1			

授業の到達目標

In this class, students will develop their sense of internationality.

授業の概要

The purpose of this class is to develop students abilities in both of these skills and to develop awareness the reading and writing are inextricably linked to each other.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 People
3. Unit 1
4. Unit 1
5. Unit 2
6. Unit 2 Friendship
7. Unit 2
8. Unit 2
9. Review
10. Unit 3 Education
11. Unit 3
12. Unit 3
13. Unit 4 Food
14. Unit 4
15. Review

授業の方法

Students will do individual, pair and group activities provided by the course textbook.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

未定

参考図書

To be announced as required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing	a/b/c	13221		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON / Maidhc Ó CATHAIL / 和泉 有香	必修	1			

授業の到達目標

At the end of this course it is expected that the students will have further developed their abilities to write coherent sentences and paragraphs and in using various writing styles.

授業の概要

The purpose of this is to continue to develop students abilities in both of these skills and to develop their awareness that reading and writing are inextricably linked.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 6 1
3. Unit 6 2
4. Unit 7 1
5. Unit 7 2
6. Effective paragraph writing 1
7. Effective paragraph writing 2
8. Review
9. Unit 8 1
10. Unit 8 2
11. Unit 9 1
12. Unit 9 2
13. Unit 10 1
14. Unit 10 2
15. Review

授業の方法

Students will work in pairs and groups as well as individually.

準備学修

Familiarize yourself with Units 1 to 5 before taking the course.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

未定

参考図書

To be announced as required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation	a/c	13233		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石原 敬子	必修	1			

授業の到達目標

英語特有のリズム（語強勢、文強勢、文のフォーカス）及び日本語に無い音素の特徴について理解し、意識して発話できるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

実践的に英語の発音訓練を行う。「伝える」ための英語の習得、および聴解力の向上を目指し、相手が理解しやすい発話の鍵となるポイントや、英語学習者が苦労しがちな英語の音声的特徴を、耳・目・口を使って練習する。会話形式、ペア・グループワークなどの練習、L.L.教室の個人ブースでの練習を通して、一人ひとりの苦手な部分を確認、克服できるようにしたい。特にPronunciation Iでは、「内容を伝える」ために重要な役割を持つリズムを体得する訓練を重点的に行う。

授業計画

1. Introduction
2. Syllables
3. Vowels and Word Stress 1)
4. Vowels and Word Stress 2)
5. Vowels and Word Stress 3)
6. Vowels and Word Stress 4)
7. Sentence Stress 1)
8. Sentence Stress 2)
9. Review
10. Sentence Focus 1)
11. Sentence Focus 2)
12. Sentence Focus 3)
13. Sentence Focus 4)
14. Summary 1)
15. Summary 2)

授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と理論的学習

準備学修

毎週宿題を課す。授業内外に関わらず、発音が不明瞭な単語がある際には辞書で確認をする。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日に実施のquizは、翌授業日までの間に限り、受けることが可能（-20%）。

テキスト

Judy B. Gilbert, *Clear Speech: Basic Pronunciation and Listening Comprehension*, 4th ed. CUP.

留意事項

クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation	b	13233		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
和泉 有香	必修	1			

授業の到達目標

英語特有のリズム（語強勢、文強勢、文のフォーカス）及び日本語に無い音素の特徴について理解し、意識して発話できるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

実践的に英語の発音訓練を行う。「伝える」ための英語の習得、および聴解力の向上を目指し、相手が理解しやすい発話の鍵となるポイントや、英語学習者が苦労しがちな英語の音声的特徴を、耳・目・口を使って練習する。会話形式、ペア・グループワークなどの練習を通して、一人ひとりの苦手な部分を確認、克服できるようにしたい。特にPronunciation Iでは、「内容を伝える」ために重要な役割を持つリズムを体得する訓練を重点的に行う。

授業計画

1. Introduction
2. Syllables
3. Vowels and Word Stress 1)
4. Vowels and Word Stress 2)
5. Vowels and Word Stress 3)
6. Vowels and Word Stress 4)
7. Sentence Stress 1)
8. Sentence Stress 2)
9. Review
10. Sentence Focus 1)
11. Sentence Focus 2)
12. Sentence Focus 3)
13. Sentence Focus 4)
14. Summary 1)
15. Summary 2)

授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と理論的学習

準備学修

毎週宿題を課す。授業内外に関わらず、発音が不明瞭な単語がある際には辞書で確認をする。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。

テキスト

Judy B. Gilbert, *Clear Speech: Basic Pronunciation and Listening Comprehension*, 4th ed. CUP.

参考図書

クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation	a	13237		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
和泉 有香	必修	1			

授業の到達目標

英語のリズムを自分の意思で実践する。また英語特有の音素（特に子音）の特徴について理解し、意識して発話できるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

「伝える」ための英語の習得、および聴解力の向上を目指し、相手が理解しやすい発話の鍵となるポイントや、英語学習者が苦勞しがちな英語の音声的特徴を、耳・目・口を使って実践的に訓練する。特に、春学期にみた英語特有のリズムを強化しながら、子音や類似した子音について理論的・実践的に修得する。また、話し手の意図により変化するイントネーションの特徴を学び、練習する。

授業計画

1. Sentence Focus 1)
2. Sentence Focus 2)
3. Consonants 1)
4. Consonants 2)
5. Consonants 3)
6. Consonants 4)
7. Consonants 5)
8. Review
9. Thought Groups 1)
10. Thought Groups 2)
11. Intonation 1), Preparation for English Festival 1)
12. Intonation 2), Preparation for English Festival 2)
13. Intonation 3), Preparation for English Festival 3)
14. Summary 1), Preparation for English Festival 4)
15. Summary 2), Preparation for English Festival 5)

授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と理論的学習

準備学修

毎週宿題を課す。授業内外に関わらず、発音が不明瞭な単語がある

際には辞書で確認をする。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。

テキスト

Judy B. Gilbert, *Clear Speech: Basic Pronunciation and Listening Comprehension*, 4th ed. CUP.

留意事項

クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation	b/c	13237		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石原 敬子	必修	1			

授業の到達目標

英語のリズムを自分の意思で実践する。また英語特有の音素（特に子音）の特徴について理解し、意識して発話できるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

「伝える」ための英語の習得、および聴解力の向上を目指し、相手が理解しやすい発話の鍵となるポイントや、英語学習者が苦勞しがちな英語の音声的特徴を、耳・目・口を使って実践的に訓練する。特に、春学期にみた英語特有のリズムを強化しながら、英語の子音や類似した子音について理論的・実践的に修得する。また、話し手の意図により変化するイントネーションの特徴を学び、練習する。

授業計画

1. Sentence Focus 1)
2. Sentence Focus 2)
3. Consonants 1)
4. Consonants 2)
5. Consonants 3)
6. Consonants 4)
7. Consonants 5)
8. Review
9. Thought Groups 1)
10. Thought Groups 2)
11. Intonation 1), Prep. for English Festival 1)
12. Intonation 2), Prep. for English Festival 2)
13. Intonation 3), Prep. for English Festival 3)
14. Summary 1), Prep. for English Festival 4)
15. Summary 2), Prep. for English Festival 5)

授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と理論的学習

準備学修

毎週宿題を課す。授業内外に関わらず、発音が不明瞭な単語がある

際には辞書で確認をする。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日に実施のquizは、翌授業日までの間に限り、受けることが可能（-20%）。

テキスト

Judy B. Gilbert, *Clear Speech: Basic Pronunciation and Listening Comprehension*, 4th ed. CUP.

留意事項

クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication	a	13241		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	必修	2			

授業の到達目標

In this class will strengthen the students' sense of internationality.

授業の概要

Students will continue to improve upon their English communication skills and progress from an elementary level of proficiency to a pre-intermediate level of proficiency.

授業計画

1. Unit 1. 1
2. Unit 1. 3 continued
3. Unit 1. 4
4. Unit 2. 1
5. Unit 2. 2
6. Unit 2. 4
7. Unit 3. 2
8. Unit 3. 3
9. Unit 3. 4
10. Unit 4. 1
11. Unit 4. 3
12. Unit 4. 4
13. Review and prepare for Final Project
14. Review and prepare for Final Project
15. Review and prepare for Final Project

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups.

準備学修

Be familiar with the material in Speakout Elementary.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected

for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speakout Pre-intermediate by Clare and Wilson Pearson/Longman

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication	b	13241		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Maidhc Ó CATHAIL	必修	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Welcome Part 1
3. Unit 1 Welcome Part 2
4. Unit 2 Lifestyles Part 1
5. Unit 2 Lifestyles Part 2
6. Unit 3 People Part 1
7. Unit 3 People Part 2
8. Mid-term review
9. Unit 4 Places Part 1
10. Unit 4 Places Part 2
11. Unit 5 Food Part 1
12. Unit 5 Food Part 2
13. Unit 6 The Past Part 1
14. Unit 6 The Past Part 2
15. Final Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs and in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Elementary Students' Book, Frances Eales, Steve Oakes, Pearson

参考図書

To be announced when required.

留意事項

Active participation in class is essential

教員連絡先

ocathail@gmail.com

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication	c	13241		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Tina D. MATHERS	必修	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication, working in pairs and in small groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1
3. Unit 1
4. Unit 2
5. Unit 2
6. Unit 3
7. Unit 3
8. Review
9. Unit 4
10. Unit 4
11. Unit 5
12. Unit 5
13. Unit 6
14. Unit 6
15. Final Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs and in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Elementary, Eales and Oakes, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication	a	13245		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Maidhc Ó CATHAIL	必修	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7 Changes 1
3. Unit 7 Changes 2
4. Unit 8 Money 1
5. Unit 8 Money 2
6. Unit 9 Nature 1
7. Unit 9 Nature 2
8. Mid-term Review
9. Unit 10 Society 1
10. Unit 10 Society 2
11. Unit 11 Technology 1
12. Unit 11 Technology 2
13. Unit 12 Fame 1
14. Unit 12 Fame 2
15. Final Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs or in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-Intermediate Students Book, Antonia Clare, J. J. Wilson, Pearson.

参考図書

To be announced when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

ocathail@gmail.com

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication	b/c	13245		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Tina D. MATHERS / Kevin MUNSON	必修 / 選択	2			

授業の到達目標

Students will continue to progress from an elementary level of proficiency to a pre-intermediate level of proficiency in English.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to talk about a variety of topics in English.

授業計画

1. Unit 5
2. Unit 5
3. Unit 5
4. Unit 6
5. Unit 6
6. Unit 6
7. Unit 7
8. Unit 7
9. Unit 7
10. Unit 8
11. Unit 8
12. Unit 8
13. Review and prepare final project
14. Review and prepare final project
15. Review and prepare final project

授業の方法

Students will work individually, in pairs, in small groups and as a class.

準備学修

Be familiar with material in Speakout Elementary

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Speakout Elementary, Eales and Oakes, Pearson/Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing	a	13250		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
惣谷 美智子	必修	2			

授業の到達目標

日本および国際的なテーマの英文を Critical Thinking の観点から読み、それらを要約したり、また内容に基づいて自分の意見が発表できるような実践的英語能力の習得を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性、国際性)を学ぶ。

授業の概要

英語学習を単に語学学習にとどめず、発信型英語能力を養うために、Reading/Writingのみならず、Culture, Critical Thinkingの観点から、現代における世界の文化の諸相を読み解き、同時に Debate, Presentationを通して各自の意見交換を行う。

授業計画

1. Introduction
2. The Beauty of the Seasons
3. Continued
4. The Importance of English
5. Continued
6. How the Internet Evolved
7. Continued
8. Travel in Japan
9. Continued
10. The Secret of Happiness
11. Continued
12. Secondhand Smoke
13. Continued
14. Review
15. Conclusion

授業の方法

Students will read and write about a variety of different topics.

準備学修

Familiarize yourself with the material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Takashi Shimaoka et al., *Life Topics: A Critical-Thinking Approach to English Proficiency*. Nan'un-do

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing	b	13250		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Tina D. MATHERS	必修	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The purpose of this course is for students to move from a beginning proficiency level of reading/writing to a pre-intermediate level.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Names
3. Unit 1: continued
4. Unit 1: continued
5. Unit 2: Work
6. Unit 2: continued
7. Unit 2: continued
8. Review
9. Unit 3: Long Distance
10. Unit 3: continued
11. Unit 3: continued
12. Unit 4: Positive Thinking
13. Unit 4: continued
14. Unit 4: continued
15. Review

授業の方法

Students will engage in individual, pair and group activities provided by the textbook.

準備学修

Students should review the material they learned in Reading/Writing 2.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Reading and Writing 1, Lynn, Oxford

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing	c	13250		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	必修	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The purpose of this course is for students to move from a beginning proficiency level of reading/writing to a pre-intermediate level.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Names
3. Unit 1: continued
4. Unit 1: continued
5. Unit 2: Work
6. Unit 2: continued
7. Unit 2: continued
8. Review
9. Unit 3: Long Distance
10. Unit3:continued
11. Unit 3: continued
12. Unit 4: Positive Thinking
13. Unit 4: continued
14. Unit 4:continued
15. Review

授業の方法

Students will engage in individual, pair, and group activities provided by the textbook.

準備学修

Students should review the material they learned in Reading/Writing II.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q:Skills for Success: Reading and Writing 1, Lynn, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing	a		13254		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	必修	2				

授業の到達目標

Reading/WritingIIIで学んだ英語力をさらに磨く。日本および国際的なテーマの英文を Critical Thinking の観点から読み、それらに要約したり、また内容に基づいて自分の意見が発表できるような実践的英語能力の習得を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性、国際性)を学ぶ。

授業の概要

英語学習を単に語学学習にとどめず、発信型英語能力を養うために、Reading/Writingのみならず、Culture, Critical Thinking の観点から、現代における世界の文化の諸相を読み解き、同時に Debate, Presentation を通して各自の意見交換を行う。

授業計画

1. Introduction
2. What Colors Tell about You
3. Continued
4. Free Music
5. Continued
6. Fast Food and Health
7. Continued
8. The Dangers of Credit Cards
9. Continued
10. Old Media and New Media
11. Continued
12. Women in College
13. Continued
14. Review
15. Conclusion

授業の方法

Students will read and write about a variety of different topics.

準備学修

Familiarize yourself with the material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Takashi Shimaoka et al., *Life Topics: A Critical-Thinking Approach to English Proficiency* Nan'un-do

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing	b		13254		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Tina D. MATHERS	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

Students will be able to read a variety of texts for different kinds of information and will be able to write effective prose about a variety of different topics.

授業計画

1. Unit 5
2. Unit 5
3. Unit 5
4. Unit 5
5. Unit 6
6. Unit 6
7. Unit 6
8. Unit 6
9. Unit 7
10. Unit 7
11. Unit 7
12. Unit 7
13. Review and prepare for final project
14. Review and prepare for final project
15. Review and prepare for final project

授業の方法

Students will focus on vocabulary acquisition and writing about a variety of topics.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Reading and Writing 1 by Lynn, Oxford

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing	c	13254		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	必修	2			

授業の到達目標
 In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要
 Students will be able to read a variety of texts for different kinds of information and will be able to write effective prose about a variety of different topics.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 6: Reading 1
3. Unit 6: Reading 2
4. Unit 7: Writing
5. Unit 7: Reading 1
6. Unit 8: Reading 2
7. Unit 8: Writing
8. Review
9. Unit 9: Reading 1
10. Unit 9: Reading 2
11. Unit 9: Writing
12. Unit 10: Reading 1
13. Unit 10: Reading 2
14. Unit 10: Writing
15. Review

授業の方法
 Students will read and write about a variety of different topics.

準備学修
 Familiarize yourself with the material before beginning the course.

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト
 O: Skills for Success: Reading and Writing 1, Sarah Lynn, Oxford

参考図書
 To be announced as and when required.

留意事項
 Active participation in class is essential.

教員連絡先
 munson@kaisei.ac.jp

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar	a/b	13265		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON / 米田 繭子	必修	2			

授業の到達目標
 英語の基本的な文法事項を確実に修得することを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を考える。

授業の概要
 テキストの項目に沿って文法事項を丁寧に解説していくとともに、練習問題をとおして実力をつけていく。クイズなどを頻繁に行い、確実な文法力を補う。

授業計画

1. Unit1	} 限定詞と代名詞
2. Unit2	
3. Unit3	
4. Review1	} 形容詞と副詞
5. Unit4	
6. Unit5	
7. Review2	} 語順、接続詞と節
8. Unit6	
9. Unit7	
10. Unit8	} 前置詞
11. Review3	
12. Unit9	
13. Unit11	} 句動詞
14. Unit12	
15. Review4	

授業の方法
 テキストに沿って順に進めていく。約3ユニットごとにまとめのクイズを予定。

準備学修
 テキストの指定された箇所を予習する。随時課題に取り組む。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 履修要項に沿って行う

テキスト

- ・ マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編） Raymond Murphy 著 CAMBRIDGE
- ・ カラー版、ゼロからはじめる新TOEICテスト英文法 大岩秀樹 著 中経出版

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation	a/b	13269		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石原 敬子	必修	2			

授業の到達目標

英語特有の音素を意識して発話できるようになる。また話し手の感情・意図により変化するイントネーションの特徴を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

Pronunciation I・IIに引き続き、「伝える」ための英語の習得、および聴解力の向上を目指し、相手が理解しやすい発話の鍵となるポイントや、英語学習者が苦勞しがちな英語の音声の特徴を、耳・目・口を使って実践的に訓練する。特に、英語の音声体系について理論的・実践的に修得しながら、文脈や前後関係、話し手の感情・意図により変化するイントネーションの特徴を学び、練習する。

授業計画

1. Review from Pronunciation II
2. Consonants 1)
3. Consonants 2)
4. Vowels 1)
5. Vowels 2)
6. Vowels 3)
7. Vowels 4)
8. Review
9. Intonation 1)
10. Intonation 2)
11. Intonation 3)
12. Intonation 4)
13. Intonation 5)
14. Summary 1)
15. Summary 2)

授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と理論的学習

準備学修

毎週宿題を課す。授業内外に関わらず、発音が不明瞭な単語がある

際には辞書で確認をする。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認すること。3) 欠席日に実施のquizは、翌授業日までの間に限り、受けることが可能（-20%）。

テキスト

Jonathan Marks, *English Pronunciation in Use, Elementary*, CUP.

留意事項

クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ精神論		13272		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石丸 脩子	必修	2			

授業の到達目標

ホスピタリティは「もてなし」「気配り」「歓待」という言葉で説明される。それは人間精神にかかわるもので、単なるマナーや知識、技能ではなく、人に幸せを与えるもので、その真髄は、自分と他者を尊重し、大切にするという人間愛が基本にある。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とS(奉仕)を目指す。

授業の概要

最初に「ホスピタリティ」という言葉の意味、語源とそのキリスト教の起源について学ぶ。次にこの概念の東西文化圏における考え方や実践について概観する。授業の中盤に入って、ホスピタリティを日常生活の中で生きる私たちに視点を移して考察し、日本におけるホスピタリティの伝統を、「もてなし」、慣習、茶道という局面から学ぶ。最後に現代のホスピタリティ産業の代表であるディズニーランドにおけるホスピタリティの実践を検討する。

授業計画

1. ホスピタリティの多様な意味
2. ホスピタリティの語源と聖書における起源
3. 聖書に見られるホスピタリティ精神
4. 古代西洋・キリスト教・イスラム教のホスピタリティ文化
5. 古代東洋のホスピタリティ文化 儒教とヒンドゥー教
6. 私はホスピタリティをどのように生きるか
7. 日常生活におけるホスピタリティ 親子の関係
8. 「おくりびと」に見るホスピタリティ
9. 日本のホスピタリティ文化 「もてなし」の語源
10. 日本のホスピタリティ文化 茶道
11. 日本のホスピタリティ文化 もてなし文化の歴史
12. 日本の慣習とホスピタリティ 慶事におけるホスピタリティ
13. 日本の慣習とホスピタリティ 葬儀および祭りにおけるホスピタリティ
14. ディズニーランドにおけるホスピタリティ
15. ホスピタリティ精神論のまとめ

授業の方法

講義形式と授業中に小グループで話し合うなど、作業を行う。DVDも2回見る。

準備学修

旧約聖書の創世記18章を読んでくる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の通常欠席につき、5点減点する。

テキスト

授業中にプリントを配布する。

参考図書

ヘンリー・J・M・ナウウェン『差し伸べられる手』（女子パウロ会、2006年）
服部勝人『ホスピタリティ学のすすめ』（丸善株式会社、2008年）
壺江隆『ホスピタリティと観光産業』（文理閣、2008年）

基礎科目〈異文化理解〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化論		13273		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
箕野 聡子	必修	2			

授業の到達目標
 日本文化、特に古典芸能を理解し、その概要を語れるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とI（知性）を養う。

授業の概要
 芸能は地域に根差し発展する。まずは、各芸能を、身近なものとして考察したい。そして、現代において、各芸能がどのような発展をしているかを、ときに映像資料を用いて確認する。随時関西で上演される芸能を紹介するので、受講中に実際に劇場に足を運んでもらいたい。

授業計画

1. 落語(前座の役割「寿限無」「芝浜」)
2. 落語(海外へ:英語落語の可能性:「鷲取り」)
3. 落語(創作落語:グリム童話「死神の名づけ親」と落語「死神」)
4. 歌舞伎(江戸荒事「勸進帳」)
5. 歌舞伎(現代歌舞伎:野田秀樹による新しい脚本 市川染五郎・中村勘九郎の「研辰の討たれ」)
6. 歌舞伎(日本作品を海外へ:和事歌舞伎の新演出 故中村勘三郎の「夏祭浪花鑑」ニューヨーク公演)
7. 歌舞伎(海外作品を日本へ:NINAGAWA歌舞伎シェークスピア「十二夜」)
8. 文楽「夏祭浪花鑑」大阪と文楽
9. 文楽(世界で紹介された杉本文楽「曾根崎心中」と三谷幸喜による「其成礼心中」)
10. 文楽劇場鑑賞
11. 文楽(人形浄瑠璃における太夫、<語り>の役割)
12. 能楽(狂言:「附子」大威流茂山狂言と和泉流野村狂言)
13. 能楽(狂言:「東と西の芸風の違いをみる」「棒縛」「末広がりに」)
14. 能楽(能:野村萬斎主演映画「陰陽師」と丑の刻語り)
15. 能楽(能:シテ方・ワキ方・狂言方「鉄輪」)

授業の方法
 講義が中心となるが、その他に劇場で実際に古典芸能を鑑賞する。また、現役の演者の方との対話形式の講義も行う。

準備学修
 歴史において、それぞれがどの時代にどのように発展したかを確認しておく。
 また、図書館にあるDVDを各自鑑賞し、古典芸能への理解を深めておく。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 6月6日(土曜日)の国立文楽劇場での文楽鑑賞への参加は絶対条件である。(指定日に参加できないときは、別日に個人で鑑賞することになる。)

テキスト
 随時紹介する

参考図書
 随時紹介する

留意事項
 国立文楽劇場(大阪市中央区日本橋)へ文楽鑑賞に行く。(6月6日、午前10時30分開演、午後1時15分終演予定。全員参加。)

教員連絡先
 mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
翻訳・通訳論入門		13301		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
西山 裕子	選択	2			

授業の到達目標
 日本語から英語、あるいは英語から日本語への翻訳・通訳のプロセスを通して、2言語間に特徴的な表現や発想を具体的に比較、対照しながら、翻訳・通訳の理論と実践を学ぶ。授業では、単なる語彙の置き換えではなく、多文化間コミュニケーションとしての翻訳・通訳の理論と実践のスキルを習得を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

授業の概要
 翻訳論では、翻訳はクリエイティブな作業であるという認識のもと、従来の「英文和訳」と「翻訳」の違い、また翻訳する場合、必要になる発想の転換のしかたを具体的に学ぶ。講義の実践として授業計画に沿ってさまざまな課題の演習を行う。

授業計画

1. introduction
2. Lesson 1&2
3. Lesson 3
4. Lesson 4
5. Lesson 5
6. Lesson 6
7. Lesson 7
8. Lesson 8
9. Lesson 9
10. Lesson 10
11. Lesson 11
12. Lesson 12
13. Lesson 13
14. Lesson 14
15. Lesson 15

授業の方法
 毎回の授業では、各章のテーマに沿って学生一人一人の意見を聞きながら進めてゆく。解答は一つではないため、しっかりと考えてもらうことに重点が置かれる。

準備学修
 授業で、次回までの課題を指示するので、必ず準備学習しておくこと。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 出席重視。一貫性をもった授業であるので、必ず毎回出席すること。出席は平常点として評価する。

テキスト
 The Art of Translation, Nan'un-do

参考図書
 授業時に指示する。

留意事項
 授業時に指示する。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
English for Academic Purposes 1		13303		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
惣谷 美智子	選択	2			

授業の到達目標

This course aims at advanced students of English as a Second Language. This intensive course should give them an opportunity to explore insights on diverse topics gained from the text and the occasional viewing of videos on current issues, and to strengthen their ability of critical thinking.

In this course, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The blend of traditional approaches and more recent communicative approaches will be applied. By reviewing English grammar and structure by a text for advanced learners, the students should develop content-based communication skills for accurate expression of their opinions and for precise understanding of the opinions of others.

授業計画

1. Introduction
2. American College Experiences
3. Social Life: College vs. High School
4. College Students and Their Cars
5. Stress
6. Religion and Religious Differences
7. College Football
8. American College Life as a Cross-Cultural Experience
9. College at Mid-Life
10. College and Marriage
11. Google Internship
12. Politics on Campus
13. Environmentalism as a Way of Life
14. Understanding Yourself
15. Conclusion

授業の方法

Students will read, write and speak about a variety of different topics.

準備学修

Familiarize yourself with the material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Patrick D. Murphy et al., *American Students Write about College Life*. Eihosha

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
English for Academic Purposes 2		13304		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	選択	2			

授業の到達目標

This course aims at advanced students of English as a Second Language. This intensive course should give them an opportunity to explore insights on diverse topics gained from the text and the occasional viewing of videos on current issues, and to strengthen their ability of critical thinking.

In this course, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The blend of traditional approaches and more recent communicative approaches will be applied. By reviewing English grammar and structure by a text for advanced learners, the students should develop content-based communication skills for accurate expression of their opinions and for precise understanding of the opinions of others.

授業計画

1. Introduction
2. American College Experiences
3. Social Life: College vs. High School
4. College Students and Their Cars
5. Stress
6. Religion and Religious Differences
7. College Football
8. American College Life as a Cross-Cultural Experience
9. College at Mid-Life
10. College and Marriage
11. Google Internship
12. Politics on Campus
13. Environmentalism as a Way of Life
14. Understanding Yourself
15. Conclusion

授業の方法

Students will read, write and speak about a variety of different topics.

準備学修

Familiarize yourself with the material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Patrick D. Murphy et al., *American Students Write about College Life*. Eihosha

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

munson@kaisel.ac.jp

基幹科目 <アカデミック・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Small Group Communication		13305		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	選択	2			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to become communicative in discussing a range of issues at an intermediate level of English, and to develop students' sense of Internationality.

授業の概要

Students will be able to engage with a variety of issues and work in small groups to respond to various points of view and communicate their opinions coherently.

授業計画

1. First Impressions
2. Traffic Jam
3. Who Needs the Local Language?
4. Getting Ahead
5. Forever Single
6. What are Friends For?
7. What's For Dinner?
8. Cyber Bullying
9. Taking Care of Father
10. Why Go to School?
11. An International Relationship
12. Too Little, Too Late
13. Ben and Mike
14. Government Control
15. Living Together

授業の方法

Students will discuss textbook topics in weekly discussion groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Impact Issues 2 (New Edition), Day/Shauls/Yamanaka, Pearson/Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is required.

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

基幹科目 <アカデミック・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Advanced Oral Communication 1	a	13309		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	選択	2			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to move from pre-intermediate and progress towards English at an intermediate level. Students will also develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Identity 1. 1
3. Unit 1. 2
4. Unit 1. 3
5. Unit 1. 4
6. Unit 2: Tales 2. 1
7. Unit 2. 3
8. Unit 2. 4
9. Unit 3: Contact 3. 1
10. Unit 3. 2
11. Unit 3. 3
12. Unit 3. 4
13. Unit 4: Jobs 4. 1
14. Unit 4. 2
15. Unit 4. 3

授業の方法

Students will work together in pairs and groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

基幹科目 <アカデミック・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Advanced Oral Communication 1	b	13309		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Tina D. MATHERS	選択	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of this course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1
3. Unit 1
4. Unit 2
5. Unit 2
6. Unit 3
7. Unit 3
8. Review
9. Unit 4
10. Unit 4
11. Unit 5
12. Unit 5
13. Unit 6
14. Unit 6
15. Final Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs and in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is required.

基幹科目 <アカデミック・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Advanced Oral Communication 2	a	13313		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	選択	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7 Part 1
3. Unit 7 Part 2
4. Unit 8 Part 1
5. Unit 8 Part 2
6. Unit 9 Part 1
7. Unit 9 Part 2
8. Review
9. Unit 10 Part 1
10. Unit 10 Part 2
11. Unit 11 Part 1
12. Unit 11 Part 2
13. Unit 12 Part 1
14. Unit 12 Part 2
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a " Notification of Exceptional Absence ". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Advanced Oral Communication 2	b	13313		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Tina D. MATHERS	選択	2			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to continue to hone their skills at the pre-intermediate level. They will also continue to develop a sense of internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and in groups.

授業計画

1. Unit 6
2. Unit 6
3. Unit 6
4. Unit 7
5. Unit 7
6. Unit 7
7. Unit 8
8. Unit 8
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 9
12. Unit 9
13. Unit 10
14. Unit 10
15. Unit 10

授業の方法

Students will complete textbook activities through pair and group work.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading/Writing 1	a	13318		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	選択	2			

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts for information, synthesize the information and create original texts on a variety of topics.

授業の概要

Students will continue to work on their academic reading and writing skills.

授業計画

1. Introduction
2. Lesson 1
3. Lesson 2
4. Lesson 3
5. Lesson 4
6. Lesson 5
7. Lesson 6
8. Mid-term Review
9. Lesson 7
10. Lesson 8
11. Lesson 9
12. Lesson 10
13. Prepare for Final Review
14. Prepare for Final Review
15. Final Review

授業の方法

Students will be encouraged to read texts critically and to practice writing as much as possible.

準備学修

Review concepts covered in previous Reading and Writing courses.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 1 by Gamer and Ward Oxford

参考図書

To be announced.

留意事項

Students are expected to prepare for class and to participate actively during classes.

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

基幹科目 <アカデミック・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading/Writing 1	b	13318		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Maidhc Ó CATHAIL	選択	2			

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts for information, synthesize the information and create original texts on a variety of topics.

授業の概要

Students will continue to work on the academic reading and writing skills.

授業計画

1. Introduction
2. Lesson 1
3. Lesson 2
4. Lesson 3
5. Lesson 4
6. Lesson 5
7. Lesson 6
8. Mid-term Review
9. Lesson 7
10. Lesson 8
11. Lesson 9
12. Lesson 10
13. Prepare for Final Review
14. Prepare for Final Review
15. Final Review

授業の方法

Students will be encouraged to read texts critically and to practise writing as much as possible.

準備学修

Review concepts covered in previous Reading and Writing courses.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 3 by Gamer and Ward Oxford

参考図書

To be announced.

留意事項

Students are expected to prepare for class and participate actively.

教員連絡先

ocathail@gmail.com

基幹科目 <アカデミック・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading/Writing 2	a	13322		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Maidhc Ó CATHAIL	選択	2			

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts for information, synthesize the information and create original texts on a variety of topics.

授業の概要

Students will continue to work on their academic reading and writing skills.

授業計画

1. Unit 5 Reading 1
2. Unit 5 Reading 2
3. Unit 5 Writing
4. Unit 5 Unit Assignment
5. Unit 6 Reading 1
6. Unit 6 Reading 2
7. Unit 6 Writing
8. Unit 6 Unit Assignment
9. Unit 7 Reading 1
10. Unit 7 Reading 2
11. Unit 7 Writing
12. Unit 7 Unit Assignment
13. Review and Prepare Final Project
14. Review and Prepare Final Project
15. Final Project

授業の方法

Students will focus on vocabulary acquisition and writing.

準備学修

Review concepts covered in previous Reading and Writing courses.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 3 by Gamer and Ward Oxford

参考図書

To be announced.

留意事項

Students are expected to prepare for class and to participate actively in class.

教員連絡先

ocathail@gmail.com

基幹科目 <アカデミック・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading/Writing 2	b	13322		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	選択	2			

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts for information, synthesize the information and create original texts on a variety of topics.

授業の概要

Students will continue to work on their academic reading and writing skills.

授業計画

1. Unit 5 Reading 1
2. Unit 5 Reading 2
3. Unit 5 Writing
4. Unit 5 Unit Assignment
5. Unit 6 Reading 1
6. Unit 6 Reading 2
7. Unit 6 Writing
8. Unit 6 Unit Assignment
9. Unit 7 Reading 1
10. Unit 7 Reading 2
11. Unit 7 Writing
12. Unit 7 Unit Assignment
13. Unit 7 Unit Assignment
14. Review and Prepare Final Project
15. Review and Prepare Final Project

授業の方法

Students will be encouraged to read texts critically and to practice writing as much as possible.

準備学修

Review concepts covered in previous Reading and Writing courses.

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

O: Skills for Success: Reading and Writing 3 by Gamer and Ward Oxford

参考図書

To be announced.

留意事項

Students are expected to come to class prepared and to participate actively during class.

教員連絡先

munson@kaisel.ac.jp

基幹科目 <アカデミック・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Public Speaking and Oral Interpretation		13333		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Tina D. MATHERS	選択	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

Through classroom activities in which students actively use their language skills, especially listening and speaking, students will learn how to give a speech in English. Students will also practice critical thinking skills, share information, and explore speech techniques.

授業計画

1. The Three Messages in Speech and The Physical Message
2. Informative Speech Presentations
3. Gestures and Layout Speech
4. Layout Speech Presentation and Voice Inflection
5. Voice Inflection and Demonstration Speech
6. The Story Message
7. The Introduction
8. The Body
9. The Body continued
10. The Body
11. The Conclusion
12. The Conclusion continued
13. The Visual Message
14. The Visual Message continued
15. Review for final presentation

授業の方法

Students will be working individually and making presentations to small groups.

準備学修

There are no prerequisites for this course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

This course will be taught entirely in English.

基幹科目 <アカデミック・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading/Writing 3	a	13338		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	選択	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The goal of the course is to continue teaching reading skills and general English usage by reading an adapted version of the book "Rabbit-proof Fence". By listening to the accompanying CD while reading the book, students will be able to improve reading and listening skills at the same time.

授業計画

1. Introduction
2. Discuss Chapters 1 & 2
3. Discuss Chapters 3 & 4
4. Discuss Chapters 5 & 6
5. Discuss Chapters 7 & 8
6. Discuss Chapters 9 & 10
7. Review
8. Midterm Exam
9. Discuss Chapters 11 & 12
10. Discuss Chapters 13 & 14
11. Discuss Chapters 15 & 16
12. Discuss Chapters 17 & 18
13. Discuss Chapters 19 & 20
14. Discuss Chapters 21 & 22
15. Prepare for Final Exam

授業の方法

Students will be working individually and in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Ireland, Oxford University Press

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

基幹科目 <アカデミック・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading/Writing 3	b	13338		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
米田 繭子	選択	2			

授業の到達目標

In this class, students will be acquainted with English rhetorical patterns and become able to write short essays in the forms of writing patterns.

授業の概要

Through reading various academic writing samples, students will learn their forms and patterns. Starting from paragraph writing, students will be able to write several short essays of different styles.

授業計画

1. Introduction
2. Exploring the Essay
3. Rhetorical Patterns
4. The five Paragraph Essay
5. Comparison Essay1
6. Comparison Essay2
7. Writing Introduction
8. Writing Short Essay
9. Cause and Effect Essay1
10. Cause and Effect Essay2
11. Write a Cause and Effect Essay
12. Discuss Your History
13. Write Intro and Thesis
14. Main body and Conclusion
15. Complete an essay

授業の方法

Students will mostly read the textbook and practice writing afterwards.

準備学修

Work on the assignment

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

履修要項に沿って行う

テキスト

Great Writing 4 Great Essays:Folse, Muchmore-Vokoun, Solomon, Heinle Cengage

基幹科目 <アカデミック・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Debating and Persuasion	a	13345		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Tina D. MATHERS	選択	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of autonomy.

授業の概要

The objectives of the course are to enable students to engage with a variety of issues and working in small groups to critically analyze these and to respond with effective arguments and counter-arguments.

授業計画

1. Introduction
2. Conspiracy Theories
3. Do We Need Royals?
4. Bad Manners in Public
5. Bullying
6. Gambling
7. Alcohol and Drugs
8. Review
9. Sexual Harassment
10. Smacking Kids
11. The Death Penalty
12. Stalkers
13. Religion
14. Racism
15. Final Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs and in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking this class.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Taboo Talk, Lynch, Cengage

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基幹科目 <アカデミック・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Debating and Persuasion	b	13345		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	選択	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Autonomy.

授業の概要

The objectives of the course are to enable students to engage with a variety of issues and working in small groups to critically analyse these and to respond with effective arguments and counter-arguments.

授業計画

1. Introduction
2. Conspiracy Theories
3. Do We Need Royals?
4. Bad Manners in Public
5. Bullying
6. Gambling
7. Alcohol and drugs
8. Review
9. Sexual harassment
10. Smacking Kids
11. The Death Penalty
12. Stalkers
13. Religion
14. Racism
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Taboo Talk, Lynch, Cengage

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばと社会			13405		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばと社会の関係を学び、ことばの使われ方やことばを使う人々に対する関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

多言語社会に暮らす人々は、日常どのようにして言語を使い分けるのか、共通の言語をもたない人同士がコミュニケーションを図ろうとすると、どのようなことばが生まれるのか、ことばの標準変種と非標準変種に対して人々はどのような価値観をもつのか、ことばと地域差・社会階級差・性差・年齢差は、どのように関係しているのかなどについて学ぶ。

授業計画

1. 社会言語学とは何か
2. 言語の選択(1): 多言語社会、ダイグロッシア
3. 言語の選択(2): ドメイン
4. 言語の選択(3): 二言語話者とコードスイッチング
5. 言語の選択(4): ビジンとクレオール(1)
6. 言語の選択(5): ビジンとクレオール(2)
7. 言語のバリエーション(1): ウィリアム・ラボフの古典的研究
8. 言語のバリエーション(2): ことばの標準変種と非標準変種
9. 言語のバリエーション(3): 地域方言とはなにか
10. 言語のバリエーション(4): 国際英語と英語の国際化
11. 言語のバリエーション(5): 社会方言とはなにか(1)
12. 言語のバリエーション(6): 社会方言とはなにか(2)
13. 言語のバリエーション(7): 黒人英語
14. 言語のバリエーション(8): ジェンダーと言語
15. 言語のバリエーション(9): 年齢と言語

授業の方法

教員・学生間のコミュニケーションを通してワークシートを完成させたり、自分の考え等を発表したりする。

準備学修

履修者は全員、次回のテーマについて、テキストの該当箇所を読む

で出席すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

東照二著 『社会言語学入門(改訂版) 生きた言葉のおもしろさに迫る』(研究社)
毎回ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、ワークシート、出席状況、日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・授業終了時に提出するワークシートの場合、当該授業終了時に提出されたもののみを評価の対象とする。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
異文化理解			13409		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

現代社会は多様な文化を持つ人々との国際交流社会と言える。しかし時として文化情報の不足のため考え方や感じ方の違いが異文化間の相互理解を難しくしている。こうした文化摩擦をさけるための異文化理解の基礎と異文化間コミュニケーションの留意点を学ぶ。また異文化理解の基礎として自文化つまり日本の文化をよりよく知ることが重要である。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

この授業では西洋文化、特に欧米の文化理解を中心に「目に見える文化」から「見えない文化」、つまり習慣や行動の仕方の背景にある価値観などの由来をテキストを中心に解説する。よく誤解を生む「しぐさ」やジェスチャーなども取り上げる。また後半の講義時間内では欧米の主要国について担当グループで国別の発表をしながら国際理解を促進する。なお毎回の授業にあたりテキストの内容を十分予習しておく事が重要である。

授業計画

1. ガイダンス。異文化理解とカルチャー・ショック
2. 文化摩擦を生む原因、異文化理解の知識 1 文化とは何か
3. 異文化理解の知識 2 価値観の理解
4. 異文化間コミュニケーション
5. 衣食住の文化
6. 人間関係の文化
7. 遊びと仕事の文化
8. 世界史の中の英語と文化 その1
9. 世界史の中の英語と文化 その2
10. 文化の基礎 その1
11. 文化の基礎 その2
12. 国際理解・国別グループ発表
13. 国際理解・国別グループ発表
14. 国際理解・国別グループ発表
15. 国際理解・国別グループ発表

授業の方法

主要国についてグループに分け異文化理解の課題を討議し発表する時間を取り入れる。

準備学修

毎回授業で取り上げる範囲を事前にテキストで予習する事。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

特別の理由のない欠席1回につき5点減点する

テキスト

『異文化理解のストラテジー』 佐野正之・水落一朗・鈴木龍一著
大修館書店

参考図書

『しぐさの比較文化』リージャー・プロズナハン著 岡田 妙/斉藤紀代子 訳 大修館書店
『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』 久米昭元・長谷川典子著 有斐閣選書
『実例で見る日米コミュニケーション・ギャップ』 西田ひろ子 大修館書店

留意事項

出席と授業態度、国別の担当課題についてのチームでの準備と発表も重視する。異文化理解の比較として日本の文化を英語で伝えられる勉強が望まれる。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学入門			13413		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子	必修	2				

授業の到達目標

長い歴史と伝統を持つイギリス、近代になってから成立したアメリカそれぞれの文学の世界を知り、代表的な作家の主要作品を鑑賞して人間の生きる世界の多様性を学び、異文化に対する複眼的な視点を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

イギリス文学とアメリカ文学の歴史的、文化的、社会的背景を概観しながら各作家の文学的特徴を理解する。また同時に、詩や演劇、小説、随筆を通して表出される豊かな人間の想像力や内面の世界に触れ、英米文学作品の持つ面白さを味わう。

授業計画

1. ギリシア・ラテン文学とキリスト教、イギリス:古英語の文学
2. 中英語の文学
3. ルネサンスの散文と詩
4. シェイクスピア
5. シェイクスピア
6. 小説の誕生と成長
7. 小説の誕生と成長
8. ロマン主義時代の詩
9. ヴィクトリア朝時代の小説
10. ヴィクトリア朝時代の小説
11. 20世紀の詩と小説
12. アメリカ・ロマンティズム時代の文学
13. アメリカ・ロマンティズム時代の文学
14. アメリカ・リアリズム時代の文学
15. アメリカ・リアリズム時代の文学

授業の方法

講義を中心に、レポート提出や発表を多く取り入れる。

準備学修

初回講義時に配布するスケジュール表・作品リストに沿って作品を読み、期日までにレポートを提出すること。また教科書は1週間前に

指示する範囲を必ず読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

内田能嗣『イギリス文学史』大阪教育図書 他にハンドアウトを配布する。

参考図書

寺門泰彦編著他『アメリカ文学案内』朝日出版、野町二著他『イギリス文学案内』朝日出版、中村邦生他編著『楽しく読めるイギリス文学』ミネルヴァ書房、高田賢一他編著『楽しく読めるアメリカ文学』ミネルヴァ書房、大岡信也編『世界文学のすすめ』岩波文庫、高津春繁他著『ギリシア・ローマ古典文学案内』岩波文庫、小川正廣著『アエネーイス 神話が語るヨーロッパ世界の原点』岩波書店、丸谷オー著『文学のレッスン』新潮社、池澤夏樹著『世界文学を読みほどこく』新潮選書、林文代編『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、デイヴィッド・ロッジ著 柴田元幸・斉藤兆史訳『小説の技巧』白水社、河合隼雄・松岡和子著『快読シェイクスピア増補版』ちくま文庫

留意事項

授業が始まるまでに、小笠原喜康著『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、あるいは澤田昭夫著『論文の書き方』講談社学術文庫、に目を通しておくこと。課題のレポート提出は期日厳守。遅れた場合には受け付け不可。

基幹科目〈言語文化科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばの意味・文化			13417		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
服部 幸正	必修	2				

授業の到達目標

国際化とかグローバル化という波が我々日本人の生活にも押し寄せていることをみなさんも実感していることと思う。授業では「ことばの意味・文化」の視点から、異文化理解へのアプローチの一端を学び、他文化への関心を深める一助としたい。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を考える。

授業の概要

英文のテキストを使って授業をする。しかし、英文講義のクラスではないので、英文の読解力強化や向上が第一の目的ではない。目的はテキストの著者が「ことばの意味・文化」について、何を主張しようとしているのかを読み取り、その内容を議論することである。教師主体の講義形式ではなく学生主体の演習形式で授業を行う。

授業計画

1. Language Supports Culture
2. Expressing Our Cultural Identity
3. Language Takes Us Beyond Our Culture
4. Social Harmony
5. Soothing Language
6. Language Complicates Culture
7. Social Discrimination And Language
8. Language Threatens Culture
9. The Threat Of English
10. Linguistic Arrogance
11. Linguistic Imperialism
12. Language And Culture In The 21st Century
13. Language For Everyone
14. Balancing Language(s) And Culture(s)
15. English Education In The 21st Century

授業の方法

学生主体の演習形式の授業方法をとるので、クラスでは各人指示された自分の責任を果たしてほしい。これはKAISEIパーソナリティE(倫理)を養うことにもなる。

準備学修

日本語と日本文化についての本を読むことをすすめる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席して授業に参加することを評価する。

テキスト

LANGUAGE and CULTURE in the 21st CENTURY by Joan McConnell SEIBIDO

参考図書

授業中に紹介する。

留意事項

授業中に指示する。

教員連絡先

yyhattori1106@yahoo.co.jp

基幹科目〈言語文化科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Japanese Culture			13425		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Tina D. MATHERS	選択	2				

授業の到達目標

Students will develop a sense of Internationality in this course.

授業の概要

Students will learn how to share their culture with the international community.

授業計画

1. Unit 1
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 2
5. Unit 3
6. Unit 3
7. Unit 4
8. Unit 4
9. Unit 5
10. Unit 5
11. Unit 6
12. Unit 6
13. Unit 7
14. Unit 7
15. Review

授業の方法

Students will write articles about various aspects of Japanese culture for a class blog.

準備学修

Students must have access to a personal computer and an email address.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

This is Japan, Simon Capper, Macmillan

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光概論			13426		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
北川 宗忠	選択	2				

授業の到達目標

キーワード：「観光とは」「観光の展開（観光史）」「観光の背景（観光文化）」
観光交流時代を迎えて、国際的に「観光」の認識が高まっている。この授業では「観光立国」を目指すわが国の現状理解と、観光史・観光文化地理など「観光学」に関する基本的なことを学習する。この授業では、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養います。（開講時期は「秋学期」）

授業の概要

この授業では、国際人として訪日する外国人観光客にも対応できるわが国の「観光事情」をさまざまな角度から歴史的、文化的に学ぶこととする。内容は、「物見遊山」から「観光旅行」に関わるわが国の観光事情の流れを学ぶこと、「観光sightseeing」から「観光tourism」への認識をさらに深めることで、「国際観光交流時代」に生きる基礎学力を高める。

授業計画

1. 観光とは
2. 国内観光交流の現状
3. 国際観光交流の現状
4. 「交流」の発展と観光
5. 「旅」の発展と観光
6. 「めぐり」と「もうで」（周遊型観光の発展）
7. 「まち」のにぎわいと観光
8. 「遊覧」と観光
9. 「遊覧」と観光
10. 「遊覧」と観光
11. 「温泉」と観光
12. 「食」と観光
13. 「みやげ」と観光
14. 国際交流時代の「観光」
15. 「観光概論」のまとめ

授業の方法

テキストに添って進める。OHCを使用して板書、ビデオ学習、小レポートを課す。

準備学修

テキストに従って進めるので、事前によく読んでおくと成果が上がる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点（出席・課題評価・小レポート）が50%あるので、欠席が多いとこの評価が低くなり、定期試験の成績が良くても授業評価が得られなくなる可能性があるので充分注意しておくこと

テキスト

「観光・旅の文化」北川宗忠著 ミネルヴァ書房

参考図書

「観光・旅行用語辞典」北川宗忠編著 ミネルヴァ書房

教員連絡先

kitagawa@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際観光交流論			13427		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標
 観光先進国フランスを学ぶことにより日本の観光行政、観光資源・宿泊・交通・見本市・国際会議場・エンタテインメントなどの各インフラの問題点を探る。
 国際観光機関や国土交通省の観光のデータをもとにフランス、イタリヤ、スペイン、アメリカなどの先進事例を研究し日本の現状と今後の進むべき方向を考える。

授業の概要
 このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養います。視座をフランスに定め日本の観光資源・観光行政・観光産業を俯瞰する。
 世界観光機構(UNWTO)、OECDなどの客観的データを基に日本の観光政策、国際観光、Two-way Tourismの意味、Outbound, inboundの健全なバランス、Tourism Exchangeの実例、国際交流の意義を理解する。

授業計画

1. 国際観光交流論概要、シラバス概要、教科書、評価方法
2. 観光立国の実現、日本の観光政策、現状と今後の方向
3. 観光大国フランスから学ぶこと。日本の観光庁とJNTOの取り組みについて。
4. 外国人からみた日本の魅力と改善点。
5. パカンス観、先進国の余暇事情、日本の余暇事情
ヨーロッパ先進国並みのパカンスが取れない日本にながでできるか。
6. 観光交流とはなにか。国内、海外、交流の形態、交流の意義日本の観光政策
7. ホスピタリティ(おもてなし)のあり方
8. 観光交流の場、日本の国際交流、過去のとりくみ
9. マルチメディアとツーリズム、日本の国際交流、現状と今後の方向
10. 国際観光交流と観光産業、イベント・コンベンション事業、Two-way tourism
11. 国際観光交流と観光産業、旅行業、宿泊業、輸送業、国際会議場
12. ケーススタディ、世界の国際交流 クラブメッド
13. ケーススタディ、世界の国際交流 フランスのキャンピング

14. ケーススタディ、世界の国際交流 音楽祭、映画祭、フェスティバル
 15. 国際観光交流論のまとめ

授業の方法
 教科書は最初に一読しておくことが必須。国際性を養うため海外から日本を見るスタンスでシラバスの各テーマについて考える。

準備学修
 各種メディアを通じて日ごろから世界や日本の動きなど情報収集すると楽しく学ぶことができる。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 止むを得ない欠席以外は認めない。

テキスト
 観光大国フランスーゆとりとパカンスの仕組みー(現代図書)青木幹生著
 教室で直接販売する。割引価格2000円

参考図書
 「平成23、24、25年度版観光白書」国土交通省編
 「やさしい国際観光」財団法人国際観光サービスセンター、岐部武、原 祥隆著

留意事項
 各自が見聞きした情報を教室で発表してもらうことを歓迎する。双方向の美りある授業を目指したい。

教員連絡先
 aokimikio@aol.com

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
手話コミュニケーション			13428		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
若生 茂嗣/岩橋 博子	選択	1				

授業の到達目標
 ・外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
 ・聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
 ・手話で自己紹介が出来るようになる
 ・簡単な会話ができるようになる
 このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)を養う。

授業の概要
 ・音声言語と視覚言語の違いを理解する。
 ・手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
 ・聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
 ・聴覚障害者の聞こえのしくみと制度を学ぶ。
 ・手話で自己紹介する。
 ・基本的な会話手話を習得する。
 ・レクリエーション

授業計画

1. オリエンテーション「聞こえないこととは「コミュニケーションとは」/手話表現/指文字
2. 実技(伝え合ってみよう)
3. DVD映画「ゆずり葉」鑑賞
4. 実技(名前)
5. 聴覚障害者の課題1
6. 実技(趣味)
7. 実技(仕事)
8. 聴覚障害者の課題2
9. 実技(家族)
10. 実技(地図1)
11. 聴覚障害者の課題3
12. 実技(地図2)
13. 実技(自己紹介しましょう)
14. 実技試験
15. まとめ

授業の方法
 DVDを使って進める。
 視覚的ゲーム
 手話実技・講義

準備学修
 単語学習

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 校規に従う。

テキスト
 手話を学ぼう・手話で話そう

参考図書
 日本語・手話辞典

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
手話コミュニケーション			13429		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
若生 茂嗣 / 岩橋 博子	選択	1				

授業の到達目標

- ・外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
 - ・聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
 - ・手話で会話ができるようにする。
 - ・講師の手話が理解でき、聴覚障害者と交流が出来るようにする
 - ・全国手話検定5級取得
- このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)を養う。

授業の概要

- ・音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
- ・聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・手話の基本的な会話を習得する。
- ・障害者福祉の基礎を学ぶ。
- ・レクリエーション

授業計画

1. 春学期の復習(夏休みの報告)
2. 実技 1日のこと)
3. 実技 1ヶ月のこと)
4. 聴覚障害者の課題 4
5. 実技 1年のこと)
6. 実技 行事のお知らせ)
7. 聴覚障害者の課題 5
8. 実技 会話してみましよう1)
9. 実技 会話してみましよう2)
10. 聴覚障害者の課題
11. 実技 会話してみましよう3)
12. 実技 応用編1)
13. 実技 応用編2)
14. 実技試験
15. まとめ

授業の方法

準備学修

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校規に従う。

テキスト

手話を学ぼう・手話で話そう

参考図書

日本語・手話辞典

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
環境ツーリズム論			13430		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標

近代になり産業文明の発達が同時に自然環境にも影響を与え、さらに地球規模での温暖化が進行している。この授業ではまず地球温暖化の原因とその影響を考察し、温暖化防止のための「京都議定書」の意義を考える。次に環境保全への取り組みの歴史を考え、ツーリズム分野で近年世界各地で環境保全を保全する「持続可能なツーリズム」が実践されて来た事を代表的な事例を参考に理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

まず現在の地球温暖化傾向の原因を理解しながら、これまでの世界的な環境保全運動と国連会議で採択された「持続可能な開発」即ちサステイナブル・デベロップメントの基本概念を理解する。これを受けて世界各地で環境保全と観光の視点から新たなツーリズム、即ちエコツーリズムに代表される持続可能なツーリズムが実践されていることを紹介する。その代表的な国別の事例を課題研究し発表する時間も設ける。

授業計画

1. ガイダンス
2. 地球温暖化と京都議定書
3. 地球環境保全へのなごれ、その1
4. 地球環境保全へのなごれ、その2
5. アメリカの自然保護と国立公園制度
6. イギリスのナショナルトラスト運動
7. イギリスのナショナルトラストを訪ねる
8. エコツーリズムとエコツアー
9. 日本におけるエコツーリズム その1
10. 日本におけるエコツーリズム その2
11. 環境ツーリズムの先進事例研究 その1
12. 環境ツーリズムの先進事例研究 その2
13. 環境ツーリズムの先進事例研究 その3
14. 環境ツーリズムの先進事例研究 その4
15. 環境ツーリズムのまとめ

授業の方法

先進事例はエコツーリズムの観点から学生が国別に課題研究し発表

を行う。

準備学修

エコツーリズムや地球温暖化についてポスト京都議定書の動向などの新聞報道にも注目しておく事。エコツーリズムに関する参考図書をあらかじめ伝えるので8回目の講義までに読んで出席する事。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別の理由のない欠席は1回につき5点減点する。

テキスト

特に指定しない。随時プリントを配布する。講義内容によりDVDなどで映像でも紹介する。

参考図書

『観光学入門』 岡本伸之著 有斐閣アルマ、『ナショナル・トラスト(新版)』 木原啓吉著 三省堂、『エコツーリズムってなに?』 小林寛子著 河出書房新社、『アメリカの環境保護運動』 岡島成之著 岩波新書

留意事項

普段から環境問題に意識を持ちエコロジーについて考える習慣を持つ事。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光事業総論			13431		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標
 観光の全体像を理解し観光事業におけるリレーションを把握する。将来観光関連産業に興味を持つ学生にとっては履修が不可欠である。全体像を理解した上で、より専門知識の習得を目指す。このクラスはKAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を目指します。

授業の概要
 観光とは何か。その成り立ちと観光を具体的に解説する。国家戦略としての観光事業を法律と行政面から理解します。観光を支える宿泊業、旅行業、航空業、鉄道について学びます。

授業計画

1. ガイダンス
2. 観光と観光事業
3. 観光立国と観光政策
4. 国内観光振興事業
5. 国際観光事業
6. イベントコンベンション事業
7. イベントコンベンション事業
8. テーマパーク事業
9. テーマパーク事業
10. 旅行事業
11. 旅行事業
12. ホテル・旅館事業
13. ホテル・旅館事業
14. 航空運送事業・鉄道事業
15. まとめ

授業の方法
 授業はパワーポイントを用いて進められる。また、クラスをグループに分け課題に取り組み発表し、学生によるディスカッションを行います。

準備学修
 講義毎に図書館で購読されている旅行関連の雑誌等を紹介し、受講生は事前学習として読むこと。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 平常点から欠席数を減点とします。

テキスト
 「現代の観光事業」ミネルヴァ書房

教員連絡先
 ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光と世界遺産			13432		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標
 近年になり世界中で環境と開発の両立が求められ、観光の分野に於いても「持続可能な観光」の方針が打ち出された。一方では世界遺産登録後の観光客の増加が深刻な環境問題を起こしている例や紛争で危機的な状況にある世界遺産もある。今や国際観光の中心的存在である世界遺産をいかに保全し、同時に観光との両立をはかっているのか、日本と世界の主要な世界遺産を事例に取り上げ理解することを目標とする。また学内で実施する世界遺産検定合格も目標の一つにしている。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
 現在、世界には1000以上の世界遺産が登録されている。日本では一昨年「富士山」、昨年は「富岡製糸場と絹産業遺産群」と2年連続で世界文化遺産に登録され、現在登録数は18になった。この授業では世界遺産の意義から登録までの過程、世界遺産の国別の分布を危機遺産を含め確認する。その上で特に人気のある観光資源としての世界遺産を環境保全との両立を図る視点から考察する。また幾つかの世界遺産については国別に各自が調べ事例発表する時間を設ける。

授業計画

1. ガイダンス・観光資源として人気の世界遺産の紹介
2. 世界遺産条約と世界遺産登録の仕組み
3. 世界遺産登録後の日本の観光事例
4. 世界遺産登録後の海外の観光事例
5. 日本の世界遺産(文化遺産)
6. 日本の世界遺産(自然遺産)
7. 日本の世界遺産(複合遺産)
8. 海外の顕著な世界遺産 その1
9. 海外の顕著な世界遺産 その2
10. 海外の顕著な世界遺産を調べる その1
11. 海外の顕著な世界遺産を調べる その2
12. 海外の顕著な世界遺産の事例発表
13. 巡礼と世界遺産
14. エコツーリズムと世界遺産
15. 危機遺産と課題・まとめ

授業の方法
 顕著な世界遺産を各自が選び、事例研究として発表する機会を取り入れる。

準備学修
 各自が事例研究発表する世界遺産について調べる。世界遺産のニュース、新聞記事などには日頃から注目し、観光との関わりを常に考えておく。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 特別理由のない欠席は1回につき5点減点する。その他は学則に準じる。

テキスト
 『はじめて学ぶ世界遺産100、世界遺産検定3級公式テキスト』
 NPO法人世界遺産アカデミー（最新版）

参考図書
 『世界遺産年報（各年次）』、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
 『死ぬまでに絶対行きたい世界遺産300』 小林克己 PHP

留意事項
 新規登録物件を含め日頃から世界遺産のニュースには特に留意すること。

教員連絡先
 arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光文化地理論			13433		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫	選択	2				

授業の到達目標

海外旅行地理の基礎と海外の国々の観光と文化に関する知識を学び、このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自立)とIn(国際性)を養います。

授業の概要

海外の国々を、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニア、太平洋の島、中東、アフリカに分けて、世界の国、都市、地域、島、観光ポイントなどの必修知識を学習する。また同時にインターネットの関連サイトで地図や写真などのビジュアルから現地情報を学習する。

授業計画

1. 「世界の地勢」1 大陸と大洋 2 各地域の地勢
2. 「アジア」韓国 台湾 中国
3. 「アジア」香港 マカオ フィリピン
4. 「アジア」ベトナム カンボジア マレーシア
5. 「アジア」シンガポール インドネシア タイ インド ネパール
6. 「ヨーロッパ」イギリス、オランダ、ベルギー
7. 「ヨーロッパ」北欧4国 ドイツ
8. 「ヨーロッパ」スイス オーストリア フランス
9. 「ヨーロッパ」イタリア スペイン ポルトガル ギリシャ
10. 「ヨーロッパ」チェコ ハンガリー ポーランド ロシア連邦
11. 「南北アメリカ」アメリカ ハワイ
12. 「南北アメリカ」カナダ メキシコ キューバ パナマ ベルギー ブラジル アルゼンチン
13. 「オセアニア」太平洋の島 オーストラリア ニューゼaland グアム サイパン 南太平洋の島々
14. 「中東 アフリカ」トルコ イスラエル エジプト ケニア タンザニア
15. 「総括」世界の都市・観光 祭り イベント 伝統工芸

授業の方法

学習内容とリンクして、インターネットの関連サイトで地図や写真などのビジュアルを通して現地情報を学習する。

準備学修

事前に指示された箇所を予習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は減点の対象とする。

テキスト

『すぐに役立つ海外地理ベーシック400』JTB総合研究所

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

alohasam@y7.dion.ne.jp

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光ビジネス実務論			13434		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理 / 一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

この授業では観光ビジネスの中核をなす3つの業界である旅行業界、ホテル業界、航空業界での実務に必要な基本用語、業界の常識などを解説する。観光立国を目指すこれからの日本の観光業界で活躍するための基礎を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

3つの観光関連業界を2名の教員が担当し解説する。それぞれの業界の仕組み、基本用語、業務の流れ、業界の常識などを中心に学習する。内容によりテキストやDVDなどの映像も使用し理解を深め、観光ビジネスの基本的な仕事の流れと観光業界の基礎知識を学ぶ。

授業計画

1. 講義概要とガイダンス
2. 旅行業の実務(国内旅行 その1)
3. 旅行業の実務(国内旅行 その2)
4. 旅行業の実務(海外旅行 その1)
5. 旅行業の実務(海外旅行 その2)
6. ホテルの実務・フロント業務
7. ホテルの実務・フロント業務
8. ホテルの実務・フロントサービス業務
9. ホテルの実務・ハウスキーピング業務
10. ホテルの実務・ハウスキーピング業務・まとめ
11. 航空業界の仕組みと基礎知識
12. 航空業界の実務とサービス
13. エアポートの実務 その1
14. エアポートの実務 その2
15. エアポートの実務 その3・まとめ

授業の方法

二人の教員が3つの業界を分担しそれぞれ解説する。学生は課題に対してグループで討議し、発表する時間を取り入れる。

準備学修

旅行業界・ホテル業界・航空業界の最新ニュースや新聞記事に日頃から注意をし関心をもつ事。授業予定範囲を予め伝えるので授業前に指定テキストを読み内容を把握しておく事。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

理由のない欠席は1回につき5点減点する。また1つの業界での授業において3回の欠席は履修単位を与えない。その他、学則に準じる。

テキスト

旅行業界は適宜プリントを配布する。
ホテル業界は『ホテルの基本サービス・フロント編』・『ホテルの基本サービス・ハウスキーピング編』(日本ホテル協会発行)をテキストとする。
航空業界は『エアポートビジネス入門(第2版)』(株)ジェイティービー能力開発

参考図書

『観光概論』・『旅行業概説』(いずれもジェイティービー能力開発)、『よくわかる航空業界』(日本実業出版社)

留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つ。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語入門			13435		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
宋京珠	選択	2				

授業の到達目標
 韓国語入門 では、初めて韓国語を学習する学生が、ハングル（韓国語を表現する文字）及び韓国語の文型と語彙を習い、それを活用して簡単な日常会話が可能になることを授業の目標とする。この授業では「K A I S E E I パーソナリティ」のA（自律）とI n（国際性）を養います。

授業の概要
 学生の自主参加により、学生の韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「課題の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。更に、授業では現在の韓国の横顔についても紹介する。

授業計画

1. 授業の概要説明と韓国語についての基本的な説明（「ハングルで自分の名前を書こう！」）
2. ハングルの基本母音について
3. ハングルの基本子音について
4. ハングルの合成母音(複合母音)について
5. ハングルのパッチムについて
6. ハングルの基本のまとめ
7. 辞典の引き方、発音変化について、『中間テスト』
8. 会話中心の基本表現-1:『～は、～です。』表現を中心に
9. 会話中心の基本表現-2:『～が、～ですか?』表現を中心に
10. 会話中心の基本表現-3:『～ではありません。～ではありませんか?』表現を中心に
11. 会話中心の基本表現-4:『～います/あります。いません/ありません。』表現を中心に
12. 会話中心の基本表現-5:『～します/しますか? 何?』表現を中心に
13. 会話中心の基本表現-6:『～へヨ体(します/しますか?/あります/ありません)』表現を中心に
14. 場面会話演習
15. 授業のまとめ

授業の方法
 出席重視。補助資料視聴（DVD映像など）。ペアでの会話練習。

準備学修
 テキストの予習

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 平常点で出欠状況を考慮するので、欠席回数が多い程、最終成績が低減されます。

テキスト
 基礎から学ぶ韓国語講座・初級（改訂版） / 木内明 著 / 国書刊行会

留意事項
 授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること（反復練習は重要）。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語入門			13436		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
宋京珠	選択	2				

授業の到達目標
 韓国語入門 では、同入門 で学習した内容を踏まえた上で、更に韓国語の表現方法を学習し、韓国語によるコミュニケーション力を高めつつ、一方で一般雑誌の記事が読めるようになることを授業の目標とする。この授業では「K A I S E E I パーソナリティ」のA（自律）とI n（国際性）を養います。

授業の概要
 学生の自主参加により、学生の韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「学習表現の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、更に雑誌記事などを副教材に用いながら実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. 韓国語入門 の復習、会話中心の基本表現-7:『ハムニダ体～です/ます』表現を中心に(1/2)
2. 会話中心の基本表現-7:『ハムニダ体～です/ます』表現を中心に(2/2)
3. 会話中心の基本表現-8:『～へヨ体:～です/ます』表現を中心に
4. 会話中心の基本表現-9:『～へヨ体:～です』漢数詞』表現を中心に
5. 会話中心の基本表現-10:『固有数詞』漢数詞と固有数詞の比較練習』を中心に
6. 会話中心の基本表現-11:『敬語』～へヨ体敬語』敬語の特殊例』表現を中心に
7. 会話中心の基本表現-12:『用言の否定』～するといひです』表現を中心に
8. 『中間テスト』会話中心の基本表現-13:『過去』表現を中心に
9. 会話中心の基本表現-14:『～しましょう/～しよう/何の～』表現を中心に
10. 会話中心の基本表現-15:『～しています/～してください(1)』表現を中心に
11. 会話中心の基本表現-16:『～できる/～できない』表現を中心に
12. 会話中心の基本表現-17:『～したい/～してください(2)』表現を中心に
13. 会話中心の基本表現-18:『～してもいい/～しないでください』

表現を中心に

14. 会話中心の基本表現-19:『～しなければならない』意志をこめる』表現を中心に
15. 会話中心の基本表現-20:『～と思います/～するつもりです』表現を中心に』授業のまとめ』

授業の方法
 出席重視。補助資料視聴（DVD映像など）。ペアでの会話練習。

準備学修
 韓国語入門 （または韓国語学習経験者）、テキストの予習

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 平常点で出欠状況を考慮するので、欠席回数が多い程、最終成績が低減されます。

テキスト
 基礎から学ぶ韓国語講座・初級（改訂版） / 木内明 著 / 国書刊行会

留意事項
 授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること（反復練習は重要）。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究		13440		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
一尾 敏正 / 有村 理	選択	2			

授業の到達目標

戦後、日本は高度成長を続けた。今や世界を代表する企業も多数存在する。社会はグローバルになっていく。企業が生まれ、成長し、発展する。企業は何のために存在し、誰のために活動するのか。今、企業が問われる社会的責任や社会貢献など営利目的以外にも焦点を当て企業を理解し、社会を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティの(A)自律と(In)国際性を養います。

授業の概要

企業をより深く知ることから始まる。企業とは何か。企業が生き残るために何が必要なのか。成長分野であるのか。差別化はできているのかなどをポイントに講義は展開される。対象は国内企業である。講義の主な業種はホスピタリティ産業である。同業種や他産業の比較の中で企業の姿を明らかにしていく。企業だけでなく業界研究も講義の内容に含まれる。

授業計画

1. ガイダンス
2. 事例研究 (航空業・運輸業など)
3. 事例研究
4. 事例研究
5. 事例研究
6. 事例研究
7. 事例研究
8. 事例研究・まとめ
9. 事例研究 (宿泊産業・飲食業など)
10. 事例研究
11. 事例研究
12. 事例研究
13. 事例研究
14. 事例研究
15. 事例研究・まとめ

授業の方法

企業研究は2名の教員によって行われる。講義と学生の発表とで構成される。自ら調べ、まとめ、発表する。

準備学修

事前学習として日経新聞をよむこと。テキストを事前に読み予習すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は平常点に反映する。

テキスト

日経業界地図 (日本経済新聞出版社)

参考図書

会社四季報

留意事項

適宜アドバイスする。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp
arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海外ツーリズム研修		13445		集	
担当者名	区分	単位	特記事項		
有村 理ノ一尾 敏正	選択	2			

授業の到達目標

海外ツーリズム研修では以下の4点を現地体験することを目標とする。

1. 訪問地での観光資源（特に世界遺産）と宿泊施設の視察、環境保全型のツーリズムを体験する。
2. 海外支店業務をJTB支店での業務視察で把握し、現地ツーリズムの概要を学ぶ。
3. グループワーク課題を実践し、合わせて現地での異文化を体験する。
4. 実際の海外旅行行程で添乗員業務、グループの行程管理などの実務を体験する。

このクラスではKAISEI パーソナリティのA（自律）、S（奉仕）、In（国際性）を養う。

授業の概要

1年次と2年次に履修した観光の基礎知識と異文化理解を基に、2年次の春休みを利用して観光先進国であるオーストラリアまたはシンガポール・クアラルンプールを実際に訪ね、自然環境保全型のツーリズムと都市型の観光形態の違いを学ぶ。現地ではJTB支店の協力を得ながらそれぞれの観光資源、異文化体験、ホテル視察、インバウンド観光、現地企業の実情視察などを行う。また現地ではグループワークを実践し参加者は役割分担によって添乗員業務、行程管理などの実務も経験する。

授業計画

1. オリエンテーション・事前準備の確認
2. 事前研修・訪問国のツーリズム・JTB支店の海外組織と役割
3. 事前研修・訪問国の世界遺産と地域研究
4. 事前研修・グループワークの準備
5. 事前研修・グループワークの準備
6. 海外実地研修 1日目：関空 - 第一研修地
7. 海外実地研修 2日目：第一研修地での活動
8. 海外実地研修 3日目：第一研修地での活動
9. 海外実地研修 4日目：第一研修地での活動
10. 海外実地研修 5日目：研修地の移動
11. 海外実地研修 6日目：第二研修地での活動
12. 海外実地研修 7日目：第二研修地 - 関空の移動
13. 現地でのグループワーク事後発表の準備
14. 現地でのグループワーク事後発表
15. 総括

授業の方法

海外ツーリズム研修前に訪問地の自然、文化、観光資源などを事前研究する。また現地ではグループワーク課題を実践し、併せて添乗員業務・行程管理などの実務を体験する。

準備学修

訪問地の自然、文化、観光資源、地域研究を政府、州観光局の情報と観光資料、インターネットを利用し調査し準備する。また現地でのグループワーク課題を準備する。

課題・評価方法

事前研修への出席・グループワークの準備・研修中の態度・協調性・課題の達成度と事後研修発表の成果を総合して評価する。

欠席について

参加登録者は研修旅行については突発的で正当な事由がない

限り不参加はできない。

事前研修は参加登録者全員が受講の事。

テキスト

JTB配布資料を参考にする。その他は関連事項をインターネットで調べる。

参考図書

事前研修時に適宜指示する。

留意事項

研修中は参加者全員が各自の役割分担に責任を持ちグループ行動が円滑に遂行されるように協力を求める態度が求められる。諸般の事情で研修先はオーストラリアまたはシンガポール・クアラルンプールのどちらかになる事がある。また最低催行人員の規定が適用されることがある。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp
ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	ET	13501		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子 / 箕野 聡子	選択	2			

授業の到達目標

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。（福智）

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とIn（国際性）とを養います。（箕野）

授業の概要

（日本児童文学）近代の児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。その近代児童文学が現代児童文学に与えた影響を読み取っていく。（福智）

（西洋児童文学）児童文学には感性を育む豊かな想像の世界が広がっている。リズムカルな伝承詩・ナーサリーライム（マザーグース）、児童が主人公として体験できる夢と冒険のファンタジーの世界、歴史小説としても価値のある日常・家族を描いた作品などを取り上げる。（箕野）

授業計画

1. 巖谷小波「日本昔噺其一 桃太郎」と芥川龍之介の「桃太郎」（箕野）
2. 小川未明「赤い蠟燭と人魚」とディズニーの「リトルマーメイド」（箕野）
3. 浜田広介「泣いた赤鬼」とあまみきみこ「おにたのぼうし」（箕野）
4. 宮沢賢治「注文の多い料理店」と木村裕一「あらしのよるに」（箕野）
5. 千葉省三「拾った神様」と映画「憑神」（箕野）
6. 坪田謙治「河童のはなし」と映画「河童のクウと夏休み」（箕野）
7. 椋鳩十「山の太郎熊」と斉藤洋「ルドルフ ともだち ひとりだち」（箕野）
8. 松谷みよ子「貝になった子供の話」と「わたしのいもうと」（箕野）
9. 日常に生きている伝承唄・ナーサリー・ライム（マザーグース）の世界（福智）
10. エリック・カール「ブラウン・ベア」の絵本の世界（福智）
11. マーク・トウェイン「トムソーヤとハックルベリ・フィン」の冒険の世界（福智）
12. ローラ・インガルス・ワイルダー「大草原の小さな家」少女が見た開拓者生活（福智）
13. ジョナサン・スウィフト「ガリバー旅行記」（福智）
14. アントワーヌ・ド・サン・テグジュペリ「星の王子様」（福智）
15. ミヒャエル・エンデ「はてしない物語」（福智）

授業の方法

児童文学とされている作品の内容、作者と社会の背景などを理解し、その価値などを他者に自ら発信する。（福智）
作品の講読と関係資料映像の鑑賞が中心となる。（箕野）

準備学修

作品をあらかじめ読んでおくこと。未読の本に関しては、図書館等で借りておくこと。（福智）
作品をあらかじめ読んでおくこと。毎回、前回の授業内容をまとめた小レポートの提出を課す。（箕野）

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う。

テキスト

大藤幹夫『展望日本の児童文学』（双文社）（箕野）
本田英明、桂宿子、小峰和子『英米児童文学』（ミネルヴァ書房）（福智）

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp（福智）

mino@kasei.ac.jp（箕野）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Cross-cultural Communication		13505		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	選択	2			

授業の到達目標

Students will develop a sense of Internationality in this course.

授業の概要

Students will have a greater understanding and insight into how different cultures communicate.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Review and Prepare Final Project
15. Review

授業の方法

Students will work in pairs and groups.

準備学修

Familiarize yourself with the course material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected

for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

This is Culture by Asako Kajiura and Gregory Goodmacher Nan'Un Do

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

展開科目〈国際教養科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
English/American Culture		13513		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Kevin MUNSON	選択	2			

授業の到達目標

This course will develop a sense of Internationality.

授業の概要

Students will gain a better understanding and insight into American culture through an analysis of several films in American cinema.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Review and Prepare Final Project
15. Review and Prepare Final Project

授業の方法

Students will work in pairs and groups.

準備学修

Familiarize yourself with the course material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

American Society in Focus by Hiromi Akimoto Macmillan

教員連絡先

munson@kaisei.ac.jp

展開科目〈国際教養科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学研究		13521		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
惣谷 美智子	選択	2			

授業の到達目標

対立概念とは、たとえばフランスの文学者ロラン・バルトの言葉を借りれば、「意味のスペクタクル」を展開しうる重要なものであるが、講義においては、「小説」という、もっともポピュラーな文学形態に巧妙に仕込まれた、そうした対比の構造を通して、文学を読み解く方法を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性、国際性）と E（倫理）を考える。

授業の概要

授業では、英文学を代表するジェイン・オースティンのシンデレラ・アーキタイプの小説『分別と多感』を取り上げて研究する。この小説は、「分別」(sense)をもつ理性的な姉と、「多感」(sensitivity)気質で、感受性の強い妹という、好対照をなす姉妹の恋愛を核にしているが、授業では文学を通して古くて新しいテーマである「理性」と「感情」の対立について、また、自己に誠実に、真摯に生きるとはどういうことなのか等について考えてみる。この講義に併行してRapid Readingの訓練も行う。またこの小説のCD、DVDも用いて「読み、聴き、話す、書く」の英語の4分野のスキルを養成する。

授業計画

1. 総論
2. 「対立」の時代的文化的背景
3. Jane Austen and *Sense and Sensibility*
4. Introduction
5. The language of Jane Austen's time
6. People and places
7. Love or money?
8. The London season
9. Rapid Reading (1) 研究発表
10. Rapid Reading (2) 研究発表
11. Rapid Reading (3) 研究発表
12. Rapid Reading (4) 研究発表
13. オースティンの心理的リアリズム
14. 『分別と多感』の意味
15. まとめ 文学における「対立」の構図

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学修

講義では、レポート課題もあるので、日ごろから自己表現、日本語表現力を磨いておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席重視。一貫性を持った授業であるので、毎回、必ず出席すること。出席は平常点として評価する。

テキスト

Jane Austen, *Sense and Sensibility* CD付. London: Mary Glasgow Magazines (Scholastic Ltd.)

参考図書

Sense and Sensibility (『分別と多感』)の翻訳書として、現在、入手可能なものは、以下の2点がある。
ジェイン・オースティン『知性と感性』工藤政司訳(近代文芸社)
ジェイン・オースティン『いつか晴れた日に』真野明裕訳(キネマ旬報社)
その他の参考図書については、授業で随時、指示する。

留意事項

授業で取り上げる『分別と多感』は、上の「参考図書」に記したような翻訳書があるので、できれば予め読んでおくこと。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
女性と社会		13525		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
浅井 由美	選択	2			

授業の到達目標

「ジェンダー論」の目標と同様に、ジェンダーの視点から現代社会の問題を読み解くことができるようにする。国内外の社会事象とその中に生きる女性について、総合的にとらえ、自分の意見をもつことができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養い、A（自律）やIn（国際性）を考える。

授業の概要

日本だけでなく海外も含めた女性に関する諸問題について、様々な研究分野の蓄積を学ぶ。社会的文化的性差・性別（ジェンダー）のもたらす現実や課題は、どのようにとらえられ解決されているか、解説する。そして、男女共同参画社会、少子高齢社会、国際化・情報化社会と女性の生き方について考える。

授業計画

1. 文化と歴史の中の女性
2. 女性のライフコース
3. 女性と教育
4. 女性と労働・女性のキャリア形成
5. 女性と結婚・離婚
6. 女性と出産・子育て
7. ワークライフバランス
8. 女性と暴力
9. 女性とメディア・表現
10. 女性と階層
11. 女性と加齢
12. 女性と病
13. 女性とケア
14. 女性と社会参画・社会政策
15. 女性と国際社会

授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

参考図書

内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書』
授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
American Studies in U.S.A.			13529		夏季	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	選択	4				

授業の到達目標

雄大なロッキー山脈のふもとにある緑豊かなアメリカのコロラド州立大学。細かくレベル別に分けられたクラスで英語を徹底的に学ぶ、同時に、寮生活やさまざまなアクティビティによる文化交流を通して実践的に英語を体得していくことを目標とする。

授業の概要

週約25時間の授業。通常授業の中に以下のような内容を含む。
 ・ Conversation Partner: Native speakerの学生をクラスに招き、ディスカッションを行う。
 ・ 卒業プロジェクト: グループごとに題材を決め、図書館や街でのリサーチをもとに発表する

授業の方法

現地教育担当者により、決定される。

準備学修

現地教育担当者により、決定される。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

現地教育担当者により、決定される。

留意事項

現地教育担当者が、reading, writing, communicationにおける能力を試験やinterview、授業内の活動などから総合的に評価する。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Australian Studies in Australia			13537		夏季	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	選択	4				

授業の到達目標

亜熱帯気候で冬も暖かく過ごやすく、かつ大自然が身近にあるオーストラリアの都市ブリスベンにあるグリフィス大学への短期留学により、英語を集中的に学習する。同時にアクティビティによる文化交流を通して実践的に英語を体得していくことを目標とする。

授業の概要

週約25時間の授業。希望者を対象に、授業おのない金曜の午後にはパーティ、ダンスレッスン、スポーツ、美術館訪問などのアクティビティが予定される。また、週末にもビーチ、テーマパークやハイキングへ行く遠足がある。

授業の方法

現地教育担当者によって決定される。

準備学修

現地教育担当者により、決定される。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

現地教育担当者により、決定される。

留意事項

現地教育担当者が、reading, writing, communicationにおける能力を試験やinterview、授業内の活動などから総合的に評価する。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Canadian Studies in Canada			13539		夏季	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	選択	4				

授業の到達目標

留学先はカナダ人の将来すみたい街第一位に選ばれ続けている、ブリティッシュ・コロンビア州バーノンにあるオカナガン・カレッジ。この大学は語学教育に実績があり、初級から上級まですべてのレベルで学習ができる。また、ボランティア活動など他大学にはないユニークなプログラムも含まれている。のどかな住宅地バーノンにて、カナダ人ファミリー宅に滞在し、カナダの大自然を体験しながら学習する。同時にアクティビティによる文化交流を通じて実践的に英語を体得していくことを目標とする。

授業の概要

週15時間の授業、5時間のオーラルプレゼンテーション、5時間のランゲージラボでの自習（インストラクターの補佐あり）、5時間のボランティアワーク。滞在中2回のフィールドトリップ（例：乗馬、農場・産業見学、ハイキング、ホッケー観戦など）が含まれている。

授業の方法

現地教育担当者により、決定される。

準備学修

現地教育担当者により、決定される。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

現地教育担当者により、決定される。

留意事項

現地教育担当者が、reading, writing, communicationにおける能力を、試験やinterview、授業内の活動などから総合的に評価する。

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English	ET		13605		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

ネイティブ・スピーカー吹き込みのCDまたはカセットを利用し実用的なオフィス英語、ビジネスコミュニケーションの基本を学ぶ。TOEIC受検対策としても有益である。

授業の概要

このクラスではKAISEIパーソナリティの国際性を養います。教科書の教材に加え英語のビジネスレターの読み書き、封筒の宛名の書き方、社内連絡のメモ・FAX、e-mail、サンプルレターのファイリングと活用方法、レジュメ、カバーレターの書き方、など基本的なことを学ぶ。またあわせて社会、企業での常識、習慣、ビジネスで使われる日本語についても学ぶ。

授業計画

1. 講義概要、評価方法、教科書、シラバス(講義計画) ビジネスイングリッシュとは何か。
2. Unit 1 Job Hunting(1) Writing a resume
3. Unit 2 Job Hunting(2) Writing an application letter
4. Unit 3 Job Hunting(3) Arranging an interview
5. Unit 4 Job Hunting(4) A job interview
6. Unit 5 Job offer
7. Unit 6 The first day at work
8. Unit 7 Preparing to work
9. Unit 8 Telephoning(1) Answering
10. Unit 9 Telephoning(2) Taking a message
11. Unit 10 Telephoning(3) Making an appointment
12. Unit 11 Visiting a client
13. Unit 12 Receiving a visitor (1) Preparation
14. Unit 13 Receiving a visitor (2) Meeting at Narita Airport
15. Unit 14 Receiving a visitor (3) A business lunch

授業の方法

各ユニットともCDまたはカセット活用したりリスニング、語彙強化、標準的な会話のロールプレイ、書きとり、英訳などバランスよく4技能を修得する。

準備学修

毎回単語テストを行い、通常点として総合評価に反映する。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない場合以外の欠席は認めない。普通の授業に重きを置いているので、遅刻、欠席、不真面目は減点の対象となる。また毎回単語テストを行っているので欠席すると評価が下がる。

テキスト

Business Talkやさしいオフィス英語 成美堂 城由紀子、島田拓司、Edward J. Schaefer著

参考図書

「国際秘書英語」亀山和夫、成美堂「国際ビジネスコミュニケーション入門」亀山和夫、八尾晃共著、成美堂「英文履歴書の書き方」有元美津世 ザ・ジャパンタイムズ

留意事項

英語だけでなく社会で使われる正しい日本語も勉強するので目についた印刷物に書かれた表現についても普段から関心をもつこと。

教員連絡先

aokimikio@aol.com

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English	ET	13609		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
青木 幹生	選択	2			

授業の到達目標
このクラスではKAISEIパーソナリティの国際性を養います。グローバル社会といわれる今、日本企業といえども英語が必要になってきています。この授業を通じて社会、企業に必要な英語の基礎知識と基本的なコミュニケーションスキルを修得する。入社後、会社ですぐに役立つ実践英語の学習方法を修得する。

授業の概要
国際的な企業や外資系企業に入社したらどのようなか教科書の中で疑似体験することにより必要な知識、コミュニケーションスキルを修得する。

授業計画

1. 講義概要、教科書とシラバス概要、評価方法、
2. 英語での自己紹介(入社時、配属先)Introducing Yourself to a Business Colleague
3. 会議での自己紹介Making a Self-introduction at a Business Meeting
4. 取引先の方を同僚に紹介する Introducing Business Guests to Colleague
5. 留守番電話、Voice Mailに英語メッセージを入れる。Leaving a Message
6. 英語での電話対応、英文メモの書き方Leaving a Message by Phone
7. 出張、空港でのチェックイン Check-in at the Airport
8. 空港出入国手続き Getting through Immigration and Customs
9. ホテルチェックイン Settling into your Hotel
10. 会議でのコミュニケーションスキル Conducting a Business Meeting
11. 商用アポイントを取る Making Appointment with Customers
12. 同僚とのビジネスコミュニケーションMaking Small-Talk with Colleagues
13. ビジネスe-mailの書き方 Writing and Responding to Business-related E-Mails
14. インフォーマルなe-mailの書き方 Writing and Responding to an Informal E-Mails

15.まとめ

授業の方法
教科書には自習用のCDがついているのいるので各自予習、復習をすることが望ましい。授業中にわからないことは自由に質問できる。

準備学修
進むペースが速い(シラバス通り)ので予習・復習が必要。

課題・評価方法
平常点50%、定期試験50%

欠席について
止むを得ない欠席以外は認めない。

テキスト
「Business English as Usual」Todd Jay Leonard著、成美堂

参考図書
「最新ビジネス英語」成美堂、「国際ビジネスコミュニケーション」成美堂、「商業英語(国際ビジネスコミュニケーション)問題集」日本商工会議所

留意事項
国際企業、貿易商社、貿易、海上火災保険、銀行などに就職する学生に最適

教員連絡先
aokimikio@aol.com

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス翻訳		13621		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
榎本 雄三	選択	2			

授業の到達目標
文芸翻訳とは違う実務翻訳の特徴を理解し、ビジネス文書、業務資料、観光パンフレットなどの英文和訳および和文英訳ができるようになるための、訳文作成技術と背景知識を取得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を目指す。

授業の概要
和文英訳および英文和訳の技術を説明し、新聞や雑誌などの記事や実際のビジネス文書を使って演習を行う。翻訳に必要な背景知識の調査方法の習得も行う。

授業計画

1. 実務翻訳の特徴
2. 英文和訳の基本技術/自然な文章表現
3. 適語を探す/単語のニュアンスをつかんで訳す
4. 品詞の転換/無生物主語の処理
5. 順送りの訳、逆送りの訳
6. 分詞構文、関係詞構文、挿入構文
7. 長文の攻略
8. ライティングの3C/シンプリファイド・イングリッシュ
9. 和文英訳の基本技術/英文作成時のよくある間違い
10. 可算名詞、不可算名詞/定冠詞、不定冠詞/前置詞
11. 適語を探す/単語のニュアンスをつかんで訳す
12. 長い修飾語の処理
13. 無生物主語構文
14. 英文マニュアルの表現
15. 機械翻訳(翻訳ソフト)はビジネスレベルで使えるのか？

授業の方法
訳文作成実習と翻訳内容の検討を中心とする。

準備学修
パソコンを用いた文書作成およびインターネット検索ができること。電子メールが使えること。

課題・評価方法
平常点70%、最終レポート30%、試験は行わない。

欠席について
欠席した回も、その回の課題を提出すれば考慮する。

テキスト
特定のテキストを使用せず、英字新聞や英文雑誌などの記事を教材にする。

参考図書
The Elements of Style, Strunk and White, Longman Publishers
プロが教える基礎からの翻訳スキル、田辺希久子・光藤京子、三修社
翻訳の布石と定石、岡田信弘、三省堂

留意事項
ほぼ毎回課題を出すので、自分の訳文を作成して授業に臨むこと。授業計画の内容や順序は状況により変わることがある。

教員連絡先
yzkashimoto@hop.ocn.ne.jp

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際マネジメントと英語		13625		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
青木 幹生	選択	2			

授業の到達目標

このクラスではKAISEIパーソナリティの国際性を養います。グローバル化に伴い日本の国際企業の職場では外国人スタッフと仕事をしたり、海外支店の外国人スタッフと連絡が日常業務になったりしている。現在の企業はバイリンガル人材が求めている。この授業を通じて国際企業でも勤務できる語学能力と社会常識を学ぶ。

授業の概要

授業は英語で行う予定であるが学生の理解度を考慮し、日本語で補足することもある。TOEIC受検対策として開発されたCDを利用して練習する。TOEIC教材(750-800点目標)を使用するので過去問の傾向を把握することができる。

授業計画

1. 講義概要、シラバス説明、教科書について、評価方法
2. Airport Security
3. Weekend Activities
4. Ecology
5. Housing and Property
6. Health and Welfare
7. Communications
8. Careers and Employment
9. Office Procedures and Protocol
10. Current Events and Public Affairs
11. Marketing and Sales Campaigns
12. Complaints and Troubleshooting
13. Innovations and Technology
14. Interoffice Communications
15. Social Functions

授業の方法

TOEIC、STEP受検対策の実践的授業。CDを聞き4技能の向上を図る。

準備学修

教科書にはCDが付いているので予習、復習が望ましい。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業出席に重点をおいているので欠席すると大きな減点になる。試験での取り返しはできない。

テキスト

TOEIC Test: On Target Book2 (TOEIC TEST:オンターゲットブック2)南雲堂

留意事項

教科書にはCDがついているので自宅でも何回も聴くこと。

教員連絡先

aokimikio@aol.com

展開科目〈展開科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ1		13631		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
有村 理 / 一尾 敏正	選択	2			

授業の到達目標

観光関連企業(一般企業、団体)で就業体験をすることにより自己の適正を知り、職業観を築くことを目的とする。実際の現場経験で仕事、社会を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)とA(自律)を養う。

授業の概要

オリエンテーションから始まるインターンシップは事前研修と就業体験、事後研修の3部構成からなる。事前研修では外部から招へいする特別講師によるマナーや言葉遣いなど社会人として最低限必要な訓練を実施する。就業体験は夏期(夏休み)に実施される。インターンシップ先は大学指定企業・団体又は事前申請企業・団体(学生自ら企業・団体に申し込む)とする。インターンシップ実施期間は5日以上とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 事前研修 グループディスカッション(テーマ:インターンシップの意味)
3. 事前研修 グループディスカッション(テーマ:職場におけるコミュニケーション)
4. 事前研修 グループディスカッション(テーマ:働く)
5. 就職セミナー1の内容についてディスカッション
6. 就職セミナー2の内容についてディスカッション
7. 就職セミナー3の内容についてディスカッション
8. 就職セミナー4の内容についてディスカッション
9. 就職セミナー5の内容についてディスカッション
10. インターンシップ第1日
11. インターンシップ第2日
12. インターンシップ第3日
13. インターンシップ第4日
14. インターンシップ第5日
15. 事後レポート提出・成果発表

授業の方法

キャリアセンター主催の就職セミナーに必ず出席すること。グループディスカッションを中心に授業は進める。

準備学修

社会常識的なマナーの書籍を講読すること。実習先企業について調べレポートを提出すること。

課題・評価方法

平常点70%とレポート30%

欠席について

事前研修の欠席者は単位が認定されない。また、インターンシップ先が取り消されることがある。

テキスト

なし

参考図書

会社四季報など

留意事項

インターンシップ先は大学指定企業・団体又は学生自ら選択した企業・団体とする。但し、大学指定以外は事前申請が必要です。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp
ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童英語教育概論			13701		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標
 グローバル化に対応した英語教育改革が実施され、2020年度、小学校英語は教科化される。日本の小学校外国語（英語）教育を担う教員養成が必要とされている。本講義では、多言語・多文化社会の外国語教育の現状と、児童期からの外国語教育のあり方の理論を学び、将来の児童期外国語（英語）教育の指導者としての素養を育成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要
 授業では、これら諸問題に関する適切な文献を読んで、多言語多文化社会における他言語教育の意義と目的を考える。次に、教育現場での実践のあり方をふまえて、児童期からの学習者の特性、児童英語教育のあり方そのもの、児童の特性を活かした授業法の理論と実際を討議できるように指導する。

授業計画

1. ガイダンス
『世界の言語政策事情と日本の小学校英語活動の現状』
2. 児童期における第2言語教育(1)『ことばの習得VS.ことばの学習(学習者要因、指導者要因)』
3. 児童期における第2言語教育(2)
『イメージ・プログラムとバイリンガル教育』臨界期
4. ディベート(1)『イメージ・プログラムと児童期における第2言語教育のあり方』
5. ディベート(2)『イメージ・プログラムと児童期における第2言語教育のあり方』
6. 児童の特性を活かした授業法(1)『チャンツ・ライム・歌で知る英語のリズム』
7. 児童の特性を活かした授業法(2)『TPR、ゲームを活かした効果的な教授法』
8. 児童が楽しむ英語活動(1)『絵本・物語が育むことばの世界』
9. 児童が楽しむ英語活動(2)『スキット、ロールプレイングで体験することばの使用を楽しむ活動』
10. 児童が楽しむ英語活動(3)『文字を楽しむ指導法』
11. 児童が興味を持って取り組む活動(1)『タスク型、プロジェクト型英語活動』
12. 児童が興味を持って取り組む活動(2)『クリル学習法研究』

13. 児童期英語教育のゴールと4技能の到達点「年間カリキュラム作成」
14. 評価の在り方「指導目標、年間カリキュラム、授業、評価目標と評価の一体化」
15. まとめ「ポートフォリオ作成」

授業の方法
 理論を理解し、ディベート、プレゼンテーションなどで、主体的・創造的に理論を実践に活かす方法を発信する。

準備学修
 各回の課題について調べ、レポートを仕上げる。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 規定に従う。必ず出席し、討議に参加すること

テキスト
 ハンドアウト配布

参考図書
 アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

教員連絡先
 fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法			13705		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標
 中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力を向上させながら、第二言語習得のプロセスや運用のメカニズムに関する基礎知識を学ぶ。このクラスでは、KaiseiパーソナリティのK(思いやり)、I(知性、国際性)、E(倫理)を学ぶ。

授業の概要
 教師にとってもっとも重要なのは、自分に与えられた実際の「教育の場」という現実から最善の方策を生み出す能力であると思われるが、そのためには、実際の英語学習指導にどのようなファクターがどのように作用しているかを見極めることができなければならない。
 それぞれの生徒に各自の持っている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが教師にとって重要課題になるが、そのためにこの授業では、教師が一方的に講義するのではなく、学生に問題提起し、資料を提供し、それに基づいて積極的に考え、実践してもらう予定である。

授業計画

1. Introduction
2. 英語教育の基本問題
3. 英語教育の目的
4. 英語の指導目標
5. 英語教育の環境的要因
6. 学習者の要因
7. 教師の役割とよい教師の条件
8. 言語習得の理論上の諸問題
9. 英語スキルの習得と指導
10. 発音の指導
11. 文字と綴り字の指導
12. 語彙の指導
13. 文法の指導
14. リスニングの指導
15. まとめ

授業の方法
 講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学修
 必ず、あらかじめテキストを読み、予習して授業に臨むこと。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト
 土屋澄男・広野威志『新英語科教育法入門』研究社

参考図書
 授業時に随時、指示、紹介する。

留意事項
 授業中の意欲、積極的学習態度を評価する。課題発表にさいしては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

教員連絡先
 soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法		13709		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
惣谷 美智子	選択	2			

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力に関する知識を深め、指導法の基礎知識を学ぶ。後半は語彙指導・文法のレッスンプランを立て、模擬授業を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)、I(知性、国際性)、E(倫理)を学ぶ。

授業の概要

教師は、生徒が各自もっている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが、重要課題となるが、そうした各教育現場に応じた柔軟な適応能力を養うためには、知識の詰め込みだけでは十分ではない。この授業では、教師から学生への一方的な知識の伝授ではなく、以下の授業計画のリストにある各項目に関して、それぞれに研究テーマを課し、授業中の口頭発表、レポート提出を通して、学生が自発的に英語教育における諸問題に取り組み双方向性の授業を予定している。

授業計画

1. 英語スキルの習得と指導
2. ライティングの指導
3. オーラル・コミュニケーションの指導
4. 指導法の諸問題
5. 英語指導の原理
6. 教材研究と授業の準備
7. 授業案の作成と授業の進め方
8. テストと評価
9. 教育機器の活用
10. ネイティブ・スピーカーの活用
11. 教育実習に向けて
12. Lesson Plan
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. まとめ

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学修

必ず予習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

土屋澄男・広野威志『新英語科教育法入門』（研究社）

参考図書

授業時に、随時、指示および紹介する。

留意事項

課題担当者は、発表の内容のみならず、プレゼンテーションの方法も工夫すること。
課題発表にさいしては、発表者と聞か側との学生が質疑応答を通して議論を深めること。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語学概論		13713		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
服部 幸正	選択	2			

授業の到達目標

英語を学習したり教えたりするために、英語についての知識を蓄えることが大切である。つまり、英語の構造やしくみはどのような規則と約束ことから成り立っているかを知ることである。この授業では、みなさんが今までに蓄積してきた英語の知識を再整理し、さらに深めてもらうことを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を考え、学生間の協力を勧めてK(思いやり)を養いたい。

授業の概要

英語という「ことば」の諸相について「英語学」の分野で取り扱われる研究領域全般にわたって、次の授業計画に従って講義形式で解説・説明する。

授業計画

1. 英語はいつどのようにイギリスで使われ始めたか: 英語の起原
2. 時代の経過と共に英語自体がどのように変容していったか: 古期英語 中期英語 近代英語 現代英語
3. 世界の各地に拡散した英語には、それぞれどのような特徴が見られるか: アメリカ英語、カナダ英語、オーストラリア英語、New Englishesなど
4. 英語の構造はどのように分析され説明されて来たか: 英語の統語論
5. (1) ラテン語文法に基づく規範的伝統文法の考え方
6. (2) アメリカ構造言語学に基づく構造文法の考え方
7. (3) チョムスキー理論に基づく変形成文法の考え方
8. 以上の他に英語学で取り扱われる研究領域にはどのようなものがあるか。
9. (1) 音韻論の研究領域
10. (2) 形態論の研究領域
11. (3) 意味論の研究領域
12. (4) 語用論の研究領域
13. (5) 文体論の研究領域
14. 200年以上にわたる日本の英語教育はどのように展開されて来たか。
15. 21世紀の日本にとって英語の学習がなぜ必要であり大切なのか。

授業の方法

板書を多用した講義形式の授業である。

準備学修

英語学で使われる専門用語を「英語学辞典」などで調べることをすすめる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点は授業への出席状況を中心に評価する。

テキスト

プリント

参考図書

図書館の「英語学辞典」を活用すること。

留意事項

授業中に指示する。

教員連絡先

yyhattori1106@yahoo.co.jp

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語音声学		13717		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石原 敬子	選択	2			

授業の到達目標
 自然な英語の音声を観察し、分析する。/ 自然な英語に見られる音声変化を観察し、理解する。/ 英語らしい発話を実践する。
 このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
 Pronunciation I～IIIの授業で取り上げた英語の子音・母音、強勢、リズム、イントネーションなどの音声的特徴をより具体的に、専門的に扱う。自然な英語が実際にはどのように聞こえるのかを観察し、頭で理解している音声と実際に聞こえる音声とが異なることを、理論・実践両面から確認する。あわせて、日本語の音声との共通点にも着目する。英語の発音を自分で分析できるようになること、またより相手に伝わりやすい英語の発話ができるようになることを目標とする。

授業計画

1. 導入
2. 子音と母音 1)
3. 子音と母音 2)
4. 音の脱落 1)
5. 音の脱落 2)
6. 文の区切りとリズム 1)
7. 文の区切りとリズム 2)
8. 語の連結 1)
9. 語の連結 2)
10. 復習
11. 綴りと発音 1)
12. 綴りと発音 2)
13. 音の変化 1)
14. 音の変化 2)
15. まとめ

授業の方法
 実践的な発音・聴き取り訓練と理論的学習

準備学修
 毎週宿題を課す。授業内外に関わらず、発音が不明瞭な単語がある際には辞書で確認をする。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日に実施のquizは、翌授業日までの間に限り、受けることが可能（-20%）。

テキスト
 千田潤一著、『音で読む英語』（IBC）

参考図書
 必要に応じて指示する。

留意事項
 発音に関する研究は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、クラスへの積極的参加はもちろん、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で発話をするよう心がけてほしい。

教員連絡先
 ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュ	ET	13725		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標
 グローバル化に対応した英語教育改革が実施され、2020年度小学校英語は教科化される。言語習得の理論から授業法の実践まで、小学校から中学校・高校英語に連携する一貫した英語教育を担う教員養成が必要とされている。
 本授業では、児童英語教育に効果的な教授法をワークショップ形式で体験し、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導できる実践力を身につけることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要
 本授業では、児童英語教育に効果的な教授法について、
 1. 発達過程を考えた児童期の英語教育のあり方をディベートで熟考し、
 2. 歌、チャンツ、TPR、絵本、ゲーム、クイズなど基本的な授業法をワークショップ形式で体験し、
 3. 実際にこれらの授業法を使った活動のプレゼンテーションを行い
 指導者として実践で「授業ができる」資質を身につける。

授業計画

1. ガイダンス 児童英語教育の意義と目的
小学校英語活動・活動案作成のポイント
2. 『身近にある異文化共生』を取り入れた楽しい小学校英語活動作成法
3. ワークショップ(1)「歌・チャンツ」を取り入れた授業法
4. ワークショップ(2)「歌・チャンツ」プレゼンテーション
5. ワークショップ(3)「TPR」を取り入れた授業法
6. ワークショップ(4)「TPR」プレゼンテーション
7. ワークショップ(5)「ゲーム」を取り入れた授業法
8. ワークショップ(6)「ゲーム」プレゼンテーション
9. ワークショップ(7)「スキット」を取り入れた授業法
10. ワークショップ(8)「スキット」プレゼンテーション
11. ワークショップ(9)「絵本、物語を取り入れた授業」を考える
12. ワークショップ(10)「絵本、物語を取り入れた授業」プレゼンテーション
13. ワークショップ(11)「フォニックス、文字を取り入れた授業」を

考える
 14. ワークショップ(12)「フォニックス、文字を取り入れた授業」プレゼンテーション」
 15. まとめと評価 「ワークシート・振り返りカード作成」

授業の方法
 ワークショップで体験した授業法を、学生自身が、主体的に創造し、プレゼンテーションを行う。

準備学修
 プレゼンテーションの準備をしておくこと

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 規定に従う。参加・発表型の授業であるので、必ず出席すること

テキスト
 参考図書 「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書
 アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項
 子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先
 fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期間	人数制限
キッズ・イングリッシュ	ET	13729		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

前期で体験した授業法を活用し、年齢・発達過程にあった授業案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導に役立つ授業創りを考え、模擬授業をする。さらに、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、異なることばや文化・生活に自然にふれる楽しい活動を考える。授業では、発信型英語能力開発の一環として、

1. 発達過程を考えた幼稚園・小学校での英語教育のあり方を踏まえ、
 2. 発達過程を考えた園児・小学生英語の授業創りを考え、
 3. 授業案作成、教材教具作成、模擬授業を行った後に、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、
- 学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

1. 児童の発達段階にあった英語活動を創る (1)
「園児、低学年・中学年・高学年対象活動案作成」
2. 児童の発達段階にあった英語活動を創る (2)
「絵カード・教具・ワークシート作成 発表準備」
3. 児童の発達段階にあった英語活動を創る (3)
「活動案発表と模擬授業」
4. 小学校英語活動 観察実習(1)
5. 実習授業活動案作成(1)『教材研究』
6. 実習授業活動案作成(2)『教具・絵カード、ワークシート作成』
7. 実習授業活動案作成(3)『振り返りカード作成と評価』の観点
8. 実習授業活動案発表と模擬授業
9. 小学校現場での英語活動体験実習(2)
10. 実習授業活動案作成(4)『教材研究』
11. 実習授業活動案作成(5)『教具・絵カード、ワークシート作成』
12. 実習授業活動案作成(6)『振り返りカード作成と評価』の観点
13. 実習授業活動案発表と模擬授業
14. 小学校現場での英語活動体験実習(3)
15. まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成

授業の方法

活動案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の支援を実際に現場で体験する。

準備学修

教材を作成し、模擬授業の練習をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

テキスト

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

アレク玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期間	人数制限
キッズ・イングリッシュ（実習）		13733		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	1			

授業の到達目標

グローバル化に対応した英語教育改革が実施され、2020年度小学校英語は教科化される。小学校英語指導者養成のキッズ・イングリッシュ・プログラムの最終段階として、学生自身が、英語活動・英語教育を、活動内容の企画、活動案・教具作成、模擬授業で練習した後、幼稚園や小学校現場で指導者として、実習体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考えます。

授業の概要

本授業では、キッズ・イングリッシュ、で学習した小学校から中学校・高校英語に連携する一貫した英語教育の理論と授業法、発達段階にふさわしい授業運営を、出前授業の形で、幼稚園・小学校現場で実習し、授業を体験する。この体験から、理論を踏まえた実践、かつ、実践から理論の再構築へと、理論と実践の融合を計り、児童英語教育とは何かを体系的に考える。

実習計画

実習する授業案・教材教具を作成し、授業準備を行う。
作成した授業案で自身が小学校現場で授業できるように、模擬授業で練習する。
実習園・実習校の通常授業で、実習授業を行う。
実習授業の結果を評価し、次の段階を目指す。

授業計画

1. 小学校英語活動実習授業計画作成と教材研究
2. 第1回 小学校英語活動実習授業活動案作成
3. 第1回 小学校英語活動実習授業準備
4. 第1回 小学校英語活動実習体験模擬授業
5. 第1回 小学校英語活動実習体験
6. 第2回 実習授業活動案作成及び実習授業準備
7. 第2回 小学校英語活動実習体験模擬授業
8. 第2回 小学校英語活動実習体験
9. 第3回 実習授業活動案作成及び実習授業準備
10. 第3回 小学校英語活動実習体験模擬授業
11. 第3回 小学校英語活動実習体験
12. 第4回 実習授業活動案作成及び実習授業準備
13. 第4回 小学校英語活動実習体験模擬授業
14. 第4回 小学校英語活動実習体験

15.まとめと授業評価

授業の方法

理論、ワークショップでの授業法体験を活かし、自らが活動案を作成、実際小学校現場での英語活動を支援する

準備学修

教材研究、教材製作、模擬授業練習などを行っておく。

課題・評価方法

授業案、模擬授業、作成した教材教具、実習授業などを総合的に評価する

欠席について

参加型授業であるので必ず出席すること。

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、PCで教材配布

参考図書

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂
アレク玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目(児童・中高)〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法		13737		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
小野 礼子	選択	2			

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する理論と教授法の基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

英語教育の第1目標である英語のコミュニケーション能力を、ほぼ日本語だけで日常生活を送る生徒たちに身につけさせるには、授業において、どのような創意工夫が必要であるかを、第1・第2言語習得や言語教育に関する様々な理論を踏まえながら、模擬授業やディスカッション等を通して考える。

授業計画

1. 英語教育の目標と学習指導要領
2. 第1言語習得と第2言語習得
3. 主な外国語教授法の流れ(1) 文法・翻訳法～ダイレクト・メソッド
4. 主な外国語教授法の流れ(2) オーディオ・リンガル・メソッド
5. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(1)
6. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(2)
7. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(3)
8. 授業の準備
9. 学習指導案の作成
10. 授業の工夫(1): Warm-upとreview、文法・文型の導入
11. 授業の工夫(2): 文法・文型の練習と発展活動
12. 授業の工夫(3): 語彙の導入と指導、本文の読解指導
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業のまとめ

授業の方法

講義、ワークショップ、DVD視聴、模擬授業、ディスカッションによって授業を進める。

準備学修

- ・ 次回のテーマについて、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ・ Grammar I～IIIを徹底的に復習するなどして、常に文法力の向上に努めること。
- ・ 中学校及び高等学校の学習指導要領を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『〔新版〕英語科教育実習ハンドブック』(大修館)
 土屋澄男(編著)他『新編 英語科教育法入門』(研究社)
 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』(開隆堂)
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語

編』(開隆堂)

必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・ 平常点には、模擬授業、出席状況、授業への参加・貢献度の評価が含まれる。
- ・ 毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法		13741		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
小野 礼子	選択	2			

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英語科教育法Ⅰ～Ⅲで修得した英語教育に関する知識や指導技術を各々の模擬授業において実践する。そして、模擬授業における改善すべき点や指導上の困難点及びその解決方法等についてディスカッションを行い、教育実習での授業に備える。また、学習指導上の評価及び評価方法の一つであるテストについても学ぶ。

授業計画

1. 学習指導要領における各科目の目標と内容
2. 模擬授業の準備(1)
3. 模擬授業の準備(2)
4. 模擬授業の準備(3)
5. 模擬授業の準備(4)
6. 模擬授業の準備(5)
7. 評価とテスト(1)
8. 評価とテスト(2)
9. 模擬授業と授業観察(1)
10. 模擬授業と授業観察(2)
11. 模擬授業と授業観察(3)
12. 模擬授業と授業観察(4)
13. 模擬授業と授業観察(5)
14. 模擬授業と授業観察(6)
15. 模擬授業の総括、教育実習に向けて

授業の方法

DVDの視聴、ワークショップ、模擬授業を中心とする。各活動の後にはディスカッションを行う。

準備学修

1課分の学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業（各自3回程度）

度）を行うための準備（教材研究、教具の作成、授業の練習等）をすること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『（新版）英語科教育実習ハンドブック』（大修館）
土屋澄男（編著）他『新編 英語科教育法入門』（研究社）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

・評価は、学習指導案の作成、模擬授業、模擬授業の観察・参加の記録、出席状況、日頃の学習態度を規準にして行う。
・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけでなく、熱意をもって授業に参加・貢献する態度が必要である。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
外国語教授法		13745		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

グローバル化に対応した英語教育改革が実施され、2020年度小学校英語は教科化される。同時に、小学校英語教科化から発展する中学校・高校での授業法及びゴールの設定が発表されている。本講義では、グローバル化に対応した英語教育改革のゴールを考え、小学校から中学校・高校への連携が図れる外国語「教授法」のあり方を考える。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本では、英語学習に相当な時間と労力を費やしている。英語がペラペラに使える人は多くはないが、日本語がペラペラに使用しない日本人はいない。外国語教育を成功させるための秘訣とは何か？本授業では、小学校英語教科化を見据えた外国語教育のあり方そのものを考える。外国語教授法の理論と指導法の実践を学習し、指導者側における効果的な外国語教授法、そして、学習者側においては効果的な外国語学習法の理論と実践状況を学ぶ。

授業計画

1. 外国語教授法の歴史
2. 教授法の理論的背景と現代的意義(1)「Grammar-translation Method」
3. 教授法の理論的背景と現代的意義(2)「Oral Method」「Oral Approach」
4. ディベート(1) 授業法
5. 教授法の理論的背景と現代的意義(3)「Natural Approach」
6. 教授法の理論的背景と現代的意義(4)「Communicative Approach」
7. 教授法の理論的背景と現代的意義(5)「Task-Based Language Teaching」
8. 教授法の理論的背景と現代的意義(6)「CLIL」
9. ディベート(2)「旧守派と改革派」
10. 英語教師の資質と能力「効果的な外国語教授法における指導者要因」
11. 学習者の特質「効果的な外国語学習者における学習者要因」
12. 4技能の自然な習得を目指した小中連携の授業案作成
13. 模擬授業と評価 (2)

14. 指導・授業・評価の一体化
15. まとめ「効果的な外国語学習法を考える」

授業の方法

教授法の理論と実際の授業での応用から、理論と実践の融合を体験する

準備学修

テキストは読んでおくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業時に、講義内容に関するレポートを提出、模擬授業などプレゼンテーションを行い、評価の対象とするので、公欠などの連絡を必ずすること。

テキスト

英語科教育のフロンティア 充実した実践を目指してー 青木昭六
ISBN978-4-905493-03-7

参考図書

現代英語教授法総覧 田崎清忠編集責任者 大修館書店

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈英語・観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 1	a	13806		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
和泉 有香	選択	1			

授業の到達目標
TOEIC(R)テスト400点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須英単語）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要
到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出の場面設定や文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

1. Introduction, Day 1 人物の動作と状態
2. Day 2 物の状態と位置、単語テスト 1
3. Day 3 疑問詞を使った疑問文、単語テスト 2
4. Day 4 基本構文(依頼/提案/申し出)と応答の決まり文句、単語テスト 3
5. Day 5 YES/NO疑問文、単語テスト 4
6. Day 6 Review- 1、単語テスト 5
7. Day 6 Review- 2、単語テスト 6
8. Day 7 品詞、単語テスト 7
9. Day 8 動詞、単語テスト 8
10. Day 9 代名詞・関係代名詞、単語テスト 9
11. Day 1 0 接続詞・前置詞、単語テスト 1 0
12. Day 1 1 Review- 3、単語テスト 1 1
13. Day 1 1 Review- 4、単語テスト 1 2
14. Day 1 2 店での会話、単語テスト 1 3
15. Day 1 3 電話での会話、単語テスト 1 4

授業の方法
問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修
小テストの準備、授業中に指示された課題はしっかりこなすこと。

課題・評価方法
平常点50%、定期試験50%

欠席について
欠席 1 回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から 2 点減点する。

テキスト
新TOEICテスト書き込みドリル【全パート入門編】（桐原書店刊）、TOEICテストにできる単 6 0 0 語（中経出版刊）

参考図書
授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項
・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書）を必ず持参すること。

資格科目〈英語・観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 1	b	13806		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
千葉 奈乙江	選択	1			

授業の到達目標
TOEIC(R)テスト400点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須英単語）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要
到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出の場面設定や文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

1. Introduction pre-test
2. Unit 1: オフィスで - 自動詞と他動詞
3. Unit 2: 買い物 - 形容詞・副詞・前置詞
4. Unit 3: 食事 - 名詞と冠詞
5. Unit 4: 健康・スポーツ - 進行形
6. Unit 5: コマーシャル - 完了形
7. Unit 6: 数字 - 不定詞
8. Review Mid-test
9. Unit 7: 日常生活のトラブル - 動名詞
10. Unit 8: 余暇・社交 - 関係代名詞と関係副詞
11. Unit 9: ガイド - 複文
12. Unit 1 0: 説明 - 受動態
13. Unit 1 1: いろいろな国の英語 1 - 分詞
14. Unit 1 2: いろいろな国の英語 2 - 比較表現
15. Post - test

授業の方法
問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修
小テストの準備、授業中に指示された課題はしっかりこなすこと。

課題・評価方法
平常点50%、定期試験50%

欠席について
欠席 1 回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から 2 点減点する。

テキスト
The TOEIC Test Trainer Target 350 , Cengage Learning

参考図書
授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項
・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書）を必ず持参すること。

資格科目〈英語・観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 2	a	13807		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
和泉 有香	選択	1			

授業の到達目標

TOEIC(R)テスト500点到達を目指す。そのために必要な英語力(特にTOEIC必須英単語と読解力)の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出の場面設定や文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- Day 1 4 屋外や交通機関での会話
- Day 1 5 オフィスでの会話、単語テスト1
- Day 1 6 留守番電話、単語テスト2
- Day 1 7 アナウンス、単語テスト3
- Day 1 8 ラジオ放送(広告/天気予報・交通情報・ニュース)単語テスト4
- Day 1 9 ツアー・トーク・スピーチ(美術館/工場/オリエンテーション)単語テスト5
- Day 2 0 Review-1、単語テスト6
- Day 2 0 Review-2、単語テスト7
- Day 2 1 表・用紙、単語テスト8
- Day 2 2 手紙・Eメール、単語テスト9
- Day 2 3 広告、単語テスト10
- Day 2 4 ダブルパッセージ、単語テスト11
- Day 2 5 Review、単語テスト12
- Day 2 6 時制・代名詞・語彙問題、単語テスト13
- Day 2 7 つなぎ言葉

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

小テストの準備、授業中に指示された課題はしっかりこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

新TOEICテスト書き込みドリル【全パート入門編】(桐原書店刊)、TOEICテストにできる単語600語(中経出版刊) 共に春学期より継続使用

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書(紙版、電子辞書)を必ず持参すること。

資格科目〈英語・観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 2	b	13807		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
千葉 奈乙江	選択	1			

授業の到達目標

TOEIC(R)テスト500点到達を目指す。そのために必要な英語力(特にTOEIC必須英単語と読解力)の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出の場面設定や文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- Introduction pre-test
- Unit 1: 予定 - 動詞・5文型
- Unit 2: 数量をたずねる - 名詞
- Unit 3: 命令 - 形容詞・副詞
- Unit 4: 広告・宣伝 - フレーズリーディング
- Unit 5: 時間をたずねる - 動名詞
- Unit 6: 場所をたずねる - to不定詞
- Review Mid-test
- Unit 7: 確認 - 分詞
- Unit 8: 説明 - スキャニング
- Unit 9: アドバイス - 受動態
- Unit 10: 誘い - 比較
- Unit 11: 申し出 - 関係詞
- Unit 12: 講演者紹介 - スキミング
- Post - test

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

小テストの準備、授業中に指示された課題はしっかりこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

The TOEIC Test Trainer Target 470, Cengage Learning

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書(紙版、電子辞書)を必ず持参すること。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（初等）			13809		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
森 晴美	選択	2				

授業の到達目標
 教職の意義と役割を理解する。また、学校教育や教員をめぐる様々な今日的な課題と対応の事例から、学校教育に期待される役割や今後の教員に求められる資質と能力などについて学び、教職に就くための自らの適性と課題を見出す。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
 教職や学校教育について、関連する法律や今日までの歴史的変遷を含めて講義する。そして、社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育の現状について詳述し、ディスカッションや発表の機会をもつ。そして、自ら目指す教師像を明確にもつようになる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 日本の学校教育の歴史
3. 教職の意義
4. 教員の身分と服務義務
5. 教員の職務内容
6. 学校の組織と運営
7. 教員のライフステージと研修制度
8. 様々な教育課題とその対応
9. 様々な教育課題とその対応
10. 様々な問題行動とその対応
11. 特別支援教育の導入
12. 人権教育の推進
13. 学校・家庭・地域社会の連携と役割
14. 今後の教員に求められる資質
15. 今後の教員に求められる能力

授業の方法
 講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。

準備学修
 指示された部分のテキストを事前に読んで理解し教育関連の情報を

収集すること。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 欠席1回につき2点減点とする。

テキスト
 『教職と人間形成』長尾和英編 八千代出版

参考図書
 必要に応じて適宜紹介する。

教員連絡先
 mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育心理学	EC		13813		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	選択	2				

授業の到達目標
 子どもの発達と心理的問題をどのように理解し、援助していくかについて学ぶ。とくに、児童・生徒の人間形成にかかわるさまざまな要因について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を目指す。

授業の概要
 不登校やいじめなど子どもの問題行動をどのように理解し、対処すればよいのかを論じたのち、子どもの人格形成や自己理解、対人関係にかかわる心理学的問題をとりあげ、また学習指導と評価のあり方について論じる。最後に、発達障害をもつ子どもに対する理解や援助の仕方を学ぶ。

授業計画

1. 子どもの問題行動の理解と援助 - 不登校
2. 子どもの問題行動の理解と援助 - いじめ
3. 子どもの問題行動の理解と援助 - 虐待
4. 子どもの問題行動の理解と援助 - 摂食障害・対人恐怖
5. 教師と児童生徒の人間関係
6. 家庭的背景の理解
7. 学級への適応
8. 発達観と教育
9. 人格の形成
10. 自己理解を育てる
11. 感情を育てる
12. 社会性と道徳性
13. 教育評価と学習指導
14. 発達障害の理解 A D H D、学習障害
15. 発達障害の理解 自閉症、アスペルガー症候群

授業の方法
 主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学修
 これまで受けてきた家庭教育と学校教育について考えをまとめておく。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 欠席1回につき2点減点。

参考図書
 随時紹介する。

留意事項
 授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は、は+2点、は+1点、は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC 1	a		13817		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香	選択	2				

授業の到達目標

TOEIC(R)600点以上を取得するために必要な英語力(特にTOEIC必須単語と速読力)の習得、また解ける問題を見極め、確実に得点に結びつける技術の習得を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)の涵養を目指す。

授業の概要

公式問題集Vol.4を使用して問題練習を重ね、実際のTOEICテストに出題される問題のレベルに慣れていく。解ける問題とそうでない問題を選別する練習(TOEICは200問全てに100%の力を注ぐ必要はない)、知らない単語に行きあたっても文章の流れに沿って意味を推測する練習などを行うことによってTOEICに対する意識を根柢から変え、目標スコアを目指す。授業計画については理解度を確かめながら柔軟に運用する。単語テストを原則として毎回実施する。

授業計画

1. ガイダンス、【TEST 1 使用】Part 1 対策、Part 7(1つの文書)対策
2. Part 2 対策、Part 7(1つの文書)対策 / 単語テスト 1
3. Part 2 対策、Part 5 対策 / 単語テスト 2
4. Part 3 対策、Part 5 対策 / 単語テスト 3
5. Part 3 対策、Part 7(2つの文書)対策 / 単語テスト 4
6. Part 4 対策、Part 6 対策 / 単語テスト 5
7. Part 4 対策、Part 6 対策 / 単語テスト 6
8. 【TEST 2 使用】Part 1 対策、Part 7(1つの文書)対策 / 単語テスト 7
9. Part 2 対策、Part 7(1つの文書)対策 / 単語テスト 8
10. Part 2 対策、Part 5 対策 / 単語テスト 9
11. Part 3 対策、Part 5 対策 / 単語テスト 10
12. Part 3 対策、Part 7(2つの文書)対策 / 単語テスト 11
13. Part 4 対策、Part 6 対策 / 単語テスト 12
14. Part 4 対策、Part 6 対策 / 単語テスト 13
15. Part 7(2つの文書)対策 / 単語テスト 14

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの作業が中心となる。

準備学修

・単語テストの準備をしっかりと行うこと。・授業中に指示された課題は必ずこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

TOEIC(R)テスト新公式問題集Vol.4(IIBC刊)、新TOEIC(R)テスト出る順で学ぶボキャブラリー990(講談社刊)

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属のCDも用いて確実に復習すること。・英和辞書(紙版、電子辞書いずれも可)を持参すること。

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC 1	b		13817		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香	選択	2				

授業の到達目標

TOEIC(R)テスト500点到達を目指す。そのために必要な英語力(特にTOEIC必須英単語と読解力)の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)の涵養を目指す。

授業の概要

公式問題集Vol.4を使用して実際のTOEICテストに出題される問題のレベルに慣れていく。解ける問題とそうでない問題を選別する練習(TOEICは200問全てに100%の力を注ぐ必要はない)、知らない単語に行きあたっても文章の流れに沿って意味を推測する練習などを行うことによってTOEICに対する意識を根柢から変え、目標スコアを目指す。授業計画については理解度を確かめながら柔軟に運用する。単語テストを原則として毎回実施する。

授業計画

1. ガイダンス、【TEST 1 使用】Part 1 対策、Part 7(1つの文書)対策
2. Part 2 対策、Part 7(1つの文書)対策 / 単語テスト 1
3. Part 2 対策、Part 5 対策 / 単語テスト 2
4. Part 3 対策、Part 5 対策 / 単語テスト 3
5. Part 3 対策、Part 7(2つの文書)対策 / 単語テスト 4
6. Part 4 対策、Part 6 対策 / 単語テスト 5
7. Part 4 対策、Part 6 対策 / 単語テスト 6
8. 【TEST 2 使用】Part 1 対策、Part 7(1つの文書)対策 / 単語テスト 7
9. Part 2 対策、Part 7(1つの文書)対策 / 単語テスト 8
10. Part 2 対策、Part 5 対策 / 単語テスト 9
11. Part 3 対策、Part 5 対策 / 単語テスト 10
12. Part 3 対策、Part 7(2つの文書)対策 / 単語テスト 11
13. Part 4 対策、Part 6 対策 / 単語テスト 12
14. Part 4 対策、Part 6 対策 / 単語テスト 13
15. Part 7(2つの文書)対策 / 単語テスト 14

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

小テストの準備、授業中に指示された課題はしっかりとこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

TOEIC(R)テスト新公式問題集Vol.4(IIBC刊)、新TOEIC(R)テスト出る順で学ぶボキャブラリー990(講談社刊)

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書(紙版、電子辞書)を必ず持参すること。

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC 2	a		13821		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香	選択	2				

授業の到達目標

TOEIC(R)700点以上を取得するために必要な英語力(特にTOEIC必須単語と速読力)の習得、また解ける問題を見極め、確実に得点に結びつける技術の習得を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)の涵養を目指す。

授業の概要

評判の高い「TOEICテスト究極の模試600問」を使用して問題練習を重ねる。試験中の時間管理の仕方、解くべき問題の見極めに気を配ることを意識しながら目標スコアを目指す。単語テストを原則として毎回実施する。なお授業計画については理解度確かめながら柔軟に運用する。

授業計画

- 1.【TEST 1 使用】Part 3 対策、Part 5 対策
2. Part 4 対策、Part 5 対策 / 単語テスト 1
3. Part 4 対策、Part 6 対策 / 単語テスト 2
4. Part 2 対策、Part 7(1つの文書)対策 / 単語テスト 3
5. Part 3 対策、Part 7(2つの文書)対策 / 単語テスト 4
6. Part 7(2つの文書)対策 / 単語テスト 5
- 7.【TEST 2 使用】Part 3 対策、Part 5 対策 / 単語テスト 6
8. Part 4 対策、Part 5 対策 / 単語テスト 7
9. Part 4 対策、Part 6 対策 / 単語テスト 8
10. Part 2 対策、Part 7(1つの文書)対策 / 単語テスト 9
11. Part 3 対策、Part 7(2つの文書)対策 / 単語テスト 10
12. Part 7(2つの文書)対策 / 単語テスト 11
13. Test 1、Test 2 総復習 / 単語テスト 12
- 14.【TEST 3 使用】Listening全パート / 単語テスト 13
15. Reading全パート / 単語テスト 14

授業の方法

問題演習が中心となる。

準備学修

・単語テストの準備をしっかりと行うこと。・授業中に指示された課題は必ずこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

TOEIC(R)テスト究極の模試600問(アルク刊)、新TOEIC(R)テスト出る順で学ぶボキャブラリー990(講談社刊) 単語集は春学期から継続使用

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

テキスト付属のCDも用いて確実に復習すること。・英和辞書(紙版、電子辞書いずれも可)を持参すること。

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC 2	b		13821		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香	選択	2				

授業の到達目標

TOEIC(R)600点以上を取得するために必要な英語力(特にTOEIC必須単語と速読力)の習得、また解ける問題を見極め、確実に得点に結びつける技術の習得を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)の涵養を目指す。

授業の概要

公式問題集Vol.6を使用して問題練習をさらに重ね、得点力を高めていく。授業計画については理解度確かめながら柔軟に運用する。単語テストを原則として毎回実施する。

授業計画

- 1.【TEST 1 使用】Part 1 対策、Part 7(1つの文書)対策
2. Part 2 対策、Part 7(1つの文書)対策 / 単語テスト 1
3. Part 2 対策、Part 5 対策 / 単語テスト 2
4. Part 3 対策、Part 5 対策 / 単語テスト 3
5. Part 3 対策、Part 7(2つの文書)対策 / 単語テスト 4
6. Part 4 対策、Part 6 対策 / 単語テスト 5
7. Part 4 対策、Part 6 対策 / 単語テスト 6
- 8.【TEST 2 使用】Part 1 対策、Part 7(1つの文書)対策 / 単語テスト 7
9. Part 2 対策、Part 7(1つの文書)対策 / 単語テスト 8
10. Part 2 対策、Part 5 対策 / 単語テスト 9
11. Part 3 対策、Part 5 対策 / 単語テスト 10
12. Part 3 対策、Part 7(2つの文書)対策 / 単語テスト 11
13. Part 4 対策、Part 6 対策 / 単語テスト 12
14. Part 4 対策、Part 6 対策 / 単語テスト 13
15. Part 7(2つの文書)対策 / 単語テスト 14

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

小テストの準備、授業中に指示された課題はしっかりとこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

TOEIC(R)テスト新公式問題集Vol.6(IIBC刊)、新TOEIC(R)テスト出る順で学ぶボキャブラリー990(講談社刊) 単語集は春学期より継続使用

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書(紙版、電子辞書)を必ず持参すること。

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEFL			13825		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子	選択	2				

授業の到達目標

TOEFLテストに効果的なストラテジーを習得して得点力のアップを目指す。このクラスではI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

授業では主に、リーディング・セクションとリスニング・セクションに焦点を絞り、練習問題、実践問題で読解力と聴解力、および語彙力を養成する。Language Arts, Social Studies, Science and Nature, Humanities, History という5項目に分類されたテキスト各課の長文を通して文章のパターンに慣れ、限られた時間内に大要を掴む練習を重ねる。

授業計画

1. Lesson 1 Critical Thinking and Reading
2. Lesson 2 Essay Types and Strategies
3. Lesson 3 The Elements of Fiction and Drama
4. Lesson 4 Sociology and Religion
5. Lesson 5 PTSD
6. Lesson 6 Transforming Business
7. Lesson 7 Zoos: For and Against
8. Lesson 8 Energy and Energy Resources
9. Lesson 9 Bats
10. Lesson 10 The Blacking Factory
11. Lesson 11 Oil Painting
12. Lesson 12 Philosophy and the Good Life
13. Lesson 13 The Hoax
14. Lesson 14 The Panama Canal
15. Lesson 15 The End of Apartheid

授業の方法

演習を中心に進める。

準備学修

あらかじめ指示された課題は必ず仕上げておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

Jim Knudsen, Kenichi Namai *Topics and Tactics for the TOEFL® Test* NAN'UN-DO

参考図書

『はじめてのTOEFLテスト完全対策』旺文社

留意事項

受講者は、原則としてTOEICスコア450点以上取得者を対象とする。毎回小テストを行い、その結果は平常点に組み入れる。

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論 (中等)	教職中等		13829		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
丸岡 幸一	選択	2				

授業の到達目標

道徳教育の基本的な概念を歴史的な背景をふまえて、理解するとともに「道徳の時間の指導」のために必要な基本的事項の習得する。そして、実際にねらいにそった資料を選び、簡単な指導案を作成することができる。この授業ではK A I S E I パーソナリティーのA(自律)とE(倫理)を目指します。

授業の概要

日本の道徳教育の変遷について概観し、そこから今日求められている道徳教育のあり方を考察するとともに、道徳教育の本質及び目標、外国の道徳教育の実情とわが国の道徳教育の比較などを取り上げ、道徳教育の理解を深める。そして、実際に「道徳の時間の指導」のために必要な、指導案の作成及び指導方法や評価についても取り上げ検討する。

授業計画

1. はじめに ー道徳・道徳教育とはー
2. 道徳教育の歴史 ー明治の道徳教育ー
3. 道徳教育の歴史 ー大正・昭和戦前の道徳教育ー
4. 道徳教育の歴史 ー敗戦後の道徳教育ー
5. 道徳教育の本質と目標
6. 道徳教育の内容
7. 道徳教育の全体構想と計画
8. 道徳の時間の指導 ー年間指導計画の作成ー
9. 道徳の時間の指導 ー学習指導案の作成(その1)ー
10. 道徳の時間の指導 ー学習指導案の作成(その2)ー
11. 道徳の時間の指導 ー学習指導案の作成(その3)ー
12. 道徳の時間の指導 ー学習指導の方法ー
13. 道徳の時間の指導 ー道徳教育の評価ー
14. 諸外国の道徳教育
15. まとめと道徳教育の今日的課題

授業の方法

講義を中心にディスカッションや発表(模擬授業)も取り入れる。

準備学修

自ら体験した道徳教育について思い返しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定等に準じる。

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領解説 道徳編」(日本文教出版)
文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総則編」(東山書房)

参考図書

授業の中で適宜紹介する。

留意事項

教師をめざす学生として、新聞・テレビ等の教育関連報道に関心をもち、授業に臨むこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
比較文化論			13830		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標
 日本経済の低迷、国際社会での存在感の低下など、日本を取り巻く国際社会は厳しさを増している。世界情勢を的確に把握し、広い視野、幅広い知識と洞察力を持って異文化を理解し受容し、自文化を発信する力を育成する。すなわち、グローバル社会で活躍できるグローバル人材としての素養の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(国際性)を身につける。

授業の概要
 本授業では、古今東西の日本と日本を取り巻く国際社会の文化を比較し、歴史的・風土的事実、地政学的観点から、自文化と異文化に対する幅広い知識と洞察力を養う。同時にそれを活用して、自身が企画した文化比較についてプレゼンテーションを行い、自己発信力を育成する。

授業計画

1. 比較文化論「世界の中の日本文化、日本の中の世界文化」
2. 歴史的比較文化(1) ルイス・フロイスがみた日本と西洋「衣服・風貌」
3. 歴史的比較文化(2) 「衣」文化比較 「民族衣装と風土」
4. 歴史的・風土的比較文化(3) 「食」文化比較「小麦文化と米文化」
5. プレゼンテーション(1)「現代世界の食文化」
6. 歴史的・風土的比較文化(4)「住」文化比較 「日本の住居、西洋の住居」
7. 歴史的・風土的比較文化(5)「住と自然」文化比較 「日本の庭・西洋の庭」が示す自然観
8. 歴史的・風土的比較文化(6)「風呂とトイレと香りと化粧」文化比較
9. プレゼンテーション(2)「旅」文化パンフ作成・発表
10. 古今東西文化比較(1)「教育」
11. 古今東西文化比較(2)「宗教・歴史」
12. 古今東西文化比較(3)「芸能・音楽・文学」
13. 現代文化比較「結婚」
14. プレゼンテーション(3)比較文化課題発表
15. プレゼンテーション(3)比較文化課題発表

授業の方法
 講義とプレゼンテーションによる参加型授業

準備学修
 プレゼンテーションのパワーポイントを作成する

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 規定通り。参加型の授業を行うので欠席しないこと

テキスト
 比較文化論 山口 修、齋藤和枝 世界思想社

教員連絡先
 fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント			13831		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標
 ビジネスにはWin-Winの関係が必要不可欠である。ホスピタリティ産業では形のない商品やサービスを提供している。それだけに顧客の反応は厳しい。ホスピタリティの原点を理解し、どのように実践すればホスピタリティが顧客の購買意欲に結びつくのかを理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養います。

授業の概要
 ホスピタリティとサービスの違いを語源に遡り学びます。ホスピタリティマネジメントを実践する企業を事例に取り上げその本質を解説します。特に、ホテル産業やテーマパークの成功の秘密を紐解きます。それ以外にも注目すべき企業体の事例を取り上げます。

授業計画

1. ガイダンス
2. ホスピタリティとサービス
3. 野球部女子マネージャーのマネジメント
4. コトラーのマーケティング戦略・製品特性
5. コトラーのマーケティング戦略・マーケティングミックス
6. おとぎの国のマネジメント(ディズニーランドの秘密)
7. 日本を代表する2つのホテルマネジメント(帝国ホテル・ホテルオークラ)
8. 世界に名声を残すホテルとマネジメント(マリオット・リッツカールトン)
9. 日本の宿「THE旅館」加賀谷」のマネジメント
10. テーマの設定
11. テーマの設定
12. 発表
13. 発表
14. 差別化とコストリーダー
15. まとめ

授業の方法
 講義と事例研究を中心に行われます。講義ではディスカッションを取り入れ意見をまとめる作業をおこないます。

準備学修
 ホスピタリティに関する書籍を講読すること。日経新聞の読むこと。テーマ毎にレポートをまとめる。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 欠席者は減点対象とします。

参考図書
 「事例でわかるホスピタリティ・サービス」日本能率マネジメントセンター

教員連絡先
 ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス中国語			13832		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
王 媽	選択	2				

授業の到達目標

中国語の発音、基礎単語と基礎文法をまず学び、それから観光サービス業及び個人観光に必要な語彙と会話を学ぶ。中国人の生活習慣を紹介し、中国の文化を広く理解していく。自己紹介が流暢にできるようにして、中国語の表現力とコミュニケーション能力を養う。

授業の概要

一番大事な中国語発音を練習しながら、中国語の基礎単語と基礎文法を覚える。会話と作文の形で観光業関係の中国語を習得する。異文化を理解するために、中国の文学作品及び唐詩を紹介する。中国の歌も一曲歌えるように挑戦しましょう。中国語検定試験問題の指導を行う。

授業計画

1. 発音練習・基礎単語(生活関係)
2. 発音練習・基礎単語(学校関係)
3. 発音練習・基礎文法(時刻の表現:何時に何をします。)
4. 発音練習・基礎文法(時間の長さの表現:~をしてから何年になった。)
5. 発音練習・基礎単語(旅行・ホテル関係)
6. 発音練習・基礎文法(人に頼む時の表現:~をして頂けませんか。)
7. 復習・中国語検定試験問題の指導
8. 職場対応練習:空港用語1(単語と単文)
9. 職場対応練習:空港用語1(単語と単文)
10. 職場対応練習:空港用語2(単語と単文)
11. 職場対応練習:空港用語2(単語と単文)
12. 「自己紹介1」中国語検定試験問題の指導
13. 「自己紹介1」中国語検定試験問題の指導
14. 「自己紹介2」中国語検定試験問題の指導
15. 「自己紹介2」中国語検定試験問題の指導

授業の方法

まずは発音の指導を行う。次は語彙、文法と文型の説明をする。最後に読む練習と話す練習を行う。

準備学修

毎回の内容を復習すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

大学の規定に従う。

テキスト

プリントを配布する。各自ファイリングして毎回持参すること。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光マーケティング論			13833		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

マーケティングとは何か。現代社会はマーケティングの中で生活しているといっても過言ではない。観光マーケティング論では観光の商品特性を理解し多角的に考察する。商品の差別化、価格設定の意味、顧客と従業員そして経営者との関係など。講義を通して基本的なマーケティングの理解と他産業と異なる観光産業への理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)を養います。

授業の概要

観光マーケティング論ではマーケティングの基礎から学びます。その上でホスピタリティ&ツーリズム産業の戦略を事例とともに学びます。マクドナルドは商品の作り置き、一定時間が過ぎると廃棄していた。しかし、マクドナルドはそのスタイルを止めた。スターバックスの魅力はどこにあるのか。日本進出が続く外資ホテル。その戦略は、グローバルの世界戦略に動くホテル産業のビジネスモデルを知る。観光の今を学生の日常の体験を踏まえ講義は進められる。

授業計画

1. ガイダンス…何を学ぶのか
2. マーケティングとは
3. ホスピタリティ&ツーリズムマーケティングの商品特性
4. 戦略計画におけるマーケティングの役割
5. マーケティング環境
6. マーケティング情報システム
7. マーケティングリサーチ
8. 市場細分化
9. ターゲット設定
10. ポジショニング
11. マーケティングミックス(製品)
12. マーケティングミックス(価格)
13. マーケティングミックス(流通)
14. マーケティングミックス(プロモーション)
15. まとめ

授業の方法

パワーポイントを使っ手の講義とグループでのディスカッションがあります。

準備学修

新聞の経済欄や観光経済新聞を読み、レポートすること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は平常点に反映する。

テキスト

なし。資料配布します。

参考図書

コトラーのホスピタリティ&ツーリズムマーケティング(ピアソン・エデュケーション)/コトラーのマーケティング講義(ダイアモンド社)

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標
我が国の新国家戦略に位置づけられたのは観光立国である。この観光立国の中心となる産業が宿泊産業である。宿の誕生から現代のホテル産業までを理解する。グローバル時代における宿泊産業の基礎を学ぶ。このクラスはKAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を養います。

授業の概要
宿泊産業の歴史から始まる講義は「宿」からグランドホテル時代、近代産業としてのホテル業とすむ。そして、現代ホテル産業の組織及び現実の経営など多角的に講義がなされる。宿泊産業の中心となるホテル業の入門講座である。

授業計画

1. ガイダンス…観光業における宿泊産業
2. ホテル産業史
3. ホテル産業史
4. ホテル産業史
5. 宿泊産業におけるカテゴリー
6. ホテルの組織と役割
7. 宿泊事業1
8. 宿泊事業2
9. 宿泊事業3
10. 料飲事業
11. パンケット事業
12. プライダル事業
13. ケータリング事業
14. 購買とFBCC
15. まとめ

授業の方法
講義を中心とするが、課題等でのディスカッションも取り入れる。

準備学修
図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。

事前にテキストを一読すること。

課題・評価方法
平常点30%、定期試験70%

欠席について
欠席はマイナス評価とする。

テキスト
「基本ホテル経営教本」柴田書店

参考図書
適宜紹介

教員連絡先
ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空ツーリズム論			13836		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標
オープンスカイの進展で日本の空も一層開かれてきた。羽田空港は昼間の時間帯も長距離国際線が開通され都心から近く一層集客力を増しているが、一方で成田空港との共存の問題も存在する。2012年から参入してきたLCCも今年が4年目でかなり定着し、大手航空会社との競争も一層激化してきている。世界を見ると大手航空会社が一段とグローバル化を進める3大アライアンスを中心に熾烈な競争を繰広げている。このような状況を把握し、ツーリズム産業の中核をなす航空業界の全体像と現代のツーリズムとの関係を理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要
まずは社会基盤としての航空事業とツーリズムの関係を捉え、航空業界の歴史、航空会社の戦略と併にツーリズム産業での重要な役割を理解していく。キーワードになる「規制緩和」を中心に世界の航空業界の動きをアメリカ、ヨーロッパ、アジアと日本の中でそれぞれ考察する。その上で世界の「グローバルアライアンス」・「LCC」の動向を調べ、航空業界の現状を把握する。国際ハブ空港、航空業界のホスピタリティ・地球環境対策とツーリズムの関係も考察する。2020年の東京オリンピックに向け日本が観光立国を目指し、訪日外国人2000万人達成に航空業界の役割を考える。

授業計画

1. ガイダンス・羽田の国際化
2. 社会基盤としての航空事業とツーリズム
3. アメリカの規制緩和とオープンスカイ政策
4. ヨーロッパの規制緩和とEU
5. アジアの規制緩和とASEAN
6. 日本の規制緩和と新規航空会社
7. 世界のLCC その1
8. 世界のLCC その2
9. 日本のLCC
10. アジア・ゲートウェイ構想と国際ハブ空港
11. 国際ハブ空港プロジェクトの事例
12. 3大アライアンス
13. 航空会社とブランド JALとANA

14. 航空機の進化とツーリズム
15. 航空業界の地球環境対策

授業の方法
講義を中心とするが学生への課題ではグループで討議し調べ発表の機会を設ける。

準備学修
世界の航空業界でのアライアンス・LCC・ツーリズムの動向などにいつも注目しておく。

課題・評価方法
平常点50%、定期試験50%

欠席について
特別の理由のない欠席は1回につき5点減点する。

テキスト
特に指定しない。適宜プリントを配布する。授業内容によりDVDなどの映像でも紹介する。

参考図書
『航空産業入門』(株)ANA総合研究所 2012
『日本の空を問う』伊藤元重・下井直毅 日本経済新聞出版

留意事項
授業中に指示する。

教員連絡先
arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光フランス語			13837		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	2				

授業の到達目標

＜観光客としてフランスを旅行する＞ために最低限必要な知識と会話を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランス基礎情報、衣食住を含むフランス人の日常生活、社会の動向、文化などフランス諸事情全般について書かれたテキストを講読し、必要に応じて関連項目のDVD鑑賞を行う。それらを通してフランスのイメージをより具体化する。要望があれば仏検の指導を行う。

授業計画

1. オリエンテーション【La France】
2. 【La France】Paris
3. 【Paris】
4. 【Les cafés】
5. 【La vie des étudiants】
6. 【Le pain, le vin et le fromage】
7. 【La Bretagne】
8. 【La Bretagne】
9. 【La Provence】
10. 【La Provence】
11. 【L'Alsace】
12. 【L'Alsace】
13. 【Le français dans le monde】
14. 【Le français dans le monde】
15. 【フランス映画鑑賞(フランス語)】

授業の方法

多彩なテーマについて書かれた関連資料の講読と学生の発表による。

準備学修

フランス語1～8の総復習は必須。日頃からフランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

授業出席は必要不可欠。やむを得ない場合は必ず授業で進んだところまでの補習が必要である。

テキスト

bis Amicalement 駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

資料講読はフランス語でなされるため、履修に関してはフランス語7～8終了レベルのフランス語力が必要である。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光文化地理論			13838		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫	選択	2				

授業の到達目標

海外旅行地理の基礎と海外の国々の観光と文化に関する知識を学び、このクラスではKAISEIパーソナリティA（自律）とIn（国際性）を養います。

授業の概要

海外の国々を、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニア、太平洋の島、中東、アフリカに分けて、世界の国、都市、地域、島、観光ポイントなどの必修知識を学習する。また同時にインターネット関連サイトで地図や写真などのビジュアルから現地情報を学習する。

授業計画

1. 「世界の地勢」大陸と大洋 各地域の地勢
2. 「アジア」韓国 台湾 中国
3. 「アジア」香港 マカオ フィリピン
4. 「アジア」ベトナム カンボジア マレーシア
5. 「アジア」シンガポール インドネシア タイ インド ネパール
6. 「ヨーロッパ」イギリス オランダ ベルギー
7. 「ヨーロッパ」北欧4国 ドイツ
8. 「ヨーロッパ」スイス オーストリア フランス
9. 「ヨーロッパ」イタリア スペイン ポルトガル ギリシャ
10. 「ヨーロッパ」チェコ ハンガリー ポーランド ロシア連邦
11. 「南北アメリカ」アメリカ ハワイ
12. 「南北アメリカ」カナダ メキシコ キューバ パナマ ベルギー ブラジル アルゼンチン
13. 「オセアニア 太平洋の島」オーストラリア ニューゼaland グアム サイパン 南太平洋の島々
14. 「中東 アフリカ」トルコ イスラエル エジプト ケニア タンザニア
15. 「総括」世界の都市・観光 祭り イベント 伝統工芸

授業の方法

学習内容とリンクして、インターネットの関連サイトで地図や写真などのビジュアルを通して現地情報を学習する。

準備学修

事前に指示された個所を予習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は減点の対象とする。

テキスト

『すぐに役立つ海外地理ベーシック400』JTB総合研究所

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

alohasam@y7.dion.ne.jp

資格科目〈英語・観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英検3級	ET	13845		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
西山 裕子	選択	1			

授業の到達目標

観光英語検定試験3級を受験する際に必要となる語彙・文法を確認しながら、読解・リスニング力を深めるために資格取得に向けた演習を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn(国際性)を養う。

授業の概要

毎回、基本的に一つのユニットを行い、様々な場面での専門用語の習得を目指す。試験に合格するための対策として観光英検3級の問題演習も随時採り入れながら、観光・旅行に必要な英語表現と語彙を半期でマスターすることを目標とする。

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Travel
3. Unit 2 Jobs and People
4. Unit 3 Getting on the Plane
5. Unit 4 At the Immigrations and Customs
6. Unit 5 At the Airport
7. Unit 6 Hotel(Accommodation)
8. Unit 7 Hotel(Breakfast and Fast Food)
9. Unit 8 Sightseeing
10. Unit 9 Shopping
11. Unit 10 Transportation
12. Unit 11 Problems and Complaints
13. Traveling in Japan 1 空港からホテルへ(1)(2)
14. Traveling in Japan 2 旅館と食事(4)(7)
15. Traveling in Japan 3 移動手段 新幹線とタクシー(9)(10)

授業の方法

毎回、一つのユニットの演習問題を行う。

準備学修

毎回必ず指示された箇所の予習をしていくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回欠席につき2点減点とする。

テキスト

English for Tourism Basic, Sanshusha

参考図書

授業時に指示。

留意事項

英語辞書必携。

資格科目〈英語・観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英検2級	ET	13846		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
入江 和子	選択	1			

授業の到達目標

英語の一般的能力だけでなく、観光・旅行の分野の英語力を身につけ、観光英語検定2級の合格を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

日本の国際化が進行する中、国内外の旅行者に対応する職業では国際人としての高い英語力が求められている。授業では、その基本ともいえる旅行や観光に関連する専門用語や独特の表現などを習得する。また語学面だけでなく、日本と外国とのマナーや習慣、文化の違い、観光に必須の地理や歴史も学びながら筆記とリスニング両面から観光英検過去問2級対策を行う。

授業計画

1. 観光英語キーワード演習 1、観光英検過去問 2級
2. 観光英語キーワード演習 2、観光英検過去問 2級
3. 観光英語キーワード演習 3、観光英検過去問 2級
4. 観光英語キーワード演習 4、観光英検過去問 2級
5. 観光英語キーワード演習 5、観光英検過去問 2級
6. 観光英語キーワード演習 6、観光英検過去問 2級
7. 観光英検過去問 2級
8. 観光英検過去問 2級
9. 観光英検過去問 2級
10. 観光英検過去問 2級
11. 観光英検過去問 2級
12. 観光英検過去問 1級
13. 観光英検過去問 1級
14. 観光英検過去問 1級
15. 観光英検過去問 1級

授業の方法

実践演習、解説を中心に行う。

準備学修

毎年6月に行われる受験は短期決戦になる。そのため課題は多くなるが、指示された範囲は必ず仕上げていくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

全国語学ビジネス観光教育協会編 『第24・25回観光英語検定試験解説書』ほかにハンドアウトを配布する。

参考図書

全国語学ビジネス観光教育協会観光英検センター編 『観光英語検定試験 問題と解説 2級』

留意事項

受講者は、原則として英検準2、2級取得者を対象とする。

現代人間学部 心理こども学科

専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	a	17101		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
大岸 啓子	必修	2			

授業の到達目標

絵本における「絵と言葉」の力に関する卒業研究を進めるために、文献や資料を読んで、意見交換を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)の育成を目指す。

授業の概要

作家や出版社等が子どもたちに読ませたい本として紹介している作品を取り上げて、分析を行う。また、絵と文章の読み方、読み聞かせの仕方、作家の経歴と作品との関係について学び、研究テーマの方向性を決めていく。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、絵本の基本概念
2. 世界の絵本の歩み
3. 日本の絵本の歩み
4. 現代の絵本
5. 現代の絵本
6. 文の機能と絵の機能
7. 画面展開と描写の手法
8. 絵本の表現
9. 絵本の画材と技法
10. 子どもの発達と絵本
11. 赤ちゃん絵本、幼児絵本
12. 小・中学生と絵本
13. 障がい者と絵本
14. 絵本の読み聞かせ、絵本の選び方
15. まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

テキストを読んで各回の学習内容を把握し、まとめておくこと。レポートのテーマや字数については、事前に連絡する。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

ミネルヴァ書房『ベーシック絵本入門』生田美秋・石井光恵・藤本朝巳

参考図書

授業中に、随時紹介する。

留意事項

自分から進んで研究に取り組み、主体的に授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	b	17101		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
	必修	2			

授業の到達目標

授業で学んだことや実習体験の中で、特に興味関心をもったことを卒業研究に向けての「テーマ」探しとして確認・整理していく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

ゼミ生、担当教員との討議や発表を通して、卒業研究への具体的な方向性を明らかにする。

授業計画

1. はじめに
2. 演習の取り組みについて
3. 資料の輪読(1)
4. 資料の輪読(2)
5. 資料の輪読(3)
6. 資料の輪読(4)
7. 資料の輪読(5)
8. 資料の輪読(6)
9. ゼミ生の発表(1)
10. ゼミ生の発表(2)
11. ゼミ生の発表(3)
12. ゼミ生の発表(4)
13. ゼミ生の発表(5)
14. ゼミ生の発表(6)
15. まとめ

授業の方法

発表と討論を多く取り入れる。

準備学修

発表の際にはレジュメを用意すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	c	17101		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
佐原 信江	必修	2			

<p>授業の到達目標</p> <p>文献を読んで協議したり、領域に関わる研修をしたりする中で、「幼児期の教育」の重要性を認識し、各自が研究の方向性を見定める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を養う。</p> <p>授業の概要</p> <p>幼児期にふさわしい園生活の展開について学びながら、各自が関心のある事柄を模索していく。また、図書の後感の発表などを通して、卒業研究への具体的な方向性を定めていく。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、演習の取り組み方 2.「幼児期の教育」について資料を読み協議する。 3.園生活の四季について、各自が作成した資料をもとに発表しあう。 4.＃ 5.＃ 6.＃ 7.課題図書后感想文を発表し、意見交換して推敲する。 8.＃ 9.＃ 10.＃ 11.＃ 12.＃ 13.各自が研究テーマの方向について報告する。 14.＃ 15.まとめ <p>授業の方法</p> <p>収集した資料や文献をもとに、書いてまとめる、協議するといった方法を取り入れ、特に文章表現力の向上に向けた授業とする。</p> <p>準備学修</p> <p>授業で活用する資料等は、事前に伝えるので、調査収集に努めること。</p>

<p>課題・評価方法</p> <p>平常点70%、定期試験30%</p> <p>欠席について</p> <p>欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。</p> <p>テキスト</p> <p>必要に応じて提示、紹介する</p> <p>参考図書</p> <p>必要に応じて提示、紹介する</p> <p>留意事項</p> <p>主体的に授業に臨み、自分から進んで研究に取り組む気持ちを培うこと。 学外のボランティアや幼稚園行事に積極的に参加して学ぶように。</p> <p>教員連絡先</p> <p>sahara@kaisei.ac.jp</p> <p>オフィスアワー</p> <p>直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。 各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。</p>

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	d	17101		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中植 満美子	必修	2			

<p>授業の到達目標</p> <p>心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なテーマに基づきながら独自に施行を展開し、他者に表現できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自立)とI(知性)とE(倫理)とを養う。</p> <p>授業の概要</p> <p>様々な心理臨床領域における心理学論文の研究事例を文献講読する。学生が各自、関連する分権を収集・要約・発表し、その研究方法や課題について話し合う中で、各自の卒業研究のテーマを見出す機会を設ける。要約文は各自毎回提出とする。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.全員での共通の文献講読 1 3.全員での共通の文献講読 2 4.全員での共通の文献講読 3 5.共同研究のためのリサーチの準備 6.リサーチ・結果の処理 1・データ入力 7.リサーチ・結果の処理 2・データ入力 8.リサーチ・結果の処理 3・データ入力 9.リサーチ・結果の処理 4・データ入力 10.リサーチ・結果の処理 5・データ入力 11.リサーチ・結果をまとめて各自で発表原稿を作成 12.共同研究の発表の準備 13.共同研究の発表の準備 14.協働研究の発表の準備 15.各自の興味のあるテーマについて発表 <p>授業の方法</p> <p>教材とする研究論文を熟読することで、研究論文のスタイルについて学ぶ。また、自分の関心のあるテーマや研究法を探しながら、要約文を作成し、発表することで、論文作成に必要な姿勢を身につける。</p>

<p>準備学修</p> <p>できるだけ多くの関連するテーマについての文献や論文を普段から集めて目を通す習慣をつける。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点50%、定期試験50%</p> <p>欠席について</p> <p>一回の欠席につき5点、遅刻は2点の減点とする。欠席が5回以上で不合格とする。</p> <p>テキスト</p> <p>必要に応じて提示、紹介する。</p> <p>参考図書</p> <p>必要に応じて提示、紹介する。</p> <p>留意事項</p> <p>要約文は毎回の授業で提出とする。</p> <p>オフィスアワー</p> <p>直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。 各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。</p>

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	e		17101		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標

保育に関する様々な理論や実習の経験を活かし、より興味関心をもったことについて、文献を活用して新たな知識と情報を得る。また、自分の意見をまとめて発表することを通して、文章表現力を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

課題の文献・資料を講読し、調査結果と自分の意見をまとめて発表する。さらに、ディスカッションを経て課題を見出し、考察力を高め自分の研究したい内容や方向性を明らかにする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 課題文献・資料を講読し保育現場における課題について討議する
3. 課題文献・資料を講読し保育現場における課題について討議する
4. 課題文献・資料を講読し保育現場における課題について討議する
5. 課題文献・資料を講読し保育現場における課題について討議する
6. 課題文献・資料を講読し保育現場における課題について討議する
7. 課題文献・資料を講読し保育現場における課題について討議する
8. 各自の興味関心ある内容について、発表・討議を行う
9. 各自の興味関心ある内容について、発表・討議を行う
10. 各自の興味関心ある内容について、発表・討議を行う
11. 各自の興味関心ある内容について、発表・討議を行う
12. 各自の興味関心ある内容について、発表・討議を行う
13. 各自の研究テーマ設定に向けて、報告・討議を行う
14. 各自の研究テーマ設定に向けて、報告・討議を行う
15. まとめ

授業の方法

文章表現、発表、ディスカッションを主とする。

準備学修

事前に課題の文献・資料を伝える。それに関するレポートを作成し、討議資料とする。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

自ら進んで研究に取り組み、提出物の期限を守ること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	a		17105		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究のテーマを設定するために、児童文学作品に関する文献や資料を分析し、意見交換を行う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)の育成を目指す。

授業の概要

様々なジャンルの児童文学作品や、作家に関する文献を講読し、絵本の分析、作品の特徴、作家の経歴等についての発表や討議を行い、各自の研究テーマを設定していく。

授業計画

1. 今後の研究の進め方について、絵本の種類
2. 創作(物語)絵本
3. 昔話絵本・童話絵本
4. ファンタジー絵本
5. ナンセンス絵本・パロディ絵本
6. 文字なし絵本
7. ことばの絵本・詩の絵本
8. 認識絵本・生活絵本
9. 科学絵本・写真絵本
10. 教材としての絵本
11. 仕掛け絵本
12. 名作絵本から学ぶ
13. 名作絵本から学ぶ
14. 名作絵本から学ぶ
15. 研究の方向性とテーマ

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

テキストを読んで各回の授業内容を把握し、まとめておくこと。レポートのテーマや字数については、事前に連絡する。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

演習 のテキストを継続して使用する。

参考図書

授業中に、随時紹介する。

留意事項

研究を進めるために必要な文献・資料を収集し、読んでおくこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	b		17105		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究のテーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

卒業研究のテーマを設定し、レポート作成、プレゼンテーション、討論などを通してテーマについての理解を深めていく。

授業計画

1. はじめに
2. 実習における学びについて報告・発表(1)
3. 実習における学びについて報告・発表(2)
4. 実習における学びについて報告・発表(3)
5. 研究計画・文献収集に関する指導(1)
6. 研究計画・文献収集に関する指導(2)
7. 研究計画・文献収集に関する指導(3)
8. 研究計画・文献収集に関する指導(4)
9. 論文の書き方(1)
10. 論文の書き方(2)
11. 研究発表(1)
12. 研究発表(2)
13. 研究発表(3)
14. 研究発表(4)
15. まとめ

授業の方法

発表や討論を多く取り入れる。

準備学修

図書館で自分の関心のあるテーマの文献を書架や端末で検索する習慣を身につけておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回の欠席につき2点減点。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	c		17105		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江	必修	2				

授業の到達目標

討議を重ねて互いに学び合いながら、各自が研究したい内容について熟考する。そして、研究テーマの方向性を確かなものにしていく。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を養う。

授業の概要

保育現場における人的・物的・空間的環境を通じた幼児教育の重要性を認識し、各自の興味・関心に応じた研究テーマを設定する。

授業計画

1. 演習の進め方について共通理解する。
2. 各自の研究テーマの進め方について話し合う。
3. "
4. "
5. "
6. "
7. 教育実習での学びを研究テーマに生かす。
8. "
9. "
10. 各自の研究について進捗状況を報告し合う。
11. "
12. 卒業研究に向けての見通しを立て、必要な文献を収集し、発表する。
13. "
14. "
15. まとめ

授業の方法

主体的に授業に参加できるように、書く活動をもとにして、発表や協議活動を中心とする。

準備学修

研究を進めるために必要な文献・資料の収集に積極的にすること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回につき5点減点とし、遅刻は2点減点とする。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

学外での活動にも積極的に参加し、経験の幅を広げていくと共に、豊かな人間性を培うよう努力してもらいたい。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	d		17105		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	必修	2				

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら独自に施行を展開し、他者に表現できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自立)とI(知性)とE(倫理)とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けての文献の収集・要約・調査などを行う。自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、共同研究を通じて必要な研究法・手続きについて学び、最後に自分の研究テーマと研究計画の設定を試みる。要約文は毎回提出とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 共同研究発表の準備
3. 共同研究発表の準備
4. 共同研究発表の準備・反省会
5. 各自のリサーチ発表1
6. 各自のリサーチ発表2
7. 各自のリサーチ発表3
8. 研究法・手続きについての話し合い1
9. 研究法・手続きについての話し合い2
10. 各自のリサーチ発表4
11. 各自のリサーチ発表5
12. 各自の研究計画の立案と発表1
13. 各自の研究計画の立案と発表2
14. 卒業研究発表・質疑応答の練習
15. まとめ

授業の方法

共同研究の発表後、各自で論文のリサーチ・要約・発表を実施し、論文作成に必要な研究法や手続き、調査を実際に体験する。

準備学修

図書館などで、論文を検索し、集め、できるだけ多くの文献に目を

通す。また、必要な手続き(統計法など)を復習しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回につき、欠席で5点、遅刻で2点の減点とする。5回以上の欠席で不合格となる。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

論文の要約文は毎週提出とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	e		17105		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標

演習 で見出した各自の研究したい内容や方向性に基づいて、関連する文献や資料を収集し研究テーマを設定する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を養う。

授業の概要

各自が研究したい内容や方向性について、文献や資料を検索し調査を進める。さらに、発表・討議を通して各自の研究テーマを設定する。

授業計画

1. 演習 の進め方について
2. 研究内容・研究方法についての発表・討議
3. 研究内容・研究方法についての発表・討議
4. 研究内容・研究方法についての発表・討議
5. 研究内容・研究方法についての発表・討議
6. 研究内容・研究方法についての発表・討議
7. 研究内容に関する文献や資料についての発表・討議
8. 研究内容に関する文献や資料についての発表・討議
9. 研究内容に関する文献や資料についての発表・討議
10. 研究内容に関する文献や資料についての発表・討議
11. 研究テーマについての検討・討議
12. 研究テーマについての検討・討議
13. 研究計画についての検討・討議
14. 研究計画についての検討・討議
15. まとめ

授業の方法

文章表現、発表、ディスカッションを主とする。

準備学修

「調べる」「まとめる」を主とした研究活動に丁寧に取り組むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	b	17109		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
大岸 啓子	必修	2			

授業の到達目標
 演習 ・ で取り組んだ内容からテーマを決定し、卒業研究を作成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)の育成を目指す。

授業の概要
 研究テーマに沿って、提出までの計画を立て、必要な文献や資料の収集に自主的に取り組み、卒業研究を進めていく。

授業計画

1. 演習の進め方
2. 卒業研究のテーマ
3. 研究報告と討議
4. 研究報告と討議
5. 研究報告と討議
6. 研究報告と討議
7. 研究報告と討議
8. 研究報告と討議
9. 研究報告と討議
10. 研究報告と討議
11. 研究の進め方
12. 研究の進め方
13. 研究の進め方
14. 研究の進め方
15. まとめと今後の取組

授業の方法
 自分と他者の考えを比較・検討し、討議することを重視する。

準備学修
 研究テーマに沿って、作品や作家について調べ、レポートを提出すること。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書
 必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項
 研究テーマを念頭に置いて、文献・資料を自主的に収集すること。

教員連絡先
 ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	c	17109		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
作 美代子	必修	2			

授業の到達目標
 三年次の演習 ・ での学習成果を踏まえ、自分の興味・関心のある事柄について卒業研究のテーマとすることを見極めて取り組む。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自立)とI(知性)を養う。

授業の概要
 各自のテーマに沿って研究計画を立て、幼稚園や保育所へのボランティアや文献講読、インターネットでの検索など適切な方法で情報収集に努め、テーマへの学びが深まるようにする。

授業計画

1. 各自の研究テーマ・研究方法を確認する(1)
2. 各自の研究テーマ・研究方法を確認する(2)
3. 各自の研究テーマ・研究方法を確認する(3)
4. ゼミ生間でテーマの共通理解とディスカッション(1)
5. ゼミ生間でテーマの共通理解とディスカッション(2)
6. ゼミ生間でテーマの共通理解とディスカッション(3)
7. 研究の進捗状況の報告と発表(1)
8. 研究の進捗状況の報告と発表(2)
9. 研究の進捗状況の報告と発表(3)
10. 研究の進捗状況の報告と発表(4)
11. 研究の進捗状況の報告と発表(5)
12. 研究の進捗状況の報告と発表(6)
13. 研究の進捗状況の報告と発表(7)
14. まとめと課題・今後の展望(1)
15. まとめと課題・今後の展望(2)

授業の方法
 各自の報告と全体での討議を繰り返し、報告内容についての理解を深めていく

準備学修
 幼稚園や保育所等へのボランティアや施設見学、研修会への参加等を積極的に行うこと

課題・評価方法
 研究テーマに関する文献講読や情報収集の進捗状況や取り組みの姿勢、理解の程度そして出席状況や授業中の態度などを考慮して評価する。

欠席について
 欠席一回につき5点、遅刻は2点の減点とする。

テキスト
 「育ての心(上)」 倉橋惣三著 フレーベル館

参考図書
 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
 こども クマノミ出版
 その他 必要に応じて紹介する。

留意事項
 研究テーマに関する文献・資料を自主的に収集するように努められたい。発表当日は必ず資料を準備すること。

教員連絡先
 okodes@docomo.ne.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	d	17109		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中植 満美子	必修	2			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら独自に施行を展開し、他者に表現できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自立)とI(知性)とE(倫理)とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読み、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究方法や分析の方法についても復習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. リサーチ・発表・ディスカッション 1
3. リサーチ 2
4. リサーチ 3
5. リサーチ 4
6. 各自の研究の問題と目的について設定・発表
7. 各自の研究の研究方法、調査、手続きについて進行報告、ディスカッション 1
8. 進行報告 2
9. 進行報告 3
10. 調査報告 1
11. 調査報告 2
12. 調査報告 3
13. 結果のまとめ方について 1
14. 結果のまとめ方について 2
15. 結果のまとめ方について 3

授業の方法

文献研究、要約、発表、研究計画の作成、ディスカッション、研究方法・手続きの理解、調査の実施。

準備学修

調査、研究に必要な文献を熟読しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回の欠席で5点、遅刻で2点の減点とする。欠席5回で不合格とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

要約文や発表レジュメは毎週提出とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	b	17113		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
大岸 啓子	必修	2			

授業の到達目標

各自の研究テーマに沿って文章を作成・推敲し、卒業研究を完成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)の育成を目指す。

授業の概要

卒業研究を進めるために、全体指導や個別指導を行う。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成していく。

授業計画

1. 今後の卒業研究の進め方
2. 卒業研究の報告と討議
3. 卒業研究の報告と討議
4. 卒業研究の報告と討議
5. 卒業研究の報告と討議
6. 卒業研究の報告と討議
7. 卒業研究の報告と討議
8. 卒業研究の報告と討議
9. 卒業研究の報告と討議
10. 卒業研究の報告と討議
11. 卒業研究の推敲
12. 卒業研究の推敲
13. 卒業研究の最終報告と討議
14. 卒業研究の最終報告と討議
15. まとめ

授業の方法

自分と他者の考えを比較・検討し、討議することを重視する。

準備学修

研究内容に関する文献を読んで自分の考えをまとめ、レポートを提出すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

研究テーマに沿った文献を適宜紹介する。

留意事項

自主的に卒業研究に取り組むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	c		17113		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
作 美代子	必修	2				

授業の到達目標
各自が自分の設定した研究テーマを深く掘り下げ、その結果を卒業研究としてまとめる。このクラスではK A I S E I パーソナリティのK(思いやり)とA(自立)とI(知性)を養う。

授業の概要
各自の研究テーマに沿って実施した幼稚園や保育所・施設での実践や研究会への参加等から得た記録や参考資料を分析し考察をする。また、文献や先行研究の収集に努め、それらをまとめて演習の時間に発表する。討論や個別指導を受けてその内容を深め、卒業研究を作成する。

授業計画

1. 研究の進捗状況の確認(1)
2. 研究の進捗状況の確認(2)
3. 発表と討議(1)
4. 発表と討議(2)
5. 発表と討議(3)
6. 発表と討議(4)
7. 発表と討議(5)
8. 研究の報告と相互批評(1)
9. 研究の報告と相互批評(2)
10. 研究の報告と相互批評(3)
11. 研究の報告と相互批評(4)
12. 研究の修正とまとめ(1)
13. 研究の修正とまとめ(2)
14. 最終報告とまとめ
15. 最終報告とまとめ

授業の方法
各自の報告と全体討議、個人指導を通して報告内容を深めていく。

準備学修
図書館や機器を利用して文献を読んだり、実践記録をまとめたりしておくこと。

課題・評価方法
実践記録や文献講読のまとめ、研究会への参加など、研究への取り組みの姿勢、授業の参加態度等を考慮して評価する。

欠席について
一回の欠席につき5点、遅刻は2点の減点とする。

テキスト
必要に応じて紹介する。

参考図書
幼稚園じほう 全国幼稚園長会
こども クマノミ出版
幼稚園教育要領解説 フレーベル館

留意事項
積極的・主体的にそして真摯に取り組んでもらいたい。

教員連絡先
okodes@docomo.ne.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習	d		17113		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	必修	2				

授業の到達目標
心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なテーマに基づきながら独自に施行を展開し、他者に表現できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自立)とI(知性)とE(倫理)とを養う。

授業の概要
卒業研究作成のために、全体指導と個別指導を実施する。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成させていく。

授業計画

1. 調査結果のまとめ方1
2. 調査結果のまとめ方2
3. 調査結果のまとめ方3
4. 結果報告1
5. 結果報告2
6. 結果報告3
7. 結果報告4
8. まとめと考察1
9. まとめと考察2
10. まとめと考察3
11. 研究の修正・発表1
12. 研究の修正・発表2
13. 研究の修正・発表3
14. 各自の最終報告とまとめ1
15. 各自の最終報告とまとめ2

授業の方法
卒業研究の進捗状況の報告、プレゼンテーションと質疑応答が中心となる。

準備学修
秋学期開始までに調査を実施し、結果を簡単にまとめておくこと。

課題・評価方法
平常点50%、定期試験50%

欠席について
1回の欠席で5点、遅刻で2点の減点とする。欠席が5回以上で不合格となる。

テキスト
必要に応じて提示、紹介する。

参考図書
必要に応じて提示、紹介する。

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
発達心理学		17201		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中植 満美子	必修	2			

授業の到達目標

人間の行動や心を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化しつつあるものとしてそれを捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)とE(倫理)とを養う。

授業の概要

本講義では、人間の心というものが他者を含む環境との相互的かわりを通して発達していくことを、精神活動の成立と展開にとっての初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、各時期における具体的な保育・教育実践の課題と関連付けて解説しゆく。

授業計画

1. 精神機能を発生的に把握するということ:生物としての発生
2. 精神機能を発生的に把握するということ:遺伝と環境
3. 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
4. 知的精神機能の発達:感覚運動期1(新生児期)
5. 知的精神機能の発達:感覚運動期2(乳幼児期)
6. 知的精神機能の発達:前操作期1(幼児期)
7. 知的精神機能の発達:前操作期2(幼児期)
8. 知的精神機能の発達:具体的操作期(学童期)
9. 知的精神機能の発達:形式的操作期(学童期・青年期以降)
10. 初期経験と発達:野生児の例から
11. 対人関係と発達:愛着、社会性、遊びの発達
12. 対人関係の発達:コミュニケーション能力の発達
13. 発達研究における生態学的視点
14. 発達における障害の位置づけと診断・療育
15. 人格としての生涯発達およびまとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した発達に関連する課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学修

講義は各回が前回は前提として進められるので、毎回の講義内容をよく復習して授業に臨むようにしてください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回の欠席につき3点の減点とし、欠席5回以上で不合格とする。

テキスト

川島一夫、渡辺弥生編著 『図で理解する発達—新しい発達心理学への招待—』 福村出版 2010

参考図書

佐藤真子編 『人間関係の発達心理学2 乳幼児期の人間関係』 培風館

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容総論		17205		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
佐原 信江	必修	2			

授業の到達目標

- 1 保育所保育指針を学び、保育の全体的な構造を理解する。
 - 2 保育内容の歴史の変遷について学ぶ。
 - 3 子どもの発達の特徴を踏まえ観察や記録の観点を修得し、保育内容と子ども理解とのかわりについて学ぶ。
 - 4 養護と教育の一体性について具体的な保育実践につなげて理解する。
 - 5 保育の展開について具体的に学ぶ。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の理解を通して、子どもたちに体験させたい保育の内容について理解を深めていく。教育課程の意義、編成、指導計画について学ぶとともに、保育所保育の全体的な計画や保育の内容についても考慮し、乳幼児全体を視野に入れた保育内容について学習する。

授業計画

1. 保育の基本と保育内容
2. 保育の全体構造
3. 保育内容の歴史の変遷
4. 子どもの発達の特徴と保育内容
5. 個と集団の発達と保育内容
6. 保育における観察と記録
7. 養護と教育の一体化
8. 環境を通して行う保育
9. 遊びによる保育
10. 生活や発達の連続性に考慮した保育
11. 家庭、地域、小学校との連携
12. 保育の多様な展開1 乳児保育・長時間保育
13. 保育の多様な展開2 多文化共生の保育
14. 保育の多様な展開3 特別な支援を必要とする子どもの保育
15. まとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表を多く取り入れる。

準備学修

『保育所保育指針解説書』と『幼稚園教育要領解説』を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

参考図書

『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説』

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
性格心理学			17309		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
黒羽 カテリーナ	選択	2				

授業の到達目標
 性格とは何かということ、性格の諸理論、性格の形成要因、性格の適正、および適応変化などの視点からとらえ、自分や他者についての理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養います。

授業の概要
 人間の行動の仕方には個人差が存在するところから性格という言葉が生まれた。その複雑な個人差を測定する方法を知るとともに、性格はいかにして形成されるのか、性格を理解するための理論にはどのようなものがあるのか、さらには、性格から生じる不適応などの問題について学び、自分理解と他者理解の促進をはかる。

授業計画

- 1.はじめに:性格の定義・研究史
- 2.性格の諸理論
- 3.性格の類型論
- 4.性格の特性論
- 5.性格の発達I:性格形成の要因
- 6.性格の発達II:ライフサイクル論
- 7.家族関係と性格
- 8.人間関係と性格
- 9.文化と性格
- 10.適正とは
- 11.性格と病気
- 12.性格理解の方法I:バウム・テスト
- 13.性格理解の方法II:エゴグラム
- 14.性格理解の方法III:文章完成法テスト
- 15.総括

授業の方法
 講義とペアまたはグループワークを中心とし、適宜心理検査を実施する。

準備学修
 授業後の復習が必要である。

課題・評価方法
 定期試験(50%)、小レポート(20%)、出席状況(15%)、授業後の感想文(15%)

欠席について
 補填を希望する場合は、必ず申し出ること。

テキスト
 プリントを使用する。

参考図書
 詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 『性格心理学への招待 自分を知り他者を理解するために』 サイエンス社

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
感情心理学			17317		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	選択	2				

授業の到達目標
 感情が人間の生活においてどのような役割を果たしているかを再認識したうえで、感情のメカニズム、感情の発達、感情の障害・病理について考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とK(思いやり)を養う。

授業の概要
 感情の喚起と脳のメカニズム、感情の主観的経験とその表出および理解、感情の調節に至るまでの過程を自らの体験と照らし合わせながら理解を深めていく。また、他者と同じ感情を分かち合う共感の過程について、さらには感情調節の障害とそれへの対応についても認識を深める。

授業計画

- 1.感情の意義と役割
- 2.感情喚起のメカニズム
- 3.情動的知能
- 4.感情の主観的経験
- 5.感情表出のメカニズム
- 6.他者の感情の認知・理解
- 7.共感のメカニズムとカウンセリング
- 8.感情の調節
- 9.感情経験と表出の発達
- 10.感情調節の発達
- 11.共感能力の発達
- 12.感情と言語
- 13.感情の障害と臨床(1)不安
- 14.感情の障害と臨床(2)うつと攻撃性
- 15.今後の研究課題

授業の方法
 主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学修
 自分の最近の感情生活についてふりかえっておく。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 欠席1回につき2点減点。

テキスト
 『共感と思いやりの心理 援助職をめざす人のために』澤田瑞也 他著、2013年、開成出版

参考図書
 『感情の発達と障害 -感情のコントロール』澤田 瑞也著、2009年、世界思想社

留意事項
 授業の中で課す小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は、は+2点、は+1点、は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人格発達心理学		17321		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中植 満美子	選択	2			

授業の到達目標
 人格の発達にとって、年齢によって変化する身体と社会的な諸関係、文化というものが重要な役割をはたすことについて、各発達段階ごとの課題や危機の理解をふまえた説明ができることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自立)とI(知性)とS(奉仕)とE(倫理)とを養う。

授業の概要
 人間の心理的発達の特殊性は、文化を担った社会的環境の中で他者との関係を築き上げながら変化していくことにあると考えられる。また、その変化は、具体的な身体を有する人間と人間との各時期に応じた葛藤をはらんで展開するものであると考えられる。本講義では、主に精神の情動的側面の意義についての考察をふまえ、エリクソンの人格発達理論に依拠しながら、他者との関係性の発達としての人格発達について論じてゆく。

授業計画

- 1.オリエンテーション 人間の発達における情動のもつ本質的役割
- 2.人格発達における対人関係の葛藤とその克服の意義
- 3.自他未分化の世界における信頼関係:自己を映し出す鏡としての他者
- 4.活動における自立性と自我の発生:自我の芽生えと対人的葛藤
- 5.社会的役割関係への関心:幼児期における親世代との葛藤
- 6.人格発達の躰き 1(乳幼児期)
- 7.規範性の世界への参入:学童期の同世代の仲間関係の中での自己
- 8.自我同一性と同一性拡散:「私とは何か」という問いと進路選択
- 9.人格発達の躰き 2(学童期・青年期)
- 10.成人他者との社会的関係の維持・発展:生活の共有関係における自己実現と妥協
- 11.次世代(子ども)との安定した関係の構築:次世代を育てる関係の維持
- 12.喪失体験と死を前にした人生の統合:過去経験の統合と受容
- 13.人格発達の躰き 3(成人期・老年期)
- 14.人格発達を背後で支える自然・社会環境について
- 15.まとめ

授業の方法
 講義と単元内容に相応した、人間関係の様式やその危機に関する作業課題に毎回の授業で回答しながら学習をすすめる。

準備学修
 発達の变化に着目できるように、前回の講義内容をよく念頭に入れて受講するようにしてください。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト
 必要な文献は適宜紹介する。

参考図書
 戸田まり・サトウタツヤ・伊藤美奈子 共著『グラフィック性格心理学』サイエンス社エリクソン,E.H. 『幼児期と社会』、『みすず書房』

留意事項
 講義内容を理解してゆく前提として、「発達心理学」を受講しておくことが望ましい。

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学		17325		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
津田 明子	選択	2			

授業の到達目標
 臨床心理学の誕生から現在までの歴史の変遷を概観し、臨床心理学の中核を成す人格理論・発達理論について学習したうえで、臨床心理学の実際としての心理アセスメントと基本的な心理療法について学び、最終的に臨床心理学的に人間を理解するという視点を獲得する事を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)について考えます。

授業の概要
 本講義では、臨床心理学の歴史の変遷を概観し、その発展を支え、臨床心理学の基礎となった代表的な学者の考え方(人格理論・精神発達理論)を解説していく。また、実際の臨床場面において使われている心理アセスメントと基本的な心理療法についても紹介していく。そして、最終的に臨床心理学的観点から人間を理解することについて考えてもらう。

授業計画

- 1.臨床心理学とは
- 2.臨床心理学の歴史
- 3.こころのしくみとパーソナリティ フロイトの考え方
- 4.こころのしくみとパーソナリティ ヨングの考え方
- 5.こころの発達理論 エリクソンの考え方
- 6.こころの発達理論 クラインの考え方
- 7.こころの発達理論 マーラーの考え方
- 8.こころの発達理論 ウィニコットの考え方
- 9.臨床心理学の実際ー心理アセスメントについて
- 10.臨床心理学の実際ー心理療法とは
- 11.心理療法 精神分析療法・分析心理学派
- 12.心理療法 クライアント中心療法
- 13.心理療法 森田療法・内観療法・遊戯療法
- 14.心理療法 芸術療法・認知行動療法・家族療法
- 15.総括

授業の方法
 講義を中心とする。

準備学修
 臨床心理学に関係すると思われる書籍で関心のあるものを1冊以上読んでおくこと。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 実習などの特別な欠席を除き、1回の欠席につき、2点を減点する。

テキスト
 特に決まったテキストは用いない。

参考図書
 授業の中でその都度紹介する。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
認知心理学		17329		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中植 満美子	選択	2			

授業の到達目標
 人間が身体と心を動員して環境に臨むなかで、それを知覚し、判断し、行動するシステムが機能することを、その成り立ちとともに解説し、人間が「環境内存在」であることへの理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)を養う。

授業の概要
 見る、聞く、触れる、思考する、記憶するという人間の基本的な精神機能は、常に主体と環境との連続した循環的な反応の環のなかで実現している。人間が能動的かつ協同的な存在であるがゆえに、これらの基本的な機能は実現されているということ、心理学的システムとして理解し、その成り立ちについて、進化心理学的あるいは発生心理学的な視点から考察してゆく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 人間の知覚的特性: 視覚
3. 人間の知覚的特性: 聴覚
4. 人間の知覚的特性: 運動感覚と認知
5. 人間の知覚的特性: 空間知覚
6. 注意と記憶 1
7. 注意と記憶 2
8. イメージ処理
9. 言語と談話理解 1
10. 言語と談話理解 2
11. 推論と問題解決
12. 思考と言語 1
13. 思考と言語 2
14. 社会的認知
15. まとめ

授業の方法
 講義と単元内容に相当した、感覚、知覚、文章記憶、意味表象、物語認知、出来事認知、日常の問題解決などについての課題に毎時間回答しながら学習をすすめる。

準備学修
 心理学概論で学んだ感覚、知覚、記憶、思考などの基本的な概念をよく理解しておくこと。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席は不合格とする。

テキスト
 必要な文献は適宜紹介する。

参考図書
 末田啓二 編著 『心理学の最先端』2013 あいり出版 他適宜紹介する。

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理統計学		17337		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
須崎 暁世	選択	2			

授業の到達目標
 統計の基本的な技法とその考え方を、心理学的な領域のデータを扱いながら、自ら活用できるような力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要
 心理学研究の解析手法を支える統計学について、その理論的な意味について解説する。講義はできる限り具体的なデータを学生が扱いながら、記述統計から推測統計まで、その処理プロセスと統計手法個々の概念について学んでゆく。

授業計画

1. データの性質について: 変数と尺度水準
2. データの性質について: 尺度水準と変数変換
3. データの表現: ヒストグラムの作成
4. 代表値と散布度
5. 標準化とは何か
6. 相関係数とは何か: 散布図・共分散
7. 相関係数とは何か: 2変数の関係
8. 標本と母集団
9. 標本と母集団
10. 統計的仮説検定の考え方
11. 統計的仮説検定の考え方
12. ノンパラメトリックな検定: カイ二乗検定
13. 平均値の差の検定: t検定
14. データの分散と条件の比較: 分散分析の読み取り方
15. まとめ

授業の方法
 講義と単元内容に相応した、確率、変数の性質、データ分布、代表値算出、散布度算出、相関係数、カイ二乗検定、t検定などの具体的な計算や検定作業を行いながら学習を進める。

準備学修
 記述統計の基本について、よく復習しておくこと。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次回にその旨申し出る事。

テキスト
 山田剛史・村井潤一郎 2004 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房

参考図書
 石村貞夫 1993 すぐわかる統計解析 東京図書
 吉村寿夫 1998 本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房
 田中敏・山際勇一郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版
 南原風朝和 2002 心理統計学の基礎 有斐閣

留意事項
 本講義では「統計学入門」を履修しておくことを前提として進める。講義では電卓を使用することがあるので準備しておくこと。授業は教科書にそって進めるため、教科書を購入すること。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学基礎実験		17341		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

心理学研究のとりわけ実験的な手法について、問題と目的の設定、実験計画の方法、実験手続き、結果の処理、考察にいたるまでのプロセスを学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

知覚から動機までの広い範囲にわたる基礎的な実験心理学の課題に、学生各自が実験者・被験者となって取り組みながら、その手法を学んでいく。各実験毎にレポートを課す。各実験とレポートの書き方説明とがワンセットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートは書けないことになるので注意すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 知覚1 ミュラー・リヤー錯覚
3. 知覚2 ミュラー・リヤー錯覚
4. 認知・学習1 鏡映描写
5. 認知・学習2 鏡映描写
6. レポートに関するコメント(1)
7. 記憶と忘却1
8. 記憶と忘却2
9. 要求水準1
10. 要求水準2
11. 情報伝達1
12. 情報伝達2
13. レポートに関するコメント(2)
14. イメージ測定
15. 総合レポートの作成

授業の方法

主に実習（実験）形式で行う。

準備学修

平均値の求め方を復習しておく。レポートの書き方に慣れておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

2週で1セットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートが書けないことになる。

テキスト

なし

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

結果の処理にあたり、各自電算機を用意しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理調査・データ処理法		17345		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
須崎 暁世	選択	2			

授業の到達目標

調査法の基本的な考え方を理解するとともに、それを実際に実施し、得られたデータを統計的な解析に持ち込んで評価できるまでの心理統計的な技法と理論を活用する力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

心理学研究のとりわけ調査法について、統計的な手法を用いたデータ解析を取り入れた研究方法について学ぶ。論文などの具体的な調査を参考にしつつ、調査の実施法を問題の設定、質問紙等の作成から、データの収集、統計解析手法、結果の解釈、結果の表現にいたるまでのプロセスを実践的に学んでゆく。また、その際に必要な研究倫理についても学ぶ。

授業計画

1. 調査研究の方法:実験法・観察法との比較1
2. 調査研究の方法:実験法・観察法との比較2
3. 調査研究の方法:面接調査法・検査法との比較
4. 質問紙作成の基礎
5. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査の実施法1
6. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査の実施法2
7. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査結果の集計とデータ表現
8. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:心理尺度の作成1
9. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:心理尺度の作成2
10. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:心理尺度の作成3
11. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用1
12. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用2
13. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用3
14. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用4
15. まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、質問紙の作成、調査の実施、統計などの具体的な手順をふみながら、学習を進める。

準備学修

心理統計学の基本的な用語や計算手法をよく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出る事。

テキスト

鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 1998 心理学マニュアル 質問紙法 北大路書房

参考図書

田中敏・山際勇一郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版

留意事項

この講義を受講する学生は「情報リテラシー」「統計学入門」および「心理統計学」についても受講すること。授業は教科書にそって進めるため、教科書を購入すること。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人格発達障害論		17361		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中植 満美子	選択	2			

授業の到達目標

人格形成に影響を与える諸要因について学び、他者理解や自己理解、そして自己成長の手がかりとなる知識を得る。人格理論を学びながら、よりよい人間関係を築くための思いやりの心や共感性を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)とE(倫理)とを養う。

授業の概要

人格の発達論と、人格形成に影響を与える要因について、また、人格の成長を阻害する要因と、人格の障害とはどのようなことであるかについて理解を深める。また心理査定や心理療法の事例を通じて、「自分」や「他者」のこころを理解し、人格心理学の知識を今後の人生や社会生活の中で活かしていけるように、演習等を経験しながら、体験的に知識を身につける方法を学ぶ。

授業計画

1. 人格とは
2. 人格を知る方法(心理テスト)
3. 人格の発達について1
4. 人格の発達について2
5. 人格の発達について3
6. 人格形成に影響を与える要因について1
7. 人格形成に影響を与える要因について2
8. 人格の成長を阻害する要因について1
9. 人格の成長を阻害する要因について2
10. こどもの心の問題
11. 問題行動と性格
12. 不適応と病理(演習)1
13. 不適応と病理(演習)2
14. 不適応と病理(演習)3
15. 不適応と病理(演習)4

授業の方法

人格理論を復習後、心理査定の各自の結果と事例報告とを比較検討する。人格に影響する要因について実際のケース報告を元に討議する。人格の病理について演習を実施する。

準備学修

演習で与えられるテーマについて可能な限り多くの文献に目を通しておく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席は不合格とする。

テキスト

適宜紹介する。

参考図書

鈴木乙史・佐々木正弘著 『人格心理学—パーソナリティと心の構造—』2006 河出書房新社

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学実習1(心理テスト法)		17373		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中植 満美子	選択	1			

授業の到達目標

心理臨床現場(保健所、児童相談所、病院など)における幼児期の発達状況を捉え発達検査や心理判定の際に役立つ基本的な心理検査について知り、身につけることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)とE(倫理)を養う。

授業の概要

各心理検査の意図を理解し、各心理検査において検査場面を想定したロールプレイを行い、検査者と被検査者のそれぞれを体験し、検査の実施方法や検査結果のまとめ方を学び、身につける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

1. はじめに:心理テスト概論・利用法
2. 東大式エゴグラム・CMI
3. YG性格検査
4. PFスタディ
5. PFスタディ・SCT
6. K式発達検査
7. K式発達検査
8. WISC知能検査
9. WISC知能検査
10. クレベリン作業検査
11. パウムテスト
12. 風景構成法
13. スウィグル法
14. スウィグル法・箱庭療法
15. 箱庭療法 総括

授業の方法

主に実習形式で行い、検査結果の所見をレポートで提出させる。

準備学修

授業前に各心理検査についての基礎知識を得ておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実習なので、基本欠席は認めない。

テキスト

その都度紹介する。

参考図書

その都度紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学実習2（カウンセリング法）		17377		秋	20名
担当者名	区分	単位	特記事項		
津田 明子	選択	1			

授業の到達目標

授業の中でさまざまな実習を体験し、そこからカウンセリングにおける人間関係やカウンセラーに必要な姿勢など、カウンセリングの専門性とは何か、考えてもらう。そして、さまざまな実習体験の中で自身がどのように感じ、考えたか、自身のこころの動きをしっかりと見つけ、レポートにまとめられるようになることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）について考えます。

授業の概要

心理療法、カウンセリングについての基本的な知識、特にカウンセラーとクライアントとの関係を中心に講義を行う。そしてその後、実習を通して「信頼感」、「共感」、「純粋性」などについて考える。さらには疑似ケースを使ったカウンセリング実習を行い、実際のカウンセラーとクライアントの心の動きやプロセス、カウンセラーに必要な姿勢などを自身の振り返りやカンファレンスから考えていく。自身がどのように感じ、考えるかを大事にし、授業を進めていく。

授業計画

1. 自己紹介実習
2. 信頼実習
3. 感情と行動実習
4. 心理療法とカウンセリング
5. 心理療法・カウンセリングにおける基本的態度
6. 心理療法・カウンセリングにおけるプロセス
7. コミュニケーション実習
8. コミュニケーション実習
9. 共感と純粋性
10. カウンセリング実習・振り返り
11. カウンセリング実習・振り返り
12. カウンセリング実習・振り返り
13. カウンセリング実習・振り返り
14. カウンセリング実習・振り返り
15. カウンセリング実習・振り返り ・総括

授業の方法

講義と実習、その振り返りを中心とする。

準備学修

臨床心理学の授業の内容を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実習が中心のため、事前連絡なしの欠席は大幅な減点の対象とする。

テキスト

特になし

参考図書

その都度紹介する

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学文献講読 1		17385		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

心理学研究をすすめるうえで基礎となる幅広い分野の実験論文や研究レビューの論文について、国内の文献を原典にあたりながら、読解をすすめてゆく。心理学的な視点で現象をみてゆく基本的な方法の習得と同時に、研究をすすめるうえでの文献参照および論文展開の方法についても同時に学んでゆく。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を目指す。

授業の概要

母親の育児態度・感情が子どもの心理的発達にどのような影響を与えていくかについての論文を講読する。発表者は割当てられた論文について、要点を簡潔にまとめたレジュメを作成し、それに基づいて皆にわかるように説明していく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読（1）
3. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読（2）
4. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読（3）
5. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読（4）
6. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読（5）
7. 母親の育児態度の検査に関する研究論文の講読（1）
8. 母親の育児態度の検査に関する研究論文の講読（2）
9. 母親の育児態度の検査に関する研究論文の講読（3）
10. 子どもから見た母親の育児態度に関する論文の講読（1）
11. 子どもから見た母親の育児態度に関する論文の講読（2）
12. 子どもから見た母親の育児態度に関する論文の講読（3）
13. 母親の育児態度・感情の変化に関する論文の講読（1）
14. 母親の育児態度・感情の変化に関する論文の講読（2）
15. 今後の研究課題

授業の方法

ゼミ形式で行う。

準備学修

レジュメの作り方と口頭発表の仕方について考えておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

適宜配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は発表の仕方を工夫すること。発表を聞く側は質問をし、また自分の意見、感想を記述すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育心理学	PC	17409		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標
 子どもの発達と心理的問題をどのように理解し、援助していくかについて学ぶ。とくに、児童・生徒の人間形成にかかわるさまざまな要因について理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を目指す。

授業の概要
 不登校やいじめなど子どもの問題行動をどのように理解し、対処すればよいかを論じたのち、子どもの人格形成や自己理解、対人関係にかかわる心理学的問題をとりあげ、また学習指導と評価のあり方について論じる。最後に、発達障害をもつ子どもに対する理解や援助の仕方を学ぶ。

授業計画

1. 子どもの問題行動の理解と援助 - 不登校
2. 子どもの問題行動の理解と援助 - いじめ
3. 子どもの問題行動の理解と援助 - 虐待
4. 子どもの問題行動の理解と援助 - 摂食障害・対人恐怖
5. 教師と児童生徒の人間関係
6. 家庭的背景の理解
7. 学級への適応
8. 発達観と教育
9. 人格の形成
10. 自己理解を育てる
11. 感情を育てる
12. 社会性と道徳性
13. 教育評価と学習指導
14. 発達障害の理解 ADHD、学習障害
15. 発達障害の理解 自閉症、アスペルガー症候群

授業の方法
 主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学修
 これまで受けてきた家庭教育と学校教育について考えをまとめておく。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 欠席1回につき2点減点。

参考図書
 随時紹介する。

留意事項
 授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は、は+2点、は+1点、は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽 1	/ / / /	17417		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
南 夏世 / 由井 敦子	選択	2			

授業の到達目標
 幼児・児童が楽しみながら音楽活動を展開していくために、保育者・指導者として実践に必要な「音楽理論」「歌唱」「ピアノ演奏」の基礎的能力を習得することがねらいである。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要
 「音楽理論」については、コード習得のための理論を中心に、こどもの歌のコード伴奏が瞬時にまたスムーズにできることを目標に学習する。「歌唱」については、こどもの歌・小学校歌唱教材の楽曲研究を行いながら、明瞭な日本語で表情豊かに歌えるように演習する。「ピアノ演奏」については、各自の進度に応じたピアノ曲を個人レッスンし、読譜力とピアノ技術の向上を目指す。その際、各自の進度に応じて定められている曲数を合格しなければならない。

授業計画

1. 楽典の基礎。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
2. 楽典の基礎。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
3. 楽典の基礎。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
4. 音遊び。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
5. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
6. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
7. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
8. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
9. コード演奏。進度に応じたピアノ個人レッスン。
10. コード演奏。進度に応じたピアノ個人レッスン。
11. コード演奏。進度に応じたピアノ個人レッスン。
12. 発声とソルフェージュ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
13. コード伴奏での弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
14. コード伴奏での弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
15. コード伴奏での弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。

授業の方法
 授業の前半は音楽の基礎学習と実演をクラス全体で行い、後半で個人レッスンをを行う。授業外に補講としてピアノ個人レッスンの時間が設定されているので、できる限り受講すること。

準備学修
 毎回行なわれるピアノ個人レッスンのために、課題曲を練習しておくこと。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 欠席回数が増えると大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト
 「マイレパートリー」(YAMAHA MUSIC MEDIA) ピアノテキスト「バイエル」「ブルグミュラー2.5の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書
 授業内で随時提示する。

留意事項
 入学時にピアノ経験を参考にクラス編成を行う。鍵盤楽器初心者の場合、次年度も受講が必要となる場合もある。配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。授業時には、必ず爪を切っておくこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽 2	/ / / /	17421		秋	,12
担当者名	区分	単位	特記事項		
南 夏世 / 由井 敦子	選択	2			

授業の到達目標

こどもの発達に応じた表現活動について研究し、そのために必要な音楽能力の向上を目指す。幼児・児童が楽しみながら音楽活動を展開していくために、「歌唱」「ピアノ演奏」の技能を高め、保育者・指導者としての知識を習得することがねらいである。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要

弾き歌いは、楽曲にふさわしい伴奏型でコード奏ができるように演習する。また、子どもの身体表現活動を援助できるように、表情豊かなピアノ奏法を習得すると同時に、楽典も学習する。さらに、こどもの成長と発達を踏まえながら教材を研究し、表現活動の意味や活動内容について研究していく。

授業計画

1. コード復習、進度に応じたピアノ個人レッスン。
2. 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
3. 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
4. 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
5. 調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
6. 調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
7. コード伴奏と実演。進度に応じたピアノ個人レッスン。
8. コード伴奏と実演。進度に応じたピアノ個人レッスン。
9. 歌唱の教材研究と弾き歌い演習。連弾。
10. 歌唱の教材研究と弾き歌い演習。連弾。
11. 歌唱の教材研究と弾き歌い演習。連弾。
12. こどもの発達と歌唱教材。進度に応じたピアノ個人レッスン。
13. こどもの発達と歌唱教材。進度に応じたピアノ個人レッスン。
14. 様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。
15. 様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。

授業の方法

授業の前半で音楽の基礎学習と実演をクラス全体で行い、後半でピアノ個人レッスンを行う。授業外に補講としてピアノ個人レッスンの時間が設定されているので、できる限り受講すること。

準備学修

毎回行なわれるピアノ個人レッスンのために、課題曲を練習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト

「マイレパートリー」(YAMAHA MUSIC MEDIA)
ピアノテキスト「バイエル」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時表提示する。

留意事項

必要に応じてクラス再編成を行う。
配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。授業の前には、必ず爪を切っておくこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	PC	17437		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子 / 箕野 聡子	選択	2			

授業の到達目標

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。(福智)
 初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのE(倫理)とIn(国際性)とを養う。(箕野)

授業の概要

(日本児童文学)近代の児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。その近代児童文学が現代児童文学に与えた影響を読み取っていく。(福智)

(西洋児童文学)児童文学には感性を育む豊かな想像の世界が広がっている。リズムカルな伝承詩・ナーサリーライム(マザーグース)、児童が主人公として体験できる夢と冒険のファンタジーの世界、歴史小説としても価値のある日常・家族を描いた作品などを取り上げる。(箕野)

授業計画

1. 巖谷小波「日本昔噺其一 桃太郎」と芥川龍之介の「桃太郎」(箕野)
2. 小川未明「赤い蠟燭と人魚」とディズニーの「リトルマーメイド」(箕野)
3. 浜田広介「泣いた赤鬼」とあまんきみこ「おにたのぼうし」(箕野)
4. 宮沢賢治「注文の多い料理店」と木村裕一「あらしのよるに」(箕野)
5. 千葉省三「拾った神様」と映画「憑神」(箕野)
6. 坪田譲治「河童のはなし」と映画「河童のクウと夏休み」(箕野)
7. 椋鳩十「山の太郎熊」と斉藤洋「ルドルフ ともだち ひとりだち」(箕野)
8. 松谷みよ子「貝になった子供の話」と「わたしのいも」と(箕野)
9. 日常に生きている伝承唄・ナーサリー・ライム(マザーグース)の世界(福智)
10. エリック・カール「ブラウン・ベア」の絵本の世界(福智)
11. マーク・トウェイン「トムソーヤとハックルベリ・フィン」の冒険の世界(福智)
12. ローラ・インルス・ワイルダー「大草原の小さな家」少女が見た開拓者生活(福智)
13. ジョナサン・スウィフト「ガリバー旅行記」(福智)
14. アントワーヌ・ド・サン・テグジュペリ「星の王子様」(福智)
15. ミヒャエル・エンデ「はてしない物語」(福智)

授業の方法

児童文学とされている作品の内容、作者と社会の背景などを理解し、その価値などを他者に自ら発信する。(福智)
 作品の講読と関係映像資料の鑑賞が中心となる。(箕野)

準備学修

作品をあらかじめ読んでおくこと(福智)
 作品をあらかじめ読んでおくこと。毎回、前回の授業内容をまとめた小レポートの提出を課す。(箕野)

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う。

テキスト

大藤幹夫『展望日本の児童文学』(創文社)(箕野)
 本田英明、桂宥子、小峰和子『英米児童文学』(ミネルヴァ書房)(福智)

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp (福智)
 mino@kaisei.ac.jp (箕野)

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
学習・発達論		17441		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中植 満美子	選択	2			

授業の到達目標

他の動物とは異なる人間の発達の特異性が、文化を学習してゆくと
いう点にあることを、学習・発達理論の研究の歴史や人間の発達
のプロセス、環境や状況による発達への影響、教育実践や臨床場
面の課題について各自のサーチと演習を通して説明できるよう
なることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA
(自立)とI(知性)とE(倫理)とを養う。

授業の概要

人間発達の歴史について、学習・発達の視点から考えてゆく。基礎
的な学習理論について学び、発達と共に活性化される社会的活動に伴
い、環境との相互作用の中で、学習の機会が更に増加する。その様
子を基礎的な学習過程、社会的学習、言語や思考、遊びの発達につ
いて概観し、教育場面、臨床場面での応用に結び付けてゆく。ま
た、ピアジェとヴィゴツキーの理論について比較検討する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 人間の学習・発達の歴史
3. 認知能力の変容1
4. 認知能力の変容2
5. 状況に埋め込まれた学習1・社会的学習
6. 状況に埋め込まれた学習2・問題解決
7. 思考と言語
8. 認知能力の変容3
9. 「話し言葉」から「書き言葉」への移行
10. 発達と学習1: 年齢期の問題をめぐって
11. 実習1 学習を役立てるために1
12. 発達と学習2: 遊びの中の学習・人はなぜ学ぶのか
13. 精神発達の障害と学習: 臨床場面・教育現場での学習理論の応用
14. 発達をめぐるピアジェとヴィゴツキーの論争について
15. 総論

授業の方法

講義と単元内容に相応した学習や認知能力の発達に関するグループご
との演習課題の発表や個人での作業課題を毎時間行いながら学習を
進める。

準備学修

演習形式の授業なので、担当するテーマについて各自・各グループ
ごとにリサーチし、レジュメにまとめて発表できるよう準備を進め
ておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席で不合格
とする。

テキスト

柏崎秀子 著 『教職ベーシック 発達・学習の心理学』2010 北
樹出版

参考図書

学習心理学 理論と実践の統合をめざして

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認の
こと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳幼児心理学		17445		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
黒羽 カテリーナ	選択	2			

授業の到達目標

乳幼児期の心身の発達と運動・知覚・認知・知性・言葉・社会性・
遊びの発達との関連をとらえ、乳幼児期の精神発達の要因につ
いて学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養いま
す。

授業の概要

乳幼児期の理論や様々な研究をとりあげ、新生児や乳幼児が獲得す
る能力の豊かさや多様性についての知識を深めるとともに、乳幼児
の心身両面にわたる発達のプロセスやメカニズムを理解し、その豊
かさや多様性を育み、促進する大人のかかわりについて検討する。

授業計画

1. はじめに: 乳幼児心理学とは
2. 胎児の発達
3. 新生児の能力
4. 乳幼児の心の発達
5. 乳幼児期の発達I: 姿勢・運動
6. 乳幼児期の発達II: 認知
7. 乳幼児期の発達III: 知性とピアジェの発達理論
8. 乳幼児期の発達IV: 言葉
9. 乳幼児期の発達V: 社会性
10. 乳幼児期の自分についての理解
11. 乳幼児期の遊びの発達
12. 乳幼児の発達を支えるI: 子育て
13. 乳幼児の発達を支えるII: 親としての発達
14. 乳幼児の発達を支えるIII: 社会的問題
15. 発達の偏りと支援

授業の方法

講義とペアまたはグループワークを行う。

準備学修

授業のあとに復習が必要である。

課題・評価方法

定期試験(50%)、小レポート(20%)、出席(15%)、授業後の
感想文(15%)

欠席について

5回を超えた欠席は不合格とする。

テキスト

プリントを使用する。

参考図書

遠藤俊彦・佐久間路子・徳田治子・野田順子 『乳幼児のこころ
子育て・子育ての発達心理学』 有斐閣

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばの発達・学習	PC	17461		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
近藤 龍彰	選択	2			

授業の到達目標

人間の個人的な基準をはっきり示すものの一つに「ことば」があげられる。その「ことば」を私たちは、どのように獲得してきたのか。子どもは、どのように「ことば」を身につけるのか。ことばの獲得は、生得的なものなのか経験的なものなのか。私たちの言語発達過程を様々な理論と最新の研究成果を通してみていく。また、特に子どもの言語発達の指導にも適用できる基礎知識を獲得することを目標とする。このクラスではKAISEI パーソナリティーのK(思いやり)とI(知性)を養う。

授業の概要

「ことば」は、私たちのコミュニケーション手段として最も高度に構造化されたものである。何をテーマに学ぶにしても、何を説明するにしても、その手がかりとして必要となるのはやはり「ことば」である。「ことば」とは何か、私たちはそれによって何を表現し、どのように表現できているのか、また私たちは「ことば」によって何を認知しているのかなどを、子どもの前言語的なやりとりの時期から、聴覚、構音機能、文法機能の獲得などについて、最近の研究成果を紹介しながら学んでいく。

授業計画

- 人間にとっての言語活動とは
- 言語獲得理論の動向
- やりとりからことばへ
- 言語的音声の獲得1
- 言語的音声の獲得2
- 言語と認知(象徴機能の獲得)
- 語彙の獲得1
- 語彙の獲得2
- 文法の獲得1
- 文法の獲得2
- 養育放棄事例のことばの発達
- 障害児のことばの発達(視覚障害)
- 障害児のことばの発達(聴覚障害)
- ことばの獲得を支えるもの

15. ことばの発達と学習のまとめ

授業の方法

講義を中心とするが、それぞれの回で小グループのディスカッションを行ってもらう予定である。いろいろな人の意見や考え方を聞く機会を設けたいと思う。

準備学修

授業のテーマに関して、「ことばってなんだろう?」と考えてみる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

原則として欠席は認めない。遅刻が3回で1回の欠席とする。

テキスト

特になし。授業中に資料を配布します。

参考図書

授業中に紹介します。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュ	PC	17465		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

グローバル化に対応した英語教育改革が実施され、2020年度小学校英語は教科化される。言語習得理論から授業法の実践まで、小学校から中学校・高校英語に連携する一貫した英語教育を担う教員養成が必要とされている。本授業では、児童英語教育に効果的な教授法をワークショップ形式で体験し、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導できる実践力を身につけることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK(思いやり)を考える。

授業の概要

本授業では、児童英語教育に効果的な教授法について、

- 発達過程を考えた児童期の英語教育のあり方をディベートで熟考し、
- 歌、チャンツ、TPR、絵本、ゲーム、クイズなど基本的な授業法をワークショップ形式で体験し、
- 実際にこれらの授業法を使った活動のプレゼンテーションを行い指導者として実践で「授業ができる」資質を身につける。

授業計画

- ガイダンス 児童英語教育の意義と目的
- 『身近にある異文化共生』を取り入れた楽しい小学校英語活動作成法
- ワークショップ(1)「歌・チャンツ」を取り入れた授業法 キャロリン・グラハム
- ワークショップ(2)「歌・チャンツ」 プレゼンテーション
- ワークショップ(3)「TPR」を取り入れた授業法
- ワークショップ(4)「TPR」プレゼンテーション
- ワークショップ(5)「ゲーム」を取り入れた授業法
- ワークショップ(6)「ゲーム」プレゼンテーション
- ワークショップ(7)「スキット」を取り入れた授業法
- ワークショップ(8)「スキット」プレゼンテーション
- ワークショップ(9)「絵本、物語を取り入れた授業」を考える
- ワークショップ(10)「絵本、物語を取り入れた授業」プレゼンテーション
- ワークショップ(11)「フォニックス、文字を取り入れた授業」を

考える

- ワークショップ(12)「フォニックス、文字を取り入れた授業」プレゼンテーション
- まとめと評価 ワークシート作成

授業の方法

ワークショップで体験した授業法を、学生自身が、主体的に創造し、プレゼンテーションを行う。

準備学修

プレゼンテーションの準備をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型の授業であるので、必ず出席すること

テキスト

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店; ISBN: 9784469245486

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュ	PC	17469		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

前期で体験した授業法を活用し、年齢・発達過程にあった授業案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導に役立つ授業創りを考え、模擬授業をする。さらに、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、異なることばや文化・生活に自然にふれる楽しい活動を考える。授業では、発信型英語能力開発の一環として、

1. 発達過程を考えた幼稚園・小学校での英語教育のあり方を踏まえ、
 2. 発達過程を考えた園児・小学生英語の授業創りを考え、
 3. 授業案作成、教材教具作成、模擬授業を行った後に、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、
- 学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

1. 児童の発達段階にあった英語活動を創る (1)
「園児、低学年・中学年・高学年対象活動案作成」
2. 児童の発達段階にあった英語活動を創る (2)
「絵カード・教具・ワークシート作成 発表準備」
3. 児童の発達段階にあった英語活動を創る (3)
「活動案発表と模擬授業」
4. 第1回小学校英語活動観察実習
5. 実習授業活動案作成(1)『教材研究』
6. 実習授業活動案作成(2)『教具・絵カード、ワークシート作成』
7. 実習授業活動案作成(3)『振り返りカード作成と評価』の観点
8. 実習授業活動案発表と模擬授業
9. 第2回小学校英語活動支援体験実習
10. 実習授業活動案作成(4)『教材研究』
11. 実習授業活動案作成(5)『教具・絵カード、ワークシート作成』
12. 実習授業活動案作成(6)『振り返りカード作成と評価』の観点
13. 実習授業活動案発表と模擬授業
14. 第3回小学校英語活動支援体験実習(3)
15. まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成

授業の方法

活動案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の支援を実際に現場で体験する。

準備学修

教材を作成し、模擬授業の練習をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

テキスト

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽3	/ /	17473		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
南 夏世	選択	2			

授業の到達目標

子どもたちが豊かな感性で音楽活動を楽しむことができるように、各自の音楽的技能を高める。また、現代の環境等に即した指導法や教材を研究し、子どもたちの表現する喜びや意欲を育てることができる指導者を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を学ぶ。

授業の概要

コード伴奏で子どもの歌、生活の歌、季節の歌を、明瞭な日本語で表情豊かに弾き歌いができるように演習する。また、表現活動のためのピアノ曲を中心に、ピアノの個人レッスンを行う。さらに、ピアノのできる音楽効果や変奏の技術を学び、場面に応じた音楽が提供できるよう演習し、身体表現の音楽の学びを深める。

授業計画

1. 初等音楽1・2で習得したコードの復習と弾き歌いの演習。
2. 表現活動のねらいと内容。
3. 生活の歌、コード奏による弾き歌い。
4. 生活の歌、コード奏による弾き歌い。
5. 表現活動のためのピアノの個人レッスン。楽典。
6. 和太鼓の打法と演奏。
7. 場面に応じた音楽、編曲と実演。
8. ピアノの特殊効果と変奏。
9. 身体表現のための変奏の習得。
10. 身体表現のための変奏の習得と発表
11. 表現活動のためのピアノの個人レッスン。楽典。
12. 身体表現を伴った子どもの歌の演習。
13. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。
14. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。
15. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。

授業の方法

毎回個人で、あるいはグループで発表や演奏を行う。

準備学修

授業で演習した曲を復習し、ピアノで弾けるようにしておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

「歌おう 弾こう こどもとともに」(YAMAHA MUSIC MEDIA)
「リズム曲集」(サーベル社)

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

ほぼ毎回の授業時に提示される課題をして授業に臨むこと。初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽 4	/ /	17477		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
南 夏世	選択	2			

授業の到達目標

子どもたちが豊かな感性で音楽活動を楽しむことができるように、各自の音楽的スキルを高める。また、初等音楽3で学習した内容をもとに、実際に保育現場で役立つ音楽活動のシミュレーションを行い、幅広い表現活動ができる指導力を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)と、A(自律)S(奉仕)を学ぶ。

授業の概要

表現のためのピアノ曲のレッスンの他に、コード奏による弾き歌いのレパートリーを増やし、実習に向けての歌唱指導の実践を行う。さらにリズムについての学びを深め、合奏の演習を通して楽譜の書き方を学び、楽典の基礎を固める。そして表現の総括として、グループでオペレッタ、劇などの作品を仕上げる。

授業計画

1. 領域「表現」の概説。子どもの成長と音楽の関わりについて。
2. 歌唱教材研究。子どもの歌とわらべうた。
3. 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
4. リズムについて。(リズム遊び、リズム奏、手拍子など)
5. 打楽器の奏法とリズム合奏。
6. 合奏演奏と編曲法。
7. 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
8. 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
9. 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
10. 歌唱指導の実践。
11. 歌唱指導の実践。
12. さまざまな表現活動とそのまとめ。
13. グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
14. グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
15. グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。

授業の方法

毎回個人で、あるいはグループで発表や実演を行う。

準備学修

授業で演習した曲を復習し、ピアノで弾けるようにしておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回につき3点減点。

テキスト

「歌おう 弾こう こどもとともに」(YAMAHA MUSIC MEDIA)
「日本の子どもの歌」(音楽之友社)

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

ほぼ毎回の授業時に提示される課題をして授業に臨むこと。初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む) (初等)	教職小	17497		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

本授業では、現在、学校現場で生じている生徒や保護者が抱える問題に対する知識を身につけ、教育相談の在り方や進め方についての理解や考えを深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)およびS(奉仕)を目指す。

授業の概要

生徒をとりまく社会や家庭は急激に変化し、学校での教師による教育相談は、学習指導とともに、教師の重要な活動となっている。しかし、教育相談は教師が行うという点で、カウンセラーが行うカウンセリングの技法とは異なるカウンセリングマインドが必要となる。本授業では、現在、学校現場で生じているさまざまな問題に焦点をあて、それらの問題にかかわる生徒や保護者への理解と対応を深め、さらに、全体を通してカウンセリングの技法を学びながら、それらを教師としてどのように活用して教育相談を行うべきか、教師が行う教育相談の在り方や進め方についてより実践的な視点をもとに学習する。

授業計画

1. 教師のカウンセリングマインド(1)
2. 教師のカウンセリングマインド(2)
3. 保護者・子どもとの面談の基本(1)
4. 保護者・子どもとの面談の基本(2)
5. 生徒を指導する際の技術(1)
6. 生徒を指導する際の技術(2)
7. 教育相談の技法(1)
8. 教育相談の技法(2)
9. 子どもの発達段階に応じたつながり方(1)
10. 子どもの発達段階に応じたつながり方(2)
11. 発達障害のある子の理解とつながり方(1)
12. 発達障害のある子の理解とつながり方(2)
13. 子育てのサポートネットワーク(1)
14. 子育てのサポートネットワーク(2)
15. 困った親の理解とつながり方

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学修

2年次までに「教育心理学」を履修しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『教師のための教育相談の技術』吉田 圭吾著、金子書房

参考図書

授業開始後、冊子を配布する(有料)。

留意事項

小テストの評点は、は+2点、は+1点、は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子育て支援と地域社会		17501		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
渋谷 美智	選択	2			

授業の到達目標

子育て支援とは何か。子育て支援に対する保育者の役割がこれまでになく明確化される中で、保育士はどのような子育て支援ができるのか、保育所や地域社会での子育て支援に積極的に取り組んでいける実践力のある保育士をを目指す。このクラスではK A I S E I パーソナリティのS（奉仕）を考え、I（知性）を養います。

授業の概要

保育所保育指針の改定に伴い保育所における保育士の業務として保護者支援を行うことが明記された。子育て支援とは何か。保育士を目指す学生が、地域社会で取り組まれている様々な子育て支援の実状を知り、なぜ子育て支援が必要なのか、親子が求めている支援とは何かを考え、親子が育ちあうような子育て支援のあり方を学習する。また、子育て支援の実践の場にも積極的に参加し体験する。

授業計画

1. 子育て支援とは何か。保育者の役割と理解
2. 子育ての変化と子育て支援の必要性 母子を取り巻く環境
3. 子育ての変化と子育て支援の必要性 少子化時代の子育て
4. 地域の子育て支援の見学・参加
5. 子育て支援事業について
6. 幼稚園での子育て支援の取り組み
7. 地域社会での子育て支援の取り組み
8. 地域社会での子育て支援の取り組み
9. 保育所での子育て支援の取り組み 保育所の子育て支援の実際
10. 家庭の役割 父親の育児参加について
11. 父親参加の子育て支援の見学・参加
12. 育児アドバイスの仕方(グループワーク)
13. 親子の遊びの実践
14. 親子の遊びの実践(手作りおもちゃを考える)
15. まとめ

授業の方法

講義と演習を中心とする。

準備学修

各種新聞に子育て支援についての記事が多く掲載されていたり、実習園で子育て支援が実践されていたりしている。それらの子育て支援のあり方について関心を持つこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実践を多く取り入れているので、1回欠席につき5点の減点とする。

テキスト

特に指定なし

参考図書

子育ての変貌と次世代育成支援 原田正文著
世界に学ぼう！子育て支援 汐見稔幸著
地域で子育て 渡辺顕一郎編著

留意事項

親子の遊びや子育て支援現場で役立つ手作りおもちゃなどの製作を随時取り入れたり、実際の支援の様子を見学・参加するフィールドワークを多く取り入れ、子育て支援の理解を深める。受講者は子育て支援に関心のある保育士を目指す者。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ボランティア論		17505		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
加藤 雅典	選択	2			

授業の到達目標

阪神・淡路大震災後、わが国のボランティア活動は、幅広い分野において多様な組織形態で展開されている。授業では、ボランティアの原則や「興味」「得意なテーマ」「異集団の仲間」など契機としながら学習し、実際の体験活動に参加することを目標の一つとする。体験活動を振り返ることを通じて、社会参加や社会貢献に繋げることを目指す。このクラスでは、K A I S E I パーソナリティのK（思いやり）A（自律）S（奉仕）を養う。

授業の概要

授業では、講義、討議、実践、プレゼンテーションを織り込みながら、参加のモチベーションを主体的に高めることを促す。「自分にとってのボランティアは何か」「どんな活動ができるか」「ボランティアのあり方は」などを、グループ形式を基本にして全員で考える。次に、基本理念、歴史、組織や活動の実際について事前学習を行い、体験活動に参加する。体験活動について討議・交流しプレゼンテーションを行う過程を通じて、それぞれにとってのボランティアの意義や、参加意識を深めていく。

授業計画

1. ボランティアって何？ = グループ討議 =
2. グループ発表
3. ボランティア活動のキーワードを見つける
4. 基本理念
5. 歴史
6. 地域での活動の実際
7. 社会福祉施設等での活動の実際
8. ボランティアセンターの機能と役割
9. 体験活動のための知識と準備
10. ボランティア活動の体験（1）
11. ボランティア活動の体験（2）
12. グループ討議（体験活動の振り返り）
13. グループ発表
14. これからのボランティア活動について
15. まとめ

授業の方法

ボランティア体験を基本として事前学習と事後学習により進める。グループ討議とプレゼンテーションを多く取り入れる。

準備学修

発表に向けた事前準備やグループでの準備作業が必要になることがある。

課題・評価方法

ボランティア体験活動には必ず参加することと平常点（随時レポートの提出あり）による。ボランティア体験活動への参加（必須）結果、及び随時提出レポート等の評価による。

欠席について

グループ討議や作業を行うため原則認めない。

テキスト

特に指定しない。

参考図書

特にはない。必要な資料を配布する。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
図画工作	/	17509		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
森 晴美	選択	2			

授業の到達目標

図画工作科の目標と内容を演習・実習を通して理解する。そして、子どもの描画・造形表現の発達過程や特徴について学び、自ら創り出す喜びを得られ、豊かな情操をはぐくむ図画工作科の指導力を身につける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

図画工作科に必要な表現方法や、材料・用具の扱い方について、講義と実技演習を行う。また、鑑賞の機会を通して、表現のよさや工夫等を見出し感性を高め実践力を養うようにする。

授業計画

1. 図画工作科の目標と内容
2. 子どもの描画・造形表現の発達や特徴
3. パスによる様々な表現
4. 線による様々な表現
5. 紙による様々な表現
6. 水彩絵の具による様々な表現
7. 水彩絵の具による様々な表現
8. 染める技法による様々な表現
9. 版画による様々な表現
10. 版画による様々な表現
11. 土粘土による表現
12. 土粘土による表現
13. 身近な材料を使った表現
14. 身近な材料を使った表現
15. 生活に役立つものを作る

授業の方法

講義と実技演習を主とする。

準備学修

授業に必要な準備物を確認し、忘れないように持参する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、1回の遅刻につき2点減点とする。

テキスト

必要に応じて資料を配布する。

参考図書

『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育		17513		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
木岡 正雄	選択	2			

授業の到達目標

小学校学習指導要領及び幼稚園要領に基づき、教材の実技を体験する。教材の概略を知って、運動学習の工夫について学ぶ。グループワークを通して他への思いやり、協調、規律、実行力を養う。また、この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

体育の教材内容を実技をすることで、体で動くことや運動の楽しさを感じ取る。またグループ活動を通して他と協調することや仲間とのつながりの大切さを学ぶ予定である。

授業計画

1. オリエンテーション。自己紹介。運動学習について概略を講義する予定である。
2. 体づくり運動 体ほぐしの運動の実技をする。
3. 体づくり運動 体力を高める運動の実技をする。
4. 陸上運動系 かけこの実技をする。
5. 陸上運動系 障害走の実技をする。
6. 陸上運動系 リレーの実技をする。
7. 器械運動系 マット運動の実技をする。
8. 器械運動系 跳び箱の実技をする。
9. 器械運動系 鉄棒の実技をする。
10. ゲーム 鬼遊びの実技をする。
11. ボール運動 ベースボール型のゲームをする。
12. ボール運動 ネット型の運動をする。
13. ボール運動 ゴール型のゲームをする。
14. 表現運動の実技をする。
15. 学習のまとめ。体育学習の工夫等について講義する。

授業の方法

体育の実技を行う。グループ活動を主として、自ら運動の工夫を話し合い、ともに楽しく運動する予定である。

準備学修

小学校学習指導要領 体育 を読んでおくと理解しやすい。

課題・評価方法

平常点30点。毎授業の学習カードの記述内容70点。

欠席について

欠席はなるべくしない。実技なので参加することに意義がある。

テキスト

小学校学習指導要領 文部科学省

参考図書

特になし

留意事項

登校できるなら欠席をしない。見学も学習であることを学ぶ予定である。

教員連絡先

〒651-2277 神戸市西区美賀多台4-7-20
自宅電話&Fax 078-961-4362

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育			17513		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
木岡 正雄	選択	2				

授業の到達目標

小学校学習指導要領及び幼稚園要領に基づき、教材の実技を体験する。教材の概略を知って、運動学習の工夫について学ぶ。グループワークを通して他への思いやり、協調、規律、実行力を養う。また、この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

体育の教材内容を実技をすることで、体で動くことや運動の楽しさを感じ取る。またグループ活動を通じて、他と協調することや仲間とのつながりの大切さを学ぶ予定である。

授業計画

1. オリエンテーション。自己紹介。運動学習について概略を講義する予定である。
2. 体づくり運動 体ほぐしの運動の実技をする。
3. 体づくり運動 体力を高める運動の実技をする。
4. 陸上運動系 かけっこの実技をする。
5. 陸上運動系 障害走の実技をする。
6. 陸上運動系 リレーの実技をする。
7. 器械運動系 マット運動の実技をする。
8. 器械運動系 跳び箱運動の実技をする。
9. 器械運動系 鉄棒運動の実技をする。
10. ゲーム 鬼遊びの実技をする。
11. ボール運動 ベースボール型のゲームをする。
12. ボール運動 ネット型のゲームをする。
13. ボール運動 ゴール型のゲームをする。
14. 表現運動の実技をする。
15. 学習のまとめ。体育学習の工夫について講義する予定である。

授業の方法

体育の実技を行う。グループ活動を主として、自ら運動の工夫を話し合い、ともに楽しく運動する予定である。

準備学修

小学校学習指導要領 体育 を読んでおくことと理解しやすい。

課題・評価方法

平常点30点。毎授業の学習カードの記述内容70点。

欠席について

欠席はなるべくしない。実技なので参加することに意義がある。

テキスト

小学校学習指導要領 文部科学省

参考図書

特になし

留意事項

登校できる程度なら欠席をしない。見学も学習であることを学ぶ予定である。

教員連絡先

〒651-2277 神戸市西区美賀多4-7-20
自宅電話 & F a x 078-961-4362

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理	教職小		17521		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
丸岡 幸一	選択	2				

授業の到達目標

- 1 教育の意義、目的及び児童福祉との関わりについて理解する。
 - 2 教育の思想と歴史的変遷について学ぶ。
 - 3 教育の制度について学ぶ。
 - 4 教育実践の取組みについて理解する。
 - 5 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育の意義や目的、児童福祉との関連性および歴史について学ぶとともに、教育の制度と実践原理および指導原理について理解する。生涯学習社会における教育のあり方について考え、現代の教育問題についても検討する。

授業計画

1. 教育の意義と作用
2. 教育の本質と教育目的
3. 教育思想の歴史的展開
4. 社会・文化と教育
5. 家庭教育の特質と機能
6. 学校教育の特質と組織
7. 社会教育と生涯教育
8. 福祉社会の形成とその担い手
9. 教育制度
10. 教育法規
11. 教育内容
12. 教育課程
13. 教育実践の基礎理論
14. 生涯学習社会と教育
15. 講義全体のまとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学修

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

戸江茂博編『教育原理』あいり出版

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童家庭福祉			17526		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	2				

授業の到達目標
 現代を生きる子ども達の状況は、厳しい社会状況を反映し、大きく変化しつつある。社会の歪から子どもの発達を守り、健やかな成長を促すためには、社会、学校、家庭の三者教育のバランスのとれた教育と、それを積極的にバックアップする行政の取り組みの必要性が求められている。そうした状況下では、子育て支援や健全育成のためのより高度な専門的な知識を要求する「児童家庭福祉」の指導者としての資質が一層問われることになる。KAISEIパーソナリティのK(思いやり)をベースにしてコミュニケーション能力を養う。

授業の概要
 最近の児童を取り巻く社会環境も変容し、価値観も大幅に多様化するとともに、様々な問題群も続出してきた。児童が社会構成の一員として、大人社会にあっても常に暖かく迎えられよう児童家庭の問題と児童福祉に対する正しい概念を身につけなければならない。そうしてどうすれば地域社会の保障と支援が行えるか、児童福祉の今日的課題をもう一度考察し、その有り態とその基本的な知識の習得、目的と方策を学ぶことになる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 子ども家庭福祉とは
3. 子ども家庭福祉のあゆみ
4. 子どもと家庭の支援活動指針としての子どもの権利条約
5. 子どもと家庭を支援する法律の体系
6. 子どもと家庭を支援する制度の体系
7. 子どもと家庭を支援する施設の体系
8. 子どもと家庭を支援する専門職
9. 子どもと家庭を支援する活動方法
10. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—虐待について
11. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—親子関係
12. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—非行
13. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—保育
14. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—一人親家庭
15. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—貧困

授業の方法
 講義のテーマや単元に応じて作業課題を実施する。テーマについて、グループ討議し、発表する。またミニテストも実施する。

準備学修
 できるだけ日常の新聞報道などで児童福祉に関する記事に目を通す。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 一回の欠席で3点、遅刻で2点減点し、欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト
 吉田眞理 編 「児童の福祉を支える児童家庭福祉」2012 萌文書林

参考図書
 適時紹介する。

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情緒・学習障害の心理			17537		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	選択	2				

授業の到達目標
 子どもが生きていく中で直面する様々なこころの問題や障害を紹介し、それらへの対応や援助方法について具体的に学び、子どもが生きやすい環境のあり方を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)を目指す。

授業の概要
 子どもの情緒(感情)の問題や障害について、それらをどのように理解し、予防し、対応したらよいか考察する。また、子どもの発達障害として、ADHD、学習障害、自閉症、アスペルガー症候群をとりあげ、それらへの理解と支援の方法について解説する。

授業計画

1. 情緒障害とは
2. 愛着障害の理解と介入
3. 子どもの内在化障害の予防と対処 - 不安障害
4. 子どもの内在化障害の予防と対処 - 抑うつ障害
5. 子どもの内在化障害と感情調節
6. 子どもの外在化障害 - 攻撃性と反社会的行動 - と感情調節
7. 子どもの外在化障害への介入と予防
8. 女子の内在化障害
9. 女子の外在化障害
10. 発達障害の理解と支援
11. ADHDをもつ子どもの理解と指導
12. 学習障害をもつ子どもの理解と指導
13. 自閉症児の理解と対応
14. アスペルガー症候群の子どもの理解と対応
15. 知的障害 ダウン症 の理解と指導

授業の方法
 主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学修
 2年次または3年次春学期に「感情心理学」を履修しておくことが望ましい。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 欠席1回につき2点減点。

テキスト
 『感情の発達と障害 感情のコントロール』澤田 瑞也著、2009年、世界思想社

参考図書
 適宜紹介する。

留意事項
 授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評価は +2点、 +1点、 -1点、 ×は -2点とする。

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（造形表現）	/		17601		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
森 晴美	必修	1				

<p>授業の到達目標</p> <p>乳幼児の造形表現活動を指導するための理論と保育実践例を学び、自らの表現力を高める。また、乳幼児の造形表現の特徴を理解し、環境を構成する力や作品を読み取る力を身につける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。</p> <p>授業の概要</p> <p>乳幼児の造形表現における発達の過程や特徴について詳述する。また、造形表現活動で扱う材料・用具・技法について演習を行い、教材研究や環境構成の工夫、指導上の配慮等を含めた実践力を身につけるようにする。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」の造形表現について 2. 乳幼児の「作る」「かく」発達の過程と特徴について 3. 乳幼児の生活と造形表現 4. ごっこ遊びの中の造形表現 5. お話のイメージと壁面製作 6. 自然環境と造形表現 7. 様々な技法を取り入れた造形表現 8. 様々な素材を使った造形表現 <p>授業の方法</p> <p>講義と実技を中心とする。</p> <p>準備学修</p> <p>次時の課題の構想をたて、必要な材料を準備しておくこと。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点70%、定期試験30%</p> <p>欠席について</p> <p>欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。</p>

<p>テキスト</p> <p>必要に応じて適宜紹介する。</p> <p>参考図書</p> <p>『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育原理			17605		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
伊藤 美和子	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育の意義について理解する。 2 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 3 保育の内容及方法の基本について理解する。 4 保育の制度・思想の歴史的変遷について理解する。 5 保育の現状と未来について理解する。 <p>このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。</p> <p>授業の概要</p> <p>保育・幼児教育に携わる者に求められる基本的な知識を学ぶとともに、保育・幼児教育の根幹をなす原理を理解する。保育の社会的役割を検討し、保育の何たるかを学んでいきたい。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今なぜ保育なのかー保育原理を学ぶ意義について 2. 保育の語義と概念 3. 養護と教育の一体性 4. 「子育ての社会化」としての保育 5. 児童の権利と保育 6. 家庭・地域の子育て機能 7. 現代社会と子育て 8. 保育制度の成り立ち 9. 保育所・幼稚園の戦後史 10. 少子化の進行と保育所への期待 11. 保育内容の公的基準 12. 子どもの健康な生活と保育 13. 子どもの発達と遊び 14. 幼保関係の歴史 15. これからの保育所と幼稚園 <p>授業の方法</p> <p>講義を中心とするが発表も取り入れる。</p> <p>準備学修</p> <p>テキストを一読しておくこと。</p>

<p>課題・評価方法</p> <p>平常点50%、定期試験50%</p> <p>欠席について</p> <p>欠席1回につき2点減点。</p> <p>テキスト</p> <p>戸江茂博編『保育原理』あいり出版 厚生労働省編「保育所保育指針解説書」フレーベル館 「最新保育資料集2015」ミネルヴァ書房</p> <p>参考図書</p> <p>授業時に指示する。</p> <p>オフィスアワー</p> <p>直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。 各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。</p>

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論 (幼小)	教職幼小		17613		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
森 晴美	選択	2				

授業の到達目標
 教職の意義と役割を理解する。また、学校教育や教員をめぐる様々な今日的な課題と対応の事例から、学校教育に期待される役割や今後の教員に求められる資質と能力などについて学び、教職に就くための自らの適性と課題を見出す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要
 教職や学校教育について、関連する法律や今日までの歴史の変遷を含めて講義する。そして、社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育の現状について詳述し、ディスカッションや発表の機会をもつ。そして、自ら目指す教師像を明確にもつようにする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 日本の学校教育の歴史
3. 教職の意義
4. 教員の身分と服務義務
5. 教員の職務内容
6. 学校の組織と運営
7. 教員のライフステージと研修制度
8. 様々な教育課題とその対応
9. 様々な教育課題とその対応
10. 様々な問題行動とその対応
11. 特別支援教育の導入
12. 人権教育の推進
13. 学校・家庭・地域社会の連携と役割
14. 今後の教員に求められる資質
15. 今後の教員に求められる能力

授業の方法
 講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。

準備学修
 指示された部分のテキストを事前に読んで理解し教育関連の情報を

収集すること。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 欠席1回につき2点減点とする。

テキスト
 『教職と人間形成』 長尾和英編 八千代出版

参考図書
 必要に応じて適宜紹介する。

留意事項
 保育士については毎回の授業において関連する部分を示し講義する。

教員連絡先
 mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育学原理			17617		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	選択	2				

授業の到達目標
 本講義においては幼児教育の意義や目的、歴史について学び、幼児教育の原理について理解を深めるとともに、今日のわが国や世界における幼児教育の課題について考えたい。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要
 近代の幼児教育思想家たちをとりあげ、彼らの理論について学ぶ。さらに、今日のわが国の幼児教育の課題、世界の幼児教育の課題についても考察する。

授業計画

1. 幼児教育の意義
2. 西洋の教育思想と子ども観(1)
3. 西洋の教育思想と子ども観(2)
4. 西洋の教育思想と子ども観(3)
5. 西洋の教育思想と子ども観(4)
6. 日本の教育思想と子ども観(1)
7. 日本の教育思想と子ども観(2)
8. 日本の教育思想と子ども観(3)
9. わが国の幼児教育の課題(1)
10. わが国の幼児教育の課題(2)
11. わが国の幼児教育の課題(3)
12. 世界の幼児教育の課題(1)
13. 世界の幼児教育の課題(2)
14. 世界の幼児教育の課題(3)
15. 世界の幼児教育の課題(4)

授業の方法
 講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学修
 「教育原理」の内容を復習しておくこと。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 欠席1回につき2点減点。

参考図書
 必要に応じて適宜指示する。

教員連絡先
 nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育課程の研究			17621		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江	選択	2				

授業の到達目標

幼児の心身の発達と生きる力の基礎の育成について理解を深め、幼児教育課程の基本的な考え方を学ぶ。教育課程・保育課程の編成から指導計画の作成へつなげ、保育を展開する重要性を学ぶ。このクラスでは、K A I S E I パーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を養う。

授業の概要

幼児が日々充実した園生活を送り、健やかに成長していくためには、しっかりとした教育課程・保育課程編成のもと指導計画が作成され、それに基づいた環境構成や援助による教育実践が必要である。教育現場での実践例やDVD視聴等を通して、幼児の主体性と指導者の教育的意図のバランスを理解するとともに、指導案の作成と評価反省についても習得する。

授業計画

1. オリエンテーション、教育課程と保育課程の意義と編成
2. 教育・保育課程の編成、指導計画の作成について
3. ねらい及び内容、長期の指導計画と短期の指導計画
4. 生活や遊びを通じた学びの過程(DVD視聴)
5. "
6. 指導計画の作成における留意点
7. 生活や遊びを通じた学びの過程(DVD視聴)
8. "
9. 月案作成の実際
10. "
11. 週案作成の実際
12. "
13. 日案作成の実際
14. "
15. 評価と反省について

授業の方法

参考資料を配付し、それに沿って講義する。DVD視聴や実践演習をもとにグループで話し合い意見発表をして、互いに学び合えるようにする。

準備学修

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」の熟読

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回の欠席につき、2点の減点とする。

テキスト

幼稚園教育指導資料集第1集「指導計画の作成と保育の展開」 フレーベル館
「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
「保育所保育指針解説書」フレーベル館

参考図書

「初等教育資料」文部科学省
「幼児教育じほう」全国公立幼稚園長会

留意事項

各回のどの授業を欠席しても次回の授業の理解が困難になる。また配付資料も多いので欠席しないようにすること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程論 (教職小)	教職小		17625		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
都賀 純	選択	2				

授業の到達目標

教育課程の意義、法的根拠、概観を理解する。現行の教育課程編成の要点、配慮事項について、討論等を通して、その意味を学校現場の姿とつないで論理的に考えていく。このクラスではK A I S E I パーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

学校現場では学習指導要領に基づき、独自の教育課程を、各学校の実情に応じて工夫して編成している。そして、この教育課程で日々の教育活動は行われている。現行の教育課程が編成された背景、子供の姿、日々工夫して取り組んでいる教師の姿をつなぐ中で、教育課程の大切さについて学んでいく。また、学習指導要領の各文言が表す意味を、学校現場の具体的な姿とつなぐかたちで理解を図っていきたい。

授業計画

1. 第1章 総説(1)
2. 第1章 総説(2)(資料)学習指導要領の改訂の経過
3. 第2章 教育課程の基準
4. 第3章 教育課程の編成及び実施 第1節 教育課程編成の一般方針(1)
5. 第3章 教育課程の編成及び実施 第1節 教育課程編成の一般方針(2)
6. 第3章 教育課程の編成及び実施 第2節 内容等の取扱いに関する共通的事項
7. 第3章 教育課程の編成及び実施 第3節 授業時数等
8. 第3章 教育課程の編成及び実施 第4節 指導計画の作成
9. 第3章 教育課程の編成及び実施 第5節 教育課程実施上の配慮事項(1)
10. 第3章 教育課程の編成及び実施 第5節 教育課程実施上の配慮事項(2)
11. 第3章 教育課程の編成及び実施 第5節 教育課程実施上の配慮事項(3)
12. 第3章 教育課程の編成及び実施 第5節 教育課程実施上の配慮事項(4)
13. T O P I C 防災教育
14. 第3章 教育課程の編成及び実施 第5節 教育課程実施上の配慮

事項(5)

15. 第4章 教育課程編成の手順と評価

授業の方法

教育課程に対する学生の発表、論述を大切に、そこから生まれる疑問について討議をする中で理解を深めていく。

準備学修

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回につき2点減点。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 総則編」 東洋館出版

留意事項

出席と授業態度を重視する。意欲と積極性を持って授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・人間関係			17629		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	必修	2				

授業の到達目標
 幼児期における人間関係について理論的、実践的に学ぶ。子どもがおとなや仲間との人間関係を通じて、どのように人格を形成し、社会性を発達させていくのかについて認識を深める。また、仲間とのかかわりで生じる葛藤の解決や思いやり行動を高めるための保育者としての援助や指導のあり方を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を目指す。

授業の概要
 現代の子どもの親子関係や仲間との関係の特徴を理解したうえで、親、保育士、教師として、どのように養育し、指導していけばよいのかについて学ぶ。

授業計画

1. 現代のこどもの生活空間と生活時間
2. 保育者としての子どもへのかかわり方
3. 子どもの叱り方
4. けんかへの対応
5. 子どもの愛着関係についての理解
6. 子どもの自立と自律を育てる
7. 子どもの自己表現を育てる
8. 遊びを育てる(1)
9. 遊びを育てる(2)
10. 子どもの反社会的行動と非社会的行動
11. 子どもの道徳性と思いやりを育てる
12. 保育者としての親へのかかわり方
13. 自己認識と他者認識を深める(1)
14. 自己認識と他者認識を深める(2)
15. ストレスについての理解

授業の方法
 主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学修
 自分の日常的な人間関係のあり方と問題点をふりかえっておく。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 欠席1回につき2点減点。

テキスト
 『事例で学ぶ保育内容 人間関係』無藤隆監、岩立京子編、萌文書林

参考図書
 適宜紹介する。

留意事項
 授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は、は+2点、は+1点、は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・言葉			17633		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標
 出生から就学に至る乳幼児期の言葉の発達について理解する。言葉を獲得し、自分の思いを素直に伝えるには、どのような環境や遊びが大切なのか、また身近な人がどのようにかかわることが大切なのか等、乳幼児の言葉の発達を支える要因について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要
 言葉の発達、乳幼児の身体諸機能の発達や身近な人とのかかわりを通じた様々な感情体験、環境とのかかわり等と関連する。これらを踏まえ、言葉の発達を促す保育者の援助、即ち環境構成や遊び・教材について講義を行い、実技や発表を通して理解を深める機会をもつ。また、言葉の発達に関する特別支援教育の実践についても詳述する。

授業計画

1. 領域「言葉」のねらいと内容
2. 乳幼児の発達と言葉の獲得
3. 乳幼児の発達と言葉の獲得
4. 乳幼児の発達と言葉の獲得
5. 言葉の発達を促す保育(出生からおおむね1歳3カ月未満)
6. 言葉の発達を促す保育(おおむね1歳3カ月からおおむね2歳)
7. 言葉の発達を促す保育(おおむね3歳)
8. 言葉の発達を促す保育(おおむね4歳)
9. 言葉の発達を促す保育(おおむね5歳から6歳)
10. 言葉の発達と特別支援教育
11. 言葉の発達と人権教育
12. 伝え合う楽しい劇遊び
13. 文字に親しむ環境構成と保育
14. 言葉をはぐくむ教材・児童文化について
15. 絵本の読み聞かせ

授業の方法
 講義を主とするが、言葉をはぐくむ保育の実践についての発表を加える。

準備学修
 毎回、指示した部分のテキストを事前に読んで理解しておくこと。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 欠席1回につき2点減点とする。

テキスト
 『保育・教育ネオシリーズ・言葉』岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行監修 同文書院

参考図書
 『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

教員連絡先
 mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護			17638		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について概括します。社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実際について理解を深めることを目標とします。このクラスでは海星パーソナリティのS(奉仕)を目標。</p> <p>授業の概要</p> <p>児童養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習します。特に、社会的に子どもを保護する施設では、子どもの人権擁護を基本として、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっています。このため、(1)社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、(2)社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、(3)児童福祉施設などにおける養護の実際を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とする。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの社会的養護 2. 日本における社会的養護のしくみ 3. 社会的養護に携わる専門職 4. 家庭支援の理論と実践 5. 児童虐待の現状と対応 6. 家庭的養護の理念と里親制度 7. 乳幼児の生命と健やかな育ちの保障 8. 児童養護施設の歴史と自立支援 9. 非行のある子どもの自立支援 10. 情緒障がいのある子どもの社会的養護 11. 知的・身体的障がいのある子どもの社会的養護 12. 児童養護施設における子どもの権利擁護 13. 当事者から見た日本の社会的養護 14. 児童福祉施設職員に求められるもの 15. まとめ、質問タイム <p>授業の方法</p> <p>講義を主とするが、必要に応じてVTR、DVD等で児童養護の現状に</p>

<p>ついて理解を深めます。また、双方向の授業ですから積極的に参加をすること。</p> <p>準備学修</p> <p>日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておいてください。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点50%、課題レポート30% 出席状況20%</p> <p>欠席について</p> <p>公欠以外の欠席は認めない。</p> <p>テキスト</p> <p>特に指定しません。必要に応じて、プリントを配布する。</p> <p>留意事項</p> <p>児童福祉分野に関心がある、また、就職を希望する人はぜひ履修をすすめる。</p>

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健 A			17642		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小林 千代	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>保育現場では疾病や障害を抱えた多様な子どもも入所しており、子どもの保健・安全の領域が重視されている。心身の健やかな成長を見守り援助していくために、子どもの特性を把握し、発育・発達についての知識を習得し、子どもを取り巻く家庭や社会環境などにも目をむけ総合的に判断できる力量を形成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。</p> <p>授業の概要</p> <p>命の誕生から身体の発育・生理機能・運動機能・精神機能についての知識を習得し、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義や、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。また子どもの疾病の特徴を知り、その予防とその対応について学ぶ。また子どもの心の健康とその課題について家庭・専門機関・地域との連携についても学ぶ。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康と保育の意義 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 2. こどもの健康と保育の意義 子どもの健康概念と健康指標・地域における保健活動と児童虐待 3. 子どもの発育・発達 生物としてのヒトの成り立ち 4. 子どもの発育・発達 身体発育 5. 子どもの発育・発達 生理機能の発達 6. 子どもの発育・発達 生理機能の発達 7. 子どもの発育・発達 運動機能の発達 8. 子どもの発育・発達 運動機能の発達 9. 子どもの発育・発達 精神機能の発達 10. 子どもの発育・発達 精神機能の発達 11. 子どもの精神保健 子どもの生活環境と精神保健 12. 子どもの精神保健 子どもの心の健康とその課題 13. 環境および衛生管理並びに安全管理 保育環境整備と保健 14. 環境および衛生管理並びに安全管理 保育現場における衛生管理 15. まとめ

<p>授業の方法</p> <p>主に講義形式で進める</p> <p>準備学修</p> <p>日頃から子どもの発育・発達に関心をもつ。感染症の発症や流行に関する情報を身近なこととして捉える。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点30%、定期試験70%</p> <p>欠席について</p> <p>出席状況も成績評価の対象とする。</p> <p>テキスト</p> <p>子どもの保健 佐藤益子編著ななみ書房</p> <p>参考図書</p> <p>国民衛生の動向(財)厚生統計編</p>

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健			17646		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小林 千代	選択	1				

授業の到達目標
乳幼児期の基本的な生活への援助の仕方、保育現場で起こりうる子どもの疾病とその予防、救急時の対応や事故防止、安全管理に関する知識や技術を習得し実践力を身につける。保育における保健活動を理解し子どもの個別対応と集団全体の健康と安全・衛生管理について理解する。このクラスではK A I S E I パーソナリティーのK（思いやり）を考える。

授業の概要
子どもの安全で衛生的な生活を保障し、日々快適に過ごせるための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学ぶ。また、子どもの基本的な生活への関わりや援助の仕方、子どもの疾病とその予防および事故防止や応急処置、救急救命法など演習や実習をおして実践力を身につける。

授業計画

1. 保育における保健活動 保健計画の作成と活用
2. 保育における保健活動 健康の取り組みの実際。成長・発達の観察と測定
3. 子どもの保健と環境 子どもの健康増進と望ましい保育環境
4. 子どもの保健と環境 子どもの生活習慣と心身の健康
5. 子どもの保健と環境 子どもの発達援助と保健活動
6. 子どもの疾病と適切な対応 感染症の予防と対策
7. 子どもの疾病と適切な対応 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
8. 事故防止および健康管理・安全管理 けがや急な病気への対応の基本と救急法
9. 事故防止および健康管理・安全管理 子どもに起きやすい事故の応急処置
10. 事故防止および健康管理・安全管理 子どもの救急救命法
11. 事故防止および健康管理・安全管理 保育における看護
12. 事故防止および健康管理・安全管理 災害への備えと危機管理
13. 心とからだの健康問題と地域保健活動 子どもの養育環境と心の健康問題
14. 心とからだの健康問題と地域保健活動 心とからだの健康づくりと地域保健活動
15. まとめ

授業の方法
講義および演習と実習

準備学修
日頃より衛生管理や安全管理を認識し、自己の健康管理にも注意を払う

課題・評価方法
平常点40％ 定期試験60％平常点は授業態度および出席状況、レポートの評価

欠席について
原則として欠席は認めないが、感染症による出席停止となった場合は認める。

テキスト
子どもの保健 佐藤益子 編著 ななみ書房 必要時プリント配布

参考図書
授業時に適時紹介する。

留意事項
演習や実習しやすい衣服を着用して出席する

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの食と栄養			17650		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
河田 貴子	選択	2				

授業の到達目標
子どもの食と栄養の基本的理論を体系的に理解した上で、実践の場で理論をどのように活用していくかを自ら考え、実際の保育に役立つ力を身につける。子どもの発育・発達と、食生活の関連性を理解し、適切な食生活のありかたを習得する。食育基本法や食育における養護と教育の一体性についても学びを深め、それぞれの環境における食生活の支援ができるようになる。大切なことは、保育者を目指している学生がこの授業が「なぜ必要なのか」から「大切なこと」と理解することである。このクラスではK A I S E I パーソナリティーのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要
乳幼児期は食生活の基礎が形作られる時期であり、子どもが健康に過ごすためには日々の食生活の果たす役割が重要である。そのために、保育者は健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関して総合的・多角的な視野を持ち多くの基礎的知識を習得することが大切である。子どもの段階的な発育・発達を的確に捉え、その時期に必要な食生活と栄養について理解を深める。食育基本法や食生活における養護と教育の一体化とは何かについても学ぶ。なお児童福祉施設における食生活の現状と課題及び特別な配慮を要する子どもの食生活と栄養について理解し対応できるようにする。

授業計画

1. 子どもの健康と食生活の意義 子どもの食と栄養を学ぶ目的
2. 子どもの発育・発達と食生活(1) 身体発育・精神・運動機能発達と栄養・食生活
3. 子どもの発育・発達と食生活(2) 食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活
4. 栄養に関する基本的知識(1)
5. 栄養に関する基本的知識(2)
6. 子どもの発育・発達と食生活(3) 妊娠期(胎児期)の食生活
7. 子どもの発育・発達と食生活(4) 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
8. 子どもの発育・発達と食生活(5) 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
9. 子どもの発育・発達と食生活(6) 幼児期の心身の発達と食生活

10. 子どもの発育・発達と食生活(7) 幼児期の心身の発達と食生活
11. 子どもの発育・発達と食生活(8) 学童期・思春期の心身の発達と食生活
12. 食育の基本と内容(1) 食育における養護と教育の一体性
13. 食育の基本と内容(2) 保育所における食育の実践
14. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
15. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養

授業の方法
講義および演習によって授業を進行する。

準備学修
食について日頃より自分自身の身近な課題として関心を持ち、食環境全般にわたって世の中の状況に目を向け、情報収集するなどの姿勢を持って学習する。

課題・評価方法
平常点30％、定期試験70％

欠席について
出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト
子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養 編者：堤ちはる・土井正子 萌文書林 随時、資料・プリントを配布する。

参考図書
必要に応じて随時紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（身体表現）	/		17653		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石田 伸子	必修	1				

授業の到達目標

幼児が伸び伸びと身体を動かし、表現の喜びを味わえるための身につけるべき指導力についての理解ができるようになる。また、自分自身が楽しんで、柔軟な発想で身体を動かせるようになり、グループで物語を表現にまとめて発表する。このクラスではKAISEI パーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

身体表現は、幼児の心と体を解放し、創造性を引き出す大切な活動である。幼児からの発信を受け止めながら、遊びの内容や活動を深めるにはどうすれば良いか、幼児の発達筋道を理解し、興味・関心を探り、表現に繋げていける感性と指導力を身につける必要がある。そのために保育者自身が体を動かし、表現を楽しむことが大事である。身体を自由に動かし、工夫して表現できるよう、身体表現の基本から創作まで理論と実技で学習していく。

授業計画

1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領の「表現」についての理解
2. 乳幼児にとって、身体表現の持つ意味の理解
3. 生活及び発達段階に即した動きと基本リズム
4. 基本的な動き
5. 基本的な動き
6. リズム楽器の活用
7. 模倣表現
8. 模倣表現
9. フォークダンスとその展開
10. フォークダンスとその展開
11. 手具を使った表現
12. 物語を題材にした表現
13. 発表会のための創作表現、構成
14. 発表会のための創作表現、構成
15. 発表と評価・反省及びレポート

授業の方法

音楽に合わせて、あるいは自由に身体を動かして表現する。

準備学修

日ごろから身体を動かしておくこと

課題・評価方法

出席状況、授業態度、レポートの成績によって総合的に評価する。

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

随時プリントを配布

参考図書

身体表現 古市久子著 北大路書房

留意事項

第2講義より2号館体育室で行う。体操服・体育館シューズ持参のこと。
分かりやすいところに名札を付けておくこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論（幼小）	教職幼小		17657		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
清水 篤	選択	2				

授業の到達目標

小学校での「授業づくり」について、教育方法、学習指導の基礎理論と技術の習得を目指す。

1. 授業づくりについての理論と方法を理解する。
2. 授業づくりにおける子ども・教師・教材の相互関係について理解し、授業づくりの実践について構想できるようにする。
3. グループワーク等を通して、専門職としての教師の授業力・実践力を高める。
4. このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

教育課程論、単元組織論、目標評価論、学習支援論、教師教育論等を視点にして、「よい授業」の姿を追究する。そのために、単元構想・学習活動・発問・板書など、子どもの「学び」を支える教師の具体的な働きかけを視点にして考察する。なお、本講座は、学校教育における教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）について、学校現場での多くの事例を通して、より実践的に探究する。

授業計画

1. 授業づくりの基礎理論・専門職としての教師（授業とは何か・教師の力量としての授業力 今井鑑三の実践）
2. 教育方法論の歴史的展開・授業における子どもの学び 兵庫の先達に学ぶ：芦田恵之助・及川平治・東井義雄）
3. 教育課程の変遷・学力問題と授業づくりの課題（学習指導要領の変遷と教育実践・教育課程の意義）
4. 学習理論の変遷・教育目標・教育内容の設定（教授理論の系譜・系統学習と問題解決学習）
5. 学習指導の具体的方法（教材開発と授業の構想・子ども・教師・教材）
6. 学習指導の具体的方法（学習形態の工夫・授業設計の手順・子どもの変容）
7. 学習指導の具体的方法（学習指導案の作成・単元構想・目標の明確化・学習活動）
8. 学習指導の具体的方法（発問・板書・机間指導・ノート指導）
9. 学習指導の具体的方法（学級編成・生活指導と授業・褒めること

と叱ること）

10. 学習指導の具体的方法（特別なニーズを持つ子どもへの対応）
11. 学力と教育評価（学習評価の目的と方法・教育評価を生かした授業づくり）
12. 情報化と教育（情報化社会と学校教育・情報メディアと学習指導・情報機器の活用法）
13. 授業分析のワークショップ（授業研究の方法・学校現場の授業実践記録の考察と意見交流）
14. 授業分析のワークショップ（授業研究の方法・学校現場の授業実践記録の考察と意見交流）
15. 現代の教育の動向と教育実践（PISA調査に見る今後の教育実践の方向性と課題）

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学修

・シラバスをもとにして、参考図書等で予習をし、各自1～2の「質問事項」を持って授業に参加する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う。

テキスト

随時、資料プリントを配布する。各自ファイリングして毎回持参すること。

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領』
田中耕治『よくわかる授業論』（ミネルヴァ書房）
佐藤学『教育方法学』（岩波書店）
大澤真幸『電子メディア論』（新曜社）

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等国語科指導法			17661		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標
 国語科の目標と内容・指導計画・学習指導法等について、基礎的な理論と指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要
 国語科の目標と内容、授業方法、授業の構造、指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科書教材の指導案の作成や模擬授業を通して、国語科の指導力を身に付ける。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、国語と国語科
2. 国語科の目標と内容
3. 45分の授業づくり
4. 発問の工夫
5. 板書の仕方
6. 物語の授業
7. 説明文の授業
8. 作文の授業
9. 古典の授業
10. 言語活動の指導
11. 漢字指導
12. 書写の指導
13. 個別指導と机間巡視
14. 模擬授業
15. まとめ

授業の方法
 書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学修
 授業内容に関連する事項や語句について事前に指示するので、レポート等を作成すること。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト
 牛頭哲宏・森篤嗣『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社

留意事項
 出席と授業態度（準備や提出物含む）を重視する。国語科の指導法を学ぼうとする意欲をもって、授業に臨むこと。

教員連絡先
 ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等社会科指導法			17665		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
清水 篤	選択	2				

授業の到達目標

1. 「小学校学習指導要領 社会」の目指す理念や目標を理解することができる。
2. 「小学校学習指導要領 社会」の変遷と、いま求められている社会科学力について理解することができる。
3. 具体的な資料を用いた学習指導案を作成し、模擬授業を展開することができる。
4. 社会の出来事に関心を持つことができる。
5. このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
 これまでの「小学校学習指導要領 社会」の変遷を概観しながら、現行の「小学校学習指導要領 社会」に基づき、教育内容と指導法を考察し、教材研究の方法や学習指導法、評価方法の習得を目指す。グループワークとして、事例研究や模擬授業、教材研究の発表の場を設定する。さらに、学習者の視点に立った実践的な学びを展開することで、教師としての授業力・実践力を高める。

授業計画

1. オリエンテーション:社会科とは何か、小学校社会科の成立と変遷
2. 「小学校学習指導要領 社会」の構成と内容(学習指導要領改訂と授業づくり)
3. 「小学校学習指導要領 社会」の構成と内容(学習指導要領改訂と授業づくり)
4. 社会科教育の今日的課題:社会科の目標と内容、生活科・総合的な学習の時間との関係
5. 社会科の教材研究と授業の構想 (資料の活用と教材化)
6. 社会科の教材研究と授業の構想 (授業の仕組みと展開)
7. 社会科の教材研究と授業の構想 (学習指導案の書き方と授業の見方・評価)
8. 地域学習の教材研究と授業化 (教材研究と学習指導案の作成)
9. 地域学習の教材研究と授業化 (模擬授業と相互評価)
10. 地理的学習の教材研究と授業化 (教材研究と学習指導案の作成)
11. 地理的学習の教材研究と授業化 (模擬授業と相互評価)

12. 歴史的学習の教材研究と授業化 (教材研究と学習指導案の作成)
13. 歴史的学習の教材研究と授業化 (模擬授業と相互評価)
14. 公民的学習の教材研究と授業化 (教材研究と学習指導案の作成)
15. 公民的学習の教材研究と授業化 (模擬授業と相互評価)

授業の方法
 講義とグループワーク、模擬授業を中心とする。

準備学修
 ・『小学校学習指導要領解説 社会編』を熟読する。
 ・日々、新聞の社会・政治・経済・文化欄を読み、教材化を構想する。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 規則に従う

テキスト
 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』平成20年8月 東洋館出版社
 適宜、資料プリントを配布する

参考図書
 参考図書は、適宜必要に応じて紹介する

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等算数科指導法			17669		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
都賀 純	選択	2				

授業の到達目標

算数科の教育内容と目標、及び指導法について習得する。子供の心理と発達に関する専門的な知識と技能を習得しつつ、学年の単元構成、指導展開や指導法の工夫、ポイントについて学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）を養う。

授業の概要

算数科の学習内容の系統性、各領域の特性について学ぶ。模擬授業を通して、各学年の教材から子供をつまずきやすい内容や教師の指導上の留意点についても学びを深めていく。現場の実践とつなぎながら、ディスカッション、演習等で深めていく。

授業計画

1. オリエンテーション ・ 算数科改訂の基本方針
2. 授業を通して1 ・ 算数科の目標
3. 授業を通して2 ・ 教材構成表づくり1
4. 授業展開づくり ・ 教材構成表づくり2
5. 授業を通して3 ・ 教材構成表づくり3
6. 授業を通して4 ・ 教材構成表づくり4
7. 模擬授業A1 ・ 授業の助所1
8. 模擬授業A2 ・ 授業の助所2
9. 模擬授業A3 ・ 授業の助所3
10. 模擬授業A4 ・ 授業の助所4
11. 模擬授業B1 ・ 批評会1
12. 模擬授業B2 ・ 批評会2
13. 模擬授業B3 ・ 批評会3
14. 模擬授業B4 ・ 批評会4
15. 内容の取り扱い ・ ふりかえり

授業の方法

講義と共に、模擬授業、その授業についての学生相互のディスカッションなどの活動を大切にしていく。

準備学修

テキストや資料をよく読んでおくこと。出された課題には前向きに取り組むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回につき2点減点

テキスト

「小学校学習指導要領解説 算数編」 東洋館出版

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等理科指導法			17673		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
柳澤 利彦	選択	2				

授業の到達目標

小学校理科の教育目標と指導方法を修得すること。また、自然科学の知識を習得し、指導計画の作成や学習指導の在り方について実践を通して学び、理科の授業づくりの基礎を培うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティーI(知性)とS(奉仕)の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領(理科)の教科目標及び学年目標・指導の在り方を把握する。

生物・物質・地球を中心に具体的な内容を取り上げ知識力を養う。さらに、理科の指導案作成や模擬授業等を通して、実践力を育成していく。

授業計画

1. 理科授業についてのオリエンテーション 実験・観察・資料の使用法
2. 身近な自然の観察
3. 地球『流水の働き』
4. 地球『土地のつくりと変化』
5. 地球『土地のつくりと変化』
6. 地球『土地のつくりと変化』
7. 地球『土地のつくりと変化』
8. 身近な自然の観察
9. 物質『ものの溶け方』『水溶液の性質』
10. 物質『水溶液の性質』
11. 物質『金属・水・空気と温度』
12. 身近な自然の観察
13. 物質『電気の通り道』『電気の働き』
14. 物質『電気の働き』『電気の利用』
15. まとめ

授業の方法

自然科学について、興味・関心を持てるよう具体的な事例を多く取り上げ、自作の資料やデジタル教材を使って講義をしていく。さらに、考えやディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

小・中学校の理科の内容を思い出ししておくこと。自然科学に関する報道等に関心を持って、情報を得ること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 理科編」(平成20年8月版)

教員連絡先

理科学習が楽しいと感じられるよう、具体事例を挙げながら授業を進める。

出席と授業態度(準備や提出物含む)を重視する。理科学習に対して、興味関心を深めるため、日頃から自然科学に関する報道等の情報に関心を持つこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等生活科指導法			17677		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
東内 則子	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活科誕生の背景や経緯について理解する。 生活科の目標を知り、他教科と違う特質について理解する。 学習展開の基礎となる内容構成やそれぞれの内容の持つ役割について理解する。 内容の組み合わせによる有効な指導計画を探る。 <p>このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養います。</p> <p>授業の概要</p> <p>低学年の子どもにとって極めて重要な役割を果たす生活科。その誕生の経緯や特質を理解するとともに学習を展開するうえでの基礎となる内容構成や指導計画の工夫について理解を深める。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 「私が学んだ生活科」レポート 各自の生活科へのイメージの違いと学びの格差 生活科誕生の背景・生活科とはどんな教科か 生活科の目標（生活科の抱える課題と新指導要領のねらい） 生活科の内容（内容構成と階層性） 生活科の内容1 「学校と生活」 内容2 「家庭と生活」内容3 「地域と生活」 内容4 「公共物や公共施設の利用」道徳との関連を考える 内容5 「季節の変化と生活」 内容の関連付けの意義と実際 内容6 「自然や物を使った遊び」 内容7 「動植物の飼育・栽培」内容8 「生活や出来事ごとの交流」 内容9 「自分の成長」 年間計画を考える まとめと確認 <p>授業の方法</p> <p>学習指導要領解説の内容を一方通行の講義ではなく、個人・グループなど双方向形式で討議し理解を深める。</p>

<p>準備学修</p> <p>今の子どもたちの置かれている環境を意識してみてください。なぜ生活科が必要かが見えてきます。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点30%、定期試験70%</p> <p>欠席について</p> <p>欠席は5点減点し、遅刻は2点減点とする。</p> <p>テキスト</p> <p>文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」</p>

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論（小）	教職小		17681		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
都賀 純	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>特別活動の意義や役割、具体的な実践例を学ぶ中で、子供の人間関係、望ましい集団活動の在り方について専門的な知識と技能を習得していく。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。</p> <p>授業の概要</p> <p>教育課程における特別活動の理念を把握すると共に、目標や内容を明らかにし、理解を深めていく。学校現場が抱えている課題を学生と共有したい。そのためにも、学校現場のビデオも随時紹介したいと考えている。学生には子どもを見つめる教師としての温かい眼を養ってほしい。講義の中に、ディスカッションや演習を組み込み、共に考えていきたい。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション・第1章 総説 第2章 特別活動の目標 第1節 特別活動の目標 第2章 特別活動の目標 第2節 特別活動の基本的な性格と教育的意義 第2章 特別活動の目標 第2節 特別活動の基本的な性格と教育的意義 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第1節 学級活動 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第1節 学級活動 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第1節 学級活動 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第1節 学級活動 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第2節 児童会活動 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第3節 クラブ活動 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第4節 学校行事 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第4節 学校行事 第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い 第1節 指導計画の作成にあたっての配慮事項 第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い 第2節 内容の取り扱いについての配慮事項 第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い 第3節 入学式や卒業式などにおける国旗及び国歌の取扱い 第4節 特別活動における評価

<p>授業の方法</p> <p>講義と演習（ロールプレイ、ディスカッション、プレゼンテーション）を合わせて、創造的思考力を養う。</p> <p>準備学修</p> <p>テキストを一読しておくこと。出された課題には前向きに取り組むこと。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点70%、定期試験30%</p> <p>欠席について</p> <p>1回につき2点減点する。</p> <p>テキスト</p> <p>「小学校学習指導要領解説 特別活動編」 東洋館出版社</p> <p>留意事項</p> <p>出席と授業態度を重視する。特別活動の意義や指導法を学ぼうとする意欲と主体性をもって、授業に臨むこと。</p>

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育・教職実践演習（幼・小）			17686		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江 / 大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園での現場学習等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、課題を確認するとともに保育者・教育者としての役割と責務についての認識を深めていく。職務への使命感、社会性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す授業を進める。

授業計画

1. 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
2. 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等についての討議
3. 社会性や対人関係能力（職場、保護者・地域との人間関係の構築等）についての講義・グループ討議
4. 幼児・児童理解や学級経営についての講義・グループ討議
5. 保育計画案・学級経営案の作成
6. 保育計画案・学級経営案の発表とグループ討議
7. 学校園現場の見学・調査
8. 学校園現場の見学・調査
9. 社会性、対人関係能力、幼児・児童理解、学級経営についてのグループ討議
10. 保育・教科の指導力についての講義・グループ討議
11. 模擬授業と討議
12. 模擬授業と討議
13. 事例研究とロールプレイング
14. 事例研究とロールプレイング
15. 目指す教師像と自己課題の確認

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

事前に課題を提示するので、自分の考えをまとめてレポートを提出すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

厚生労働省『保育所保育指針』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、文部科学省『小学校学習指導要領』

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究（幼）	教職幼		17689		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江	選択	1				

授業の到達目標

教育実習とは何か、幼稚園に勤務する教師の仕事とは何かなど、教育実習をするにあたっての準備すべき実際や心構えを学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）の育成をめざす。

授業の概要

1週間の観察・参加実習に向けて、教育実習の目的・意義、実習記録のとり方について具体的に学んでいく。加えて、人権感覚を養うなど教師としての資質向上をめざす内容を取り入れる。

授業計画

1. 幼稚園教諭とは
2. 教育実習の意義と目的
3. 教育実習園の選択と決定
4. 先輩の体験発表及びアドバイス
5. 教員に求められる人権感覚
6. 3週間実習に向け、園への依頼の仕方
7. 記録のとり方と書き方
8. 教育実習記録(1)の記入についての留意事項
9. 実習に際しての具体的な留意事項
10. 実習後について(礼状の作成など)
11. 1週間実習を終えての成果や課題について協議
12. 実習記録について個人指導及び指導実習に向けて教材作成
13. 実習記録について個人指導及び指導実習に向けて教材作成
14. 実習記録について個人指導及び指導実習に向けて教材作成
15. 実習記録について個人指導及び指導実習に向けて教材作成

授業の方法

テキストやプリントをもとに、具体的な内容で授業を進める。実習後は、幼稚園から返却された実習記録や評価をもとに、個人指導を実施する。

準備学修

「幼稚園教育要領解説」第2章ねらい及び内容の熟読。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回につき、10点の減点とする。

テキスト

「幼稚園実習」建帛社
随時、プリントを配布

参考図書

「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
幼稚園教育指導資料第5集「指導と評価に生かす記録」チャイルド社

留意事項

資格取得のための教育実習に向けての授業である。1回の欠席も認められないことを十分理解しておくこと。やむをえず欠席する時は必ず事前に申し出ること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職小	17697		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
浅井 由美	選択	1			

<p>授業の到達目標</p> <p>「介護等体験」の意義を理解する。社会福祉施設や特別支援学校について、基本的な知識を身につける。「介護等体験」でかかわる人々の状況を理解する。「介護等体験」にあたっての心構えや留意点を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）S（奉仕）E（倫理）を考える。</p> <p>授業の概要</p> <p>いわゆる「介護等体験特例法」は、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる」としている。授業では、この法律の趣旨を理解できるように指導する。社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）において「介護等体験」を円滑に行い十分な成果を得るため、基本的な知識と技能を身につけられるようになる。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「介護等体験」の意義 2. 社会福祉施設 1 3. 社会福祉施設 2 4. 介護の心構えと実際 5. 高齢者の心と身体 6. 特別支援学校 7. 障がいがある子どものかかわり方と「介護等体験」 8. 「介護等体験」にあたっての心構え <p>授業の方法</p> <p>講義とDVD視聴に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。</p> <p>準備学修</p> <p>準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。</p>

<p>課題・評価方法</p> <p>平常点50%、定期試験50%</p> <p>欠席について</p> <p>欠席1回につき3点減点する。</p> <p>参考図書</p> <p>増田雅暢ほか『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会 全国特別支援学校長会『フィリア』シアース教育新社</p> <p>留意事項</p> <p>この授業は7.5回行う。</p> <p>教員連絡先</p> <p>yumi@kaisei.ac.jp</p> <p>オフィスアワー</p> <p>直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。</p>

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究（幼）	教職幼	17705		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
佐原 信江	選択	1			

<p>授業の到達目標</p> <p>1週間実習の成果を生かして、さらに充実した3週間実習に向けて教育実習の目的意識を確かなものにする。実習終了後は自己評価を行い、幼稚園教諭となるにふさわしい自分をめざす。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）の育成をめざす。</p> <p>授業の概要</p> <p>1週間実習の成果と課題を自ら明確にし、3週間実習に意欲的に取り組めるようにする。実習で直面するであろう課題や問題点について、実践例をもとに教材研究などを具体的に学ぶ。実習終了後は幼稚園教諭となるにふさわしい自分をめざして課題の克服に努める。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習園でのオリエンテーション(依頼電話のかけ方、訪問に際して等) 2. 指導実習に向けての教材の作成 3. " 4. " 5. 絵本の読み聞かせとリズム遊び 6. " 7. 実習園のオリエンテーションを受ける。 8. 実習園の教育理念や指導方法を学ぶ。 9. 指導実習に向けての教材研究と指導案の作成 10. " 11. 実習記録の記入方法について 12. 実習に向けて留意事項の再確認 13. 礼状の作成 14. 実習園の評価をもとに反省と考察を行い、課題を明確にする。 15. まとめ <p>授業の方法</p> <p>実習園の教育について理解すると共に、教材研究や指導案の作成、実習記録の取り方など、実際に即した内容で授業を進める。</p>

<p>準備学修</p> <p>1週間実習をもとに、自分の課題を明確にしておくこと。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点70%、定期試験30%</p> <p>欠席について</p> <p>1回につき、10点減点とする。</p> <p>テキスト</p> <p>「幼稚園実習」建帛社</p> <p>参考図書</p> <p>「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「教員をめざそう！」文部科学省</p> <p>留意事項</p> <p>資格取得のための教育実習に向けての授業である。遅刻はもちろん、1回の欠席も認められないことを十分理解しておくこと。やむをえず欠席する場合は必ず事前に申し出ること。</p> <p>教員連絡先</p> <p>sahara@kaisei.ac.jp</p> <p>オフィスアワー</p> <p>直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。</p>

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論 (幼小)	教職幼小PC		17713		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責についての理解を深める。

授業計画

1. 受講の心構え・授業規律・授業内容等についてのガイダンス、学校の種類と公教育
2. 教育制度の歴史と発展
3. 教育制度の歴史と発展
4. 子どもの権利と人権
5. 教育制度を学ぶ意義
6. 教育制度を学ぶ意義
7. 教育法
8. 教育法
9. 教育の目的と目標
10. 義務教育の制度
11. 教育の機会均等
12. 教職員の制度
13. 教育行財の制度
14. 社会教育の制度
15. まとめ

授業の方法

考えを書く活動とグループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

授業で考察する事例、法令などを事前に伝えるので、それについて

調べ、レポートを提出すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

川口洋誉・中山弘之『未来を創る 教育制度論』北樹出版

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・健康			17717		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石田 伸子	必修	2				

授業の到達目標

現代の諸事情により生活スタイルが変容していることを踏まえ、乳幼児の「健康」を守る必要性を感じ取り、幼児期に身につけるべき、心と身体の健康に関する内容が理解できること。また、実際に体を動かすことの楽しさ・心地よさを体験し、発達に応じた幼児の運動遊びの指導法を身につける。このクラスではKSAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)を養います。

授業の概要

領域「健康」は、「健全な心と身体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養う」領域である。毎日の生活を満足感を持って楽しく充実して過ごすには健康が基本になる。健康であるということは生活上すべての活動の基本となることである。基本的な生活習慣の自立への指導から、健康な身体作り・健康管理・安全教育など、心身ともに健康な生活ができるようになるには何が必要か、発達の段階を踏まえて学習する。

授業計画

1. 健康の意義と乳幼児の健康な生活
2. 子どもの身体の発達
3. 運動能力と身体の発達
4. 安全の指導
5. 領域「健康」
6. 領域「健康」と保育の計画
7. 0～2歳児の生活と動き
8. 0～2歳児の身辺自立・生活習慣の獲得と遊び
9. 3～5歳児の生活習慣の獲得
10. 3～5歳児の運動遊びの実際と指導のポイント
11. 運動遊びの指導と実技
12. 運動遊び(実技)
13. 運動遊び(実技)
14. 安全への配慮
15. 保育者の役割

授業の方法

ディスカッションや実技を取り入れる。

準備学修

幼稚園教育要領・保育所保育指針の「健康」の解説をよく読んでおくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席数は成績評価に反映する

テキスト

演習 保育内容 健康 河邊貴子編著 建帛社

参考図書

幼稚園教育要領解説 フレーベル館

留意事項

実技 は、運動しやすい服装・体育館シューズ・新聞紙・縄跳び用縄を持参のこと。場所は2号館体育室。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・環境			17721		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
渋谷 美智	必修	2				

授業の到達目標
 幼児を取り巻く様々な環境(物的・心理的)に目をむけ、環境が成長発達に影響することが理解でき、その時期にふさわしい環境の構成あるいは、環境の取り入れ方が分かるようになる。幼児に影響を与える人的環境としての保育者が大きな存在となる。自ら進んで自然に目をむけ、豊かな感性を身につけ、また現代社会の環境問題にも関心を持って取り組めるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を考えます。

授業の概要
 幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」に「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」と述べられている。幼児にとって身近な環境は、心身の発達や人間らしい心を培うだけでなく、知的好奇心を誘う魅力的な存在でもある。幼児のときから人間を取り巻く環境に目を向けさせ、生活が豊かなものになるような環境作りに関心を持たせるためには、どう取り組めば良いのか、日常生活の中での環境についての理解を深める。

授業計画

1. 領域「環境」の意味
2. 領域「環境」のねらいと内容
3. 自然・季節とのかかわりにおける子どもの育ち
4. 教室を出て実際体験する
5. グループでの話し合いと発表
6. 子どもの育ちに関わる現代の生活環境とその課題
7. 子どもの育ちに関わる現代の生活環境とその課題
8. 環境への興味とかかわり方の発達
9. 子どもの活動を引き出す保育環境
10. 物や生き物とのかかわりにおける子どもの育ち
11. 地域社会・施設・情報化社会・文化財とのかかわりにおける子どもの育ち
12. 数量・図形・文字・標識への興味と認識の育ち
13. 子どもの環境へのかかわりを促す保育者の役割
14. 子どもの環境へのかかわりを促す保育者の役割(グループ討議と発表)
15. まとめ

授業の方法
 講義を中心にし、内容に沿ったDVD視聴や事例の中から、グループで話し合ったり意見発表を多く取り入れる。

準備学修
 日ごろから身近な環境に目を向け、疑問や問題意識を持つように心がけておく。
 テキストを読んでおくこと。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 欠席率は成績評価に反映する

テキスト
 シードブック 保育内容 「環境」第2版 榎沢良彦・入江礼子編著 建帛社

参考図書
 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
 保育所保育指針 日本保育協会

教員連絡先
 shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育指導法			17725		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江	選択	2				

授業の到達目標
 幼児教育の実践にあたり、基本となる教育内容を理解するとともに、いろいろな遊びや活動についての指導実践力を習得する。この科目では、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成をめざす。

授業の概要
 「幼稚園教育要領解説」をもとに幼稚園教育の基本を学ぶとともに、具体的な事例を通して、子どもの生活や遊びとはどのようなのか学ぶ。また教材研究や演習を通して、教師の役割について実践的な習得をめざす。

授業計画

1. オリエンテーション・幼稚園教育の基本
2. 教師の役割(幼児理解・教材研究・計画的な環境構成など)
3. 保育内容の指導 < 基本的な生活習慣の育成・安全教育 >
4. 保育内容の指導 < 誕生会・園外保育・自然を取り入れた活動 >
5. 教材研究と演習 < 絵本選び・絵本の読み聞かせ >
6. 教材研究と演習 < 絵本選び・絵本の読み聞かせ >
7. 教材研究と演習 < ペープサートを作って演じてみよう >
8. 教材研究と演習 < ペープサートを作って演じてみよう >
9. 教材研究と演習 < ペープサートを作って演じてみよう >
10. 教材研究と演習 < パネルシアターを作って演じてみよう >
11. 教材研究と演習 < パネルシアターを作って演じてみよう >
12. 教材研究と演習 < パネルシアターを作って演じてみよう >
13. 保育内容の指導 < 保護者との良好な関係づくりに向けて >
14. 保育内容の指導 < 小学校教育との円滑な接続 >
15. 保育内容の指導 < 子育て支援と預かり保育 >

授業の方法
 実際の子どもたちの園生活の様子を視聴しながらの講義を進める。加えて演技演習やグループディスカッションを通して、指導実践力をつけていく。

準備学修
 「幼稚園教育要領解説」の熟読。保育参観等の機会を得て保育の実

際を経験しておく。

課題・評価方法
 実技演習30% レポート40% 平常点30%

欠席について
 1回の欠席につき2点減点とする。

テキスト
 文部科学省「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)

参考図書
 「初等教育資料」文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について」文部科学省「幼児教育じほう」全国国公立幼稚園長会

教員連絡先
 sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児指導論(カウンセリングを含む)			17729		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石田 伸子	必修	2				

授業の到達目標

幼児の心身の発達の特徴を理解し、幼児理解に基づく適切な援助・指導のあり方を学ぶ。幼児一人一人の発達課題に即した援助・指導や環境構成の意義がわかり、教師の役割についての理解を深める。また幼児教育にとって必要なカウンセリングマインドの内容を理解し、カウンセリングマインドの姿勢で幼児を受け入れ、幼児の理解者として、幼児の遊びの指導者として、心の拠り所となれる保育者の役割を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティのとA(自律)とI(知性)を養います。

授業の概要

教育とは、子どもの遊びを触発し、それを援助・組織して、子どもたちの発達を促す営みである。幼児教育を担う者にとって重要なのは、幼児の心身の発達や興味や関心を適切にとらえ、それに応じた具体的な環境を整えることで、自発的、能動的な活動を引き出すことが基本となる。幼児一人ひとりが、喜びと充実感を伴った学びの体験をし、成長する喜びを実感しながら発達に必要な体験を積み重ねていけるような援助や指導の方法を知ることが大切である。本講義では、幼児を援助・指導するということの本質について、カウンセリングマインドの姿勢を通して、具体的な事例を挙げながら指導する。

授業計画

1. 幼児指導の基本
2. 環境を通しての教育
3. 遊びを通しての教育
4. 幼児の主体性の育成
5. 保育者の役割
6. 遊びのなかの学びを育む保育
7. 遊びのなかの学びを育む保育
8. 保育形態による幼児の育ちと保育者の役割
9. 保育における評価
10. 小学校教育との関連
11. 家庭や地域との連携
12. 保育におけるカウンセリングマインドの基本的な心構え
13. 基本的な生活習慣の育ちを支援する
14. 子どもの健やかな育ちを支援する

15. 園生活に困難を抱える子どもを支援する

授業の方法

教科書を中心に、事例を多く取り入れ講義を進める。意見を発表したり、グループ討議をする中から、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする

準備学修

テキストを読んでおくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は成績評価に反映する

テキスト

新保育ライブラリ「幼児教育の方法」 小田豊・青井倫子編著 北大路書房

参考図書

保育カウンセリングマインドへの招待 富田久恵・杉原一昭編著 北大路書房

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽科指導法			17733		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

小学校音楽科の教育課程に関する知識・技能及び指導力を身につけることを目的とする。今日的な教育課題である意欲・興味・関心といった意識の向上を捉えつつ、幅広い音楽活動の指導ができる指導者の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

概説として、「小学校学習指導要領(音楽)」の内容について理解し、音楽教育の歴史についての知識を習得する。特に明治以降の音楽教育についての考察を深め、これからの音楽教育についてのディスカッションも行う。実践としては、歌唱指導・鑑賞指導・器楽指導のための教材研究ならびに演習を行い、音楽の基礎知識を習得しながら各自の音楽技能を高めていく。さらに、模擬授業や音楽会のための計画、発表を行うことにより指導力を身につけ、子どもの豊かな音楽表現を引き出せる指導法を研究する。

授業計画

1. 「小学校学習指導要領(音楽)」の概説
2. 「小学校学習指導要領(音楽)」の概説
3. 楽典の基礎 ピアノ演習
4. リコーダーの理解と合奏
5. いろいろな楽器の理解と奏法
6. 合奏教材と指揮法基礎演習
7. 歌唱教材の研究と演習
8. 歌唱教材の研究と演習
9. 鑑賞教材の研究
10. 鑑賞教材の研究 西洋音楽の理解
11. 日本の伝統音楽の理解
12. 日本の音楽教育の歴史とこれからの課題についての考察
13. 日本の音楽教育の歴史とこれからの課題についての考察
14. 音楽会のための計画、指導、演奏の総合演習
15. 音楽会のための計画、指導、演奏の総合演習

授業の方法

項目ごとに、講義を行ってから個人あるいはグループで演習や研究発表を行う。

準備学修

授業で指示された課題の準備、練習をすること。
バイエル終了程度の読譜力と楽典の基礎知識。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回につき3点減点

テキスト

初等科音楽教育法(音楽之友社)

参考図書

教育芸術社「小学校の音楽1～6」

留意事項

グループ演習も多いので、毎回の出席と積極的な活動を心がけること

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等図画工作科指導法		17737		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
森 晴美	選択	2			

授業の到達目標

小学校学習指導要領 図画工作科の内容「A表現」「B鑑賞」及び「共通事項」について理解し、授業を組み立てることができる。また、各学年の目標や内容の構成、材料や用具の扱い方を理解し、指導上必要な基礎的知識・技術と「生きる力」をはぐくむ指導力を身につける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

図画工作科の指導内容や指導方法、評価等について講義を行う。また、造形遊びをする活動・絵や立体、工作に表す活動・観賞する活動等については、子どもが自らの力を発揮して生き生きと活動する授業実践例の分析と制作を通して、指導技術や指導のポイントを学ぶ。

授業計画

1. 図画工作科の目標及び内容の構成、各領域、共通事項について
2. 第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法・評価
3. 第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法・評価
4. 第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法・評価
5. 第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法・評価
6. 第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法・評価
7. 第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法・評価
8. 第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法・評価
9. 第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法・評価
10. 第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法・評価
11. 第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法・評価
12. 第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法・評価
13. 第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法・評価
14. 第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法・評価
15. 第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法・評価

授業の方法

講義とディスカッション、実技を中心とする。

準備学修

授業に該当する部分のテキストを読んだ上で、制作にかかわる構想の立案と準備物の用意をする。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等家庭科指導法		17741		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
浅井 由美	選択	2			

授業の到達目標

小学校における家庭教育に必要な実践的指導力を身につける。現代社会の要請や小学生の発達段階・生活実態をふまえた家庭科の授業づくりができるようする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

小学校家庭科教育のために必要な学習指導の理論、知識、技術を学ぶ。現代社会の要請をとらえ、小学生の発達段階や生活実態をふまえた家庭科の教材開発を行う。小学校教育における家庭科の位置づけだけでなく、変動する経済・社会との関連で、家庭科教育のあり方を考えていく。

授業計画

1. 家庭科教育の本質
2. 家庭科教育の目標
3. 家庭科教育の内容 1
4. 家庭科教育の内容 2
5. 家庭科の学習指導
6. 家庭科教育の指導計画 1
7. 家庭科教育の指導計画 2
8. 家庭科教育の評価・家庭科教育の施設・設備
9. 家庭科の教材研究と授業 1
10. 家庭科の教材研究と授業 2
11. 模擬授業 1
12. 模擬授業 2
13. 模擬授業 3
14. 家庭科教育の課題と展望
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、ディスカッションと模擬授業をとりいれる。

準備学修

高等学校までの家庭科を復習する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版社

参考図書

必要に応じて授業中に指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育科指導法			17745		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
木岡 正雄	選択	2				

授業の到達目標

体育科の指導案を作成することができ、模擬授業を行う力を養う。また、授業観察力を培う。グループワークを主として行い、他への思いやりと規律、実行力を養う。また、この授業では、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

小学校体育科の目標、教材内容について理解する。理解した知識を基に模擬授業を実施する。授業を観察するポイントを理解する。

授業計画

1. オリエンテーション。体育科の目指す授業について
2. 小学校学習指導要領、体育編の内容を知る。
3. これから目指す体育授業について。運動の特性について
4. 低学年の目標と学習内容について
5. 中学年の目標と学習内容について
6. 高学年の目標と学習内容について
7. 学習指導案の書き方について
8. 指導案を作成する。
9. 指導案を作成する。
10. 指導案を作成する。
11. 模擬授業を実施する。
12. 模擬授業を実施する。
13. 模擬授業を実施する。
14. 模擬授業を振り返る。学習評価について。
15. 学習のまとめ。これからの体育学習について

授業の方法

小グループでの話し合い、調べ学習、作業等を主とする。体育の実技も実施予定である。

準備学修

小学校学習指導要領 文部科学省、小学校学習指導要領解説体育編を読んでおく。

課題・評価方法

平常点20点。学習指導案30点。模擬授業20点。授業観察力30点。

欠席について

原則欠席をしない事。登校できる程度なら見学でも出席すること。

テキスト

小学校学習指導要領 文部科学省
小学校学習指導要領解説体育編 文部科学省

参考図書

新しい体育授業の運動学 三木四郎 著 明和出版

留意事項

実技も実施するので、運動のできる服装の用意をする。

教員連絡先

〒651-2277 神戸市西区美質多台4-7-20
自宅電話番号 & Fax 078-961-4362

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論（小）	教職小		17749		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

道徳教育の目標と内容、指導計画、学習指導法等について、基礎的な理論と指導技術を修得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

道徳教育の目標と内容、授業方法、指導計画、資料の扱い方等、小学校における道徳の時間の指導法を把握するための講義を行う。また、学習指導案作成や模擬授業を通して、実践的な指導力を身に付ける。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、道徳教育改訂の要点
2. 道徳教育の基本的な在り方
3. 道徳の目標
4. 道徳の内容
5. 道徳の内容
6. 道徳の内容
7. 道徳の指導計画
8. 道徳の指導計画
9. 道徳の時間の指導
10. 教育活動全体を通じて行う道徳の指導
11. 道徳の模擬授業
12. 道徳の模擬授業
13. 道徳の模擬授業
14. 道徳の模擬授業
15. まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを重視する。

準備学修

事前に課題を提示するので、レポートや学習指導案を作成すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』東洋館出版社

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（準備や提出物含む）を重視する。道徳の指導法を身に付けようとする意欲をもって、授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論	教職小	17753		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
清水 篤	選択	2			

授業の到達目標

1. 学校現場における生徒指導・進路指導の内容と課題を理解する。
2. 課題解決に向けて、実践的な指導力を身につける。
3. 中・高校の教員としての資質・能力を高める。
4. このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

急激な社会変化や格差社会の拡大のなかで、生徒をめぐる環境について多くの課題が指摘されている。一方、学校現場でもいじめや不登校、学級崩壊などの生徒指導の問題や自分の進路をつかめない生徒の問題等、課題が山積している。授業では、『生徒指導提要』に基づき、生徒の気持ちを大切にしながら生徒指導・進路指導のあり方を考察する。また、生徒指導・進路指導に関する基礎知識を理解し、実践的な指導力を身につけることを目指す。

授業計画

1. オリエンテーション(生徒指導の現状・生徒指導の意義と役割)
2. 適応と発達(適応と適応機制・発達の理論・青年期の発達)
3. 生徒理解(生徒理解の方法と留意点)
4. 学校運営と生徒指導(問題行動・生徒指導体制)
5. 生徒指導と法制度(懲戒と体罰)
6. 生徒指導と教育相談(教育相談と進路指導・カウンセリング)
7. 生徒指導と学級(ホームルーム)経営
8. 生徒指導と学習指導(教科指導と道徳指導・特別活動と生徒指導)
9. 生徒指導の今日的課題(暴力行為・非行・性非行と性被害・薬物乱用)
10. 生徒指導の今日的課題(不登校・中途退学・いじめ)
11. 生徒指導の今日的課題(スウェーデンのいじめ対策・いじめエクササイズ)
12. 生徒指導と特別支援教育
13. 開発的生徒指導
14. 生徒指導と危機管理
15. 教職科目としての生徒指導論

授業の方法

講義とロールプレイ(場面指導)を中心とする。

準備学修

- ・文部科学省『生徒指導提要』を熟読する。
- ・テレビ、新聞等の報道を通して、児童生徒にかかわる社会・教育時事に関心を持つ。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う。

テキスト

授業の中で、適宜紹介する。

参考図書

文部科学省『生徒指導提要』
 本田由紀『「家庭教育」の隘路 子育てに脅迫される母親たち』
 楠本恭久・藤田主一編著『新生徒指導論 1 2 講』

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健 B		17762		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
小林 千代	選択	2			

授業の到達目標

「子どもの保健1A」の子どもの心身の発育・発達について学習したことを踏まえて、保育者に必要とされる子どもの保健分野をより深めるために、子どもの疾病とその予防方法および適切な対応、保育における環境および衛生管理並びに安全管理について理解する。また施設における子どもの心身の健康および安全の実施体制についても理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK(思いやり)を考える。

授業の概要

子どもはさまざまな面で未熟で、事故発生の危険性や感染症に罹ることが多い。日々子どもの心身の健康を守り、健康増進に努め順調な発育・発達を促すことは、保育する上で最も基本的な要件である。「子どもの保健1A」で学んだ基本的な知識を理解したうえで、子どもの感染症や病気に対する予防や処置、事故に対する応急処置の仕方について学ぶ。また、集団生活の場での保健活動や母子保健に関する行政の関わりや法制度の現状について学ぶ。保育者自身の心身の健康管理についても学ぶ。

授業計画

1. 子どもの病気と保育 子どもの病気の特徴
2. 子どもの病気と保育 子どもの健康状態の把握
3. 子どもの病気と保育 主な症状の見方と対応
4. 子どもの病気と保育 子どもの病気の予防と対応
5. 子どもの病気と保育 子どもによく見られる疾患(Ⅰ.感染症)
6. 子どもの病気と保育 子どもによくみられる疾患(Ⅱ.感染症)
7. 子どもの病気と保育 子どもによくみられる疾患(Ⅲ.感染症以外の疾患)
8. 子どもの病気と保育 子どもによくみられる疾患(Ⅳ.感染症以外の疾患)
9. 子どもの病気と保育 障害のある子どもたち
10. 環境および衛生管理並びに安全管理 保育環境整備と保健
11. 環境および衛生管理並びに安全管理 保育現場における衛生管理
12. 健康および安全の実施体制保育現場における事故防止および安全対策並びに危機管理
13. 保育所と家庭の連携

14. 母と子どもの保健
15. まとめ

授業の方法

主に講義形式で進める

準備学修

日頃から子どもの発育・発達に関心を持つ。子どもに関する情報や感染症の流行などについて、新聞や報道など身近なこととして捉える。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

子どもの保健 ・子どもの保健 佐藤益子編著 ななみ書房 必要時プリント配布

参考図書

国民衛生の動向(財)厚生統計協会編 授業時に適時紹介する。

留意事項

受講条件として「子どもの保健1A」を履修した者

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護内容			17766		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	1				

授業の到達目標
 現代の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い家庭での養育・保護していく機能は脆弱化してきている。「家庭養護」だけでは子どもの養育が困難な状況となり、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要となってきた。地域社会をも含めた施設養護の本質と機能を理解し、施設養護の内容と実際、養護施設における援助技術について、実践的活動事例を通して施設養護観を深める。このクラスでは海星パーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

授業の概要
 児童福祉施設に入所・利用している子どもたちの背景には多様で複雑な状況がある。それらの子どもたちの心身の成長や発達を保障し援助するための具体的な知識・技能を習得する。また、里親制度についての現状と今後の展望についても理解する。さらに、社会福祉専門職として、これらの児童に対する社会的支援の必要性についても理解する。

授業計画

- 1.オリエンテーション
児童の社会的養護の理念と概念
- 2.施設における子どもの社会的養護
施設養護の特質と機能
- 3.施設における子どもの社会的養護
施設養護の流れ、入所前後・退所前後のケア
- 4.施設養護の職員
児童福祉施設援助者としての人間性と専門性
- 5.社会的養護の実際施設における生活リズムと日課
衣食住の基礎的ニーズの充足
- 6.社会的養護の実際
しつけ、学習指導、余暇生活
- 7.社会的養護の実際
学校教育や地域社会との連携、自立支援
- 8.社会的養護における支援の計画と内容
個別支援計画作成の留意点と作成事例
- 9.虐待問題と児童養護
増加する児童虐待の要因と課題

- 10.虐待問題と児童養護
家庭・施設の実態と児童虐待、児童虐待への対応
- 11.今後の課題と展望
施設の小規模化と地域とのかかわり、社会的養護の課題と展望
- 12.施設養護の実際
児童養護施設、知的障害児施設
- 13.障害児、その保護者への支援
事例からの考察
- 14.社会福祉専門職としての保育士の役割
- 15.まとめ

授業の方法
 VTR、DVDなどの事例を多く取り上げて、双方向の授業とする。積極的な参加を求めます。また、指定教科書はないが、ノートはしっかり取ること。

準備学修
 児童虐待、障害児などの社会問題に対して、関心を深めてく。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 理由のある公欠以外は、認めない。

テキスト
 特に指定しません。必要に応じて、プリントの配布する。

留意事項
 将来、児童養護等社会福祉施設関係での就職を希望する人は、ぜひ受講すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
相談援助			17770		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	1				

授業の到達目標
 授業を通して、ソーシャルワークの歴史、また個別援助技術（ケースワーク）、集団援助技術（グループワーク）、地域援助技術（コミュニティワーク）、ケアマネジメントを中心とした直接援助技術および間接援助技術の理論と実践方法を学び、アセスメント・計画策定実施・評価までの援助過程を展開できる基礎知識・技術を習得することを旨とする。このクラスでは海星パーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

授業の概要
 少子化や核家族化が進行するなど子ども・家族を取り巻く環境の変化を背景として、子育てにかかわるニーズは多様かつ複雑化している。このような社会的変化を背景に、保育士には、子どもへの保育に加えて、社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）を用いながら相談援助を展開していくソーシャルワーカーとしての役割が期待されている。

本科目は「保育相談支援」と相互関連科目であり、相談援助を展開する際に必要となる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法を身につけることを目的としている。

授業計画

- 1.社会福祉援助技術の体系と歴史
- 2.社会福祉援助技術の体系と歴史
- 3.社会福祉援助技術の体系と歴史
- 4.社会福祉援助技術の体系と歴史
- 5.人間関係と自己理解
- 6.人間関係と自己理解
- 7.人間関係と自己理解
- 8.人間関係と自己理解
- 9.社会福祉専門職の価値・倫理
- 10.社会福祉専門職の価値・倫理
- 11.社会福祉専門職の価値・倫理
- 12.社会福祉専門職の価値・倫理
- 13.事例研究
- 14.事例研究
- 15.まとめ

授業の方法
 VTR、DVD等で現状の社会福祉場面を理解し、専門職の役割とその意義について理解する。

準備学修
 子どもに関わる日常の社会的事例について、関心を深める。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 公欠以外は認めない。

テキスト
 保育士資格取得特例教科目テキストシリーズ『相談支援』『相談支援』編集委員会 編 株式会社みらい

留意事項
 対人援助技術は、これからの保育士には必要なものです。関心を深めよう。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育相談支援			17772		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	1				

授業の到達目標
 本科目では、子どもの最善の利益に焦点をあてながら保育相談支援の基本となる「価値と倫理」について理解した上で、事例検討を通して保育所等児童福祉施設における保育相談支援の実際について学んでいく。本科目を通して、子どもや保護者を取り巻く環境（社会的側面）へのアプローチも含めた多角的視野から根拠（evidence）に基づいた保育相談支援を展開していく能力の習得を目指す。このクラスでは海星パーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

授業の概要
 「相談援助」で取り上げる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法をふまえた上で、保育所等児童福祉施設における保育相談支援について理解し、多岐にわたる生活問題を抱えた児童や保護者に対して多角的・総合的な支援を展開できる力を身につけることを目的としている。
 また、社会福祉専門職である保育士として求められる相談支援場面で必要な知識と技術についても理解する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. コミュニケーション技法
3. コミュニケーション技法
4. コミュニケーション技法
5. 面接技法
6. 面接技法
7. 面接技法
8. 面接技法
9. コミュニティーワーク
10. コミュニティーワーク
11. コミュニティーワーク
12. 事例研究
13. 事例研究
14. 事例研究
15. まとめ

授業の方法
 VTR,DVD等で現状の保育相談支援場面について、理解を深めます。

また、双方向の授業ですから、積極的な参加を求める。

準備学修
 日常から子どもに関わることに関心を持つこと。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 公欠以外は認めない。

テキスト
 保育士資格取得特例教科目テキストシリーズ『相談支援』『相談支援』編集委員会 編 株式会社みらい

留意事項
 保育士に求められる対人援助技術の意義について、しっかり考える機会とすること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家庭支援論			17774		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標
 家族の機能、家庭の意義と役割、子育て家庭の現状とそれを取り巻く社会的・経済的状況を理解する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制を理解する。ニーズに応じた多様な支援の展開と関連機関との連携を考えることができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養うとともにK（思いやり）を考える。

授業の概要
 まず「現代家族関係論（2年次配当）」の復習も兼ねて、家族の機能、家庭の意義や役割について学ぶ。次に、少子高齢社会・男女共同参画社会における家族関係や家庭生活の変化、地域社会の変容、家族と家庭を取り巻く社会的・経済的状況について概観する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制や支援方法等について解説し、ニーズに応じた多様な支援や関連機関との連携を考える。

授業計画

1. 家庭の意義と役割
2. 家庭支援の必要性と保育士等が行う家庭支援の原理
3. 現代の家庭における人間関係
4. 地域社会の変容と家庭支援
5. 男女共同参画社会とワークライフバランス
6. 子育て家庭の支援体制
7. 子育て支援施策・次世代育成支援施策
8. 子育て支援サービスの概要
9. 保育所入所児童の家庭への支援
10. 地域の子育て家庭への支援
11. 要保護児童及びその家庭に対する支援
12. 子育て支援における関連機関との連携
13. 諸外国における子育て支援
14. 子育て支援サービスの課題
15. まとめ

授業の方法
 講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修
 家族や家庭生活についての基本的テキストを読む。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 欠席1回につき3点減点する。

テキスト
 小田豊ほか『家庭支援論』北大路書房

参考図書
 内閣府『少子化社会対策白書』
 授業中に必要に応じて指示する。

留意事項
 「現代家族関係論」を先に履修しておくことが望ましい。

教員連絡先
 yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳児保育			17777		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
渋谷 美智	選択	2				

授業の到達目標

乳児期（3歳未満児）の発育・発達と保育について学び、保育所や乳児院等における乳児保育の現状と課題についても理解する。なお健康やかな成長を支えるための生活と遊びなど乳児保育の理論や知識・技術の具体的な事例を通して実践力を身につける。このクラスではK A I S E IパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を考へる。

授業の概要

わが国における乳児保育の歴史の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を把握しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚する。また、乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題、いわゆる保育環境や長時間保育での乳児の生活の仕方など援助の実際を理解し、乳児の保育にあたる保育者としての専門的な能力を身につけられるようにする。

授業計画

1. 乳児保育とは 乳児保育はなぜ必要か
2. 乳児保育の理念と歴史の変遷
3. 乳児の保育と思春期への育ち
4. 愛されて育つということの意味
5. 胎児の世界と謎
6. 乳児期の発達と保育
7. 乳児期の発達と保育
8. 乳児の環境と人間関係
9. 乳児期の環境と保育
10. 乳児期の保育課程と指導計画
11. 保育の記録と評価の方法
12. 乳児期の成長の実際(DVD視聴)
13. 伸びやかさを育てる遊びと保育
14. さまざまな発達の考え方、乳幼児健診による早期発見と保育の役割
15. 地域における子育て支援、まとめ

授業の方法

講義と演習を中心とする。

準備学修

日常生活の中で目にする乳児の生活や遊び・保護者との関わりの様子を関心を持って見る。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

新時代の保育双書 乳児保育 (株)みらい 大橋貴美子編

参考図書

乳児保育の基本 責任編集 汐見稔幸・小西行郎・榊原洋一 フレーベル館
保育の内容・方法を知る 乳児保育〔新版〕 増田まゆみ編著 北大路書房

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害児保育			17782		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
近藤 龍彰	選択	2				

授業の到達目標

障害児を理解するためだけでなく、彼らを取り巻く人々にもそれぞれその障害を理解してもらうための保育論である。障害の歴史、障害の理解、障害児の支援方法、障害児のいるご家庭の支援方法など、様々な教育、支援ができる保育者育成を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を考へる。

授業の概要

障害児保育をキーワードに、障害とは何か、保育とは何か、子どもとは何か、といった原理的な問いについて考えていく授業である。また、その問いに対して自分なりの答えを見つけ、それを実践につなげていくための方法も考えていく。「こうすればこうなる」というハウツーだけでなく、その背景にある子ども観、障害観も含めて、さまざまな視点を学んでいく。

授業計画

1. 障害の歴史
2. 身体障害について
3. 発達障害について
4. 発達障害について
5. その他の障害について
6. 障がい児と感覚統合運動
7. 障害児と感覚統合運動 乱暴な子どもについて
8. 障害児と感覚統合運動 落ち着きのない子どもについて
9. 障害児と感覚統合運動 大人しい子どもについて
10. TEACCH プログラムについて
11. 発達相談とその対応 事例研究
12. 発達相談とその対応 事例研究
13. 発達相談とその対応 事例研究
14. 発達検査について
15. 障害児、障害者の理解と実践

授業の方法

講義を中心とするが、それぞれの回で小グループのディスカッションを行う予定である。知識を覚えるだけでなく、いろいろな人の意見を聞く機会を作っていく。

準備学修

当たり前を改めて考えてみる、が授業のテーマなので、普段それほど気にせず使っている言葉(たとえば「障害」「保育」)について、「それってなんだろう?」と考えてみる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

原則として欠席は認めない。また、3回の遅刻は、1回の欠席扱いとする。

テキスト

特になし。資料を授業中に配布する。

参考図書

授業中に紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（小学校）	教職小		17785		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	1				

授業の到達目標

小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育実習に際して必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例を通して、小学校教師の様々な仕事について学び、教育実習に備える。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、小学校教育実習を受ける前に
2. 実習校との事前打合せ、小学校の組織と日程
3. 実習中の心得
4. 実習中の心得
5. 児童や教職員との接し方
6. 実習記録の書き方
7. 実習記録の書き方
8. 模擬授業

授業の方法

書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学修

模擬授業の教科を指定するので、指導案を作成しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は10点減点し、遅刻は3点減点する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して、参加すること。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導A			17811		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
渋谷 美智	選択	2				

授業の到達目標

保育所実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお保育所実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、「保育実習」に向けての課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を考える。

授業の概要

保育実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお初めての保育所実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「保育所とは」を理解し、保育所の機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、「保育実習」の総括と自己評価を行い、「保育実習」に向けての新たな課題や学習目標を明確にし、より「保育実習」が効果的に行えるようにする。

授業計画

1. 保育所実習の意義・目的・概要について理解する
2. 保育所実習の「実習の方法」について理解する 「はじめての保育実習」のDVDを観る
3. 保育所実習のあり方を学び、実習の内容と課題を明確化する
4. 保育課程・指導計画・ティリープログラムについて再認識理解を深める
5. 実習における観察実習・部分実習の実習記録の書き方について理解する
6. 実習生個人票の作成およびオリエンテーションの受け方、事務手続きについて理解する
7. 保育内容実践（遊びの指導）
8. 実習に際しての留意事項（事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む）
9. 事後指導における実習の総括と自己評価・課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

乳幼児の発達の理解をしておく。手遊びなど数多く知るようにしたり、絵本の読み聞かせの練習をしたりする

課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

原則として欠席は認めない。

テキスト

必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく（絵本の読み聞かせ・製作・手あそび・歌など）

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導A			17811		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	選択	2				

授業の到達目標

保育実習の意義・目的を理解し自らの課題を明確化する。実習を円滑に進めていくための知識や技術を習得し、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習をより効果的に行う。このクラスでは、K W A S E I パーソナリティの S (奉仕) を考える。

授業の概要

児童福祉施設の機能や保育士の役割、子どもの生活と援助の仕方について理解する。実習学習を通して実習の意義・目的・内容・方法・心構え・実習記録の書き方について学ぶ。また事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業計画

1. 実習の意義・目的の理解
2. 実習の方法の理解
3. 実習の心構え
4. 実習施設の理解(1)
5. 実習施設の理解(2)
6. 実習における観察・記録・評価のしかたの理解
7. 実習に関する諸手続
8. 事後指導における実習の総括と今後の課題の明確化

授業の方法

ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

各自が実習施設について事前調査をし、施設の特徴や内容などわかる範囲で把握しておく。

課題・評価方法

授業出席・事前指導レポート・諸手続き・事後指導レポート・実習報告書提出等、保育実習 1・2・3 の総合評価とする。定期試験は実施しない。

欠席について

原則として欠席は認めない。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導B			17820		春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
渋谷 美智	選択	1				

授業の到達目標

保育実習 A を通じて得た自己課題をもとに、保育技術面での向上を旨として学習し、十分とは言えないが実践能力を養い保育実習に取りくむことができたのも考える。K A I S E I パーソナリティの K (思いやり) と S (奉仕) を考え、A (自律) を養う

授業の概要

保育実習 A で修得した知識をもとに、保育実習 B では現場での保育実践を念頭に置き、指導案や保育実践に取りくめるように、必要な知識や技術を学ぶ。

授業計画

1. 保育実習 A について自己評価・報告と課題の明確化 保育実習の意義・目的を理解する
2. 保育実習に向けての遊びの指導
3. 保育実習に向けての遊びの指導
4. 保育実習に関する事務手続き、書類等の配布と指導 検便日程
5. 実習指導案の作成 実習指導案に基づいた保育内容の確認
6. 保育実践に向けての教材づくり
7. 実習個人票の作成・オリエンテーション日程について
8. 保育実習
9. 保育実習
10. 事後指導における実習の総括(報告書作成)と自己評価
11. 今後に向けて 就職に向けての課題等

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

各自が実習保育所について特徴や保育のとりくみ、立地条件など事前に情報の把握をしておく。乳幼児の発達を理解し、手遊びや遊び、絵本など数多く知っておく

課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

原則として欠席は認めない。

テキスト

必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく(絵本の読み聞かせ・製作・手あそび・歌など)

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

現代人間学部 英語観光学科・英語キャリア学科
教職に関する科目

教職科目	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論 (中等)	教職中等	14101		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
森 晴美	選択	2			

授業の到達目標

教育の専門家として必要な基礎的知識を身につけると共に、教職に就いてさまざまな問題に直面したとき、適切に判断し、行動することが出来るような資質を養成することを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

教育の意義と教師の役割や職務内容などについて学び、自らの進路に教職を選択することの可否を適切に判断することに資する各種の機会を提供する。
教職に対する理解を深めていくと共に、豊かな人間性・実践的な専門性・開かれた社会性等、良き教師への意欲を高め使命感を持つことについても考える。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.教育とは何か……人間形成と教師の役割
- 3.教職の意義
- 4.教職の歴史
- 5.初等中等教育と教員
- 6.教師に求められる資質と能力
- 7.教員の身分及び服務義務
- 8.教員の職務について(1)
- 9.教員の職務について(2)
- 10.教育課程とは
- 11.障害を受けている子どもの教育と課題
- 12.開かれた学校づくり・地域社会との連携
- 13.子どもと保護者、教育の現状と課題
- 14.優れた教師・魅力的な教師を目指して
- 15.まとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学修

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点

テキスト

長尾和英編『教職と人間形成』八千代出版

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

教職科目	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理 (中等)	教職中等	14115		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
丸岡 幸一	選択	2			

授業の到達目標

- 1 教育の意義、目的及び児童福祉との関わりについて理解する。
 - 2 教育の思想と歴史的変遷について学ぶ。
 - 3 教育の制度について学ぶ。
 - 4 教育実践の取組みについて理解する。
 - 5 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

教育の意義や目的、児童福祉との関連性および歴史について学ぶとともに、教育の制度と実践原理および指導原理について理解する。生涯学習社会における教育のあり方について考え、現代の教育問題についても検討する。

授業計画

1. 教育の意義と作用
2. 教育の本質と教育目的
3. 教育思想の歴史的展開
4. 社会・文化と教育
5. 家庭教育の特質と機能
6. 学校教育の特質と組織
7. 社会教育と生涯教育
8. 福祉社会の形成とその担い手
9. 教育制度
10. 教育法規
11. 教育内容
12. 教育課程
13. 教育実践の基礎理論
14. 生涯学習社会と教育
15. 講義全体のまとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学修

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

戸江茂博編『教育原理』あいり出版

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

教職科目	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論 (中等)	教職中等	14143		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
堀 正人	選択	2			

<p>授業の到達目標</p> <p>教育方法の研究、教育課程、生徒理解、指導方法、教育評価について理解し、授業の設計技術を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を学び、計画力、想像力を養います。さらに模擬授業でディスカッションや発表をすることによって、A(発信力)、K(傾聴力)を醸成させます。</p> <p>授業の概要</p> <p>学校教育の理念に基づいて、教育課程の理論、学習指導要領の仕組み、授業実践方法や知識及びその技術を学びます。また、実際の学校での教育課程実践例を参考に考察をします。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法学の歴史 2. カリキュラム論 3. 学習指導要領について 4. 教育課程と教科外の授業(道徳・総合的な学習の時間、特別活動)の役割。 5. 教科書と学校教育の関係 6. 授業の構造について 7. 学校における集団学習の方法(組織、年間計画、指導体制) 8. 教育技術論 9. 情報教育の内容と構成について 10. 授業の方法と実践 11. 学力と教育評価について 12. 特別支援教育について 13. 模擬授業による実践と考察 1(道徳) 14. 模擬授業による実践と考察 2(特別活動・総合的な学習の時間) 15. まとめ <p>授業の方法</p> <p>毎回レジメを配布し、講義を行います。授業中にロールプレイ等を実施し、レポートを作成してもらいます。</p> <p>準備学修</p> <p>中学校学習指導要領解説(総則)を読んでおくこと。</p>

<p>課題・評価方法</p> <p>平常点70%、定期試験30%</p> <p>欠席について</p> <p>やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること。</p> <p>参考図書</p> <p>授業中に、その都度紹介します。</p> <p>留意事項</p> <p>授業中に配布した資料をもとに、毎回レポートを作成します。</p>

教職科目	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職中等	14147		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
浅井 由美	選択	1			

<p>授業の到達目標</p> <p>「介護等体験」の意義を理解する。社会福祉施設や特別支援学校について、基本的な知識を身につける。「介護等体験」でかかわる人々の状況を理解する。「介護等体験」にあたっての心構えや留意点を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)A(自律)S(奉仕)E(倫理)を考える。</p> <p>授業の概要</p> <p>いわゆる「介護等体験特例法」は、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる」としている。授業では、この法律の趣旨を理解できるように指導する。社会福祉施設(5日間)と特別支援学校(2日間)において「介護等体験」を円滑に行い十分な成果を得るため、基本的な知識と技能を身につけられるようにする。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「介護等体験」の意義 2. 社会福祉施設 1 3. 社会福祉施設 2 4. 介護の心構えと実際 5. 高齢者の心と身体 6. 特別支援学校 7. 障がいのある子どもとのかかわり方と「介護等体験」 8. 「介護等体験」にあたっての心構え <p>授業の方法</p> <p>講義とDVD視聴に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。</p> <p>準備学修</p> <p>準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。</p>

<p>課題・評価方法</p> <p>平常点50%、定期試験50%</p> <p>欠席について</p> <p>欠席1回につき3点減点する。</p> <p>参考図書</p> <p>増田雅暢ほか『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会 全国特別支援学校長会『フィリア』ジアース教育新社</p> <p>留意事項</p> <p>この授業は7.5回行う。</p> <p>教員連絡先</p> <p>yumi@kaisei.ac.jp</p> <p>オフィスアワー</p> <p>直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。</p>

教職科目	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論 (中等)	教職中等	14185		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
清水 篤	選択	2			

授業の到達目標

1. 特別活動の内容と方法について理解する。
2. 学校及び学級集団における自主的・主体的活動の形成とそれを通してのルールづくり等について学ぶ。
3. 集団を通して、個性の尊重、他者との協力・協同の力について理解する。
4. 「社会に参画する力を育てる特別活動」の意義を理解する。
5. このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)を養う。

授業の概要

「特別活動とは何か」について、中学校・高等学校におけるその歴史、目的、内容、活動領域を理論的・実践的に考察する。教育課程における特別活動の理念と実際を把握するとともに、その目標や内容を明らかにし、理解を深める。また、教育計画全体における特別活動の位置づけについて知り、学級活動・生徒会活動・学校行事等について実際的な学習を進めていく。さらに、特別活動の考え方や、実際の取り組みを学ぶことを通して、中学校・高等学校で特別活動に取り組む際に求められる力量(実践力・指導力)を習得する。

授業計画

1. オリエンテーション: 学校の教育活動における特別活動・特別活動の歴史の変遷
2. 学校教育と特別活動: 教育課程の構造と特別活動の役割
3. 特別活動の内容と実践: 特別活動の目標・方法原理と意義
4. 特別活動の内容と実践: 各活動 学級 ホームルーム 活動の目標と内容
5. 特別活動の内容と実践: 各活動 生徒会活動と特別活動
6. 特別活動の内容と実践: 各活動 学校行事と特別活動
7. 特別活動の内容と実践: 各活動 部活動の目標と内容
8. 特別活動の今日的課題: 特別活動の特質と課題
9. 特別活動の今日的課題: 「総合的な学習の時間」と特別活動
10. 特別活動の今日的課題: 教科指導と特別活動
11. 特別活動と生徒指導の実際(学級崩壊・いじめ・不登校)
12. 特別活動の指導計画の作成と模擬授業(学級 ホームルーム 指導)

13. 特別活動の指導計画の作成と模擬授業(部活動)
14. 特別活動における学校安全と危機管理
15. 特別活動の充実と発展(全体的な指導体制の確立と学級・学年経営)

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学修

・『中学校学習指導要領解説 特別活動編』を熟読する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う。

テキスト

授業の中で、適宜紹介する。

参考図書

- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』ぎょうせい
- ・『新しい特別活動指導論』高旗正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房

教職科目	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程論 (中等)	教職中等	14189		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
堀 正人	選択	2			

授業の到達目標

中・高等学校の教育課程が学習指導要領で規定されていることを学びます。この教育課程の原理を知り、カリキュラム編成の基礎を習得します。このクラスではKAISEIパーソナリティI(知性)を養い、プレゼン等の過程でA(発信力)、K(傾聴力)の諸能力を生かします。

授業の概要

教育課程の原理を学び、公的な性格を有する学習指導要領を分析します。さらに教育課程の歴史的な変遷や諸外国との制度の比較から、現在の教育課程の意図を考察します。仕上げは模擬的に教育課程の編成を試みます。また、実際の学校で行われている教育課程の実践例を考察し、レポートを作成します。

授業計画

1. はじめに、教育課程とは
2. 教育課程に関する法律について
3. 教育課程の歴史
4. 教育課程の歴史
5. 各学校における教育課程(幼稚園、小学校)
6. 各学校における教育課程(中学校)
7. 各学校における教育課程(高等学校、特別支援学校)
8. 総合的な学習の時間と教育課程について
9. 教育課程の編成と評価
10. 学校種間の連携・部活動と教育課程
11. 学校と社会、地域との連携
12. 今日的な課題と教育課程
13. 諸外国の教育課程(欧米)
14. 諸外国の教育課程(中国、韓国)
15. 教育課程編成実践の模擬演習・まとめ

授業の方法

講義を中心とし、教育課程実践事例を考察し発表やレポートの作成をします。

準備学修

中学校学習指導要領(総則)を一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席回数で減点します。

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領(総則編)」ぎょうせい

留意事項

レポート作成、発表、ロールプレイ等を授業中にしてもらいます。

教職科目	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論 (中等)	教職中等	14199		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
大岸 啓子	選択	2			

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責についての理解を深める。

授業計画

1. 受講の心構え・授業規律・授業内容等についてのガイダンス、学校の種類と公教育
2. 教育制度の歴史と発展
3. 教育制度の歴史と発展
4. 子どもの権利と人権
5. 教育制度を学ぶ意義
6. 教育制度を学ぶ意義
7. 教育法
8. 教育法
9. 教育の目的と目標
10. 義務教育の制度
11. 教育の機会均等
12. 教職員の制度
13. 教育行政の制度
14. 社会教育の制度
15. まとめ

授業の方法

考えを書く活動とグループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

授業で考察する事例、法令などを事前に伝えるので、それについて

調べ、レポートを提出する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

川口洋誉・中山弘之『未来を創る 教育制度論』北樹出版

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

教職科目	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職実践演習 (中・高)	EC	14214		秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石原 敬子 / 小野 礼子	選択	2			

授業の到達目標

中学校又は高等学校の教師を目指す学生が、教職課程科目で学修した教科指導や生徒指導等の内容について実践することを通して、それらの知識及び技能を修得したことを確認する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)、I(知性)、及びE(倫理)を養う。

授業の概要

中学校及び高等学校の教師として必要な知識や技能である(1)使命感・責任感・資質に関する知識、(2)社会性や対人関係能力、(3)教科の指導力について十分に修得できているかどうかをグループ討論、ロールプレイング、模擬授業で確認していく。また、実際の現場を見学することで、修得した知識・技能がどのように活用されているかをまとめる。

授業計画

1. イントロダクション これまでの学習と振り返りについて(1)～講義
2. 教師としての使命感や責任感・資質について(1)～講義
3. 教師としての使命感や責任感・資質について(2)～グループ討論
4. 教師としての社会性や対人関係能力について(1)～講義とグループ討論
5. 教師としての社会性や対人関係能力について(2)～ロールプレイング
6. 生徒の理解や学級経営について(1)～討論
7. 生徒の理解や学級経営について(2)～グループ討論
8. 学級経営案の作成とグループ討論
9. 学校現場の見学(1)～見学・調査
10. 学校現場の見学(2)～教職経験者の講話とグループ討論
11. 教科の指導力について(1)～講義
12. 教科の指導力について(2)～グループ討論
13. 教科の指導力について(3)～模擬授業とその振り返り
14. 資質能力の確認まとめ(1)～小論文とアンケート
15. 資質能力の確認まとめ(2)～講評

授業の方法

講義の後、グループ討論を行う。ロールプレイング、模擬授業も行

う。

準備学修

今回のテーマに関するハンドアウトをあらかじめ配布するので、それを読み、その中に示されている課題を仕上げてくること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

適宜、ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

常に熱意をもって授業に参加・貢献する態度が必要である。

教職科目	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論 教職中等	教職中等	14217		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
堀 正人	選択	2			

授業の到達目標

生徒指導の理論と方法、教育相談、進路指導について学びます。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)でコミュニケーション能力を養い、事例研究の実践でK(傾聴力)とI(知性)状況把握力を目指します。

授業の概要

教科書(文部科学省「生徒指導提要」)を参考資料として授業を進める。生徒指導の方法や生徒理解について考察し、実際の取り組み方を学んでいく。さらに、教育相談の手法を学び、進路指導、キャリア教育も生徒指導の視点から考察する。

授業計画

1. 生徒指導の意義と原理(集団指導、個別指導の方法原理)
2. 学校運営と生徒指導
3. 教育課程と生徒指導1(教科、道徳教育)
4. 教育課程と生徒指導2(総合的な学習の時間、特別活動)
5. キャリア教育(進路指導)と生徒指導
6. 生徒の心理と生徒理解
7. 学校における生徒指導体制(組織、年間計画、指導体制)
8. 教育相談の進め方(カウンセラー、専門機関)
9. 生徒指導の進め方(支援体制、関係機関との連携)
10. 生徒指導における教職員の役割
11. 進路指導における生徒指導
12. 課題別生徒指導
13. 生徒指導に関する法制度
14. 事例研究1
15. 事例研究2、まとめ

授業の方法

レジュメに従って授業を行う。また、配布した生徒指導資料をもとに事例研究を行い考察をする。

準備学修

生徒指導提要(文部科学省編)、13歳のハローワーク(村上龍著)を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後の講義終了時に届け出ることを。

テキスト

文部科学省 編「生徒指導提要」教育図書

参考図書

村上龍 著「13歳のハローワーク」幻冬社

留意事項

授業中に配布した資料を基に考察し、レポートを作成します。

教職科目	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む) (中等)	教職中等	14221		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

本授業では、現在、学校現場で生じている生徒や保護者が抱える問題に対する知識を身につけ、教育相談の在り方や進め方についての理解や考えを深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)およびS(奉仕)を目指す。

授業の概要

生徒をとりまく社会や家庭は急激に変化し、学校での教師による教育相談は、学習指導とともに、教師の重要な活動となっている。しかし、教育相談は教師が行うという点で、カウンセラーが行うカウンセリングの技法とは異なるカウンセリングマインドが必要となる。本授業では、現在、学校現場で生じているさまざまな問題に焦点をあて、それらの問題にかかわる生徒や保護者への理解と対応を深め、さらに、全体を通してカウンセリングの技法を学びながら、それらを教師としてどのように活用して教育相談を行うべきか、教師が行う教育相談の在り方や進め方についてより実践的な視点をもとに学習する。

授業計画

1. 教師のカウンセリングマインド(1)
2. 教師のカウンセリングマインド(2)
3. 保護者・子どもとの面談の基本(1)
4. 保護者・子どもとの面談の基本(2)
5. 生徒を指導する際の技術(1)
6. 生徒を指導する際の技術(2)
7. 教育相談の技法(1)
8. 教育相談の技法(2)
9. 子どもの発達段階に応じたつながり方(1)
10. 子どもの発達段階に応じたつながり方(2)
11. 発達障害のある子の理解とつながり方(1)
12. 発達障害のある子の理解とつながり方(2)
13. 子育てのサポートネットワーク(1)
14. 子育てのサポートネットワーク(2)
15. 困った親の理解とつながり方

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学修

2年次までに「教育心理学」を履修しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『教師のための教育相談の技術』吉田 圭吾著、金子書房

参考図書

授業開始後、冊子を配布する(有料)。

留意事項

小テストの評点は、は+2点、は+1点、は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

教職科目	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究	教職中	14229		春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
小野 礼子	選択	1			

授業の到達目標

教育実習の事前及び事後の指導を通して、教育の社会的役割を認識し、教職への積極的な態度を養う。教育実習は、教職課程のいわば総仕上げとしての重要な意味をもつものである。大学で学んだ教育理論を教える立場に立つことによって、より深いものとして身につけ、学校という教育現場において、教育実践を通して学校教育についての理解を深め、教職への自らの決意と適性を確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)、I(知性)、及びE(倫理)を養う。

授業の概要

教育実習の実施計画に基づき、本学と提携した実習校において実習を行うための事前及び事後指導を行う。また、実習校における実習期間中に、本学の指導教員が実習校を巡回し、研究授業等の指導にあたる。

授業計画

1. 教育実習の目的、教育実習の心構え、実習前の準備
2. 教育実習の展開
3. 教育実習の内容(1)
4. 教育実習の内容(2)
5. 教育実習の実際(1)
6. 教育実習の実際(2)
7. 授業の評価と実習のまとめ
8. 教育実習事後指導

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

- ・テキストについて、前時に指示された箇所を読んでおくこと。
- ・毎回、指示されたテーマについて各自が発表を行うので、その準備をしておくこと。
- ・中学校・高等学校の学習指導要領をもう一度よく読むこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の15%とし、欠席は1回につき、20点減点する。遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『(新版)英語科教育実習ハンドブック』(大修館)
 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』(開隆堂)
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』(開隆堂)
 必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、レポート、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

索引

- ・シラバス索引 (科目コード順) P. 309
- ・シラバス索引 (五十音順) P. 316

H27年度 シラバス索引（科目コード順）

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
共通科目				
キリスト教入門	11101	尾崎 秀夫		129
聖書概論	11105	石丸 脩子		129
キリスト教海外研修	11109	尾崎 秀夫		130
聖書と現代	11113	石丸 脩子		130
キリスト教と文化	11117	尾崎 秀夫		131
基礎演習Ⅰ	11201	各学科教員		131
基礎演習Ⅱ	11205	各学科教員		132
海星学Ⅰ	11206	各学科教員		133
海星学Ⅱ	11207	各学科教員		133
人間学Ⅰ	11209	尾崎 秀夫		134
人間学Ⅱ	11213	岡村 祥子		134
キャリアデザイン入門	11301	箕野 聡子		135
キャリアデザイン入門	11301	箕野 聡子		135
文学入門	11309	箕野 聡子		136
情報活用の基礎知識	11313	埴岡 忠清		136
心理学概論	11317	中植 満美子		137
統計学入門	11321	埴岡 忠清		137
ジェンダー論	11325	浅井 由美		138
日本国憲法	11329	浅野 宜之		138
健康科学	11333	柳本 有二		139
健康スポーツⅠ	11337	柳本 有二／後藤 磨也子		139
日本文化史	11353	箕野 聡子		140
簿記会計学	11357	埴岡 忠清		140
現代家族関係論	11365	浅井 由美		141
社会福祉論	11369	加藤 雅典		141
人権教育論	11373	丸岡 幸一		142
社会科学概論	11377	尾崎 秀夫		142
家政学概論	11381	浅井 由美		143
日本語表現法	11401	箕野 聡子		143
日本語表現法	11401	大岸 啓子		144
日本語文章構成法	11405	箕野 聡子		144
情報リテラシーⅠ	11501	米田 里香		145
情報リテラシーⅡ	11505	米田 里香		145
オフィス情報処理Ⅰ	11509	米田 里香		146
オフィス情報処理Ⅱ	11513	米田 里香		146
英語Ⅰ	11601	福智 佳代子		147
英語Ⅰ	11601	釜須 久夫		147
英語Ⅱ	11605	千葉 奈乙江／米田 繭子		148
英語Ⅲ	11609	西山 裕子		148
英語Ⅲ	11609	入江 和子		149
英語Ⅳ	11613	米田 繭子／千葉 奈乙江		149
英語Ⅴ	11617	Kevin MUNSON		150
英語Ⅴ	11617	Maidhc Ó CATHAIL		150
英語Ⅴ	11617	Tina D. MATHERS		151
英語Ⅵ	11621	惣谷 美智子		151
英語Ⅵ	11621	Tina D. MATHERS		152
英語Ⅵ	11621	Kevin MUNSON		152

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
英語 7	1 1 6 2 5	Maidhc Ó CATHAIL		153
英語 7	1 1 6 2 5	Tina D. MATHERS/ Kevin MUNSON		153
英語 8	1 1 6 2 9	惣谷 美智子		154
英語 8	1 1 6 2 9	Tina D. MATHERS		154
英語 8	1 1 6 2 9	Kevin MUNSON		155
フランス語 1	1 1 6 3 3	平田 淳子		156
フランス語 2	1 1 6 3 7	平田 淳子		157
フランス語 3	1 1 6 4 1	平田 淳子		158
フランス語 4	1 1 6 4 5	平田 淳子		158
フランス語 5	1 1 6 4 9	平田 淳子		159
フランス語 6	1 1 6 5 3	平田 淳子		159
フランス語 7	1 1 6 5 7	平田 淳子		160
フランス語 8	1 1 6 6 1	平田 淳子		160
中国語 1	1 1 6 6 5	坂口 文馨		161
中国語 1	1 1 6 6 5	坂口 文馨		161
中国語 2	1 1 6 6 9	沈 竑		162
中国語 3	1 1 6 7 3	坂口 文馨		162
中国語 4	1 1 6 7 7	沈 竑		163
中国語 5	1 1 6 8 1	坂口 文馨		163
中国語 6	1 1 6 8 5	沈 竑		164
中国語 7	1 1 6 8 9	坂口 文馨		164
中国語 8	1 1 6 9 3	沈 竑		165
専門科目 (英語観光学科・英語キャリア学科)				
演習 I	1 3 1 0 1	小野 礼子		169
演習 I	1 3 1 0 1	石原 敬子		169
演習 I	1 3 1 0 1	有村 理		170
演習 I	1 3 1 0 1	一尾 敏正		170
演習 II	1 3 1 0 5	小野 礼子		171
演習 II	1 3 1 0 5	石原 敬子		171
演習 II	1 3 1 0 5	有村 理		172
演習 II	1 3 1 0 5	一尾 敏正		172
演習 III	1 3 1 0 9	石原 敬子		173
演習 III	1 3 1 0 9	小野 礼子		173
演習 III	1 3 1 0 9	有村 理		174
演習 III	1 3 1 0 9	一尾 敏正		174
演習 IV	1 3 1 1 3	石原 敬子		175
演習 IV	1 3 1 1 3	小野 礼子		175
演習 IV	1 3 1 1 3	有村 理		176
演習 IV	1 3 1 1 3	一尾 敏正		176
Oral Communication I	1 3 2 0 1	Tina D. MATHERS		177
Oral Communication I	1 3 2 0 1	Kevin MUNSON		177
Oral Communication I	1 3 2 0 1	Tina D. MATHERS		178
Oral Communication II	1 3 2 0 5	Kevin MUNSON		178
Oral Communication II	1 3 2 0 5	Tina D. MATHERS		179
Oral Communication II	1 3 2 0 5	Tina D. MATHERS		179
Reading/Grammar I	1 3 2 1 1	小野 礼子		180
Reading/Grammar I	1 3 2 1 1	入江 和子		180
Reading/Grammar I	1 3 2 1 1	入江 和子		181
Reading/Grammar II	1 3 2 1 5	小野 礼子		181

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
Reading/Grammar II	1 3 2 1 5	入江 和子		182
Reading/Grammar II	1 3 2 1 5	入江 和子		182
Writing I	1 3 2 1 7	Maidhc Ó CATHAIL/Kevin MUNSON/和泉 有香		183
Writing II	1 3 2 2 1	Kevin MUNSON/Maidhc Ó CATHAIL/和泉 有香		183
Pronunciation I	1 3 2 3 3	石原 敬子		184
Pronunciation I	1 3 2 3 3	和泉 有香		184
Pronunciation II	1 3 2 3 7	和泉 有香		185
Pronunciation II	1 3 2 3 7	石原 敬子		185
Oral Communication III	1 3 2 4 1	Kevin MUNSON		186
Oral Communication III	1 3 2 4 1	Maidhc Ó CATHAIL		186
Oral Communication III	1 3 2 4 1	Tina D. MATHERS		187
Oral Communication IV	1 3 2 4 5	Maidhc Ó CATHAIL		187
Oral Communication IV	1 3 2 4 5	Tina D. MATHERS/Kevin MUNSON		188
Reading/Writing III	1 3 2 5 0	惣谷 美智子		188
Reading/Writing III	1 3 2 5 0	Tina D. MATHERS		189
Reading/Writing III	1 3 2 5 0	Kevin MUNSON		189
Reading/Writing IV	1 3 2 5 4	惣谷 美智子		190
Reading/Writing IV	1 3 2 5 4	Tina D. MATHERS		190
Reading/Writing IV	1 3 2 5 4	Kevin MUNSON		191
Grammar III	1 3 2 6 5	Kevin MUNSON/米田 繭子		191
Pronunciation III	1 3 2 6 9	石原 敬子		192
ホスピタリティ精神論	1 3 2 7 2	石丸 脩子		192
日本文化論	1 3 2 7 3	箕野 聡子		193
翻訳・通訳論入門	1 3 3 0 1	西山 裕子		193
English for Academic Purposes 1	1 3 3 0 3	惣谷 美智子		194
English for Academic Purposes 2	1 3 3 0 4	Kevin MUNSON		194
Small Group Communication	1 3 3 0 5	Kevin MUNSON		195
Advanced Oral Communication 1	1 3 3 0 9	Kevin MUNSON		195
Advanced Oral Communication 1	1 3 3 0 9	Tina D. MATHERS		196
Advanced Oral Communication 2	1 3 3 1 3	Kevin MUNSON		196
Advanced Oral Communication 2	1 3 3 1 3	Tina D. MATHERS		197
Academic Reading/Writing 1	1 3 3 1 8	Kevin MUNSON		197
Academic Reading/Writing 1	1 3 3 1 8	Maidhc Ó CATHAIL		198
Academic Reading/Writing 2	1 3 3 2 2	Maidhc Ó CATHAIL		198
Academic Reading/Writing 2	1 3 3 2 2	Kevin MUNSON		199
Public Speaking and Oral Interpretation	1 3 3 3 3	Tina D. MATHERS		199
Academic Reading/Writing 3	1 3 3 3 8	Kevin MUNSON		200
Academic Reading/Writing 3	1 3 3 3 8	米田 繭子		200
Debating and Persuasion	1 3 3 4 5	Tina D. MATHERS		201
Debating and Persuasion	1 3 3 4 5	Kevin MUNSON		201
ことばと社会	1 3 4 0 5	小野 礼子		202
異文化理解	1 3 4 0 9	有村 理		202
英米文学入門	1 3 4 1 3	入江 和子		203
ことばの意味・文化	1 3 4 1 7	服部 幸正		203
Japanese Culture	1 3 4 2 5	Tina D. MATHERS		204
観光概論	1 3 4 2 6	北川 宗忠		204
国際観光交流論	1 3 4 2 7	青木 幹生		205
手話コミュニケーション I	1 3 4 2 8	若生 茂嗣/岩橋 博子		205
手話コミュニケーション II	1 3 4 2 9	若生 茂嗣/岩橋 博子		206
環境ツーリズム論	1 3 4 3 0	有村 理		206

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
観光事業総論	13431	一尾 敏正		207
観光と世界遺産	13432	有村 理		207
観光文化地理論	13433	釜須 久夫		208
観光ビジネス実務論	13434	有村 理/一尾 敏正		208
韓国語入門Ⅰ	13435	宋 京珠		209
韓国語入門Ⅱ	13436	宋 京珠		209
企業研究	13440	一尾 敏正/有村 理		210
海外ツーリズム研修	13445	有村 理/一尾 敏正		211
児童文学	13501	福智 佳代子/箕野 聡子		212
Cross-cultural Communication	13505	Kevin MUNSON		213
English/American Culture	13513	Kevin MUNSON		213
英米文学研究	13521	惣谷 美智子		214
女性と社会	13525	浅井 由美		214
American Studies in U. S. A.	13529			215
Australian Studies in Australia	13537			215
Canadian Studies in Canada	13539			216
Business English I	13605	青木 幹生		216
Business English II	13609	青木 幹生		217
ビジネス翻訳	13621	樫本 雄三		217
国際マネジメントと英語	13625	青木 幹生		218
インターンシップⅠ	13631	有村 理/一尾 敏正		218
児童英語教育概論	13701	福智 佳代子		219
英語科教育法Ⅰ	13705	惣谷 美智子		219
英語科教育法Ⅱ	13709	惣谷 美智子		220
英語学概論	13713	服部 幸正		220
英語音声学	13717	石原 敬子		221
キッズ・イングリッシュⅠ	13725	福智 佳代子		221
キッズ・イングリッシュⅡ	13729	福智 佳代子		222
キッズ・イングリッシュⅢ (実習)	13733	福智 佳代子		222
英語科教育法Ⅲ	13737	小野 礼子		223
英語科教育法Ⅳ	13741	小野 礼子		224
外国語教授法	13745	福智 佳代子		224
TOEIC/TOEFL入門 1	13806	和泉 有香		225
TOEIC/TOEFL入門 1	13806	千葉 奈乙江		225
TOEIC/TOEFL入門 2	13807	和泉 有香		226
TOEIC/TOEFL入門 2	13807	千葉 奈乙江		226
教職概論 (初等)	13809	森 晴美		227
教育心理学	13813	澤田 瑞也		227
TOEIC 1	13817	和泉 有香		228
TOEIC 1	13817	和泉 有香		228
TOEIC 2	13821	和泉 有香		229
TOEIC 2	13821	和泉 有香		229
TOEFL	13825	入江 和子		230
道徳教育指導論 (中等)	13829	丸岡 幸一		230
比較文化論	13830	福智 佳代子		231
ホスピタリティ・マネジメント	13831	一尾 敏正		231
ビジネス中国語	13832	王 嬌		232
観光マーケティング論	13833	一尾 敏正		232
宿泊事業論	13835	一尾 敏正		233
航空ツーリズム論	13836	有村 理		233

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
観光フランス語	13837	平田 淳子		234
観光文化地理論	13838	釜須 久夫		234
観光英検3級	13845	西山 裕子		235
観光英検2級	13846	入江 和子		235
専門科目（心理こども学科）				
演習Ⅰ	17101	大岸 啓子		239
演習Ⅰ	17101			239
演習Ⅰ	17101	佐原 信江		240
演習Ⅰ	17101	中植 満美子		240
演習Ⅰ	17101	森 晴美		241
演習Ⅱ	17105	大岸 啓子		241
演習Ⅱ	17105			242
演習Ⅱ	17105	佐原 信江		242
演習Ⅱ	17105	中植 満美子		243
演習Ⅱ	17105	森 晴美		243
演習Ⅲ	17109	大岸 啓子		244
演習Ⅲ	17109	作 美代子		244
演習Ⅲ	17109	中植 満美子		245
演習Ⅳ	17113	大岸 啓子		245
演習Ⅳ	17113	作 美代子		246
演習Ⅳ	17113	中植 満美子		246
発達心理学	17201	中植 満美子		247
保育内容総論	17205	佐原 信江		247
性格心理学	17309	黒羽 カテリーナ		248
感情心理学	17317	澤田 瑞也		248
人格発達心理学	17321	中植 満美子		249
臨床心理学	17325	津田 明子		249
認知心理学	17329	中植 満美子		250
心理統計学	17337	須崎 暁世		250
心理学基礎実験	17341	澤田 瑞也		251
心理調査・データ処理法	17345	須崎 暁世		251
人格発達障害論	17361	中植 満美子		252
臨床心理学実習1（心理テスト法）	17373	中植 満美子		252
臨床心理学実習2（カウンセリング法）	17377	津田 明子		253
心理学文献講読1	17385	澤田 瑞也		253
教育心理学	17409	澤田 瑞也		254
初等音楽1	17417	南 夏世／由井 敦子		254
初等音楽2	17421	南 夏世／由井 敦子		255
児童文学	17437	福智 佳代子／箕野 聡子		256
学習・発達論	17441	中植 満美子		257
乳幼児心理学	17445	黒羽 カテリーナ		257
ことばの発達・学習	17461	近藤 龍彰		258
キッズ・イングリッシュⅠ	17465	福智 佳代子		258
キッズ・イングリッシュⅡ	17469	福智 佳代子		259
初等音楽3	17473	南 夏世		259
初等音楽4	17477	南 夏世		260
教育相談(カウンセリングを含む)（初等）	17497	澤田 瑞也		260
子育て支援と地域社会	17501	渋谷 美智		261
ボランティア論	17505	加藤 雅典		261

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
図画工作	17509	森 晴美		262
初等体育	17513	木岡 正雄		262
初等体育	17513	木岡 正雄		263
教育原理	17521	丸岡 幸一		263
児童家庭福祉	17526	中植 満美子		264
情緒・学習障害の心理	17537	澤田 瑞也		264
保育内容の研究・表現（造形表現）	17601	森 晴美		265
保育原理Ⅰ	17605	伊藤 美和子		265
教職概論（幼小）	17613	森 晴美		266
幼児教育学原理	17617			266
幼児教育課程の研究	17621	佐原 信江		267
教育課程論（教職小）	17625	都賀 純		267
保育内容の研究・人間関係	17629	澤田 瑞也		268
保育内容の研究・言葉	17633	森 晴美		268
社会的養護	17638	佐々木 勝一		269
子どもの保健ⅠA	17642	小林 千代		269
子どもの保健Ⅱ	17646	小林 千代		270
子どもの食と栄養	17650	河田 貴子		270
保育内容の研究・表現（身体表現）	17653	石田 伸子		271
教育方法論（幼小）	17657	清水 篤		271
初等国語科指導法	17661	大岸 啓子		272
初等社会科指導法	17665	清水 篤		272
初等算数科指導法	17669	都賀 純		273
初等理科指導法	17673	柳澤 利彦		273
初等生活科指導法	17677	東内 則子		274
特別活動論（小）	17681	都賀 純		274
保育・教職実践演習（幼・小）	17686	佐原 信江／大岸 啓子		275
教育実習の研究Ⅰ（幼）	17689	佐原 信江		275
介護等の体験（事前指導）	17697	浅井 由美		276
教育実習の研究Ⅱ（幼）	17705	佐原 信江		276
教育経営論（幼小）	17713	大岸 啓子		277
保育内容の研究・健康	17717	石田 伸子		277
保育内容の研究・環境	17721	渋谷 美智		278
幼児教育指導法	17725	佐原 信江		278
幼児指導論（カウンセリングを含む）	17729	石田 伸子		279
初等音楽科指導法	17733	南 夏世		279
初等図画工作科指導法	17737	森 晴美		280
初等家庭科指導法	17741	浅井 由美		280
初等体育科指導法	17745	木岡 正雄		281
道德教育指導論（小）	17749	大岸 啓子		281
生徒指導論	17753	清水 篤		282
子どもの保健ⅠB	17762	小林 千代		282
社会的養護内容	17766	佐々木 勝一		283
相談援助	17770	佐々木 勝一		283
保育相談支援	17772	佐々木 勝一		284
家庭支援論	17774	浅井 由美		284
乳児保育	17777	渋谷 美智		285
障害児保育	17782	近藤 龍彰		285
教育実習指導（小学校）	17785	大岸 啓子		286
保育実習指導A	17811	渋谷 美智		286

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
保育実習指導A	17811			287
保育実習指導B	17820	渋谷 美智		287
教職に関する科目				
教職概論 (中等)	14101	森 晴美		291
教育原理 (中等)	14115	丸岡 幸一		291
教育方法論 (中等)	14143	堀 正人		292
介護等の体験(事前指導)	14147	浅井 由美		292
特別活動論 (中等)	14185	清水 篤		293
教育課程論 (中等)	14189	堀 正人		293
教育経営論 (中等)	14199	大岸 啓子		294
教職実践演習(中・高)	14214	石原 敬子／小野 礼子		294
生徒指導論 教職中等	14217	堀 正人		295
教育相談(カウンセリングを含む) (中等)	14221	澤田 瑞也		295
教育実習の研究	14229	小野 礼子		296

H27年度 シラバス索引 (五十音順)

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
A Academic Reading/Writing 1	1 3 3 1 8	Kevin MUNSON		197
Academic Reading/Writing 1	1 3 3 1 8	Maidhc Ó CATHAIL		198
Academic Reading/Writing 2	1 3 3 2 2	Maidhc Ó CATHAIL		198
Academic Reading/Writing 2	1 3 3 2 2	Kevin MUNSON		199
Academic Reading/Writing 3	1 3 3 3 8	Kevin MUNSON		200
Academic Reading/Writing 3	1 3 3 3 8	米田 繭子		200
Advanced Oral Communication 1	1 3 3 0 9	Kevin MUNSON		195
Advanced Oral Communication 1	1 3 3 0 9	Tina D. MATHERS		196
Advanced Oral Communication 2	1 3 3 1 3	Kevin MUNSON		196
Advanced Oral Communication 2	1 3 3 1 3	Tina D. MATHERS		197
American Studies in U.S.A.	1 3 5 2 9			215
Australian Studies in Australia	1 3 5 3 7			215
B Business English I	1 3 6 0 5	青木 幹生		216
Business English II	1 3 6 0 9	青木 幹生		217
C Canadian Studies in Canada	1 3 5 3 9			216
Cross-cultural Communication	1 3 5 0 5	Kevin MUNSON		213
D Debating and Persuasion	1 3 3 4 5	Tina D. MATHERS		201
Debating and Persuasion	1 3 3 4 5	Kevin MUNSON		201
E English for Academic Purposes 1	1 3 3 0 3	惣谷 美智子		194
English for Academic Purposes 2	1 3 3 0 4	Kevin MUNSON		194
English/American Culture	1 3 5 1 3	Kevin MUNSON		213
G Grammar III	1 3 2 6 5	Kevin MUNSON/米田 繭子		191
J Japanese Culture	1 3 4 2 5	Tina D. MATHERS		204
O Oral Communication I	1 3 2 0 1	Tina D. MATHERS		177
Oral Communication I	1 3 2 0 1	Kevin MUNSON		177
Oral Communication I	1 3 2 0 1	Tina D. MATHERS		178
Oral Communication II	1 3 2 0 5	Kevin MUNSON		178
Oral Communication II	1 3 2 0 5	Tina D. MATHERS		179
Oral Communication II	1 3 2 0 5	Tina D. MATHERS		179
Oral Communication III	1 3 2 4 1	Kevin MUNSON		186
Oral Communication III	1 3 2 4 1	Maidhc Ó CATHAIL		186
Oral Communication III	1 3 2 4 1	Tina D. MATHERS		187
Oral Communication IV	1 3 2 4 5	Maidhc Ó CATHAIL		187
Oral Communication IV	1 3 2 4 5	Tina D. MATHERS/Kevin MUNSON		188
P Pronunciation I	1 3 2 3 3	石原 敬子		184
Pronunciation I	1 3 2 3 3	和泉 有香		184
Pronunciation II	1 3 2 3 7	和泉 有香		185
Pronunciation II	1 3 2 3 7	石原 敬子		185
Pronunciation III	1 3 2 6 9	石原 敬子		192
Public Speaking and Oral Interpretation	1 3 3 3 3	Tina D. MATHERS		199
R Reading/Grammar I	1 3 2 1 1	小野 礼子		180
Reading/Grammar I	1 3 2 1 1	入江 和子		180
Reading/Grammar I	1 3 2 1 1	入江 和子		181
Reading/Grammar II	1 3 2 1 5	小野 礼子		181
Reading/Grammar II	1 3 2 1 5	入江 和子		182
Reading/Grammar II	1 3 2 1 5	入江 和子		182
Reading/Writing III	1 3 2 5 0	惣谷 美智子		188
Reading/Writing III	1 3 2 5 0	Tina D. MATHERS		189
Reading/Writing III	1 3 2 5 0	Kevin MUNSON		189

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
Reading/WritingⅣ	13254	惣谷 美智子		190
Reading/WritingⅣ	13254	Tina D. MATHERS		190
Reading/WritingⅣ	13254	Kevin MUNSON		191
S Small Group Communication	13305	Kevin MUNSON		195
T TOEFL	13825	入江 和子		230
TOEIC 1	13817	和泉 有香		228
TOEIC 1	13817	和泉 有香		228
TOEIC 2	13821	和泉 有香		229
TOEIC 2	13821	和泉 有香		229
TOEIC/TOEFL入門 1	13806	和泉 有香		225
TOEIC/TOEFL入門 1	13806	千葉 奈乙江		225
TOEIC/TOEFL入門 2	13807	和泉 有香		226
TOEIC/TOEFL入門 2	13807	千葉 奈乙江		226
W Writing I	13217	Maidhc Ó CATHAIL/Kevin MUNSON/和泉 有香		183
Writing II	13221	Kevin MUNSON/Maidhc Ó CATHAIL/和泉 有香		183
い 異文化理解	13409	有村 理		202
インターンシップ 1	13631	有村 理/一尾 敏正		218
え 英語 1	11601	福智 佳代子		147
英語 1	11601	釜須 久夫		147
英語 2	11605	千葉 奈乙江/米田 繭子		148
英語 3	11609	西山 裕子		148
英語 3	11609	入江 和子		149
英語 4	11613	米田 繭子/千葉 奈乙江		149
英語 5	11617	Kevin MUNSON		150
英語 5	11617	Maidhc Ó CATHAIL		150
英語 5	11617	Tina D. MATHERS		151
英語 6	11621	惣谷 美智子		151
英語 6	11621	Tina D. MATHERS		152
英語 6	11621	Kevin MUNSON		152
英語 7	11625	Maidhc Ó CATHAIL		153
英語 7	11625	Tina D. MATHERS/Kevin MUNSON		153
英語 8	11629	惣谷 美智子		154
英語 8	11629	Tina D. MATHERS		154
英語 8	11629	Kevin MUNSON		155
英語音声学	13717	石原 敬子		221
英語科教育法Ⅰ	13705	惣谷 美智子		219
英語科教育法Ⅱ	13709	惣谷 美智子		220
英語科教育法Ⅲ	13737	小野 礼子		223
英語科教育法Ⅳ	13741	小野 礼子		224
英語学概論	13713	服部 幸正		220
英米文学研究	13521	惣谷 美智子		214
英米文学入門	13413	入江 和子		203
演習Ⅰ	13101	小野 礼子		169
演習Ⅰ	13101	石原 敬子		169
演習Ⅰ	13101	有村 理		170
演習Ⅰ	13101	一尾 敏正		170
演習Ⅰ	17101	大岸 啓子		239
演習Ⅰ	17101			239
演習Ⅰ	17101	佐原 信江		240
演習Ⅰ	17101	中植 満美子		240

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
演習Ⅰ	17101	森 晴美		241
演習Ⅱ	13105	小野 礼子		171
演習Ⅱ	13105	石原 敬子		171
演習Ⅱ	13105	有村 理		172
演習Ⅱ	13105	一尾 敏正		172
演習Ⅱ	17105	大岸 啓子		241
演習Ⅱ	17105			242
演習Ⅱ	17105	佐原 信江		242
演習Ⅱ	17105	中植 満美子		243
演習Ⅱ	17105	森 晴美		243
演習Ⅲ	13109	石原 敬子		173
演習Ⅲ	13109	小野 礼子		173
演習Ⅲ	13109	有村 理		174
演習Ⅲ	13109	一尾 敏正		174
演習Ⅲ	17109	大岸 啓子		244
演習Ⅲ	17109	作 美代子		244
演習Ⅲ	17109	中植 満美子		245
演習Ⅳ	13113	石原 敬子		175
演習Ⅳ	13113	小野 礼子		175
演習Ⅳ	13113	有村 理		176
演習Ⅳ	13113	一尾 敏正		176
演習Ⅳ	17113	大岸 啓子		245
演習Ⅳ	17113	作 美代子		246
演習Ⅳ	17113	中植 満美子		246
お オフィス情報処理 1	11509	米田 里香		146
オフィス情報処理 2	11513	米田 里香		146
か 海外ツーリズム研修	13445	有村 理／一尾 敏正		211
外国語教授法	13745	福智 佳代子		224
介護等の体験(事前指導)	17697	浅井 由美		276
介護等の体験(事前指導)	14147	浅井 由美		292
海星学Ⅰ	11206	各学科教員		133
海星学Ⅱ	11207	各学科教員		133
学習・発達論	17441	中植 満美子		257
家政学概論	11381	浅井 由美		143
家庭支援論	17774	浅井 由美		284
環境ツーリズム論	13430	有村 理		206
観光英検2級	13846	入江 和子		235
観光英検3級	13845	西山 裕子		235
観光概論	13426	北川 宗忠		204
観光事業総論	13431	一尾 敏正		207
観光と世界遺産	13432	有村 理		207
観光ビジネス実務論	13434	有村 理／一尾 敏正		208
観光フランス語	13837	平田 淳子		234
観光文化地理論	13433	釜須 久夫		208
観光文化地理論	13838	釜須 久夫		234
観光マーケティング論	13833	一尾 敏正		232
韓国語入門Ⅰ	13435	宋 京珠		209
韓国語入門Ⅱ	13436	宋 京珠		209
感情心理学	17317	澤田 瑞也		248
き 企業研究	13440	一尾 敏正／有村 理		210

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
基礎演習Ⅰ	11201	各学科教員		131
基礎演習Ⅱ	11205	各学科教員		132
キッズ・イングリッシュⅠ	13725	福智 佳代子		221
キッズ・イングリッシュⅠ	17465	福智 佳代子		258
キッズ・イングリッシュⅡ	13729	福智 佳代子		222
キッズ・イングリッシュⅡ	17469	福智 佳代子		259
キッズ・イングリッシュⅢ (実習)	13733	福智 佳代子		222
キャリアデザイン入門	11301	箕野 聡子		135
キャリアデザイン入門	11301	箕野 聡子		135
教育課程論 (教職小)	17625	都賀 純		267
教育課程論 (中等)	14189	堀 正人		293
教育経営論 (中等)	14199	大岸 啓子		294
教育経営論 (幼小)	17713	大岸 啓子		277
教育原理	17521	丸岡 幸一		263
教育原理 (中等)	14115	丸岡 幸一		291
教育実習指導 (小学校)	17785	大岸 啓子		286
教育実習の研究	14229	小野 礼子		296
教育実習の研究Ⅰ (幼)	17689	佐原 信江		275
教育実習の研究Ⅱ (幼)	17705	佐原 信江		276
教育心理学	13813	澤田 瑞也		227
教育心理学	17409	澤田 瑞也		254
教育相談(カウンセリングを含む) (初等)	17497	澤田 瑞也		260
教育相談(カウンセリングを含む) (中等)	14221	澤田 瑞也		295
教育方法論 (中等)	14143	堀 正人		292
教育方法論 (幼小)	17657	清水 篤		271
教職概論 (初等)	13809	森 晴美		227
教職概論 (中等)	14101	森 晴美		291
教職概論 (幼小)	17613	森 晴美		266
教職実践演習(中・高)	14214	石原 敬子/小野 礼子		294
キリスト教海外研修	11109	尾崎 秀夫		130
キリスト教と文化	11117	尾崎 秀夫		131
キリスト教入門	11101	尾崎 秀夫		129
け 健康科学	11333	柳本 有二		139
健康スポーツⅠ	11337	柳本 有二/後藤 磨也子		139
現代家族関係論	11365	浅井 由美		141
こ 航空ツーリズム論	13836	有村 理		233
国際観光交流論	13427	青木 幹生		205
国際マネジメントと英語	13625	青木 幹生		218
子育て支援と地域社会	17501	渋谷 美智		261
ことばと社会	13405	小野 礼子		202
ことばの意味・文化	13417	服部 幸正		203
ことばの発達・学習	17461	近藤 龍彰		258
子どもの食と栄養	17650	河田 貴子		270
子どもの保健ⅠA	17642	小林 千代		269
子どもの保健ⅠB	17762	小林 千代		282
子どもの保健Ⅱ	17646	小林 千代		270
し ジェンダー論	11325	浅井 由美		138
児童英語教育概論	13701	福智 佳代子		219
児童家庭福祉	17526	中植 満美子		264
児童文学	13501	福智 佳代子/箕野 聡子		212

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
児童文学	17437	福智 佳代子／箕野 聡子		256
社会科学概論	11377	尾崎 秀夫		142
社会的養護内容	17766	佐々木 勝一		283
社会的養護	17638	佐々木 勝一		269
社会福祉論	11369	加藤 雅典		141
宿泊事業論	13835	一尾 敏正		233
手話コミュニケーションⅠ	13428	若生 茂嗣／岩橋 博子		205
手話コミュニケーションⅡ	13429	若生 茂嗣／岩橋 博子		206
障害児保育	17782	近藤 龍彰		285
情緒・学習障害の心理	17537	澤田 瑞也		264
情報活用の基礎知識	11313	埴岡 忠清		136
情報リテラシー1	11501	米田 里香		145
情報リテラシー2	11505	米田 里香		145
女性と社会	13525	浅井 由美		214
初等音楽1	17417	南 夏世／由井 敦子		254
初等音楽2	17421	南 夏世／由井 敦子		255
初等音楽3	17473	南 夏世		259
初等音楽4	17477	南 夏世		260
初等音楽科指導法	17733	南 夏世		279
初等家庭科指導法	17741	浅井 由美		280
初等国語科指導法	17661	大岸 啓子		272
初等算数科指導法	17669	都賀 純		273
初等社会科指導法	17665	清水 篤		272
初等図画工作科指導法	17737	森 晴美		280
初等生活科指導法	17677	東内 則子		274
初等体育	17513	木岡 正雄		262
初等体育	17513	木岡 正雄		263
初等体育科指導法	17745	木岡 正雄		281
初等理科指導法	17673	柳澤 利彦		273
人格発達障害論	17361	中植 満美子		252
人格発達心理学	17321	中植 満美子		249
人権教育論	11373	丸岡 幸一		142
心理学概論	11317	中植 満美子		137
心理学基礎実験	17341	澤田 瑞也		251
心理学文献講読1	17385	澤田 瑞也		253
心理調査・データ処理法	17345	須崎 暁世		251
心理統計学	17337	須崎 暁世		250
す 図画工作	17509	森 晴美		262
せ 性格心理学	17309	黒羽 カテリーナ		248
聖書概論	11105	石丸 脩子		129
聖書と現代	11113	石丸 脩子		130
生徒指導論	17753	清水 篤		282
生徒指導論 教職中等	14217	堀 正人		295
そ 相談援助	17770	佐々木 勝一		283
ち 中国語1	11665	坂口 文馨		161
中国語1	11665	坂口 文馨		161
中国語2	11669	沈 竑		162
中国語3	11673	坂口 文馨		162
中国語4	11677	沈 竑		163
中国語5	11681	坂口 文馨		163

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
中国語 6	11685	沈 竑		164
中国語 7	11689	坂口 文馨		164
中国語 8	11693	沈 竑		165
と 統計学入門	11321	埴岡 忠清		137
道徳教育指導論 (小)	17749	大岸 啓子		281
道徳教育指導論 (中等)	13829	丸岡 幸一		230
特別活動論 (小)	17681	都賀 純		274
特別活動論 (中等)	14185	清水 篤		293
に 日本国憲法	11329	浅野 宜之		138
日本語表現法	11401	箕野 聡子		143
日本語表現法	11401	大岸 啓子		144
日本語文章構成法	11405	箕野 聡子		144
日本文化史	11353	箕野 聡子		140
日本文化論	13273	箕野 聡子		193
乳児保育	17777	渋谷 美智		285
乳幼児心理学	17445	黒羽 カテリーナ		257
人間学 1	11209	尾崎 秀夫		134
人間学 2	11213	岡村 祥子		134
認知心理学	17329	中植 満美子		250
は 発達心理学	17201	中植 満美子		247
ひ 比較文化論	13830	福智 佳代子		231
ビジネス中国語	13832	王 嬌		232
ビジネス翻訳	13621	樫本 雄三		217
ふ フランス語 1	11633	平田 淳子		156
フランス語 2	11637	平田 淳子		157
フランス語 3	11641	平田 淳子		158
フランス語 4	11645	平田 淳子		158
フランス語 5	11649	平田 淳子		159
フランス語 6	11653	平田 淳子		159
フランス語 7	11657	平田 淳子		160
フランス語 8	11661	平田 淳子		160
文学入門	11309	箕野 聡子		136
ほ 保育・教職実践演習 (幼・小)	17686	佐原 信江/大岸 啓子		275
保育原理 I	17605	伊藤 美和子		265
保育実習指導A	17811	渋谷 美智		286
保育実習指導A	17811			287
保育実習指導B	17820	渋谷 美智		287
保育相談支援	17772	佐々木 勝一		284
保育内容総論	17205	佐原 信江		247
保育内容の研究・言葉	17633	森 晴美		268
保育内容の研究・環境	17721	渋谷 美智		278
保育内容の研究・健康	17717	石田 伸子		277
保育内容の研究・人間関係	17629	澤田 瑞也		268
保育内容の研究・表現 (身体表現)	17653	石田 伸子		271
保育内容の研究・表現 (造形表現)	17601	森 晴美		265
簿記会計学	11357	埴岡 忠清		140
ホスピタリティ精神論	13272	石丸 脩子		192
ホスピタリティ・マネジメント	13831	一尾 敏正		231
ボランティア論	17505	加藤 雅典		261
翻訳・通訳論入門	13301	西山 裕子		193

	科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
よ	幼児教育学原理	17617			266
	幼児教育課程の研究	17621	佐原 信江		267
	幼児教育指導法	17725	佐原 信江		278
	幼児指導論 (カウンセリングを含む)	17729	石田 伸子		279
り	臨床心理学	17325	津田 明子		249
	臨床心理学実習1 (心理テスト法)	17373	中植 満美子		252
	臨床心理学実習2 (カウンセリング法)	17377	津田 明子		253